

筑前岩屋駅舎改修工事

2026年8月

図番	図名	図番	図名	図番	図名	図番	図名
A-00	図面リスト	S-01	構造設計標準仕様書	E-01	電気設備特記仕様書	M-01	特記仕様書(1)
A-01	建築工事特記仕様書-1	S-02	配筋基準図(1)	E-02	分電盤結線図	M-02	特記仕様書(2)
A-02	建築工事特記仕様書-2	S-03	配筋基準図(2)	E-03	【改修後】幹線設備配置図兼平面図	M-03	(衛生)全体配置図, 凡例
A-03	建築工事特記仕様書-3	S-04	配筋基準図(3)	E-04	【改修後】コンセント設備配置図兼…	M-04	機器表・器具表
A-04	建築工事特記仕様書-4	S-05	鉄骨構造標準図(1)	E-05	照明器具参考姿図	M-05	【改修後】(衛生)配置図兼平面図
A-05	建築工事特記仕様書-5	S-06	鉄骨構造標準図(2)	E-06	【改修後】電灯設備配置図兼平面図	M-06	【改修後】(衛生)平面詳細図
A-06	建築工事特記仕様書-6	S-07	鉄骨構造標準図(3)	E-07	【改修後】照明器具プロット配置図…	M-07	【改修後】(空調)平面詳細図・断面図
A-07	建築工事監督基準	S-08	鉄骨構造標準図(4)	E-08	【改修後】通信設備配置図兼平面図	M-08	【改修後】(換気)平面詳細図・断面図
A-08	建築概要・付近見取図・敷地求積図	S-09	【改修前】基礎伏図・1階床伏図(…	E-09	幹線, 電灯設備配置図兼平面図	M-09	(衛生)平面図(撤去)
A-09	建物求積図・法チェック	S-10	【改修前】1階床伏図(撤去図)・2…	E-10	コンセント, 通信設備配置図兼平面図		
A-10	仕上表	S-11	【改修前】軸組図				
A-11	【改修前】配置図兼平面図	S-12	【改修前】既存RC部材リスト				
A-12	【改修後】配置図兼平面図	S-13	【改修後】基礎伏図・1階床伏図				
A-13	【改修前】立面図	S-14	【改修後】2階床伏図				
A-14	【改修後】立面図	S-15	【改修後】軸組図(1)				
A-15	【改修前】平面詳細図	S-16	【改修後】軸組図(2)				
A-16	【改修後】平面詳細図	S-17	【改修後】新設床版リスト・雑配筋…				
A-17	【改修前】断面図-1	S-18	【改修後】雑配筋詳細図(2)・地…				
A-18	【改修後】断面図-1	S-19	【改修後】鉄骨詳細図				
A-19	【改修前】断面図-2						
A-20	【改修後】断面図-2						
A-21	【改修前】断面図-3						
A-22	【改修後】断面図-3						
A-23	【改修後】断面図-4						
A-24	展開図-1						
A-25	展開図-2						
A-26	展開図-3						
A-27	展開図-4						
A-28	【改修前】天井伏図						
A-29	【改修後】天井伏図						
A-30	建具表						
A-31	家具図						
A-32	雑詳細図						
A-33	サイン詳細図-1						
A-34	サイン詳細図-2						
A-35	仮設計画図						

工事名 図名	筑前岩屋駅舎改修工事		設計	
			訂正	
	図面リスト		縮尺	A3=1:1
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	承認	図番 A-00
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房				

建築工事特記仕様書（令和5年4月改定版）

I. 工 事 概 要

1. 工事名称

筑前岩屋駅舎改修工事

2. 工事場所

福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山6425番地

3. 工事期間

契約締結の翌日から 令和 9年 3月 23日まで

工事を施工しない日

日曜日（騒音・振動を伴う作業に限る）

工事を施工しない時間帯

指定なし

4. 工事概要

RC造 平屋建

延床面積：㎡

建築面積：㎡

5. 別途工事

6. 契約不適合責任期間

受渡し完了の日から 2年間

7. その他

8. 特記事項

9. 安全管理

（1）設備関連工事等が別途工事となる場合の建築工事受注者は、労働安全衛生法第30条第2項に基づく特定元方事業者とし当該現場の関連事業者を含めて、労働災害を防止するための、必要な措置を講じること。

（2）本工事施工中は、別途工事施工業者と連絡を密にし当該工事関係者と協力し、工事全体の円滑な推進を図るように建築主体業者が責任を持って指導すること。

10. その他

（1）受注者は、工事施工に伴う下請業者及び資材・製品供給業者の選定にあたっては、特段の理由がない限り地場企業への発注等を行うこと。

（2）受注者は、工事にかかる資材・製品については、特段の理由がない限り地場企業資材・製品を使用すること。

（3）受注者は、使用する資材・製品について、事前に書面を監督員に提出すること。

（4）本工事の施工に伴う工事用資材等の輸送においては、過積載をしないこと。

（5）本工事の施工においては「建設リサイクル法」に基づき廃棄物の抑制・適正処理を行い、再生資材及び再生資材製品の活用を図ること。

（6）施工体制台帳等の提出
受注者は、工事を施工するために下請契約を締結した場合は、その金額にかかわらず施工体制台帳を作成し、工事現場に備えるとともに、その写しを監督員に提出すること。
また、国土交通省令に従って、各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げるとともに、監督員に提出する施工体制台帳に添付すること。

II. 建築工事仕様

1. 標準仕様等の適用
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（令和4年版）による。
なお、改修工事を含む場合は「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」（令和4年版）により、解体工事を含む場合は「建築物解体工事共通仕様書」（令和4年版）による。

2. 特記仕様の適用
1）項目は番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項は○印のついたものを適用する。
○のない場合は※印のついたものを適用する。
○印と※印のある場合は共に適用する。
3）各項目に記載の（ ）内表示番号は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）の当該項目、図、表を示す。
4）形状寸法の単位は、特記なき限りミリメートルとする。
5）標準仕様書の監督職員は監督員と読み替える。

3. CADデータ
○有 ・無
貸与するCADデータを当該工事における施工図及び完成図を作成するため以外に使用してはならない。これに基づく完成図、施工図のCADデータの著作権は本市に帰属する。
また貸与したCADデータは工事完成検査までに返却すること。

章

項 目

特 記 事 項

① 各 章 共 通 事 項

① 適用基準等

② 工事実績情報
サビズ(サビズ)の登録
(1.1.4)

③ 工事の一時中止に係る事項
(1.1.9)

④ 監督基準

⑤ 工事の記録
(1.2.4)

6. 電気保安技術者
(1.3.3)

7. 施工条件
(1.3.5)

⑧ 事故報告
(1.3.9)

9. 発生材の処理等
(1.3.11)

⑩ 環境への配慮
(1.4.1)

⑪ 材料
(1.4.2)

12. 技能士
(1.5.2)

(1節 一般事項)
○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版）

※ 請負金額500万円以上の工事は、監督員の確認を受けた後に、当該工事に関するデータを（一財）日本建設情報総合センター（JACIC）に下記の区分で10日（土日祝日を除く）以内に登録し、「登録内容確認書」を監督員に提出すること。
受注時、途中変更時、訂正時、竣工時
※工事の一時中止に係る計画の作成
1) 契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。
なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。
2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。
※別紙「建築工事監督基準」による ・標準仕様書による

(2節 工事関係図書)

・見え隠れ部については適正に写真記録を行なう。

(3節 工事現場管理)

・適用する ・適用しない

・施工条件（ ）

災害及び事故が発生した場合は、直ちに監督員に連絡する。

・引き渡しを要するもの（ ）
・中間再生処理（ ）
・特別管理産業廃棄物 ・有 ・無
・再資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・木材
※コンクリート塊（鉄筋コンクリート塊を含む）、アスファルトコンクリート塊については、認定再利用施設（中間処理施設）への搬入とすること。

(4節 材料)

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、環境負荷を低減できる材料を選定するように努めること。

本工事に使用する材料は、設計図書に定めるもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督員の承諾を受ける。
なお、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」により省略することができる。
※工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。

(5節 施工)

・適用する(工種については現場説明書を参照) ・適用しない

13. 施工の検査等
(1.5.5)

⑭ 化学物質の室内空気濃度測定
(1.5.9)

⑮ 完成時の提出図書
(1.7.1～3)

⑯ C A L S／E C 電子納品

⑰ 施工図等の取り扱い

18. 福祉環境整備

※測定室は監督員の指示による。

・ 見本施工の実施対象（ ）

○ 受注者は監督員の指示に従い工事完了時に室内空気中の化学物質の濃度を測定すること。
(測定物質) ①ホルムアルデヒド ②トルエン ③キシレン
④エチルベンゼン ⑤スチレン
(測定箇所) 箇所数 2箇所(待合室、アロマファクトリーラボ)
※測定室は監督員の指示による。

(7節 完成図書)

○ 提出する
・提出しない

○ 設計額2,000万円以上の工事は対象。
・設計額250～2,000万円で村が指定する工事は対象
・指定する ・指定しない

施工図等の著作権に係わる、当該建築物に限る使用权は発注者に移譲するものとする。

福岡県福祉のまちづくり条例の適用により、下記のいずれかを取り付けること。
・整備基準適合証（基本タイプ） ・整備基準適合証（優良タイプ）
(200×200) (200×200)

② 仮設工事

① 設計G. L

② 危険防止(2.2.4)
1) 仮囲い
2) 足場

3) 落下物等に対する施設

3. 監督員事務所
(2.3.1)

4. 監督員事務所の備品等
(2.3.1)

⑤ 工事用地復旧

⑥ 既存建物との取り合い

⑦ 工事用水

⑧ 工事用電力

⑨ 工事表示板等

(2節 縄張り、遣方、足場等)
※現況地盤の平均高さとし、監督員の指示による。 ○ 図示による

○ 設ける ・設けない

○ 枠組足場 ○ くさび緊結式足場 ・単管足場 ・（ ）
※ 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省 平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時は常時、全ての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものとし、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

・防護柵 ○ 防護シート ・防護金網
・（ ）

(3節 仮設物)
・設置する ・設置しない
・（ m2 ）程度

・設備の種類 ※ 監督員と協議 ・（ ）
・備品等の種類（ ）
・備品等の数量（ ）

(4節 仮設物撤去等)
※塵埃、コンクリート屑等を撤去し地均しをする。
・塵埃、コンクリート屑等を撤去し、凹部に良土を入れ工事用地全面にローラー転圧をする。

工事中、接合部その他本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原形に復すること。

構内既存の施設 ※ 利用できない ○ 利用できる（ ※ 有償 ・無償 ）

構内既存の施設 ※ 利用できない ○ 利用できる（ ※ 有償 ・無償 ）
※ 工事表示板 ※ 建設業許可票 ※ 労災保険関係成立票
※ 施工体系図 ・運搬経路表示板

③ 土工

① 埋戻し及び盛土
(3.2.3) (表3.2.1)

② 建設発生土の処理
(3.2.5)

3. 排水
(3.2.2)

(2節 根切り等)
種別 ・A種 ⊗ B種 ・C種 ・D種
締固め ※300mm程度ごとに行う ・その他（ ）
※ 構外指定処分（「XIV.建設発生土 指定処分場」参照） ・構内処分

工法
・釜場工法 ・ディーブウェル工法 ・明渠・暗渠工法
・ウェルポイント工法 ・バキュームディーブウェル工法
・リチャージ工法（復土工法）

設置期間 ・（ ）日間
※排水処理方法、放流先、予定排水量を指定する場合は現場説明書による

4. 山留め工法

⑤ 山留め壁

6. 山留め壁の範囲

7. 山留めの撤去
(3.3.3)

④ 地 業 工 事

1. 試験杭
(4.2.2)

2. 杭の載荷試験
(4.2.3)

3. 地盤の載荷試験
(4.2.4)

4. 材料 (4.3.3)

5. 工法 (4.3.4-5)

6. 継手 (4.3.6)

7. 杭頭の処理
(4.3.8)

8. 材料 (4.4.3)

9. 工法(4.4.4)

10. 継手 (4.4.5)

11. 杭頭の処理
(4.4.6)

12. 工法
(4.5.1-5-6)

13. 材料その他
(4.5.4)
1) 鉄筋
(5.2.1)
(表5.2.1)

⑬ 1地盤改良

(3節 山留め)
・低振動または低騒音の工法とする（範囲は参考図の通り）
○ 山留め壁なし(○ 法付けオープンカット工法 ・地山自立掘削工法)
・山留め壁あり(工法)
・併用(工法、 工法)
設置期間 ・（ ）日間
※土留め参考図のとおり ・（ ）

山留めの存置 ・する ・しない
※鋼矢板、親杭等を引き抜く場合は施工計画で地盤沈下対策を講じること

(2節 試験及び報告書)
・監督員の指示による ・（ ）箇所
・図面図示 ・（ ）箇所

載荷試験 ・適用する（ ・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験 ） ・適用しない
試験位置、本数、載荷荷重 ・（ ） ・図面図示による
報告書の記載事項 ・（ ）

載荷試験 ・適用する（平板載荷試験） ・適用しない
試験位置、載荷荷重 ・（ ） ・図面図示による
報告書の記載事項 ・（ ）

(3節 既製コンクリート杭地業)
※図面図示による

種類
・セメントミルク工法
根固め液・杭周固定液の管理方法 ※4.3.4(6)(c)による
・特定埋込杭工法（ ）工法
杭の水平方向の位置ずれの精度 ※「JASS4 杭・事業および基礎工法」による
支持地盤の位置及び土質 ※図面図示による ・（ ）

・アーク溶接 ・無溶接継手（工法 ）
・外圧方式 ・ダイヤモンドカッター方式 ・（ ）

(4節 鋼杭地業)
※図面図示による ・下表による

杭の種類	規格	種類の記号	断面寸法 (mm)	長さ (m)	先端部形状
・鋼管ぐい	JIS A 5525				※開放形 ・（ ）
・H形鋼ぐい	JIS A 5526				

・特定埋込杭工法（ ）工法
杭の水平方向の位置ずれの精度 ※「JASS4 杭・事業および基礎工法」による
支持地盤の位置及び土質 ※図面図示による ・（ ）
・アーク溶接 ・機械式継手 ・（ ）

※ガス切断

(5節 場所打ちコンクリート杭地業)
・アースドリル工法 ・リバース工法 ・オールケーシング工法
・掘底杭工法 ・（ ）工法
杭の水平方向の位置ずれの精度 ※「JASS4 杭・事業および基礎工法」による
支持地盤の位置及び土質 ※図面図示による ・（ ）
孔壁測定装置 ・使用する（※超音波測定器 ・（ ））
・使用しない

※図面図示による

異形鉄筋 JIS G3112 ※SD295A （ ）
※SD345 （ ）
帯筋の加工及び組立 ・（ ）
鉄筋かごの補強

杭径 (m)	材料（補強リング）
・1.5m以下	※鋼板6×50(mm) ・（ ）
・1.5m超	※鋼板9×50～75(mm) ・（ ）

最小かぶり厚さ ※100mm ・（ mm）
継手 ※重ね継手 ・（ ）
・混和剤 ※JIS A6204（コンクリート用化学混和剤）によるAE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の区分I種
・コンクリートの種別 ・A種（無水堀り） ・B種（無水堀り以外）
・スランブ ※18cm ・（ ）
・セメント ※高炉セメントB種 ・（ ）
・設計基準強度 ・21N/mm2 ・（ N/mm2 ）
・構造体強度補正值(S) ※3N/mm2 ・（ N/mm2 ）
・レディーミクストコンクリートの類別 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類
※上記以外は6章【コンクリート工事】による
・良質土置換工法
○表層地盤改良工法

	事 名	筑前岩屋駅舎改修工事	設 計	
	図 名	建築工事特記仕様書-1	訂 正	
			縮 尺	A3=1:1
		一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男	製 図	承認 図 審
				A-01
				株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房

4

地業工事(続き)

④砂利事業(4.6.2-3)

⑤捨コンクリート地業(4.6.4)

⑥床下防湿層(4.6.5)

17. 残泥土・汚泥の処理

1) 残泥土・泥水の溶出試験

2) 残泥土・泥水の処理

3) 地盤改良及び改良土の再利用

(6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等)

厚さ ※図面図示による・60mm・(mm)

材料 ※再生クラッシャー・切込砂利・切込碎石

厚さ ※図面図示による・60mm・(mm)

範囲 ※図面図示による・()

材料 ※R15F10F40.15mm以上・図面図示による・()

・建設汚泥の再生利用については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」「建設汚泥処理土利用技術基準」「建設汚泥処理物の廃棄物該当性の判断指針について」により、適正に処理する。

溶出試験の実施・する※しない

※陸上処分

※含水率が85%を超えるものは、中間処理とすること。

・セメント及びセメント系固化工材を使用する場合は、六価クロムの溶出試験実験要領により土壌環境基準値を確認し、適切な措置を講ずること。

(六価クロム溶出試験及びタンクリーチング試験)

試験方法

試験方法は、セメント及びセメント系固化工材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領による。

試験対象工種、工法名及び検体数

・六価クロム溶出試験()工()工法

配合設計段階()検体 施工後段階()検体

・タンクリーチング試験()工()工法

配合設計段階()検体 施工後段階()検体

5

鉄筋工事

①鉄筋の種類(5.2.1)(表5.2.1)

2. 溶接金網(5.2.2)

③継手及び定着(5.3.4)

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(5.3.5)

5. 各部配筋(5.3.7)

6. 圧接完了後の試験(5.4.9)

7. 機械式継手(5.5.2)

8. 溶接継手(5.6.3)

(2節 材料)

JIS G3112・D10～D16(※SD295・SD345)

・D19以上(※SD345・())

JIS G3551 ※規格品

網目の形状 ※レギュラー(正方形)・デザイン()

寸法・鉄線の径 ※図面図示による・()×()×()

(3節 加工及び組立)

D19以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接・重ね継手・()

その他の鉄筋 ※重ね継手・()

鉄筋の継手位置 ※図面図示による・()

・先組み工法等の柱、梁の継手位置を同一位置に設ける

重ね継手の長さ 柱、梁の主筋 ※図面図示による・()

耐力壁 ※40d(軽量コンクリートは 50d)と表5.3.2のうち大きい値

鉄筋の定着長さ ※表5.3.4による

①普通コンクリート ※表5.3.6による・図面図示による

②軽量コンクリート()

機械式継手及び溶接継手の場合の鉄筋相互のあきは図示による。

※別図「各部配筋参考図」による。

(4節 ガス圧接)

試験 ※超音波探傷試験・引張試験(方法)

(5節 機械式継手)

種類・()

工法・品質の確認方法・修正方法等 ※施工計画書による

(6節 溶接継手)

工法・品質の確認方法・修正方法等 ※施工計画書による

6

コンクリート工事

①コンクリートの種類(6.2.1)(表6.2.1)

②コンクリートの強度(6.2.2)

③カーリリティー及びスランプ(6.2.4)

④セメント(6.3.1)(1)(表6.3.1)

⑤骨材(6.3.1)(2)

⑥混和材料(6.3.1)(4)

(2節 普通コンクリートの種類及び品質)

コンクリートの類別 ※Ⅰ類・Ⅱ類

建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリート・適用する※適用しない

普通コンクリート設計基準強度 ※図示による・(24N/mm2)

※型枠取外し時期決定の試験に用いる供試体の養生方法は、工事現場における水中養生又は封かん養生とする

荷卸し地点におけるスランプの値 ※表6.2.21による・()

(3節 コンクリートの材料及び調合)

※普通ポルトランドセメント・高炉セメントA種・シリカセメントA種

※高炉セメントB種(場所打ち杭は4章による)・普通エコセメント

・フライアッシュセメントA種・フライアッシュセメントB種

特殊骨材の使用・使用する※使用しない

使用する特殊骨材の種類・フェロニッケルスラグ細骨材・銅スラグ細骨材

・電気炉酸化スラグ骨材・再生骨材H

アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B

※アルカリ骨材反応抑制対策は国土交通省の対策に準じて行う。

①混和剤 ※JIS A6204(コンクリート用化学混和剤)によるAE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤 区分Ⅰ種・()

②混和材 ※JIS A6201(コンクリート用フライアッシュ)によるフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、JIS A6207によるシリカフェーム又はJIS A6202による膨張材

7

コンクリートの調査(6.3.2)

1) 構造体強度補正值(S)(表6.3.2)

2) 単位水量

3) 試し練り

⑧打継ぎ(6.6.4)

⑨一般事項(6.2.5)(6.8.1)(表6.2.4)

⑩材料(6.8.2)(表6.8.1)

⑪最小存置期間(6.8.4)

12. 一般事項(6.10.2)(表6.10.1)

13. 一般事項(6.11.1)

14. 材料及び調査(6.12.2)

15. 一般事項(6.13.1)

16. 材料及び調査(6.13.2)(1)

2) 混和材料(6.13.2)(2)

3) スランプ(6.13.2)(5)

4) 構造体強度補正值(S)(6.13.2)(6)(表6.13.1)

⑰一般事項(6.14.1)

18. 一般事項(6.15.1)

普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種

期 間	9/18～12/16 1/26～6/25	12/17～1/25
補正值 (S) (N/mm2)	3	6

※185kg/m3以下

※延床面積1,500㎡以上の新築工事については、150m3に1回以上及び荷卸し時に品質の異常が認められた時に単位水量の測定を行う。

なお、測定方法は「レディミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」に準じて行う。

※単位容積質量法・加熱乾燥法・静電容量法・濃度法・RI法

※普通エコセメント又は再生骨材Hを使用するコンクリート以外のⅠ類コンクリートは省略する

目地の寸法 ※図面図示による・()

(8節 型枠)

・コンクリート打放し仕上げの種別

種別	施工箇所
・A種	
※B種	外壁(化粧型枠打放し)
・C種	

①コンクリート打放し仕上げの打増し厚さ ②20mm(外側)・(mm)

・ひび割れ誘発目地位置、形状、寸法 ※図面図示及び9.7.3(1)(7)による

せき板の材料

①打放し仕上げ ※特記6.9で適用した種別により、表6.2.4の表面の仕上りの程度に見合ったものとする。

・打放し仕上げ以外・合板型枠 厚さ ※12mm・(mm)

材料・表面加工品 ※B-C品()

断熱材兼用型枠・使用する①使用しない

MCR工法・適用する②適用しない

スリーブの材質(規格)・鋼管(JIS G3452の白管)・硬質ポリ塩化ビニル管(VU)

・溶融亜鉛めっき鋼板・つば付き鋼管

※柱及び梁以外で開口補強が不要、かつ、スリーブ径が200mm以下は、紙フェープも可とする

※表6.8.2及び表6.8.3により、材齢又は圧縮強度により定める

・普通エコセメントの場合()

(10節 軽量コンクリート)

種 別	気乾単位容積 質量 (t/m3)	スランプ (cm)	適用箇所
※Ⅰ種		※21	
・Ⅱ種			

・常時土又は水に直接接する部分に適用する ※単位容積質量340kg/m3以上

(11節 寒中コンクリート)

※適用する (適用期間:)

(12節 暑中コンクリート)

期 間	6/26～9/17
補正值 (S) (N/mm2)	6

(13節 マスコンクリート)

適用箇所 ※図面図示による・()

(14節 無筋コンクリート)

種類 ※普通コンクリート・()

設計基準強度 ※24N/mm2・Fc18N/mm2

スランプ ※15cm・18cm

適用箇所

①街きよ、緑石、側溝類のコンクリート及びこれらの基礎コンクリート

・間知石積み基礎及び裏込めコンクリート

②捨コンクリート

・機械室等で用いる配管理設用コンクリート

・防水層の保護コンクリート

・補強筋を必要としない土間コンクリート

・コンクリート舗装のコンクリート

(15節 流動化コンクリート)

・適用する・適用しない

7

鉄骨工事

①鉄骨製作工場(7.1.3)

②施工管理技術者(7.1.4)

③鋼材(7.2.1)

④高力ボルト(7.2.2)

⑤普通ボルト(7.2.3)

⑥アンカーボルト(7.2.4)

⑦溶接材料(7.2.5)

8. ターンバックル(7.2.6)

9. 床構造用のデッキプレート(7.2.7)

10. スタッド(7.2.8)

⑪柱底均しモルタル(7.2.9)

⑫材料試験等(7.2.10)

⑬工作図(7.3.2)

⑭仮組(7.3.10)

⑮すべり試験(7.4.2)

16. 締付け(7.4.7)

⑰技能資格者(7.6.3)

⑱材料準備(7.6.4)

⑲溶接施工(7.6.7)

⑳溶接部の試験(7.6.12)

21. デッキプレートの溶接(7.7.8)

㉔塗装の範囲(7.8.2)

㉕塗装種別(7.8.4)(表18.3.1)

(1節 共通事項)

・Sグレード・Hグレード・Mグレード・Rグレード・Jグレード

※監督員の承諾による

※要①不要

(2節 材料)

種類 ※表7.2.1による()・()

形状・寸法 ※図面図示による

種類 ※トルシア形高力ボルト・JIS形高力ボルト JIS B1186 2種(F10T)

・溶融亜鉛めっき高力ボルト 1種(F8T)相当

ねじの呼び・()・図面図示による

種類 ※表7.2.31による()・()

ねじの呼び・()①図面図示による

種類 ①構造用アンカーボルト ※JIS G1220 の SNR400・()

・建方用アンカーボルト ※JIS G3101 の SS400・()

公差域クラス及び仕上げの程度 ※表7.2.31による

溶接棒等 ※表7.2.41による

シールドガス ※JIS Z3253(溶接及び熱切断用シールドガス)による

その他の溶接材料・()

ターンバックル胴 ※割枠式・()

ターンバックルボルト ※羽子板ボルト・()

※図面図示による・()

※JIS G3352

種類等 ※図面図示による・()

①無収縮モルタル セメント・普通セメント・早強ポルトランドセメント

混和材 ※セメント系膨張材・()

調査 ※製造所の仕様とする。

品質・試験方法 ※表7.2.51による・()

(1)鋼材品質試験 ※JIS又は建築基準法に定められた方法

(2)板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 ※JIS G0901による。

・適用する①適用しない

(3節 工作一般)

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

①図面図示による・()

・実施する ※実施しない

(4節 高力ボルト接合)

・実施する ※実施しない

試験の方法()

試験片の摩擦面の状態()

ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量

・実験により一次締めを含めて施工条件を決定することとする。

(6節 溶接接合)

技量付加試験・行う ※行わない

開先の形状 ※図面図示による・()

エンドタブの切除・有(適用箇所)①無

低応力高サイクル疲労を受ける部位 ※図面図示による

スカラップの形状・図面図示による・()

試験の種類	試験箇所	試験数	試験方法
①肉眼試験	溶接部		・図示
②超音波探傷試験	完全溶込み溶接部	検査水準 ※第6水準・図示 A0QL ※4.0%・2.5%	※7.6.12(4)による ・図示

(7節 スタッド溶接及びデッキプレート溶接)

デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合

※アークスポット又は隅肉溶接・()

合成スラブとして使用する場合

※焼抜き栓溶接・()

(8節 錆止め塗装)

耐火被覆材の接着面の塗装範囲・()

接着面以外の塗装範囲・()

SRC造の溶接された鋼製スリーブの内面

※表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種別 A種・()

耐火被覆材の接着面・塗装する・塗装しない・()

24. 耐火被覆材の種別及び性能(7.9.2)(7.9.3)

㉕アンカーボルト等の設置(7.10.3)(表7.10.1)(表7.10.2)

26. 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合(7.12.5)

8

コンクリートブロックパネル・押出成形セメント板工事

1. 材料(8.2.2)

2. モルタルの調査(8.2.3)

3. 充填用コンクリートの調査(8.2.4)(表8.2.2)

4. モルタル及びコンクリートの充填(8.2.8)

5. 材料(8.3.2)

6. 鉄筋の加工及び組立(8.3.4)

7. 材料(8.4.2)

8. 外壁パネル構法(8.4.3)(表8.4.2)

9. 間仕切壁パネル構法(8.4.4)(表8.4.3)

10. 材料(8.5.2)

11. 外壁パネル工法(8.5.3)(表8.5.1)

12. 間仕切壁パネル工法(8.5.4)(表8.5.2)

13. 開口部の処置(8.5.5)

(2節 補強コンクリートブロック造)

圧縮強さ、正味厚さ、モジュール呼び寸法及び種類

種類 ※空洞ブロック16・()

厚さ ※図面図示による・(mm)

・表8.2.11による(目地幅が10mm程度のブロックの場合)

・表8.2.21による

※レディミクストコンクリート 呼び強度21～SL21cm

・普通コンクリート Fc=21N/mm2・()

まぐさを受ける開口部両側ブロックの充填範囲

・(幅mm程度)・図面図示による

(3節 コンクリートブロック帳壁及び塀)

圧縮強さ、正味厚さ、モジュール呼び寸法及び種類

種類 ※表8.3.11による・()

厚さ ※図面図示による・(mm)

コンクリートの調査 ※レディミクストコンクリート呼び強度21～SL21cm・表8.2.2

壁鉄筋の継手、定着、末端部の折り曲げ形状 ※図面図示による

壁の配筋

縦筋	横筋	開口補強筋(縦横)	交差部、端部補強筋
D10-400@	D10-400@	1-D13	1-D13

(4節 ALCパネル)

種類	単位荷重(N/m)	厚さ(mm)	耐火性能
・外壁パネル	・()	※100・()	
・間仕切壁パネル	・()	※100・()	
・屋根パネル	・()	※100・()	
・床パネル	・()	・100・150	・要・不要

パネル相互の接合部に充填する耐火目地材・()

種別・A種・B種

出隅・入隅パネル接合部、取合い部目地幅・(mm)・耐火目地材充填

種別・C種・D種・E種

出隅・入隅パネル接合部、取合い部目地幅・(mm)・耐火目地材充填

(5節 押出成形セメント板(ＥＣＰ))

・パネル 製造所()同等品

種別・A種・B種

パネル相互の目地幅 長辺 ※8mm以上・(mm)

短辺 ※15mm以上・(mm)

出隅・入隅パネル接合目地幅 ※15mm(シールグ)材充填・(mm)

耐火構造以外の目地・隙間処理 ※パネル製造所の仕様・()

種別・B種・C種

パネル相互の目地幅 長辺 ※8mm以上・(mm)

短辺 ※15mm以上・(mm)

出隅・入隅パネル接合目地幅 ※15mm(シールグ)材充填・(mm)

耐火構造以外の目地・隙間処理 ※パネル製造所の仕様

パネルの開口寸法の限度・()

事項名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	建築工事特記仕様書-2	訂正	
		縮尺	A3=1:1
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	製図	承認 図番
	株式会社 環・設計工房		

⑨

防水工事

1. 材料(9.2.2)

1) アスファルト-フィング

2) 押え金物

3) 断熱材

4) 絶縁用シート

2. 防水層の種類、種類及び工程(9.2.3)

(表9.2.3～9)

3. 保護層等の施工(9.2.5)

1) 脱気装置

2) 仕上塗料

4. 材料(9.3.2)

1) 改質アスファルトシート

2) 押え金物

3) 断熱材

5. 防水層の種類及び工程(9.3.3)

(表9.3.1～3)

6. 材料(9.4.2)

1) ルーフィングシート

2) 絶縁用シート

3) 固定金具

4) 断熱材

(2節 アスファルト防水)

・改質アスファルト-フィングシート
種類・厚さ ※表9.2.3から表9.2.8による ()

・部分粘着層付改質アスファルト-フィングシート
種類・厚さ ※表9.2.5から表9.2.8による ()

※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)

・アルミニウム製 L-60×30×2.0(mm)

・ ()

・屋根保護防水断熱工法
材質 ・JIS A9521による押出法ホリスレンフォーム断熱材3種b A (※層付き)
・JIS A9511によるA種押出法ホリスレンフォーム保温板3種b (※あり)

厚さ ※図面図示による () mm

・屋根露出防水断熱工法
材質 ・JIS A9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品
・JIS A9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温板2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品

厚さ ※図面図示による () mm

・屋根保護防水工法
材質・厚さ ※ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上

・ ()

・屋根保護防水断熱工法
材質 ※ポリプロピレン、ポリエチレン等を平織りしたフラットヤーンクロス (70g/m2程度)

・ ()

工 法	種 別	保護層	保証期間
・屋根保護防水密着	・A-1 ・A-2 ・A-3	※図示	10年
・屋根保護防水密着断熱	・AI-1 ・AI-2 ・AI-3	※図示	10年
・屋根保護防水絶縁	・B-1 ・B-2 ・B-3	※図示	10年
・屋根保護防水絶縁断熱	・BI-1 ・BI-2 ・BI-3	※図示	10年
・屋根露出防水絶縁	・D-1 ・D-2 ・D-3		10年
・屋根露出防水絶縁断熱	・DI-1 ・DI-2		10年
・屋内防水密着	・E-1 ・E-2	※図示	

種類・設置数量 ※製造所の指定 ()

種類・使用量 ※製造所の仕様 ()

平場の保護コンクリート
厚さ ・80mm以上(こて仕上) ・60mm以上(床タイル等仕上げあり)

種類 ※普通コンクリート Fc-18N/mm2 SL15cm又は18cm

立上り部の保護
・乾式工法 ・乾式保護材 ※製造所の仕様 ()

・湿式工法 ・れんが押え ※JIS R1250 (普通れんが及び化粧れんが)

・コンクリート押え

・モルタル押え

屋上排水溝の適用 ※図面図示による ()

(3節 改質アスファルトシート防水)

・改質アスファルトシート (JIS A6013) 種類・厚さ ※表9.3.1～表9.3.3 ()

・粘着層付改質アスファルトシート 種類・厚さ ※表9.3.1～表9.3.3 ()

・部分粘着層付改質アスファルトシート 種類・厚さ ※表9.3.1～表9.3.3 ()

※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm) ()

・屋根露出防水断熱工法
材質 ・JIS A9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品
・JIS A9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温板2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品

厚さ ※図面図示による () mm

工 法	種 別	防湿層	保証期間
・屋根露出防水密着	・AS-T1 ・AS-T2		10年
・屋根露出防水絶縁	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1		10年
・屋根露出防水絶縁断熱	・AS1-T1 ・AS1-J1	・設置 ・非設置	10年

種類・設置数量 ※製造所の指定 ()

種類・使用量 ※製造所の仕様 ()

(4節 合成高分子系ルーフィングシート防水)

種類・厚さ ※表9.4.1から表9.4.3による ()

材質 ※発泡ポリエチレンシート ()

材質・形状・寸法 ・図面図示による ()

・機械式固定工法
材質 ・JIS A9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品
・JIS A9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品

厚さ ※図面図示による () mm

・接着工法
材質 ・JIS A9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品
・JIS A9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材2種(・1号 ・2号)で透水係数を除く規格適合品
・JIS A9521によるホリスレンフォーム保温材の密度・熱伝導率の規格適合品
・JIS A9511によるA種ホリスレンフォーム保温材の密度・熱伝導率の規格適合品

厚さ ※図面図示による () mm

7. 防水層の種類及び工程(9.4.3)

(表9.4.1～3)

1) 脱気装置

2) 仕上塗料

3) 保護層(屋内保護密着工法)

8. 防水層の種類及び工程(9.5.3)

(表9.5.1・2)

1) 脱気装置

2) 保護層

3) 絶縁用シート

4) 仕上塗料

9. 適用範囲(9.6.1)

10. 防水層の種類及び工程(9.6.3)

(表9.6.2)

11. 施工(9.6.4)

⑫材料(9.7.2)

⑬シーリング材の試験(9.7.3)

⑭シーリング材の試験(9.7.5)

15. 保守管理用プレート

(5節 塗膜防水)

種 別	施 工 箇 所	保証期間	備 考
・X-1		10年	
・X-2		10年	
・Y-1			
・Y-2			保護層 ・有 ・無

(注) X-1の立上り部はすべてX-2工法とする。

種類 ※製造所の仕様 ()

設置数量 ※製造所の仕様 ()

・保護コンクリート ・保護モルタル

・ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上

・ホリスレン等平織りしたフラットヤーンクロス (70g/m2程度)

種類 ※製造所の仕様 ()

使用量 ※製造所の仕様 ()

(6節 ケイ酸系塗布防水)

適用部位 ※表9.6.1による ()

種類 ※C-U1 ・C-UP

9.6.4(2)(イ)以外の下地処理 ()

(7節 シーリング)

種類 ※表9.7.1による ()

施工箇所 ※図面図示による

※図面図示による () mm

接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験 (JIS A1439)

壁プレート (300×250程度)
・設ける (箇所)
・設けない

10. 石工事

1. 施工一般(10.1.3)

2. 清掃(10.1.5)

3. 材料(10.2.1)

(表10.2.1・2)

4. 取付金物(10.2.2)

(表10.2.3・4)

(1節 共通事項)

石材の割付け () ・図面図示による

取合し部の割付け ※10.1.3(1)(7)(イ)による

床ワックス掛け ・行う ・行わない

(2節 材料)

・石材

石材の種類	施工箇所	品質	仕上りの種類	石材の面積(1枚当たり)
				※0.8㎡以下

・テラズブロック及びテラズタイル (JIS A5411)

種石の種類 ※大理石 ()

種石の大きさ ※1.5～12mm ()

表面仕上げ ・本磨き ()

・外壁湿式工法及び内壁空積工法用受金物
材質 ※SUS304 ()

寸法 ※L=75×75×6 L=100又は150mm

・乾式工法用金物
方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式 ()

材質 ※SUS304

・あと施工アンカー
材料 ※図面図示による

5. 5. その他の材料(10.2.3)

6. 材料(10.3.2)

7. 施工(10.3.3)

(表11.1.1)

(9.7.3)(1)(イ)

8. 材料(10.4.2)

9. 施工(10.4.3)

(9.7.3)(1)(イ)

10. 材料(10.5.2)

11. 施工(10.5.3)

12. 床及び階段の石張り(10.6.2・3)

(10.3.3)(5)

13. 笠木、甲板等の石張り(10.7.2)

14. 隔て板石張り(10.7.3)

⑪タイル工事

①伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地(11.1.3)

2. 材料(11.2.2)

3. 施工(11.2.7)

(表11.2.3)

浸透性吸水防止剤

取付け用材料、目地用材料、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物固定用充填材料
※石材施工業者の指定製品 ()

ドレンパイプの材質 ・樹脂製 ()

(3節 外壁湿式工法)

厚さ ※有効厚さ25mm以上 () mm

石裏面処理 ・行う ・行わない

裏打ち処理 ・行う ・行わない

下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ()

目地幅 ※6mm以上 () mm

目地シーリング ・行う (幅・深さ6mm以上) ・行わない

伸縮調整目地シーリング目地位置 ※表11.1.1による ・図面図示による

伸縮調整目地シーリング目地寸法 ※幅・深さ10mm以上 () mm

(4節 内壁空積工法)

厚さ ※有効厚さ20mm以上 () mm

石裏面処理 ・行う ・行わない

裏打ち処理 ・行う ・行わない

下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法

目地幅 ※6mm以上 () mm

目地シーリング ・行う (幅・深さ6mm以上) ・行わない

伸縮調整目地シーリング目地位置 ※6mm程度毎 ・図面図示による

伸縮調整目地シーリング目地寸法 ※幅・深さ10mm以上 () mm

(5節 乾式工法)

厚さ 外壁 ※有効厚さ30mm以上 () mm

内壁 ※有効厚さ25mm以上 () mm

だば用穴位置 ※横目地合端に2箇所、端あき寸法は石材の厚みの3倍以上

石裏面処理 ・行う ・行わない

裏打ち処理 ・行う ・行わない

目地幅 ※8mm以上 () mm

目地シーリング ・行う (幅・深さ8mm以上) ・行わない

(6節 床及び階段の石張り)

石材の厚さ () mm

石裏面処理 ・行う ・行わない

目地幅 屋外 ※4mm以上 () mm

屋内 ※3～6mm () mm

目地シーリング ・行う (幅・深さ6mm以上) ・行わない

伸縮調整目地シーリング目地位置 ※10.6.2(5)(イ)(a)による ・図面図示による

伸縮調整目地シーリング目地寸法 ※幅・深さ10mm以上 () mm

(7節 特殊部位の石張り)

取付工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法

厚さ ※図面図示による () mm

石裏面処理 ・行う ・行わない

目地幅 外壁湿式工法 ※6mm以上 () mm

乾式工法 ※8mm以上 () mm

目地シーリング ・行う ・行わない

厚さ ※40mm ・図面図示とする

④材料(11.3.2)

⑤張付け用材料(11.3.3)

6. 外装タイル接着剤張りシーリング材(11.3.4)

⑦施工(11.3.7)

(表11.3.2)

(3節 有機系接着剤による陶磁器質タイル張り)

形状・寸法、耐凍害性の有無、耐滑り性、施工箇所 ※図面図示による

色 ・標準色 ・特注色

役物 ・適用する ・適用しない

試験張り ※行わない ・行う

タイルの見本焼き ※行わない ・行う

※外壁は屋外壁用の外装タイル接着剤張り専用タイルとする。

有機系接着剤は、内装壁はJIS A5548 (セラミックタイル張り用内装用有機系接着剤)、吹抜け部分はJIS A5557 (外装タイル張り用有機系接着剤) により、ホルムアルデヒドの放散量はF☆☆☆☆とする。

打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系() ・()

伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系() ・()

下地及びタイルごしらえ・MCR工法 ※目荒し工法 (高圧洗浄)

タイルの種類	タイルの大きさ	工 法	裏あし高さ 裏面反り	張付け材料	
				規格番号	使用量 (kg/m2)
・内装タイル	—	・内装タイル 接着剤張り		JIS A5548 有機系接着剤	1.5～2
①外装タイル ・吹抜け部	小口以上 二丁掛け 以下	・外装タイル 接着剤張り	裏あし高さ 0.9mm以下 かつ、 裏面反り ±0.7mm以下 上記以外	JIS A5557 有機系接着剤	2.5
・内装タイル 以外の ユニットタイル	小口未満	・外装タイル 接着剤張り	裏あし高さ 0.9mm以下 かつ、 裏面反り ±0.7mm以下 上記以外	JIS A5557 有機系接着剤	2
					2.5

⑫木工事

①表面仕上げ(12.1.4)

②木材(12.2.1)

(表12.2.1)

1) 非難タイルの放散量

2) 製材(表12.2.2)

3) 造作用集成材

4) 造作用単板積層材

5) 直交集成材

(1節 共通事項)

※機械加工 ・図面図示による

(2節 材料)

樹種 ・図面図示による ・小中学校標準詳細図による

木材含水率 ・下地材 ※A種 ・B種

・造作材 ※A種 ・B種

「F☆☆☆☆」又は、塗装していないものは「非難タイル」系接着剤使用」。塗装したものは「非難タイル」系接着剤及び非難タイルを放散しない塗料使用」。化粧加工したものは「非難タイル」系接着剤及び非難タイルを放散しない材料使用」のもの。

規格	種類	部材名称	等級	樹種・寸法形状
・JAS規格品	・下地用	—	※2級 ()	※図示による
		枠、額縁、敷居、かまひ かまひの類見え掛り面	※上小節 ()	※図示による
	・造作用	上記以外	※小節以上 ()	※図示による
		・広葉樹	※1級 ()	※図示による
・JAS以外	・造作材		※A種 ・B種	※図示による

※集成材の樹種、寸法、施工箇所は図示による。

規格	分類	部材名称	品質	化粧薄板の厚さ
・JAS規格品	・造作用 集成材	—	※1等 ()	—
		・化粧ばり	※1等 ()	※1.5mm以上
	・化粧ばり 造作用	・柱	※0.8mm以上	※0.8mm以上
		・その他	※0.6mm以上	※0.6mm以上
・JAS以外	含水率	※15%以下 ()		※1.2mm以上 ()

厚さ () mm

規格 ※JAS規格品 ・JAS規格品以外(含水率14%以下)

表面化粧加工 ・有 (・天然木 ・塗装) ・無 (等級： 級)

防虫処理 ・有 ・無

※直交集成材の品名、樹種、寸法、施工箇所は図示による。

曲げ強度 ()

種別 ()

接着性能 ()

事業名

図名

一級建築士登録番号313540号
石橋 光 男

製図

承認

図番

設計

訂正

縮尺

A3=1:1

A-03

株式会社 環・設計工房

16

建具工事（続き）

29. 形式及び機構

(16.11.2)
(表16.11.1)

30. 材料

(16.11.3)

31. 形式及び機構

(16.12.2)
(表16.12.1)

32. 材料

(16.12.3)

33. 形状及び仕上げ

(16.12.4)

34. 形状及び機構

(16.13.2)

35. 材料

(16.13.3)

36. 材料

(16.14.2)

37. ガラス溝の寸法、形状等

(16.14.3)

38. ガラスブロック積み

(16.14.5)

17

カーテンウォール工事

1. 性能

(17.1.3)

2. 材料

(17.2.2)

3. 形状及び仕上げ

(17.2.3)
(表17.2.1)

4. 取付け

(17.2.5)
(17.2.6)
(表17.2.2-3)

5. 材料

(17.3.2)

6. 形状及び仕上げ

(17.3.3)
(表17.3.1)

7. 取付け

(17.3.5)
(17.3.6)
(表17.3.2)

(11節 重量シャッター)

種類・管理用シャッター・外壁用防火シャッター・屋内用防火シャッター・防煙シャッター

外部に面するシャッターの耐風圧性能による区分・()・50・80・120

開閉形式※上部電動式（手動併用）・上部手動式

電動式シャッターに設ける保護装置の位置※図面図示による

シャッターケース・設ける・設けない

材質※溶融亜鉛めっき鋼板又は塗装溶融亜鉛めっき鋼板 Z12又はF12・()

(12節 軽量シャッター)

外部に面するシャッターの耐風圧性能による区分・()・50・65・80

開閉形式・上部電動式（手動併用）※手動式

電動式シャッターに設ける保護装置の位置※図面図示による

材質・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 Z06又はF06・塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 AZ90

スラットの形状・インターロッキング形・オーバーラッピング形

(13節 オーバーヘッドドア)

セクション材料※スチールタイプ・アルミニウムタイプ・ファイバークラスタイプ

耐風圧性能による区分・()・50・75・100・125

開閉方式※バランス式・チェーン式・電動式

収納形式・スタンダード形・ローヘッド形・ハイリフト形・パーテカル形

ガイドレール材料・溶融亜鉛めっき鋼板 Z27・ステンレス鋼板

(14節 ガラス)

板ガラス材料はJIS規格品とし、厚さ・種類等は図面図示による。

ガラス留め材・シーリング・グレイジングガスケット（グレイジングチャンネル形）・グレイジングガスケット（グレイジングビート形）

溝の大きさ※建具製造所の仕様・()

ガラスブロック

ガラスブロックの表面形状、呼び寸法及び厚さ、壁用金属枠及び補強材、金属製化粧カバーの材質、寸法、形状※図面図示による

化粧目地モルタル色・()

目地幅の寸法※16.14.5(2)(y)(a)による・()

伸縮調整目地の位置※16.14.5(2)(y)(b)による・()

目地部の横力骨の納まり※製造所の仕様による・図面図示による

(1節 共通事項)

・金属材料、シーリング材、ガラス、ガラス取付け材料の種類※図面図示による・()

構造ガasket形状(・H形・Y形・C形)、寸法()

断熱材の種類()

製品の寸法許容差※表17.2.1Iによる・()

製品の見掛け部分の仕上げ・()

ガラス溝の寸法、形状等※製造所の仕様による

躯体付け金物取付け位置の寸法許容差※表17.2.2Iによる・()

部材取付け位置の寸法許容差※表17.2.3Iによる・()

構造ガasketを用いるガラスの取付け・()

(3節 PCカーテンウォール)

コンクリートの種類※軽量コンクリート1種・普通コンクリート

設計基準強度(Fc)※30N/mm2・()

所要スランプ※12cm以下・()

補強鉄線種類・普通鉄線・溶接金網

寸法※径3.2mm以上・(mm)

シーリング材、耐火目地材の種類※図面図示による・()

断熱材の種類()

建具枠、ゴンドラ用ガイドレール・図面図示による・()

製品の寸法許容差※表17.3.1Iによる・()

PCカーテンウォールの仕上げ・()

構造ガasketを用いる場合のアンカ溝の寸法及び寸法許容差・JASS 14Iによる

躯体付け金物取付け位置の寸法許容差※表17.2.2Iによる・()

部材取付け位置の寸法許容差※表17.3.2Iによる・()

構造ガasketを用いるガラスの取付け・()

(1節 共通事項)

①材料(18.1.3)

②素地ごしらえの工程種別(18.2.2~7)(表18.2.1~7)

③塗料種別(18.3.2)(表18.3.1~2)

④錆止め塗料塗り(18.3.3)(表18.3.3~4)

6. 工程種別(18.4.2~4)

7. 工程種別(18.5.2)

8. 工程種別(18.6.2)

9. 耐水性塗料塗り(18.7.2~4)(表18.7.1~3)

⑩工程種別(18.8.2~5)

11. 工程種別(18.9.2)

12. 工程種別(18.10.2)

⑬工程種別(18.11.2)

⑭工程種別(18.12.2)

19

内装工事

(1節 共通事項)

塗料のホルムアルデヒド放散量※F☆☆☆☆(屋内)・()

防火材料の指定①指定する(※ 屋内の壁及び天井の塗料仕上げ材は防火材料とし、建築基準法に基づく指定又は認定のあるものとする。)

・指定しない

(2節 素地ごしらえ)

・木部※A種・B種・C種

②木部(透明塗料塗りの場合)

・A種※B種・C種

・鉄鋼面

・A種・B種※C種

・鉄鋼面(耐候性塗料塗りの場合)

・A種・B種・C種

・亜鉛めっき鋼面

・A種・B種

・モルタル面、プラスター面

・A種※B種

・コンクリート面、ALCパネル面

・A種・B種・C種

・コンクリート面、押出成形セメント板

・A種・B種・C種

③せつこうボード及びその他ボード面

④継目処理工法(新規)

※A種・B種・C種

・上記以外

・A種※B種・C種

(3節 錆止め塗料塗り)

⑤鉄鋼面

・合成樹脂調合ペイント(SOP)※A種

⑥耐候性塗料(DP)※1回目C種、2・3回目D種

・屋内水系塗料(EP-G)

・A種※B種

・垂鉛めっき鋼面

・合成樹脂調合ペイント(SOP)※A種・B種

・耐候性塗料(DP)※B種

・屋内水系塗料(EP-G)※C種

⑦鉄鋼面

耐候性塗料(DP)、見え掛り部

※A種・B種

上記以外

・A種※B種

(4節 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP))

※1種(建築用)

・2種(大型鋼構造物用)

・木部

※表18.4.1Iによる

(屋外

※A種・B種)

(屋内

・A種※B種)

・鉄鋼面

※表18.4.2Iによる

(・A種※B種)

・亜鉛めっき鋼面

※表18.4.3Iによる

(5節 クリヤラッカー塗り(C/L))

※表18.5.1Iによる

(・A種※B種)

(6節 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD))

※表18.6.1Iによる

(・A種※B種)

(7節 耐候性塗料塗り(DP))

適用箇所	素地ごしらえ	種別	上塗り塗料等級
・鉄鋼面	※表18.2.2 B種	—	・1級(ふっ素樹脂) ・2級(シリコン樹脂) ・3級(シリコン樹脂)
・亜鉛めっき鋼面	・表18.2.3 A種 ・表18.2.3 B種(建具)	—	・1級(ふっ素樹脂) ・2級(シリコン樹脂) ・3級(シリコン樹脂)
・コンクリート面 ・押出成形セメント板	※表18.2.6 A種	・A種：1級(ふっ素樹脂) ・B種：2級(シリコン樹脂) ・C種：3級(シリコン樹脂)	

(8節 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G))

①コンクリート、モルタル、プラスター、石こうボード、その他のボード面等

※表18.8.1Iによる

(・A種※B種)

・木部面

※表18.8.2Iによる

・鉄鋼面

※表18.8.3Iによる

(・A種※B種)

・亜鉛めっき鋼面

※表18.8.4Iによる

(9節 合成樹脂エマルションペイント塗り(EP))

※表18.9.1Iによる

(・A種※B種)

(10節 ウレタン樹脂ワニス塗り(UC))

※表18.10.1Iによる

(・A種※B種)

(11節 ステンイン塗り(OS)(ビギメントイン、オイルイン))

※図示による

(12節 木材保護塗料塗り(WP))

※表18.12.1Iによる

(・A種※B種)

2. 材料

(19.2.2)

3. 施工

(19.2.3)

4. 材料

(19.3.2)
(表19.3.1)

5. 工法

(19.3.3)
(表19.3.2)

6. 材料・工法

(19.4.2-3)
(表19.4.4~8)

7. 材料・工法

(19.5.2~6)
(表19.5.1~6)

(2節 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り)

・ビニル床シート JIS A5705

種類	JISの記号	色柄	厚さ(mm)
※発泡層のないもの	※FS ・TS	・無地 ・()	※2.0 ・()
・発泡層のあるもの	・HS ・KS	・()	※2.8 ・()

・ビニル床タイル JIS A5705

種類	JISの記号	色柄	厚さ(mm)
・半硬質 ・()	※KT ・()	※無地 ・()	※2.0 ・()

・特殊機能床材

・帯電防止床シート	種類	・()	性能	・()	厚さ	・(mm)
・帯電防止床タイル	種類	・()	性能	・()	厚さ	・(mm)

・ビニル床幅木

厚さ※1.5mm・(mm)

高さ※60mm・(mm)

・ゴム床タイル

色柄・種類

・()

厚さ

・(mm)

寸法

・()

目地処理工法

※熱溶接工法

・()

モルタル塗り下地、セルフレベリング材下地、木造下地以外の下地の工法

※図面図示による

・()

(3節 カーペット敷き)

・織じゅうたん

種類	・A種・B種・C種
織方・バイル形状	・()
色柄	・()
帯電性	※3kV以下

・タフテッドカーペット

バイルの形状	・()
バイル長	・()
帯電性	※3kV以下

・ニードルパンチカーペット

厚さ	・(mm)
帯電性	※3kV以下

・タイルカーペット

種類	※1種
バイルの形状	※ループバイル
寸法	※500mm×500mm
総厚さ	※6.5mm

・下敷き材

※JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種2号、呼び厚さ8mm

・見切り・押え金物

・材質()

・種類()

・形状()

・図面図示による

カーペットの種類	工法の種類	備考
・織じゅうたん	※グリッパー工法	接合方法※ヒートン工法・()
・タフテッドカーペット	・グリッパー工法	
	・全面接着工法	
・ニードルパンチカーペット	※全面接着工法	
・タイルカーペット	※全面接着工法	※平場：市松敷き 階段：模様流し・()

(4節 合成樹脂塗床)

・弾性ウレタン塗床(F☆☆☆☆)

仕上げの種類

※平滑仕上げ

・防滑仕上げ

・つや消し仕上げ

・エポキシ樹脂塗床(F☆☆☆☆)

仕上げの種類

・薄膜流し展べ工法(・平滑仕上げ・防滑仕上げ)

・厚膜流し展べ工法(・平滑仕上げ・防滑仕上げ)

・樹脂モルタル工法(・平滑仕上げ・防滑仕上げ)

①導膜型塗床(F☆☆☆☆)

仕上げの種類

※平滑仕上げ

(5節 フローリング張り)

※M77

⑩ 内 装 工 事 (続 き)	10. 合板類の材料・ 工法 (19. 7. 2～3) (表19. 7. 3)	合板類 <table><tr><th>種 類</th><th>樹 種 等</th><th>接着程度</th><th>厚さ(mm)</th><th>張付け工法</th></tr><tr><td>・難燃合板</td><td>・ラワン合板 ・しな合板 ・()</td><td>・1類 ・2類</td><td>板厚 ・()</td><td>・A種 ※B種</td></tr><tr><td>・特殊 合板</td><td>・天然木化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理</td><td>化粧板 ・(タモ) ・1類 ・2類</td><td>単板の厚さ ※0.3mm未満 ・()</td><td>・A種 ・B種 ・引掛け金物</td></tr><tr><td>・合板</td><td>・特殊加工化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理</td><td>仕上加工方法 ・() 表面性能 ・()</td><td>板厚 ※4.0mm ・()</td><td>※A種 ・B種</td></tr><tr><td>・普通合板</td><td>・ラワン合板 ・しな合板 ・()</td><td>・1類 ・2類</td><td>板厚 ・()</td><td>・A種 ※B種</td></tr></table> (8節 壁紙張り) 壁紙及び壁紙施工用でん粉系接着剤の揮発量 F☆☆☆☆ 種類 ※図面図示による 防火性能 ・図面図示による 素地ごしらえ モルタル、 プラスター面 ※表18.2.4 (・A種 ※B種) コンクリート面 ※表18.2.5 (・A種 ※B種) せっこうボード面 ※表18.2.7 (・A種 ※B種) (9節 断熱・防露) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 厚さ() ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) 厚さ() ・硬質ウレタンフォーム断熱材 厚さ() ・フェノールフォーム断熱材(F☆☆☆☆) 厚さ() 断熱材種類 吹付け硬質ウレタンフォーム(JIS A9526) ※A種1 ・A種1H ・A種2 ・A種3 ・B種 ※難燃性を有するものとする 断熱材の吹付け厚さ ※図面図示	種 類	樹 種 等	接着程度	厚さ(mm)	張付け工法	・難燃合板	・ラワン合板 ・しな合板 ・()	・1類 ・2類	板厚 ・()	・A種 ※B種	・特殊 合板	・天然木化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理	化粧板 ・(タモ) ・1類 ・2類	単板の厚さ ※0.3mm未満 ・()	・A種 ・B種 ・引掛け金物	・合板	・特殊加工化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理	仕上加工方法 ・() 表面性能 ・()	板厚 ※4.0mm ・()	※A種 ・B種	・普通合板	・ラワン合板 ・しな合板 ・()	・1類 ・2類	板厚 ・()	・A種 ※B種	13. カーテン及び カーテンレール (20. 2. 16) ・カーテン <table><tr><th>施工箇所</th><th>名称品質</th><th>ひだの種類</th><th>形 式</th><th>引分け 装置</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・つまみひだ ・箱ひだ ・プレーンひだ ・片ひだ</td><td>・片引き ・引分け ・シグナル</td><td>・有 ・無</td></tr></table> ・暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上 ・カーテン用付属金物 ・掛け金具 ※亜鉛合金程度 ・図面図示による ・フック(ひるかん) ※鋼製 ・樹脂製 ・図面図示による ・カーテンレール <table><tr><th>材種</th><th>仕上げ</th><th>強さの区分</th><th>形状</th></tr><tr><td>※7mm以上製</td><td>※7mm以上</td><td>※10-90</td><td>・C型 ・D型 ※角型</td></tr><tr><td>・ステンレス製</td><td>※ヘアライン</td><td>※10-60</td><td>※C型 ・D型 ・角型</td></tr></table> ・吊りカーテンレール 材種 ※アルミニウム製 形状 ※H型 ・暗幕用レール 材種 ※アルミニウム製 形状 ※角形 20 (3節 プレキャストコンクリート工事) 補強鉄線 ・普通鉄線(径 網目寸法) ・溶融金網(径 ※3.2mm以上 網目寸法) コンクリートの設計基準強度 水セメント比 ※55%以下 単位セメント量の最小値 ※300kg/m3 所要スランブ ※12cm以下 配筋 ・図面図示による ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する 鉄筋のかぶり厚さ ※30mm以上 取付け方法 ※図面図示による (その他の工事) 材種 天井 ※アルミニウム製(表面は天井仕上げと同じ・目地タイプ) 床 ※ステンレス製(表面は床仕上げと同じ) ・アルミニウム製(表面は床仕上げと同じ) 材種 ※ステンレス製 材種 ・アルミニウム製 ※塩化ビニル樹脂製 ・ステンレス製 材種 ※塩化ビニル又はゴム製(受枠ステンレス製) ・硬質アルミニウム製(受枠硬質アルミニウム製) ・ステンレス製(受枠ステンレス製) ※直降用 ・斜降用(注)製造所と仕様については監督員の承諾による。	施工箇所	名称品質	ひだの種類	形 式	引分け 装置			・つまみひだ ・箱ひだ ・プレーンひだ ・片ひだ	・片引き ・引分け ・シグナル	・有 ・無	材種	仕上げ	強さの区分	形状	※7mm以上製	※7mm以上	※10-90	・C型 ・D型 ※角型	・ステンレス製	※ヘアライン	※10-60	※C型 ・D型 ・角型	14. 材料 (20. 3. 2) 15. 製作 (20. 3. 3) 16. 養生その他 (20. 3. 4) ⑬点検口 16. 旗竿受け金物 ⑭天井見切縁 18. くつつきマット 19. 救助袋	⑫ 舗 装 工 事 (1節 共通事項) ※使用する ・使用しない (2節 路床) 透水性舗装に用いるフィルター層 厚さ・材料 ・図面図示による 凍上抑制層 ・適用する(厚さ()) ※適用しない 材料 ・砂 ・切込砂利 ※再生クラッシャーラン 路床安定処理 ・適用する(CBR) ※適用しない 処理の方法 添加材料 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰1号 ・消石灰1号 ・盛土 表3.2.1 ・砂の粒度試験(JIS A1102) 路床土の支持力比(CBR)試験 ・行う(埋戻し、盛土部) ※行わない 路床締固め度の試験(JIS A1214) ※行う(埋戻し、盛土部) ・行わない 現場CBR試験(JIS A1222) ・行う (3節 路盤) 路盤の厚さ <table><tr><th rowspan="2">舗 装 の 種 類</th><th colspan="2">路 盤 の 厚 さ(mm)</th></tr><tr><th>車 道 部</th><th>歩 道 部</th></tr><tr><td>・アスファルト舗装</td><td>・100・150・250・350</td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・カラー舗装</td><td>・100・150・250・350</td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・コンクリート舗装</td><td>・150・()</td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・透水性アスファルト舗装</td><td>・150・()</td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・排水性アスファルト舗装</td><td>・100・150・250</td><td></td></tr><tr><td>・インターロッキングブロック舗装</td><td>・100・150・250</td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・転圧コンクリート舗装</td><td>・150・()</td><td></td></tr><tr><td>・コンクリート平板舗装</td><td></td><td>・100・()</td></tr><tr><td>・舗石舗装</td><td></td><td>・50・()</td></tr></table> 路盤材料の種類 ・クラッシャーラン ・粒度調整砕石 ※再生クラッシャーラン ・再生粒度調整砕石 ・クラッシャーラン鉄鋼スラグ ・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ (4節 アスファルト舗装) 舗装の厚さ ・30mm ・50mm 構成 ※図面図示による 車道部の基層 ・適用する ※適用しない 平たん性 ・スレートアスファルト ・再生アスファルト(・60～80 ・80～100) 表層の加熱アスファルト混合物の種類 <table><tr><th rowspan="2">一般地域</th><th colspan="2">※密粒度アスファルト混合物(13)</th></tr><tr><th colspan="2">・細粒度アスファルト混合物(13)</th></tr></table> シールコートの施工 ・行う(・PK-1 ・PK-2) ※行わない 切り取り試験 ・行う ・行わない(軽易な場合) アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ※行わない (5節 コンクリート舗装) コンクリート舗装の厚さ 車路・駐車場 ※100mm 歩行者用通路 ※70mm 平たん性 コンクリートの設計基準強度等 コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 車路・駐車場 ※24N/mm2 歩行者用通路 ※18N/mm2 所要スランブ 車路・駐車場 ※8cm 歩行者用通路 ※8cm 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ 目地の種類及び間隔 ※表22.5.3による 目地の構造 ※図22.5.11による (6節 カラー舗装) <table><tr><th>舗装の種類</th><th>適用部位</th><th>厚さ(mm)</th><th>材料</th></tr><tr><td>・アスファルト混合</td><td>・車路(基層無)</td><td></td><td>・無機系顔料</td></tr><tr><td>・石油樹脂系</td><td>・車路(基層有)</td><td></td><td>・着色骨材()</td></tr><tr><td></td><td>・歩行者用通路</td><td></td><td>・自然石()</td></tr><tr><td>・ニート工法</td><td>・車路</td><td>3～5</td><td>・エポキシ 着色磁器質骨材</td></tr><tr><td>・塗布工法</td><td>・歩行者用通路</td><td>1程度以下</td><td>※アクリル系カラー塗布材</td></tr></table> 常温系カラー舗装の着色部下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 結合材が石油樹脂の場合の顔料添加量 ニート工法・塗布工法の配合 加熱系混合物の抽出試験 ・行う ※行わない (7節 透水性アスファルト舗装) 構成 ※図面図示による 平たん性 透水性アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ※行わない	舗 装 の 種 類	路 盤 の 厚 さ(mm)		車 道 部	歩 道 部	・アスファルト舗装	・100・150・250・350	・100・()	・カラー舗装	・100・150・250・350	・100・()	・コンクリート舗装	・150・()	・100・()	・透水性アスファルト舗装	・150・()	・100・()	・排水性アスファルト舗装	・100・150・250		・インターロッキングブロック舗装	・100・150・250	・100・()	・転圧コンクリート舗装	・150・()		・コンクリート平板舗装		・100・()	・舗石舗装		・50・()	一般地域	※密粒度アスファルト混合物(13)		・細粒度アスファルト混合物(13)		舗装の種類	適用部位	厚さ(mm)	材料	・アスファルト混合	・車路(基層無)		・無機系顔料	・石油樹脂系	・車路(基層有)		・着色骨材()		・歩行者用通路		・自然石()	・ニート工法	・車路	3～5	・エポキシ 着色磁器質骨材	・塗布工法	・歩行者用通路	1程度以下	※アクリル系カラー塗布材	⑬ 植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事 20. 舗装の構成及び 仕上がり (22. 8. 2) (表22. 8. 1) 21. 材料 (22. 8. 3) 22. 材料及び種別 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 23. 植栽及び屋上緑化工事 1. 植栽地の確認等 (23. 1. 3) 2. 植栽基盤一般 (23. 2. 2) (23. 2. 4) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 3. 材料 (23. 2. 3) 4. 材料 (23. 3. 2) 5. 新植の工法 (23. 3. 3) 6. 新植樹木の枯損償 (23. 3. 4) 7. 移植樹木の枯損処置 (23. 3. 6) 8. 材料 (23. 4. 2) 9. 芝張り工法 (23. 4. 3) 10. 芝張り等の枯損償 (23. 4. 7) 11. 植栽基礎 (23. 5. 2) 12. 材料 (23. 5. 3) 13. 工法 (23. 5. 4) 14. 新植樹木、芝及び 地被類の枯損償 (23. 5. 5)	(8節 ブロック系舗装) コンクリート平板舗装の目地材 ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層 ※コンクリート版(70mm) ・アスファルト混合物(50mm) クッション材 ※砂 ・空練りモルタル コンクリート平板の種類・寸法・厚さ ※図面図示による インターロッキングブロックの種類・形状・寸法 ※図面図示による。 表面加工 厚さ ・車路(※曲げ強度5.0N/mm2の普通ブロック80mm) ・歩行者用通路(※曲げ強度3.0N/mm2の普通ブロック60mm) 舗石の石材(JIS A5003(石材)2等品) 種類() 形状・寸法() 厚さ() (9節 砂利敷き) 砂利敷きの種別 通路 ※A種 ・B種 建物周囲その他 ・A種 ※B種 (1節 共通事項) 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ※行わない 土壌の電気伝導度(EC)等試験 ・行う ※行わない (2節 植栽基盤) 植栽基盤の整備 樹木 ・適用する ※適用しない 芝、地被類 ※適用する ※適用しない 有効土層の面積・厚さ ※表23.2.1による 植栽基盤工法の種別 樹木 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 芝及び地被類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 土壌改良材 ・使用する(種類、量：図示) ・使用しない 雨水排水施設 ※図面図示による 植込み用土 ・客土 ※現場発生の良質土 (3節 植樹) 樹木の種類等 ※図面図示による 支柱材 ・杉の焼丸太 ※加圧式防腐処理丸太材 ・竹 幹巻き用材 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 支柱 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形 補償期間 引渡しの日から ※1年 枯損処置を行う期間 引渡しの日から ※1年 (4節 芝張り、吹付けは種及び地被類) 芝の種類 ※コウライシバ ・ノシバ 吹付けは種用種子の種類等 種類 ※洋芝類 量 地被類の樹種(植物名) ・芽立数・径・単位面積当たりの株数 ※図面図示による。 平地 ※目地張り 法面 ※目地張り 補償期間 引渡しの日から ※1年 (5節 屋上緑化) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・屋上緑化軽量システム 工法 ※システム製作所の仕様による 植栽基盤の質量 ※60kg/m2以下 排水層 ・軽量骨材(・火山砂利・黒曜石・ライト・膨張性頁岩) 厚さ() ・板状成形品(合成樹脂等) 土壌層 ・人工軽量土(・無機質土 ・有機質・無機質混合土) ※改良土 樹木、芝及び地被類 樹種・種類、寸法、株立数、数量 ※図面図示による。 刈込みもの 見切り材(土留め材) ※図面図示による。 舗装材(床材) ※図面図示による。 排水孔 ※図面図示による。 マルチング材 ※図面図示による。
	種 類	樹 種 等	接着程度	厚さ(mm)	張付け工法																																																																																																														
	・難燃合板	・ラワン合板 ・しな合板 ・()	・1類 ・2類	板厚 ・()	・A種 ※B種																																																																																																														
	・特殊 合板	・天然木化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理	化粧板 ・(タモ) ・1類 ・2類	単板の厚さ ※0.3mm未満 ・()	・A種 ・B種 ・引掛け金物																																																																																																														
	・合板	・特殊加工化粧合板 ・防虫処理 ・難燃処理 ・防災処理	仕上加工方法 ・() 表面性能 ・()	板厚 ※4.0mm ・()	※A種 ・B種																																																																																																														
	・普通合板	・ラワン合板 ・しな合板 ・()	・1類 ・2類	板厚 ・()	・A種 ※B種																																																																																																														
	施工箇所	名称品質	ひだの種類	形 式	引分け 装置																																																																																																														
			・つまみひだ ・箱ひだ ・プレーンひだ ・片ひだ	・片引き ・引分け ・シグナル	・有 ・無																																																																																																														
	材種	仕上げ	強さの区分	形状																																																																																																															
	※7mm以上製	※7mm以上	※10-90	・C型 ・D型 ※角型																																																																																																															
・ステンレス製	※ヘアライン	※10-60	※C型 ・D型 ・角型																																																																																																																
舗 装 の 種 類	路 盤 の 厚 さ(mm)																																																																																																																		
	車 道 部	歩 道 部																																																																																																																	
・アスファルト舗装	・100・150・250・350	・100・()																																																																																																																	
・カラー舗装	・100・150・250・350	・100・()																																																																																																																	
・コンクリート舗装	・150・()	・100・()																																																																																																																	
・透水性アスファルト舗装	・150・()	・100・()																																																																																																																	
・排水性アスファルト舗装	・100・150・250																																																																																																																		
・インターロッキングブロック舗装	・100・150・250	・100・()																																																																																																																	
・転圧コンクリート舗装	・150・()																																																																																																																		
・コンクリート平板舗装		・100・()																																																																																																																	
・舗石舗装		・50・()																																																																																																																	
一般地域	※密粒度アスファルト混合物(13)																																																																																																																		
	・細粒度アスファルト混合物(13)																																																																																																																		
舗装の種類	適用部位	厚さ(mm)	材料																																																																																																																
・アスファルト混合	・車路(基層無)		・無機系顔料																																																																																																																
・石油樹脂系	・車路(基層有)		・着色骨材()																																																																																																																
	・歩行者用通路		・自然石()																																																																																																																
・ニート工法	・車路	3～5	・エポキシ 着色磁器質骨材																																																																																																																
・塗布工法	・歩行者用通路	1程度以下	※アクリル系カラー塗布材																																																																																																																
11. 材料 (19. 8. 2)	壁紙及び壁紙施工用でん粉系接着剤の揮発量 F☆☆☆☆ 種類 ※図面図示による 防火性能 ・図面図示による 素地ごしらえ モルタル、 プラスター面 ※表18.2.4 (・A種 ※B種) コンクリート面 ※表18.2.5 (・A種 ※B種) せっこうボード面 ※表18.2.7 (・A種 ※B種) (9節 断熱・防露) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 厚さ() ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) 厚さ() ・硬質ウレタンフォーム断熱材 厚さ() ・フェノールフォーム断熱材(F☆☆☆☆) 厚さ() 断熱材種類 吹付け硬質ウレタンフォーム(JIS A9526) ※A種1 ・A種1H ・A種2 ・A種3 ・B種 ※難燃性を有するものとする 断熱材の吹付け厚さ ※図面図示	16. 養生その他 (20. 3. 4) ⑬点検口 16. 旗竿受け金物 ⑭天井見切縁 18. くつつきマット 19. 救助袋	⑬ 植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事 20. 舗装の構成及び 仕上がり (22. 8. 2) (表22. 8. 1) 21. 材料 (22. 8. 3) 22. 材料及び種別 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 23. 植栽及び屋上緑化工事 1. 植栽地の確認等 (23. 1. 3) 2. 植栽基盤一般 (23. 2. 2) (23. 2. 4) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 3. 材料 (23. 2. 3) 4. 材料 (23. 3. 2) 5. 新植の工法 (23. 3. 3) 6. 新植樹木の枯損償 (23. 3. 4) 7. 移植樹木の枯損処置 (23. 3. 6) 8. 材料 (23. 4. 2) 9. 芝張り工法 (23. 4. 3) 10. 芝張り等の枯損償 (23. 4. 7) 11. 植栽基礎 (23. 5. 2) 12. 材料 (23. 5. 3) 13. 工法 (23. 5. 4) 14. 新植樹木、芝及び 地被類の枯損償 (23. 5. 5)	(8節 ブロック系舗装) コンクリート平板舗装の目地材 ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層 ※コンクリート版(70mm) ・アスファルト混合物(50mm) クッション材 ※砂 ・空練りモルタル コンクリート平板の種類・寸法・厚さ ※図面図示による インターロッキングブロックの種類・形状・寸法 ※図面図示による。 表面加工 厚さ ・車路(※曲げ強度5.0N/mm2の普通ブロック80mm) ・歩行者用通路(※曲げ強度3.0N/mm2の普通ブロック60mm) 舗石の石材(JIS A5003(石材)2等品) 種類() 形状・寸法() 厚さ() (9節 砂利敷き) 砂利敷きの種別 通路 ※A種 ・B種 建物周囲その他 ・A種 ※B種 (1節 共通事項) 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ※行わない 土壌の電気伝導度(EC)等試験 ・行う ※行わない (2節 植栽基盤) 植栽基盤の整備 樹木 ・適用する ※適用しない 芝、地被類 ※適用する ※適用しない 有効土層の面積・厚さ ※表23.2.1による 植栽基盤工法の種別 樹木 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 芝及び地被類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 土壌改良材 ・使用する(種類、量：図示) ・使用しない 雨水排水施設 ※図面図示による 植込み用土 ・客土 ※現場発生の良質土 (3節 植樹) 樹木の種類等 ※図面図示による 支柱材 ・杉の焼丸太 ※加圧式防腐処理丸太材 ・竹 幹巻き用材 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 支柱 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形 補償期間 引渡しの日から ※1年 枯損処置を行う期間 引渡しの日から ※1年 (4節 芝張り、吹付けは種及び地被類) 芝の種類 ※コウライシバ ・ノシバ 吹付けは種用種子の種類等 種類 ※洋芝類 量 地被類の樹種(植物名) ・芽立数・径・単位面積当たりの株数 ※図面図示による。 平地 ※目地張り 法面 ※目地張り 補償期間 引渡しの日から ※1年 (5節 屋上緑化) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・屋上緑化軽量システム 工法 ※システム製作所の仕様による 植栽基盤の質量 ※60kg/m2以下 排水層 ・軽量骨材(・火山砂利・黒曜石・ライト・膨張性頁岩) 厚さ() ・板状成形品(合成樹脂等) 土壌層 ・人工軽量土(・無機質土 ・有機質・無機質混合土) ※改良土 樹木、芝及び地被類 樹種・種類、寸法、株立数、数量 ※図面図示による。 刈込みもの 見切り材(土留め材) ※図面図示による。 舗装材(床材) ※図面図示による。 排水孔 ※図面図示による。 マルチング材 ※図面図示による。																																																																																																															
12. 施工 (19. 8. 3)	壁紙及び壁紙施工用でん粉系接着剤の揮発量 F☆☆☆☆ 種類 ※図面図示による 防火性能 ・図面図示による 素地ごしらえ モルタル、 プラスター面 ※表18.2.4 (・A種 ※B種) コンクリート面 ※表18.2.5 (・A種 ※B種) せっこうボード面 ※表18.2.7 (・A種 ※B種) (9節 断熱・防露) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 厚さ() ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) 厚さ() ・硬質ウレタンフォーム断熱材 厚さ() ・フェノールフォーム断熱材(F☆☆☆☆) 厚さ() 断熱材種類 吹付け硬質ウレタンフォーム(JIS A9526) ※A種1 ・A種1H ・A種2 ・A種3 ・B種 ※難燃性を有するものとする 断熱材の吹付け厚さ ※図面図示	16. 養生その他 (20. 3. 4) ⑬点検口 16. 旗竿受け金物 ⑭天井見切縁 18. くつつきマット 19. 救助袋		⑬ 植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事 20. 舗装の構成及び 仕上がり (22. 8. 2) (表22. 8. 1) 21. 材料 (22. 8. 3) 22. 材料及び種別 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 23. 植栽及び屋上緑化工事 1. 植栽地の確認等 (23. 1. 3) 2. 植栽基盤一般 (23. 2. 2) (23. 2. 4) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 3. 材料 (23. 2. 3) 4. 材料 (23. 3. 2) 5. 新植の工法 (23. 3. 3) 6. 新植樹木の枯損償 (23. 3. 4) 7. 移植樹木の枯損処置 (23. 3. 6) 8. 材料 (23. 4. 2) 9. 芝張り工法 (23. 4. 3) 10. 芝張り等の枯損償 (23. 4. 7) 11. 植栽基礎 (23. 5. 2) 12. 材料 (23. 5. 3) 13. 工法 (23. 5. 4) 14. 新植樹木、芝及び 地被類の枯損償 (23. 5. 5)	(8節 ブロック系舗装) コンクリート平板舗装の目地材 ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層 ※コンクリート版(70mm) ・アスファルト混合物(50mm) クッション材 ※砂 ・空練りモルタル コンクリート平板の種類・寸法・厚さ ※図面図示による インターロッキングブロックの種類・形状・寸法 ※図面図示による。 表面加工 厚さ ・車路(※曲げ強度5.0N/mm2の普通ブロック80mm) ・歩行者用通路(※曲げ強度3.0N/mm2の普通ブロック60mm) 舗石の石材(JIS A5003(石材)2等品) 種類() 形状・寸法() 厚さ() (9節 砂利敷き) 砂利敷きの種別 通路 ※A種 ・B種 建物周囲その他 ・A種 ※B種 (1節 共通事項) 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ※行わない 土壌の電気伝導度(EC)等試験 ・行う ※行わない (2節 植栽基盤) 植栽基盤の整備 樹木 ・適用する ※適用しない 芝、地被類 ※適用する ※適用しない 有効土層の面積・厚さ ※表23.2.1による 植栽基盤工法の種別 樹木 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 芝及び地被類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 土壌改良材 ・使用する(種類、量：図示) ・使用しない 雨水排水施設 ※図面図示による 植込み用土 ・客土 ※現場発生の良質土 (3節 植樹) 樹木の種類等 ※図面図示による 支柱材 ・杉の焼丸太 ※加圧式防腐処理丸太材 ・竹 幹巻き用材 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 支柱 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形 補償期間 引渡しの日から ※1年 枯損処置を行う期間 引渡しの日から ※1年 (4節 芝張り、吹付けは種及び地被類) 芝の種類 ※コウライシバ ・ノシバ 吹付けは種用種子の種類等 種類 ※洋芝類 量 地被類の樹種(植物名) ・芽立数・径・単位面積当たりの株数 ※図面図示による。 平地 ※目地張り 法面 ※目地張り 補償期間 引渡しの日から ※1年 (5節 屋上緑化) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・屋上緑化軽量システム 工法 ※システム製作所の仕様による 植栽基盤の質量 ※60kg/m2以下 排水層 ・軽量骨材(・火山砂利・黒曜石・ライト・膨張性頁岩) 厚さ() ・板状成形品(合成樹脂等) 土壌層 ・人工軽量土(・無機質土 ・有機質・無機質混合土) ※改良土 樹木、芝及び地被類 樹種・種類、寸法、株立数、数量 ※図面図示による。 刈込みもの 見切り材(土留め材) ※図面図示による。 舗装材(床材) ※図面図示による。 排水孔 ※図面図示による。 マルチング材 ※図面図示による。																																																																																																														
13. 断熱材打込み 工法 (19. 9. 3)	壁紙及び壁紙施工用でん粉系接着剤の揮発量 F☆☆☆☆ 種類 ※図面図示による 防火性能 ・図面図示による 素地ごしらえ モルタル、 プラスター面 ※表18.2.4 (・A種 ※B種) コンクリート面 ※表18.2.5 (・A種 ※B種) せっこうボード面 ※表18.2.7 (・A種 ※B種) (9節 断熱・防露) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 厚さ() ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) 厚さ() ・硬質ウレタンフォーム断熱材 厚さ() ・フェノールフォーム断熱材(F☆☆☆☆) 厚さ() 断熱材種類 吹付け硬質ウレタンフォーム(JIS A9526) ※A種1 ・A種1H ・A種2 ・A種3 ・B種 ※難燃性を有するものとする 断熱材の吹付け厚さ ※図面図示	16. 養生その他 (20. 3. 4) ⑬点検口 16. 旗竿受け金物 ⑭天井見切縁 18. くつつきマット 19. 救助袋			⑬ 植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事 20. 舗装の構成及び 仕上がり (22. 8. 2) (表22. 8. 1) 21. 材料 (22. 8. 3) 22. 材料及び種別 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 23. 植栽及び屋上緑化工事 1. 植栽地の確認等 (23. 1. 3) 2. 植栽基盤一般 (23. 2. 2) (23. 2. 4) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 3. 材料 (23. 2. 3) 4. 材料 (23. 3. 2) 5. 新植の工法 (23. 3. 3) 6. 新植樹木の枯損償 (23. 3. 4) 7. 移植樹木の枯損処置 (23. 3. 6) 8. 材料 (23. 4. 2) 9. 芝張り工法 (23. 4. 3) 10. 芝張り等の枯損償 (23. 4. 7) 11. 植栽基礎 (23. 5. 2) 12. 材料 (23. 5. 3) 13. 工法 (23. 5. 4) 14. 新植樹木、芝及び 地被類の枯損償 (23. 5. 5)	(8節 ブロック系舗装) コンクリート平板舗装の目地材 ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層 ※コンクリート版(70mm) ・アスファルト混合物(50mm) クッション材 ※砂 ・空練りモルタル コンクリート平板の種類・寸法・厚さ ※図面図示による インターロッキングブロックの種類・形状・寸法 ※図面図示による。 表面加工 厚さ ・車路(※曲げ強度5.0N/mm2の普通ブロック80mm) ・歩行者用通路(※曲げ強度3.0N/mm2の普通ブロック60mm) 舗石の石材(JIS A5003(石材)2等品) 種類() 形状・寸法() 厚さ() (9節 砂利敷き) 砂利敷きの種別 通路 ※A種 ・B種 建物周囲その他 ・A種 ※B種 (1節 共通事項) 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ※行わない 土壌の電気伝導度(EC)等試験 ・行う ※行わない (2節 植栽基盤) 植栽基盤の整備 樹木 ・適用する ※適用しない 芝、地被類 ※適用する ※適用しない 有効土層の面積・厚さ ※表23.2.1による 植栽基盤工法の種別 樹木 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 芝及び地被類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 土壌改良材 ・使用する(種類、量：図示) ・使用しない 雨水排水施設 ※図面図示による 植込み用土 ・客土 ※現場発生の良質土 (3節 植樹) 樹木の種類等 ※図面図示による 支柱材 ・杉の焼丸太 ※加圧式防腐処理丸太材 ・竹 幹巻き用材 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 支柱 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形 補償期間 引渡しの日から ※1年 枯損処置を行う期間 引渡しの日から ※1年 (4節 芝張り、吹付けは種及び地被類) 芝の種類 ※コウライシバ ・ノシバ 吹付けは種用種子の種類等 種類 ※洋芝類 量 地被類の樹種(植物名) ・芽立数・径・単位面積当たりの株数 ※図面図示による。 平地 ※目地張り 法面 ※目地張り 補償期間 引渡しの日から ※1年 (5節 屋上緑化) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・屋上緑化軽量システム 工法 ※システム製作所の仕様による 植栽基盤の質量 ※60kg/m2以下 排水層 ・軽量骨材(・火山砂利・黒曜石・ライト・膨張性頁岩) 厚さ() ・板状成形品(合成樹脂等) 土壌層 ・人工軽量土(・無機質土 ・有機質・無機質混合土) ※改良土 樹木、芝及び地被類 樹種・種類、寸法、株立数、数量 ※図面図示による。 刈込みもの 見切り材(土留め材) ※図面図示による。 舗装材(床材) ※図面図示による。 排水孔 ※図面図示による。 マルチング材 ※図面図示による。																																																																																																													
14. 断熱材現場 発泡工法 (19. 9. 4)	壁紙及び壁紙施工用でん粉系接着剤の揮発量 F☆☆☆☆ 種類 ※図面図示による 防火性能 ・図面図示による 素地ごしらえ モルタル、 プラスター面 ※表18.2.4 (・A種 ※B種) コンクリート面 ※表18.2.5 (・A種 ※B種) せっこうボード面 ※表18.2.7 (・A種 ※B種) (9節 断熱・防露) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 厚さ() ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) 厚さ() ・硬質ウレタンフォーム断熱材 厚さ() ・フェノールフォーム断熱材(F☆☆☆☆) 厚さ() 断熱材種類 吹付け硬質ウレタンフォーム(JIS A9526) ※A種1 ・A種1H ・A種2 ・A種3 ・B種 ※難燃性を有するものとする 断熱材の吹付け厚さ ※図面図示	16. 養生その他 (20. 3. 4) ⑬点検口 16. 旗竿受け金物 ⑭天井見切縁 18. くつつきマット 19. 救助袋				⑬ 植 栽 及 び 屋 上 緑 化 工 事 20. 舗装の構成及び 仕上がり (22. 8. 2) (表22. 8. 1) 21. 材料 (22. 8. 3) 22. 材料及び種別 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 23. 植栽及び屋上緑化工事 1. 植栽地の確認等 (23. 1. 3) 2. 植栽基盤一般 (23. 2. 2) (23. 2. 4) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 3. 材料 (23. 2. 3) 4. 材料 (23. 3. 2) 5. 新植の工法 (23. 3. 3) 6. 新植樹木の枯損償 (23. 3. 4) 7. 移植樹木の枯損処置 (23. 3. 6) 8. 材料 (23. 4. 2) 9. 芝張り工法 (23. 4. 3) 10. 芝張り等の枯損償 (23. 4. 7) 11. 植栽基礎 (23. 5. 2) 12. 材料 (23. 5. 3) 13. 工法 (23. 5. 4) 14. 新植樹木、芝及び 地被類の枯損償 (23. 5. 5)	(8節 ブロック系舗装) コンクリート平板舗装の目地材 ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層 ※コンクリート版(70mm) ・アスファルト混合物(50mm) クッション材 ※砂 ・空練りモルタル コンクリート平板の種類・寸法・厚さ ※図面図示による インターロッキングブロックの種類・形状・寸法 ※図面図示による。 表面加工 厚さ ・車路(※曲げ強度5.0N/mm2の普通ブロック80mm) ・歩行者用通路(※曲げ強度3.0N/mm2の普通ブロック60mm) 舗石の石材(JIS A5003(石材)2等品) 種類() 形状・寸法() 厚さ() (9節 砂利敷き) 砂利敷きの種別 通路 ※A種 ・B種 建物周囲その他 ・A種 ※B種 (1節 共通事項) 土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験 ・行う ※行わない 土壌の電気伝導度(EC)等試験 ・行う ※行わない (2節 植栽基盤) 植栽基盤の整備 樹木 ・適用する ※適用しない 芝、地被類 ※適用する ※適用しない 有効土層の面積・厚さ ※表23.2.1による 植栽基盤工法の種別 樹木 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 芝及び地被類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 土壌改良材 ・使用する(種類、量：図示) ・使用しない 雨水排水施設 ※図面図示による 植込み用土 ・客土 ※現場発生の良質土 (3節 植樹) 樹木の種類等 ※図面図示による 支柱材 ・杉の焼丸太 ※加圧式防腐処理丸太材 ・竹 幹巻き用材 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 支柱 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形 補償期間 引渡しの日から ※1年 枯損処置を行う期間 引渡しの日から ※1年 (4節 芝張り、吹付けは種及び地被類) 芝の種類 ※コウライシバ ・ノシバ 吹付けは種用種子の種類等 種類 ※洋芝類 量 地被類の樹種(植物名) ・芽立数・径・単位面積当たりの株数 ※図面図示による。 平地 ※目地張り 法面 ※目地張り 補償期間 引渡しの日から ※1年 (5節 屋上緑化) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・屋上緑化軽量システム 工法 ※システム製作所の仕様による 植栽基盤の質量 ※60kg/m2以下 排水層 ・軽量骨材(・火山砂利・黒曜石・ライト・膨張性頁岩) 厚さ() ・板状成形品(合成樹脂等) 土壌層 ・人工軽量土(・無機質土 ・有機質・無機質混合土) ※改良土 樹木、芝及び地被類 樹種・種類、寸法、株立数、数量 ※図面図示による。 刈込みもの 見切り材(土留め材) ※図面図示による。 舗装材(床材) ※図面図示による。 排水孔 ※図面図示による。 マルチング材 ※図面図示による。																																																																																																												
⑪ ユニ ット 及 び 其 他 の 工 事	1. フリーアクセス (20. 2. 2) 2. 可動間仕切 (20. 2. 3) 3. 移動間仕切 (20. 2. 4) 4. トイレブース (20. 2. 5) 5. 手すり (20. 2. 6) 6. 階段滑り止め (20. 2. 7) 7. 黒板及び ホワイトボード (20. 2. 9) 8. 鏡 (20. 2. 10) ⑨表示 (20. 2. 11) 10. タラップ (20. 2. 12) 11. ブラインド (20. 2. 14) 12. ロールスクリーン (20. 2. 15)	(2節 ユニット工事等) フリーアクセスの寸法・高さ・表面仕上げ材の寸法 ※図面図示による 耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗 耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリング性能、耐燃焼性能 ※20.2.2(2)(4)による パネル寸法精度 ※20.2.2(2)(4)による パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 構造形式・構成基材・遮音性 ※図面図示による パネルの表面仕上 ※図面図示による パネルに取付ける建具の寸法・形状 ※図面図示による 材料 操作方法種類、パネル表面材の材質・仕上げ ※図面図示による 性能 パネル圧接装置の操作方法 ※図面図示による 遮音性 ルーフ・バルコニー等 ※20.2.4(3)(9)～(11)による 工法 ルーフ・バルコニーをあと施工工法で取付ける場合のバルコニーの材質・寸法 ・() パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 材料 パネル表面材 ・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・F T S工法トイレブース用パネル仕様書 () 脚部の種類 ・幅木タイプ ・図面図示による ドアエッジ材質 ※製造所の仕様による 材料の種類 ※図面図示による 表面処理 亜鉛めっき ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・F種 ステンレス ※HL仕上げ・鏡面仕上げ 材種・形状・寸法 ※図面図示による 取付工法 ※接着工法 ・埋込工法 製作 ・JIS S6007(黒板)及び																																																																																																																	

事 名	筑前岩屋駅舎改修工事	設 計	
図 名	建築工事特記仕様書-6	訂 正	
		縮 尺	A3=1:1
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製 図	承認 図章
	株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房		
	A-06		

建築工事監督基準

- 主 旨 本基準は工事請負契約の本旨に基づき村監督員の監督業務の範囲を示すものであり、標準仕様書のうちの監督業務に代わるものである。
- 一般事項 本監督基準並びに設計図書に明記なき事項又は疑義ある場合には監督員と協議を行い、軽微なものについては監督員の指示に従い入念に施工する。
- 監督業務 本工事受注者は当監督基準を熟知の上、下記に示す監督項目につき監督員の検査、立会、承諾、指示、協議等を受けなければならない。

工 種	監 督 項 目			工 種	監 督 項 目			工 種	監 督 項 目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	区 分	事 項	処理		区 分	事 項	処理		区 分	事 項	処理																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
一般共通事項	現場 管理	○	疑義	協議	コンクリート工事	準備	○	打設計画	承諾	木工事	準備	○	加工図	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	軽微な変更	指示			○	コンクリート工場	承諾			○	木材	検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	別途工事	指示		材料	○	コンクリート配合計画書	承諾		材料	○	防腐・防蟻	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	発生材の処理	指示			○	鉄筋	承諾			○	防虫	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	災害及び公害の恐れのある場合の処理	協議			○	型枠（せき板）	承諾			施工	○	加工・組立	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○	実施工程表	承諾	○			混和材料	承諾	○				屋根葺材	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	工程 管理	○	施工計画書	承諾		施工	○	鉄筋組立	検査		施工	○	葺方	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	施工図・現寸図・見本	承諾			○	ガス圧接	検査			○	とい	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	色・柄	指示			○	型枠建込組立	検査		材料	○	各材料	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	記録等	指示			○	打込み	報告			施工	○	工法	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		○	管理	協議			○	型枠取外し	承諾		材料		○	各材料	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		○	試験所	承諾			○	試験（材齢28日強度試験は公的機関）	指示			○	工法	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	電気保安技術者	承諾			○	圧接技能資格者	承諾		施工	○	外壁タイル下地確認	報告																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	技能士	承諾			○	仕上り及びかぶり厚さの確認	報告			○	養生	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
仮設 工事		施工	○	縄張り	検査		鉄骨工事	準備	○	製作工場	承諾	建具工事	木製	材料	○	建具	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○		ベンチマーク	検査	○				施工管理技術者	承諾	施工				○	建具金物	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○		遣方	検査	○	溶接管理技術者			承諾	金属製				材料	○	建付調整	検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○		危険物貯蔵所	承諾	○	溶接技能資格者			承諾		○				サッシ	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
土工 事	施工	○	根切り底	検査	○	工作図			承諾	施工	○		建具金物	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	地中障害物	協議	○	超音波探傷試験機関			承諾		○		施工図	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	埋戻し・盛土	協議	○	鋼材等		承諾	○	建付調整	検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
地業 工事	準備	○	杭心（コラム心）	検査	工作	○		製作	承諾	塗装工事	硝子		施工	○	硝子	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		○	施工中の異状	協議				○	溶接（試験成績表）					承諾	○	塗料	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		○	工法	協議		施工		○	製品受入		検査		施工	○	工法	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	材料	○	溶接技術者等	承諾				○	建方完了		検査			材料	○	内装材	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		○	杭	検査				○	高力ボルト接合		検査		施工		○	工法	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		○	試験杭（試験掘削）	立会				○	溶接接合		検査			材料	○	性能	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		○	支持地盤	検査				○	スタッド溶接		検査		施工		○	各材料	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		○	建込み	立会			○	コンクリートブロック	承諾		○	取付		承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	完了	検査		○	ALCパネル	承諾	施工		○	養生	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	○	杭の精度	指示	○		押出成形セメント板	承諾	材料			○	性能	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	○	施工記録	報告	○		コンクリートブロック積み	承諾		施工		○	各材料	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	○	施工管理技術者	承諾	○		防水仕様	承諾	雑工事			○	製作家具	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	材料	○	コンクリート	承諾		施工	○		防水施工		検査	○	製作家具	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	鉄筋	承諾			○	保証書	承諾		○		黒板	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		○	試験掘削	立会	材料	○	石材	承諾	○	側溝縁石等	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		○	鉄筋加工組立	検査		施工	○	工法		承諾	○	舗装	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		○	コンクリート打設	立会	○		割り付	承諾	○	遊具施設	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		○	深さ・支持地盤	検査	○	陶磁器質タイル	承諾	○		内・外柵	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	施工	○	施工記録	報告	材料	○	割り付		承諾	○	植樹	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		○	溶出試験	指示		○	外観の確認	報告	○		敷地境界標	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
材料		○	固化材・添加量	承諾	施工	○	接着力試験	指示	○	排水	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		○	深さ・支持地盤	検査		○	排水	承諾																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
地盤改良	施工	○	施工記録	報告																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

注 1）○印をしたものは本工事に於ける監督項目を示す。
注 2）上表の○を付したものの以外でも監督員が必要と認めた場合は適宜監督業務を行う。

工事区分表

- 1）本工事施工中は、別途工事受注者と連絡を密にし、工事の進捗等に支障なきよう責任をもってあたること。
- 2）工事区分表は○印のついたものを適用する（特記ある場合は除く）

共 通 事 項						
工 事 項 目	建築	空調	衛生	電気	昇降機	水処理
鉄筋コンクリート造躯体貫通部（設備工事用）の補強防工事	○					
同上用スリーブ並びに箱入れの穴埋補修（仕上げは除く）		○	○	○		
床上機器用コンクリート基礎工事	○					
床上機器用コンクリート仕上	○					
設備配管吊りボルト用インサート類		○	○	○	○	○
吹出口、吸込口、並びに埋込照明器具、埋込スピーカー、天井埋込換気扇、取付の為にの枠組みと補強	○					
同上穴明工事		○	○	○		
防火区画貫通部のダクト、配管等の防火養生		○	○	○		
鉄骨造（SRC造も含む）鉄骨貫通部開口（設備工事用）と補強	○					
機器操作盤への一次側電源供給工事				○		
煙導製作取付、煙突接続（空燃耐火材詰め含む）（発電気用含む）		○	○	○		
A.L.C板穴名工事（設備工事用）	○					
A.L.C板貫通部の補修（設備工事用）	○					
鉄骨耐火被覆（ロックウール成形板等）の穴明（設備工事用）	○					
盤類器具類（衛生器具）取付の枠組と補強（木造、プレハブ、SRC等）	○					

建 築 工 事 関 係						
工 事 項 目	建築	空調	衛生	電気	昇降機	水処理
パイプシャフト、及び天井の点検口製作取付	○					
建物内の排水溝並びに配管配線用ピット及び、各水槽の蓋製作取付	○					
建物外壁に取付く、ガラリ（吸気・排気）の製作取付（防虫網取替可能型）（ダクト接続型）	○					
ドア並びに間仕切壁のガラリ、製作取付	○					
壁付換気扇の取付用穴明	○					
壁付換気扇の取付及びガラリ、フードの取付	○					
コンクリート造のチャンバ及びダクト（消音、保温共）	○					
ルーフトレーン及び縦樋（GLー200造）	○					
縦樋以降配管（継ぎを含む）			○			
建物廻り雨水側溝の接続（側溝と側溝）工事	○					
建物廻り側溝以降の雨水排水設備			○			
厨房内排水溝						
サービスタンク、油ポンプ廻り防油堤築造	○					
二重スラブ内連通管及び通気管（湧水槽等）	○					
煙突工事（内部ライニング含む、コンクリート躯体）	○					
煙突内部排水配管（目皿含む）			○			
汲取便槽	○					
同上煙突	○					
身障者用便所の手すり	○					
照明付化粧鏡への電源接続工事				○		
空調機の間接排水配管工事（トラップは機器工事）			○			
屋上集熱器設備工事			○			

電 気 工 事						
工 事 項 目	建築	空調	衛生	電気	昇降機	水処理
はり、床、壁の貫通スリーブ				○		
同上に伴う補強	○					
天井埋込器具取付箇所のボード切込				○		
同上に伴う下地補強	○					
壁埋込器具盤の板枠又はボード切込				○		
同上に伴う補強	○					
自立盤、トランス、発電気等のコンクリート基礎	○					
同上コンクリート基礎仕上	○					
発電気減圧水槽及び冷却水槽への給水管			○			
別途工事盤頭の取付	○	○	○		○	○
同上に伴う二次側配管、配線	○	○	○		○	○

工 事 項 目	建築	空調	衛生	電気	昇降機	水処理
別途工事機器への接続（直接接続に限る）回転方向等の確認				○		
照明器具、幹線等の吊りボルト用インサート				○		
身障者用便所使用灯、鍵連動装置取付				○		
同上に伴う二次側配管、配線				○		
テレビアンテナマスト、避雷針等のコンクリート基礎	○					
同上 コンクリート基礎仕上	○					
配管類の防火区画貫通部の補修				○		
防火扉用レリーズの取付				○		
防火シャッター、防火垂壁用レリーズの取付	○					
防火ダンパー用レリーズの取付		○				
上記3項目に伴う配管、配線				○		
防火シャッター警報プザー用リミットスイッチ取付	○					
ファンコイルユニット用操作スイッチ取付及び配管、配線				○		
配線ピット	○					
同上用蓋	○					
電動暗幕装置	○					
同上電源接続及び操作スイッチ取付				○		

衛 生 工 事 関 係						
工 事 項 目	建築	空調	衛生	電気	昇降機	水処理
大便器用箱入れ	○					
同上用補強工事	○					
大便器用箱入れ位置（墨出し）			○			
消火栓ボックス用箱入れ（補修は除く）			○			
同上用補強工事	○					
高架水槽用架台			○			
高架水槽用基礎（仕上共）	○					
ステンレス製流し台 （V・P管接続用トラップ含む）	○					
同上流し排水管接続			○			
造り付け各種流し台 （人研・コンクリート等）	○					
同上流し排水トラップ取付			○			
洗濯機用パン（排水トラップ共）			○			
グリーストラップ（既製品）			○			
浴槽並びに風呂釜	○					
ハロン消化設備 （ガス圧ダンパー制御配管含む）			○			
同上制御盤迄の1次側配線、配管（電源供給）				○		
ハロン消火設備連動のファン等の停止回路				○		
化粧棚及び化粧鏡			○			
消火ポンプ起動回路及び表示灯回路				○		
消火栓ボックスの起動押ボタン及び表示灯						
取付並びに配線、配管				○		
消火栓ボックスの取付			○			
非水洗及び簡易水洗の便器	○					
同上用紙巻器（取付具）			○			
簡易水洗便器の止水栓（器具接続迄）			○			

設計概要

工事名称

工事場所

用途地域

防火地域

高度制限

その他

主要用途

棟別用途

主要構造

敷地面積

建築面積

延床面積

建蔽率

容積率

最高高さ

最高天井高

最高軒高

基礎方式

筑前岩屋駅舎改修工事

福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山6425番地（住居表示）
福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山6425番地（地名地番）

地域指定なし（都市計画区域外）

地域指定なし

地域指定なし

—

(用途区分項目)08990　その他（駅舎）

(用途区分項目)08560　展示場

RC造(鉄筋コンクリート造)　平屋建

766.53㎡

188.73㎡

147.12㎡

24.62%(<60%)

19.19%(<200%)

7.764m

6.10m

7.320m

直接基礎

広域図　S=1：5000

付近見取図　S=1：3000

敷地求積図　S=1：200

A	28.650 × 10.560	302.5440
B	28.650 × 16.400	469.8600
C	25.600 × 12.310	315.1360
D	25.600 × 5.630	144.1280
E	21.300 × 7.640	162.7320
F	21.300 × 6.510	138.6630
計		1533.0630
1/2		766.5315
		766.53㎡

工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	建築概要・付近見取図・敷地求積図	訂正	
		縮尺	A3=1:200, 1:3000
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	
		承認	
		図番	A-08
株 式 会 社　環 ・ 設 計 工 房			

建築求積図 S=150

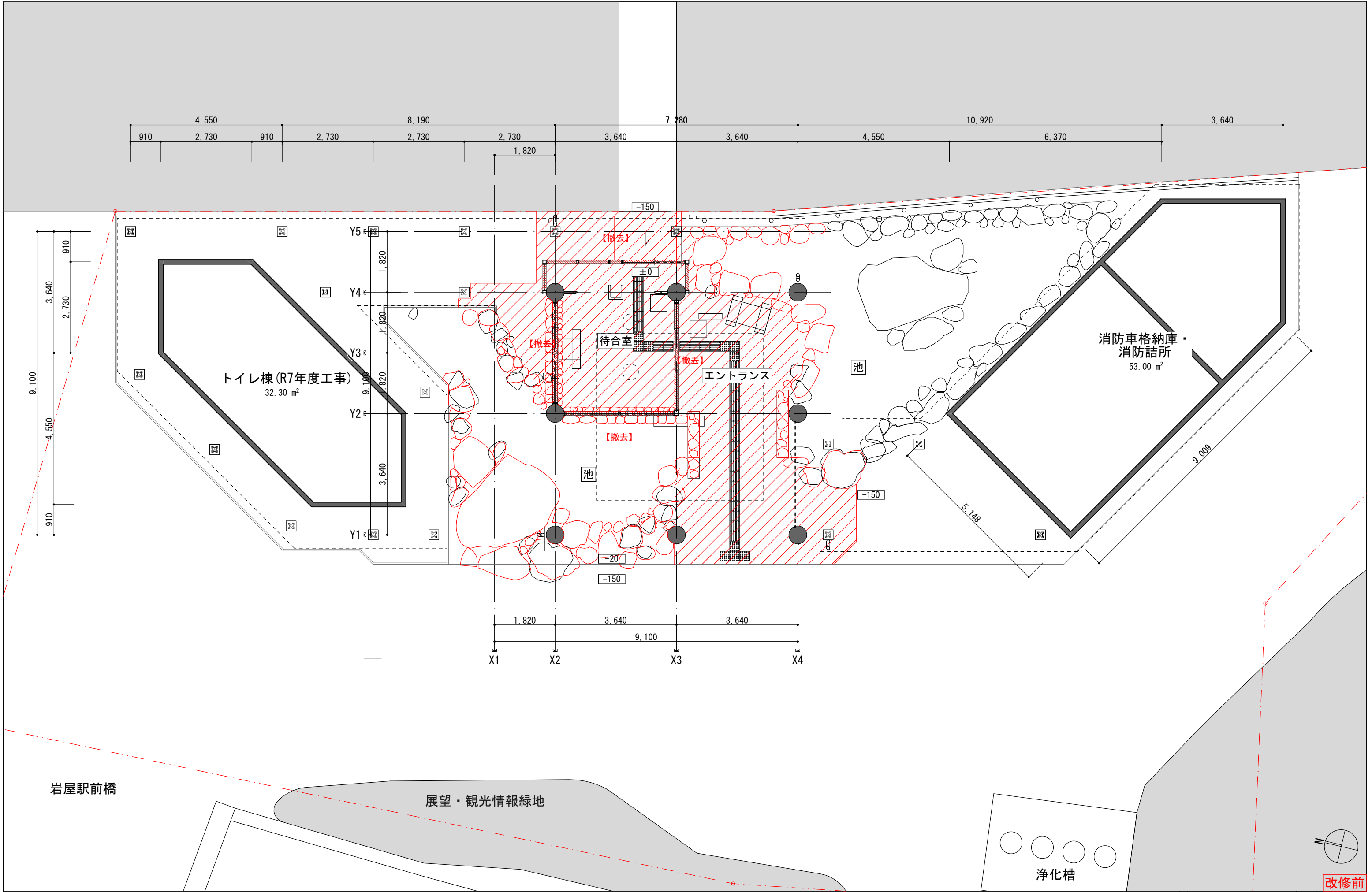
建物求積図・法チェック

番号	X	×	Y	×	Y	=	小計
待合室、ラボ							
①	3.640	×	3.640			=	13.249600
②	5.460	×	7.280			=	39.748800
							52.998400
トイレ棟							
③	2.730	×	2.730	/	2	=	3.726450
④	3.860	×	6.434			=	24.835240
⑤	2.730	×	2.730	/	2	=	3.726450
							32.288140
消防格納庫・詰所							
⑥	3.640	×	3.640	/	2	=	6.624800
⑦	5.148	×	9.009			=	46.378332
							53.003132
外側から1~2m							
待合室、ラボ							
a	1.000	×	1.220			=	1.220000
b	5.650	×	1.000			=	5.650000
c	1.650	×	1.220			=	2.013000
d	2.107	×	0.351	/	2	=	0.369779
e	0.166	×	1.000	/	2	=	0.083000
f	2.587	×	1.000			=	2.587000
g	0.714	×	1.000	/	2	=	0.357000
h	0.714	×	1.000	/	2	=	0.357000
i	2.587	×	1.000			=	2.587000
j	0.166	×	1.000	/	2	=	0.083000
k	0.351	×	2.107	/	2	=	0.369779
							15.676557
トイレ棟、通路							
l	6.97	×	0.620			=	4.321400
m	3.35	×	0.31			=	1.038500
n	0.310	×	0.310	/	2	=	0.048050
o	0.310	×	0.310	/	2	=	0.048050
p	5.686	×	0.310			=	1.762660
q	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
r	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
s	0.310	×	2.730			=	0.846300
t	3.040	×	0.310			=	0.942400
u	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
v	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
w	6.434	×	0.310			=	1.994540
x	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
y	0.128	×	0.310	/	2	=	0.019840
z	0.310	×	2.730			=	0.846300
A	0.331	×	1.990	/	2	=	0.329345
B	3.947	×	1.990			=	7.854530
C	1.592	×	1.990			=	3.168080
D	1.126	×	1.126	/	2	=	0.633938
E	1.990	×	1.990	/	2	=	1.980050
合計							25.933183
外側から2m以上							
あ	5.650	×	0.220			=	1.243000
い	2.977	×	2.552	/	2	=	3.798652
う	2.977	×	2.552	/	2	=	3.798652
合計							8.840304

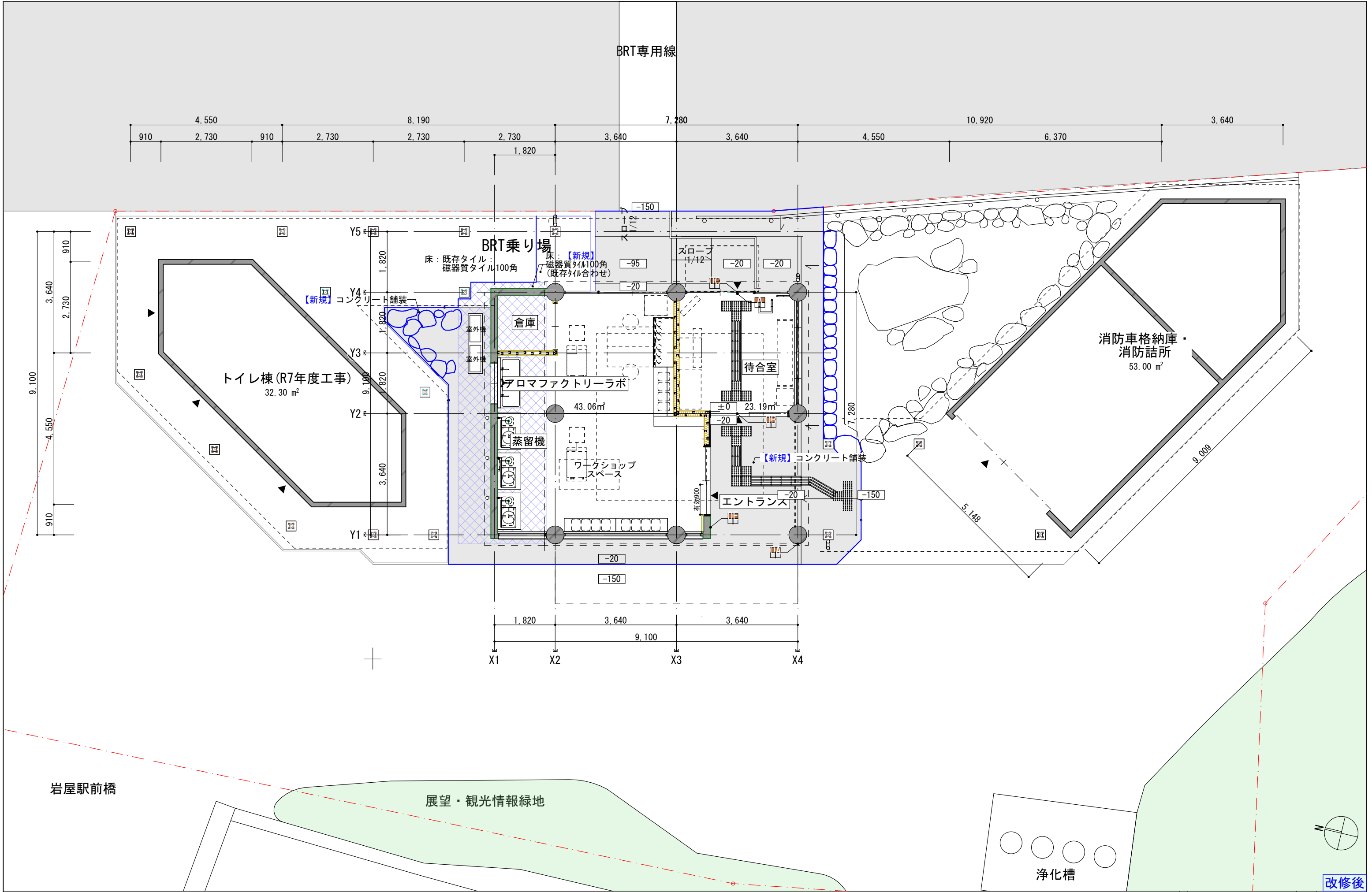
敷地面積		合計
敷地面積		766.53㎡
建築面積	(①~⑦)+(a~z)+(A~E)+(あ~う)	188.73㎡
【延床面積】		
待合室・ラボ	①+②+(あ~う)	61.83㎡
トイレ棟	③~⑤	32.28㎡
消防格納庫・詰所	⑥+⑦	53.00㎡
合計		147.12㎡
建蔽率		24.62%
容積率		19.19%

[illegible]

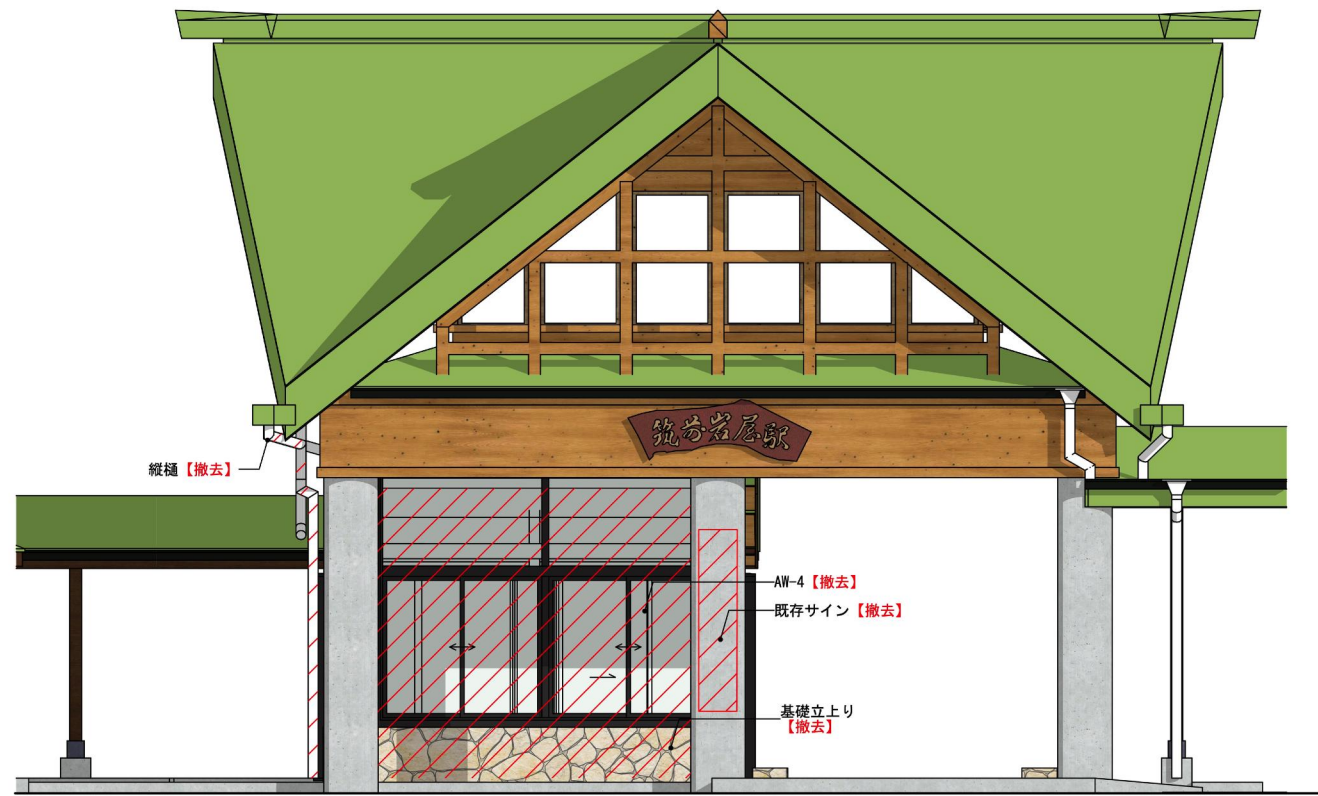
	主 名	筑前岩屋駅舎改修工事	設 計	
	訂 正			
	図 名	建物求積図・法チェック	縮 尺	A3=1:150, 1:1, 1
	一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男	製 図	承認	A-09
	株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			



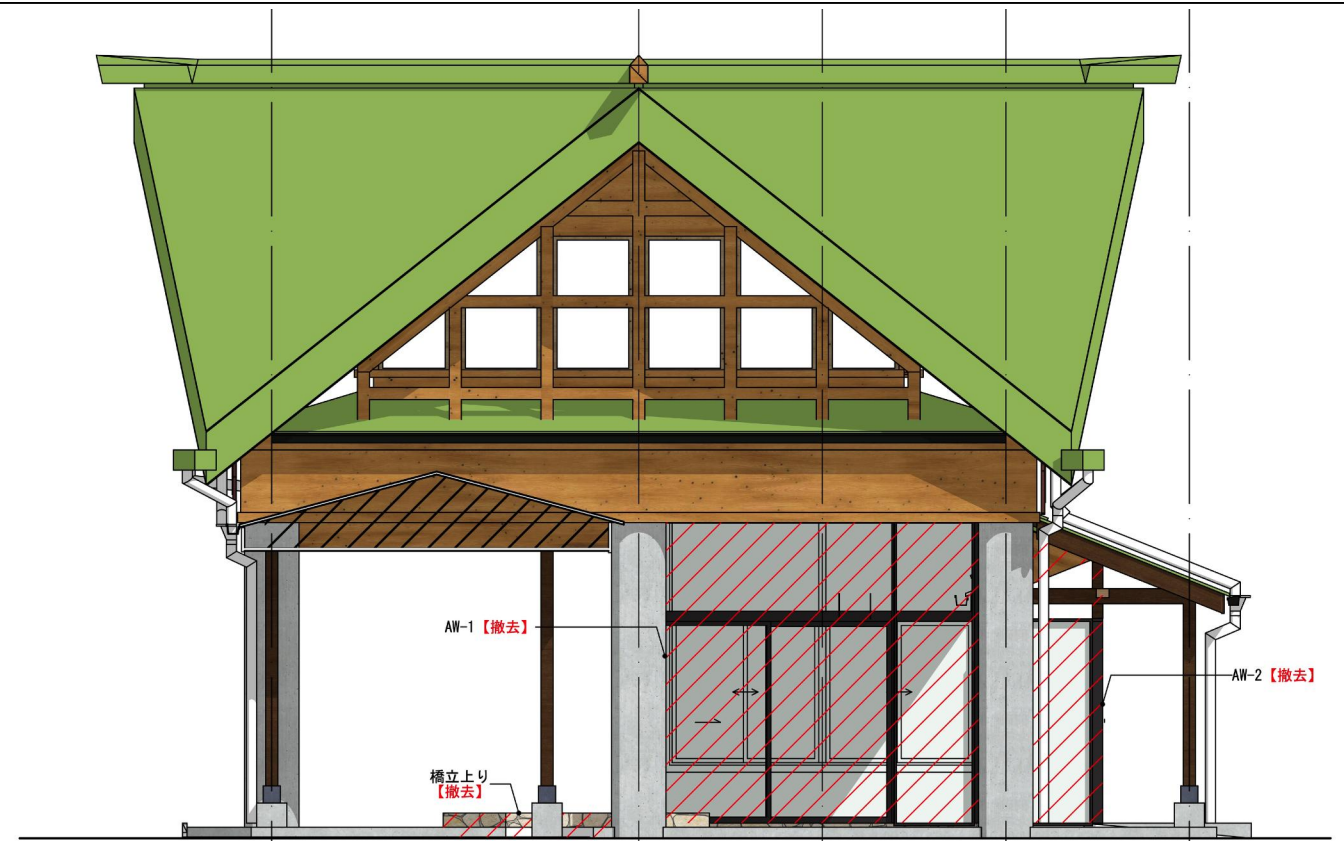
工事名		設計		
筑前岩屋駅舎改修工事		訂正		
図名		縮尺		A3=1:100
【改修前】配置図兼平面図				
一級建築士登録番号313540号 石橋 光男		製図	承認	図番 A-11
株式会社 環・設計工房				



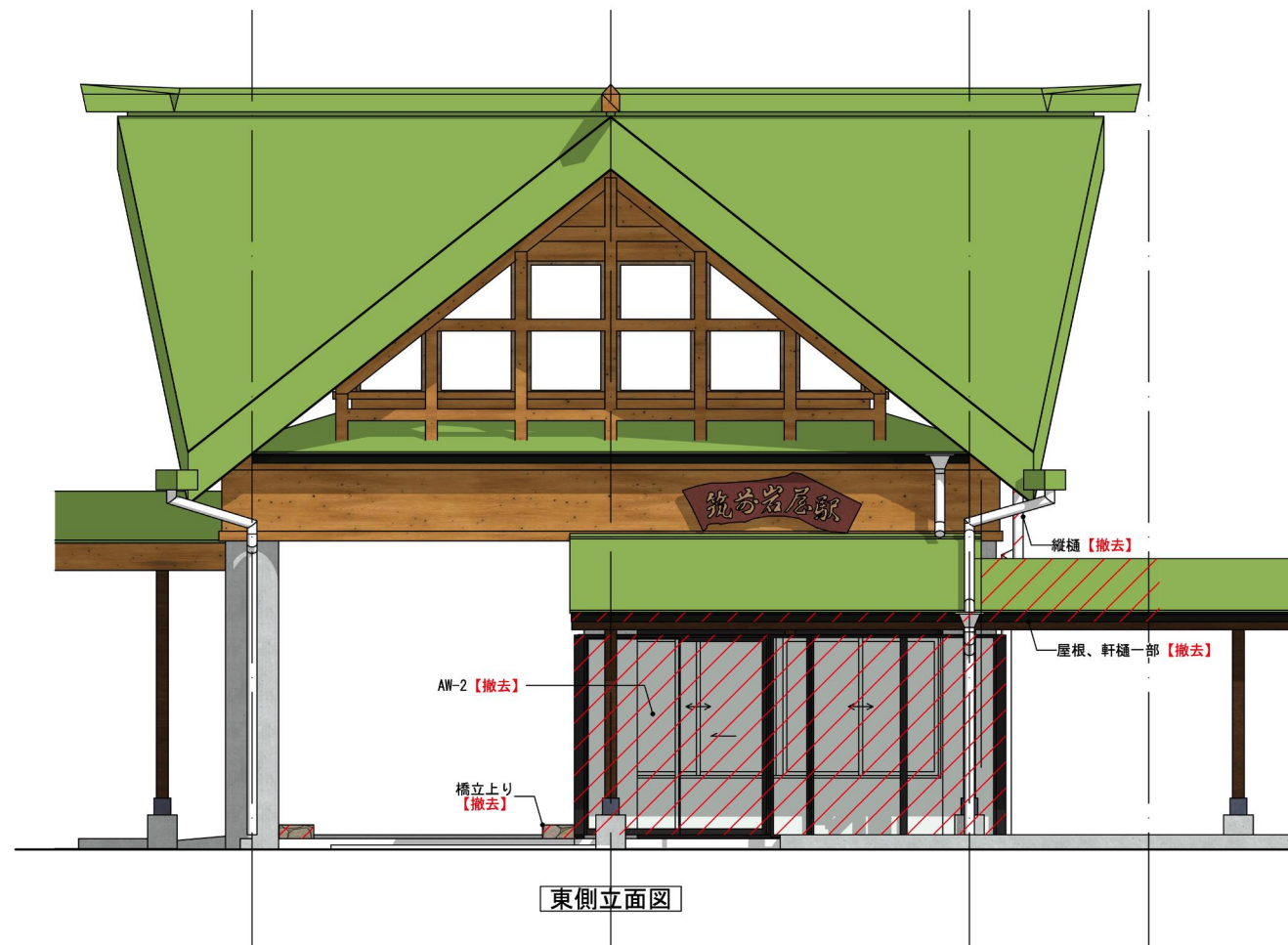
改修後			
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】配置図兼平面図	訂正	
一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男		縮尺	A3=1:100
株式会社 環・設計工房		製図	
		承認	
		図番	A-12



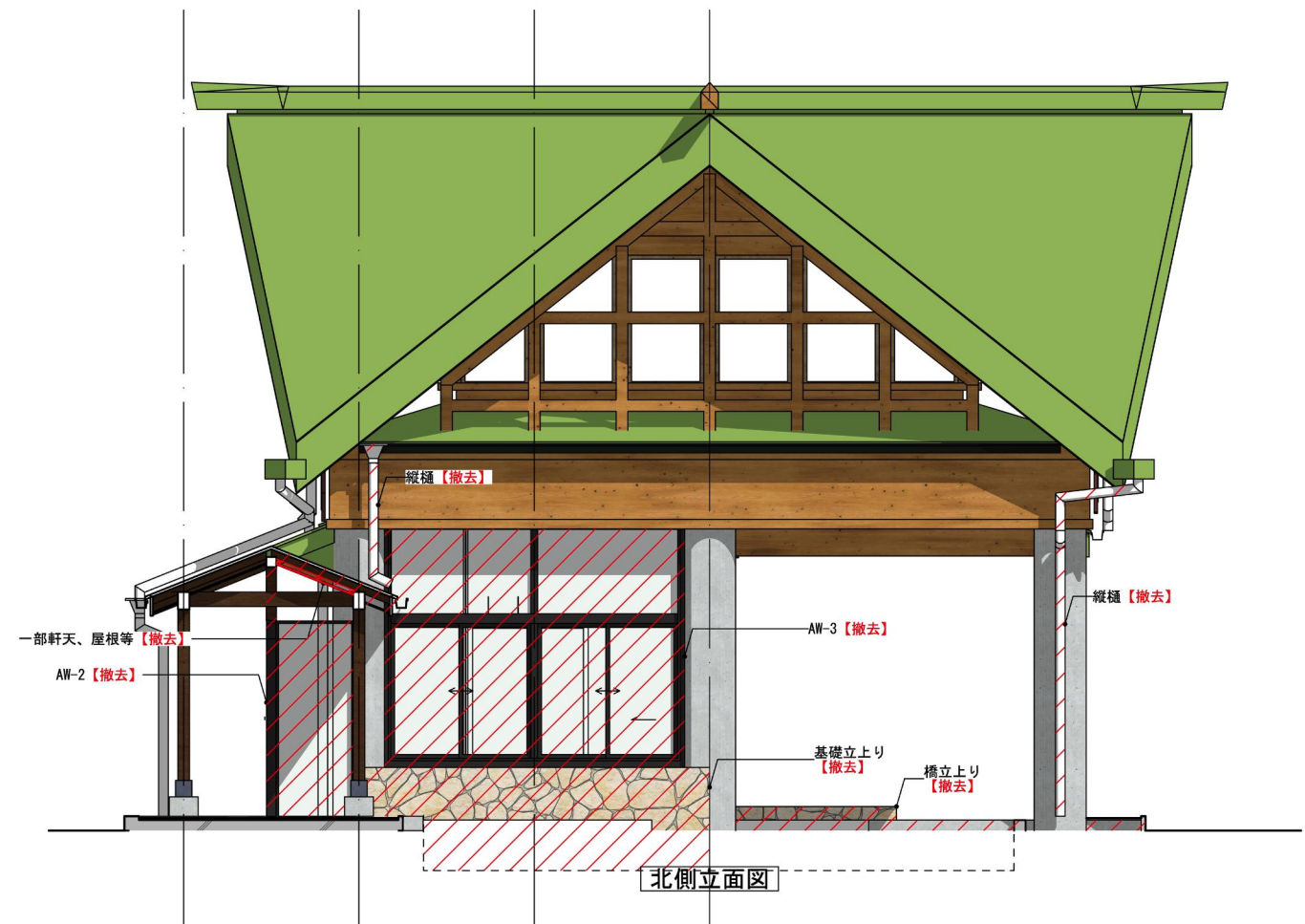
西側立面図



南側立面図



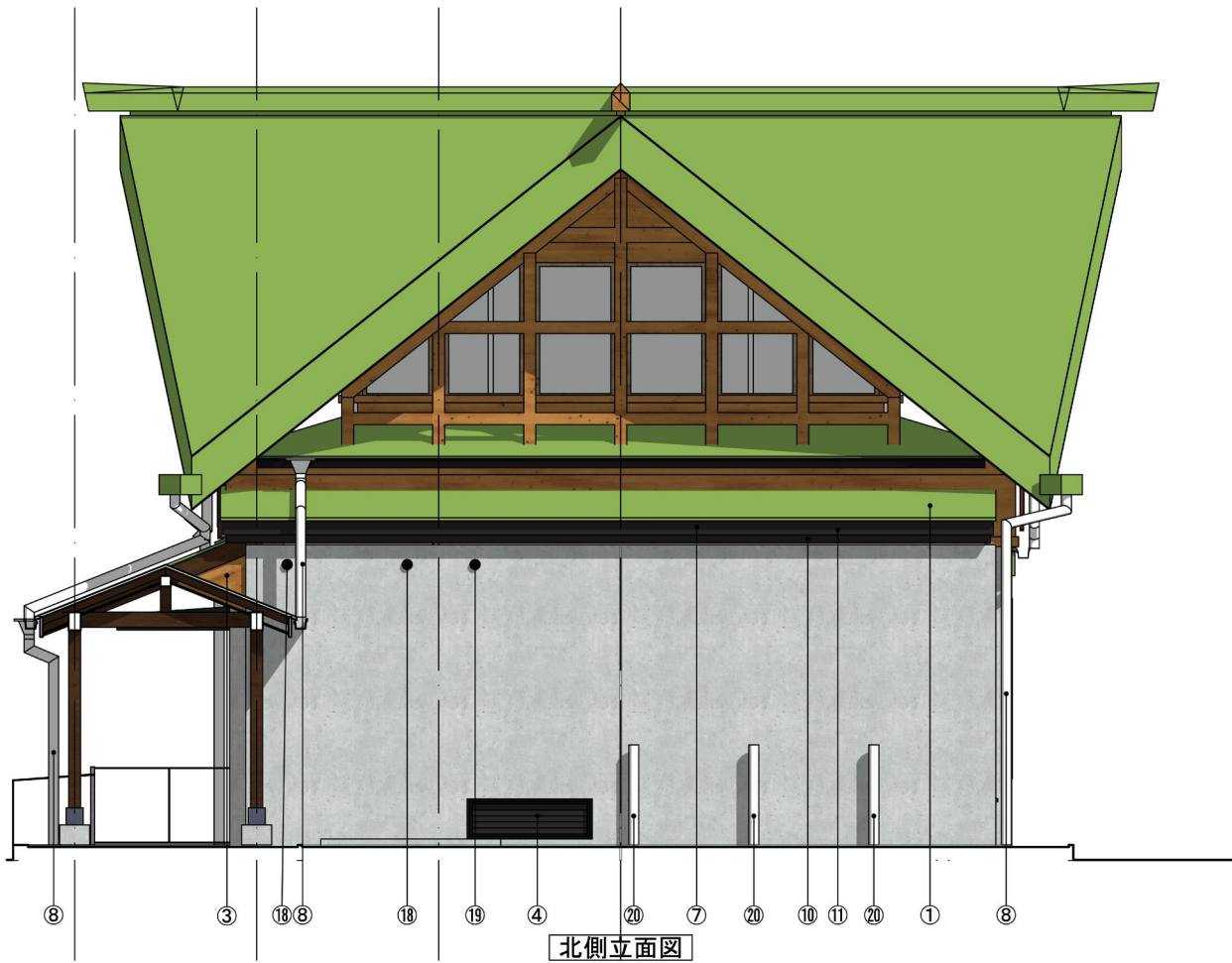
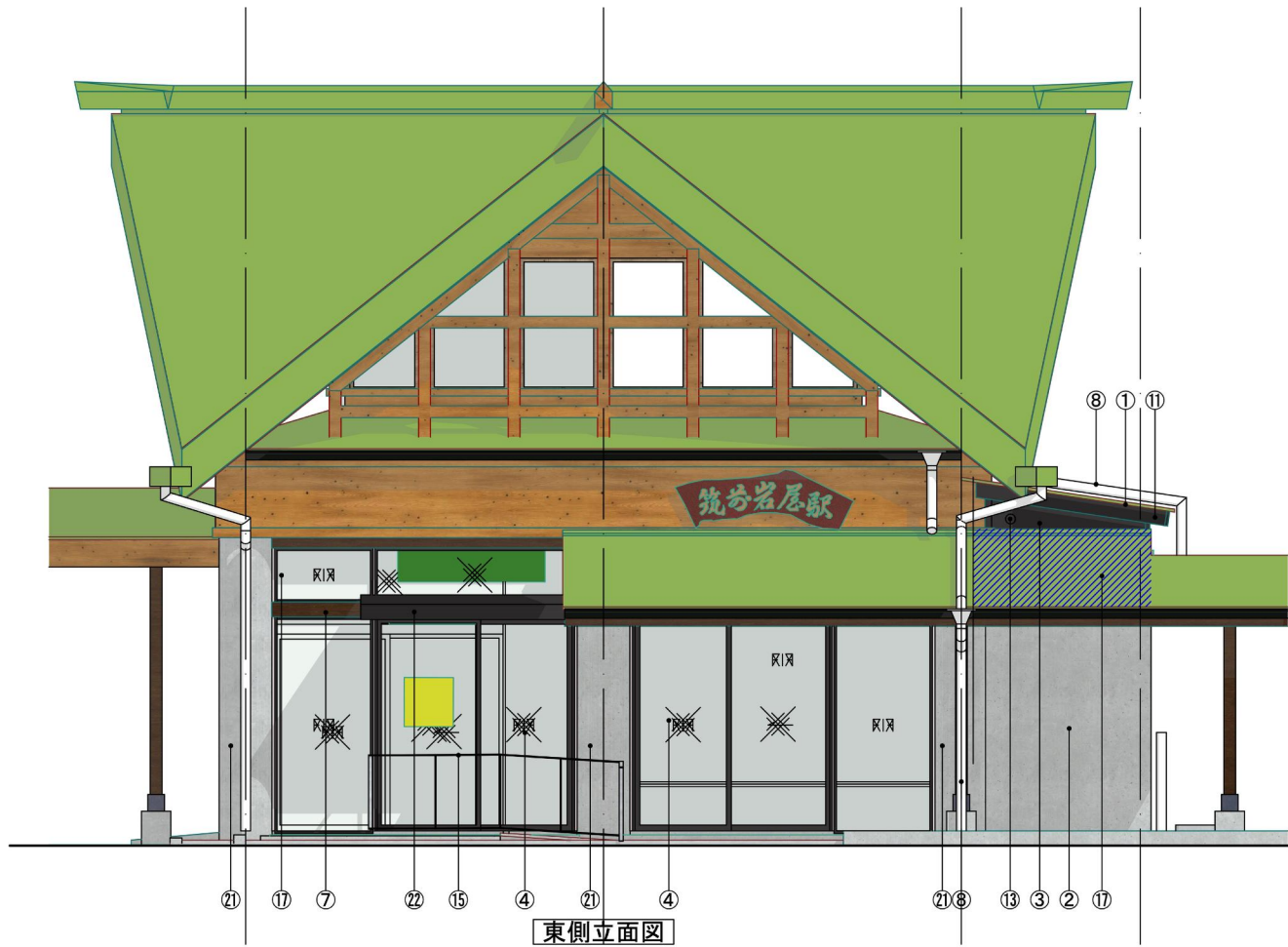
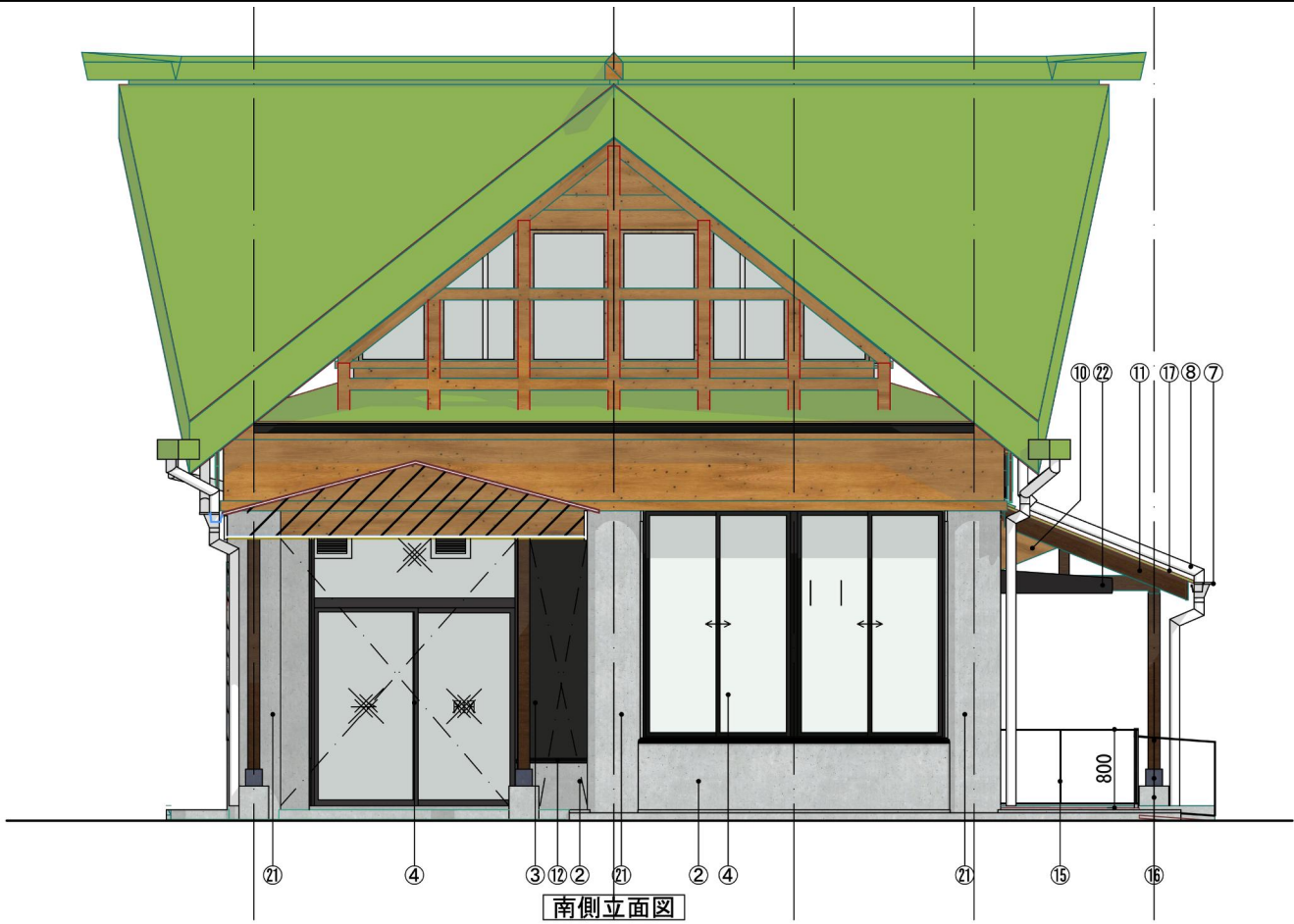
東側立面図



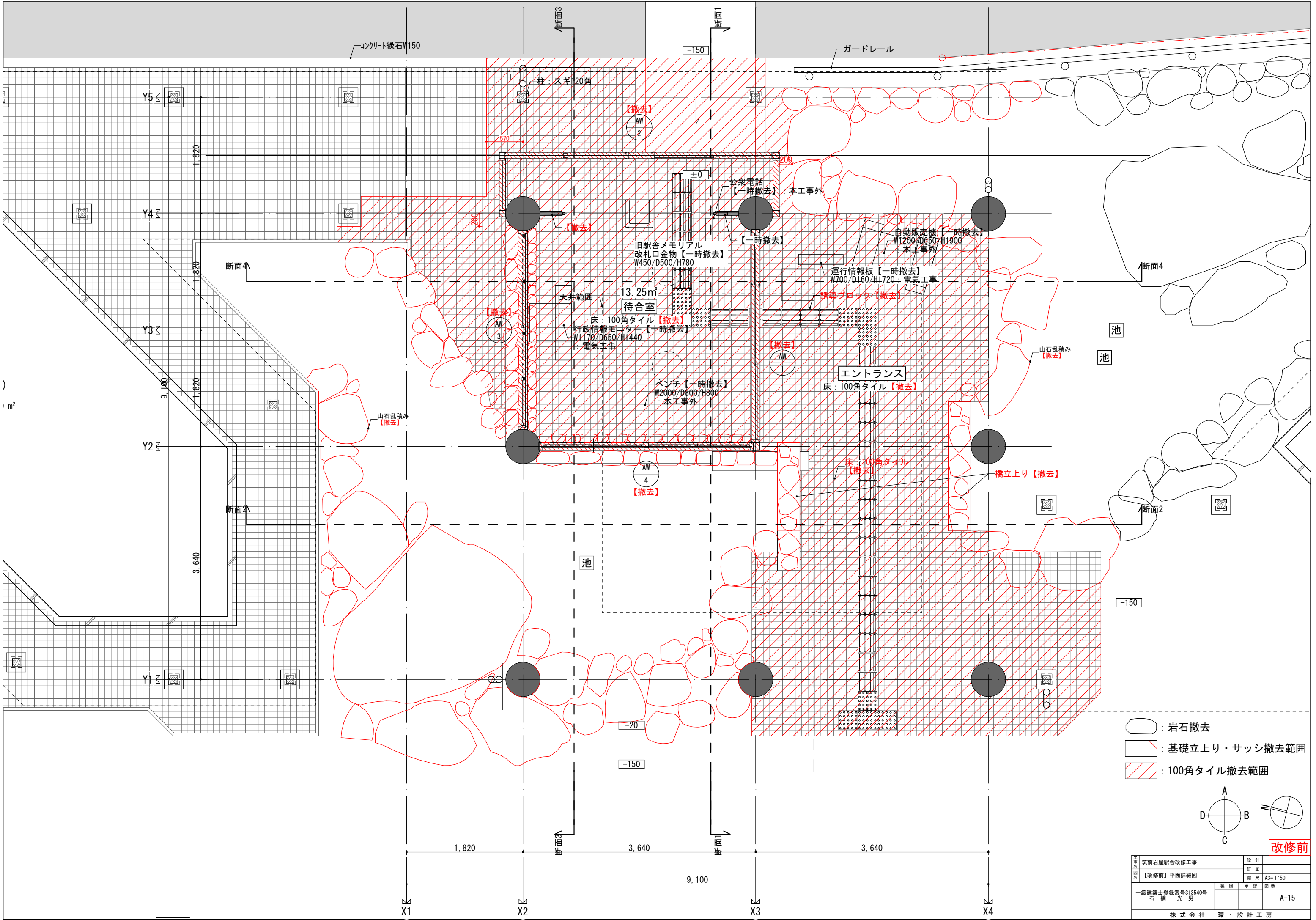
北側立面図

改修前

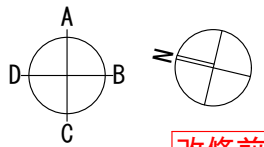
工事名	筑前岩屋駅改修工事	設計	
図名	【改修前】立面図	訂正	
		縮尺	A3=1:13.88
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	製図	承認
			A-13
株式会社 環・設計工房			



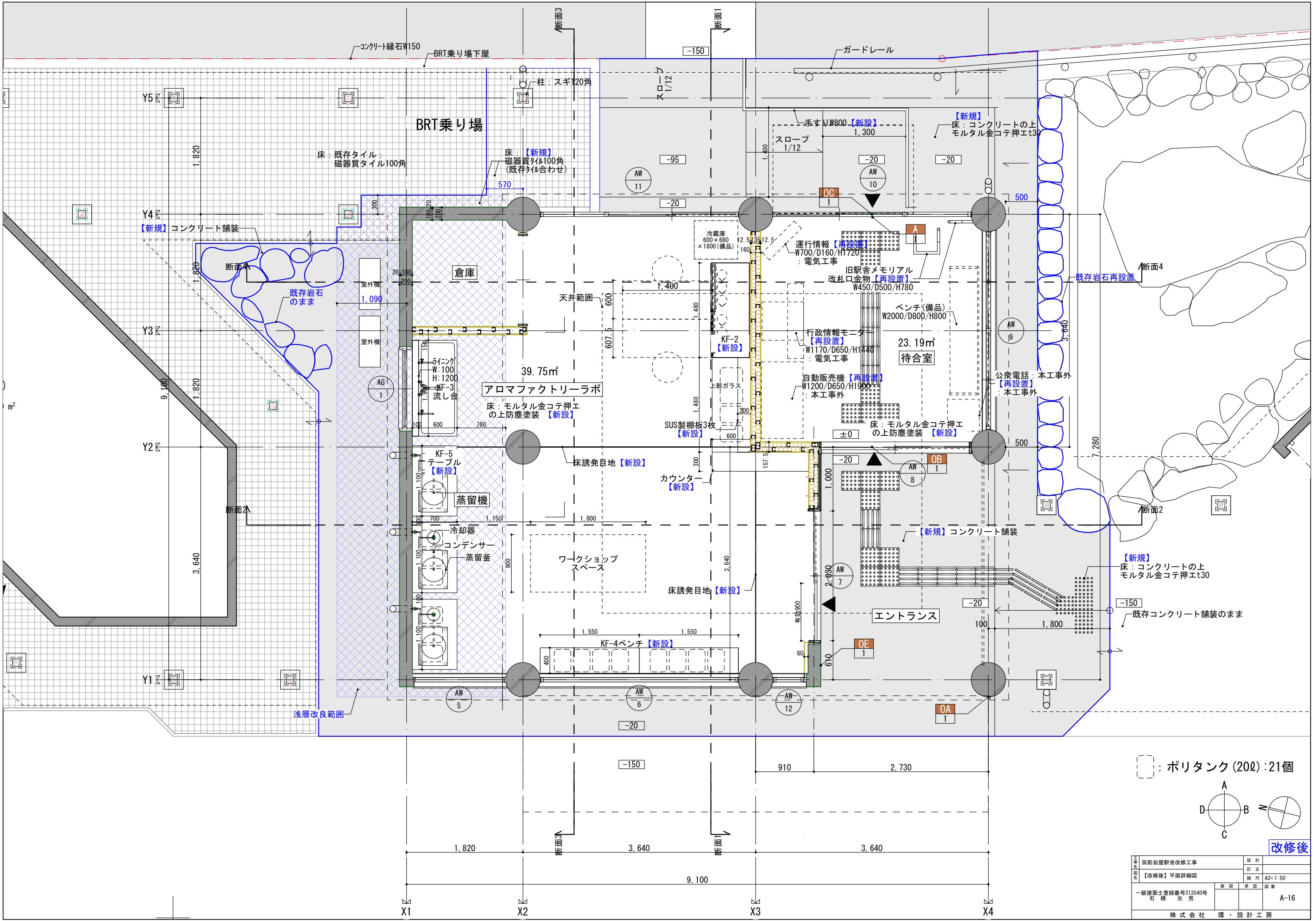
〈凡例〉【新設】										改修後		
1	屋根、庇：構造用合板t12の上ゴム7ｽﾌﾟﾙｰﾌﾞｲﾝｸﾞの上 カラーガルバリウム鋼板t0.4縦ハゼ葺 認定番号 (NM-8697)	5	外部巾木：小幅板型枠コンクリート打放しの上撥水材塗布	10	杉特一等材：WP塗	15	手すり：H=800 St Fbt9溶融亜鉛メッキリン酸処理N4	19	換気用バンドキャップφ200 指定色塗装	工事名 筑前岩屋駅改修工事	設計 訂正	縮尺 A3=1:13.88
2	外壁-1：化粧型枠コンクリート打放しの上撥水材塗布	6	軒天：スギ小幅板t12の上WP塗	11	破風板、鼻隠し：WP塗の上カラーガルバリウム鋼板t0.4貼	16	柱セット（120×120木製柱、束石、基礎）既存同等	20	給水用配管	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図 承認	図章 A-14
3	外壁-2：透湿防水シートt0.15の上縦胴縁t20通気工法の上窯業系サイディングt16	7	軒樋：樹脂製軒樋 W110×H80	12	水切り金物：カラーガルバリウム鋼板t0.4貼	17	屋根、庇：構造用合板t12の上ゴム7ｽﾌﾟﾙｰﾌﾞｲﾝｸﾞの上 カラーガルバリウム鋼板t0.4横葺 認定番号 (NM-8697)	21	既存コンクリート打放しのまま	図名 【改修後】立面図	製図 承認	図章 A-14
4	開口部：アルミサッシ	8	縦樋：カラーVP管縦樋φ65	13	小屋裏換気用φ100バンドキャップ 指定色塗装×2	18	換気用バンドキャップφ100 指定色塗装	22	待合室外部庇：アルミ既製庇(アルフィンAD-1同等)W2200×D1400	図名 【改修後】立面図	製図 承認	図章 A-14
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房												



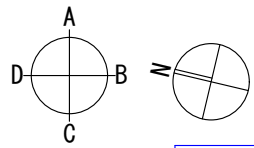
- : 岩石撤去
- : 基礎立上り・サッシ撤去範囲
- ▨ : 100角タイル撤去範囲



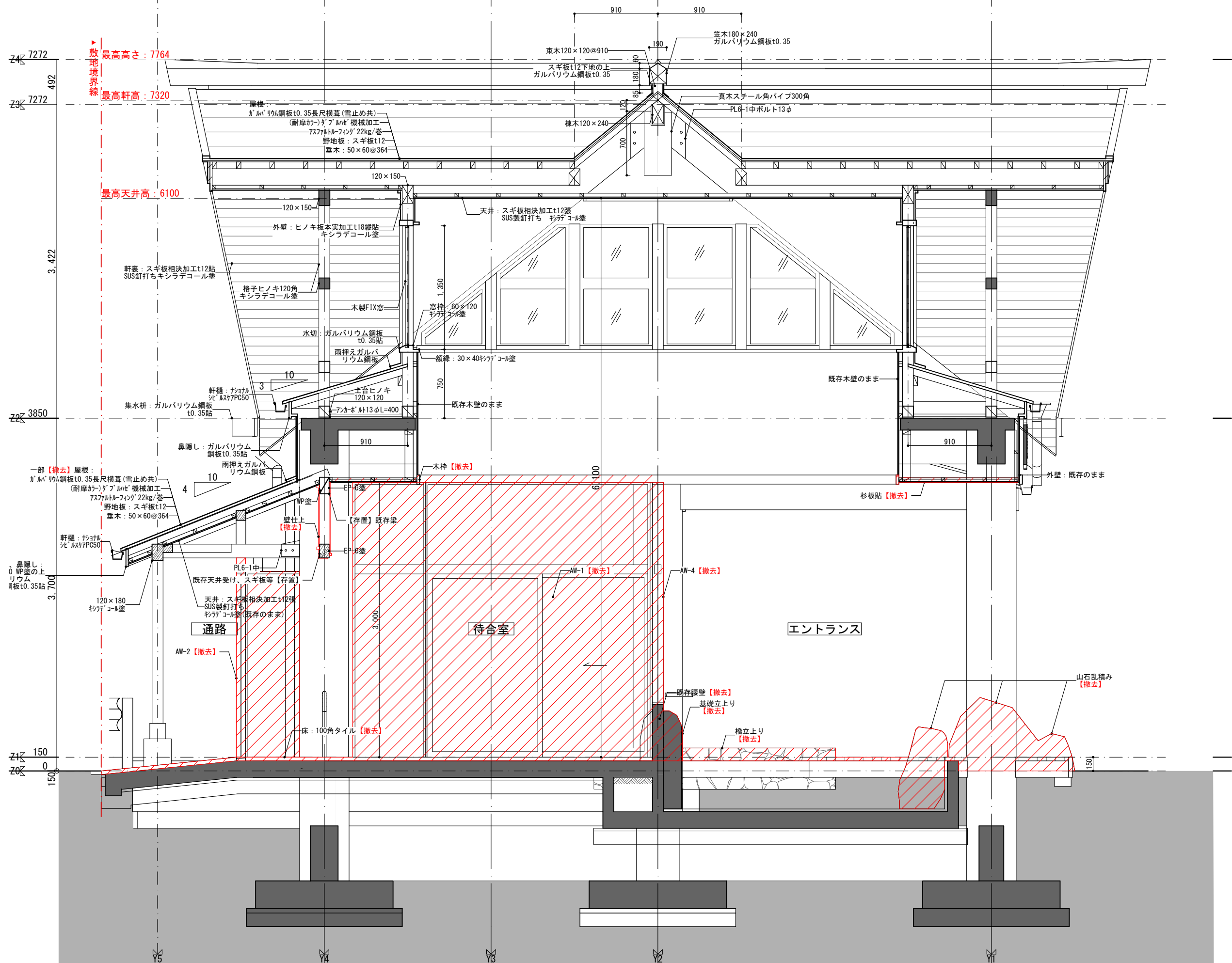
改修前	
設計	訂正
縮尺	A3=1:50
製図	承認
図番	A-15
株式会社 環・設計工房	



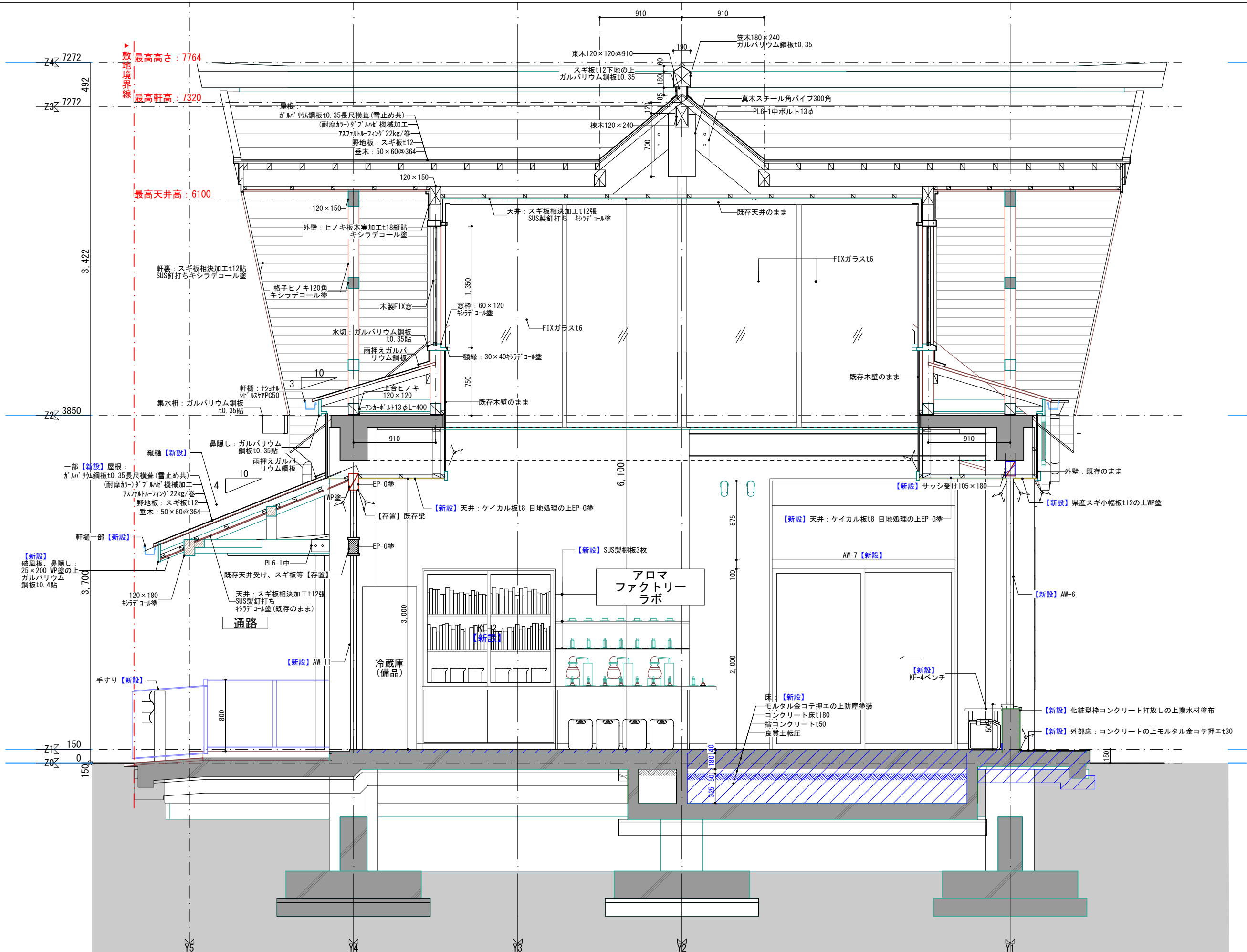
□ : ポリタンク (200) : 21個



工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】平面詳細図	訂正	
図番	一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	縮尺	A3=1:50
製図		承認	
図番			A-16
株式会社 環・設計工房			

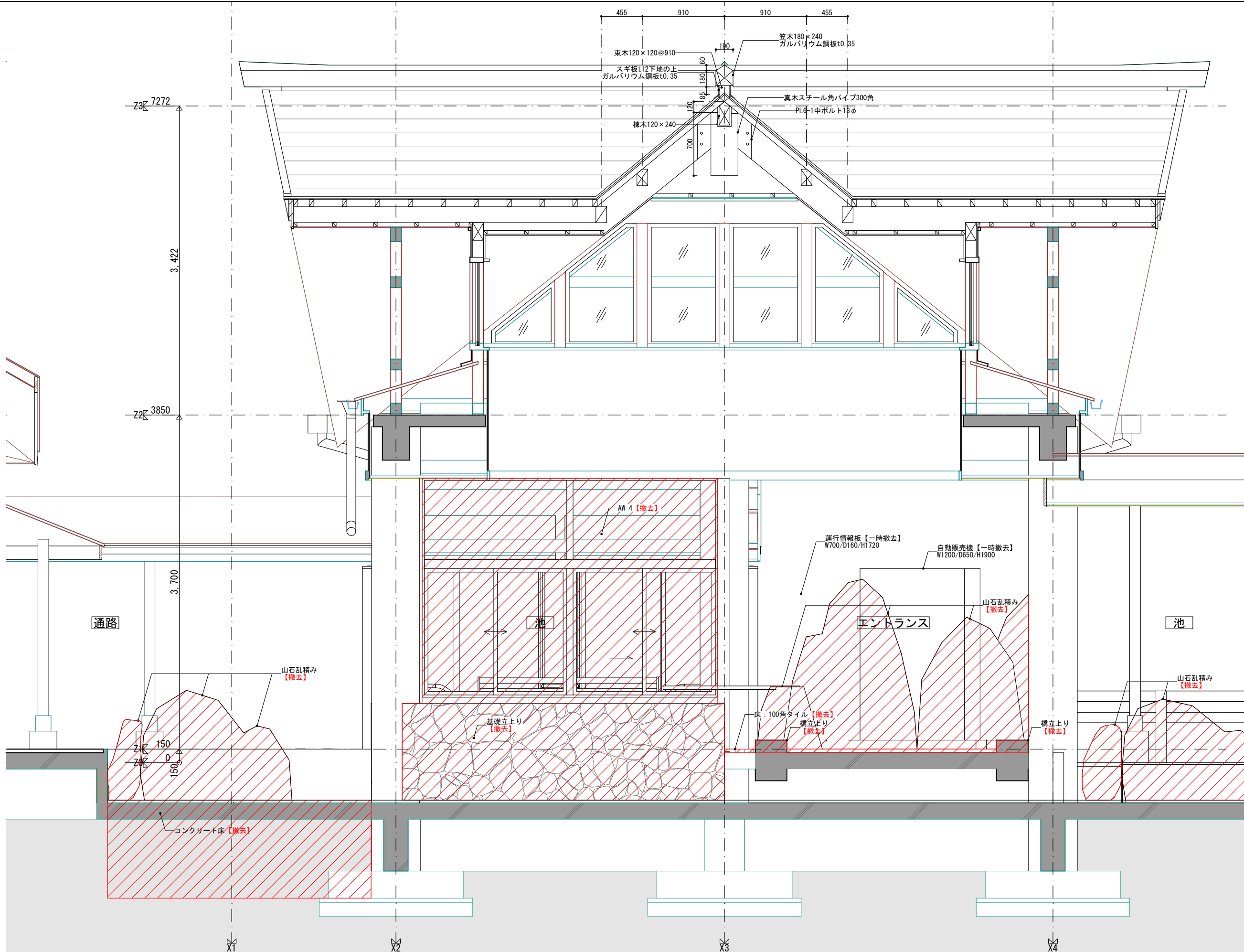


改修前			
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修前】断面図-1	訂正	
一級建築士登録番号	石橋 光男 313540号	縮尺	A3=1:40
株式会社 環・設計工房		製図	承認
		図番	A-17



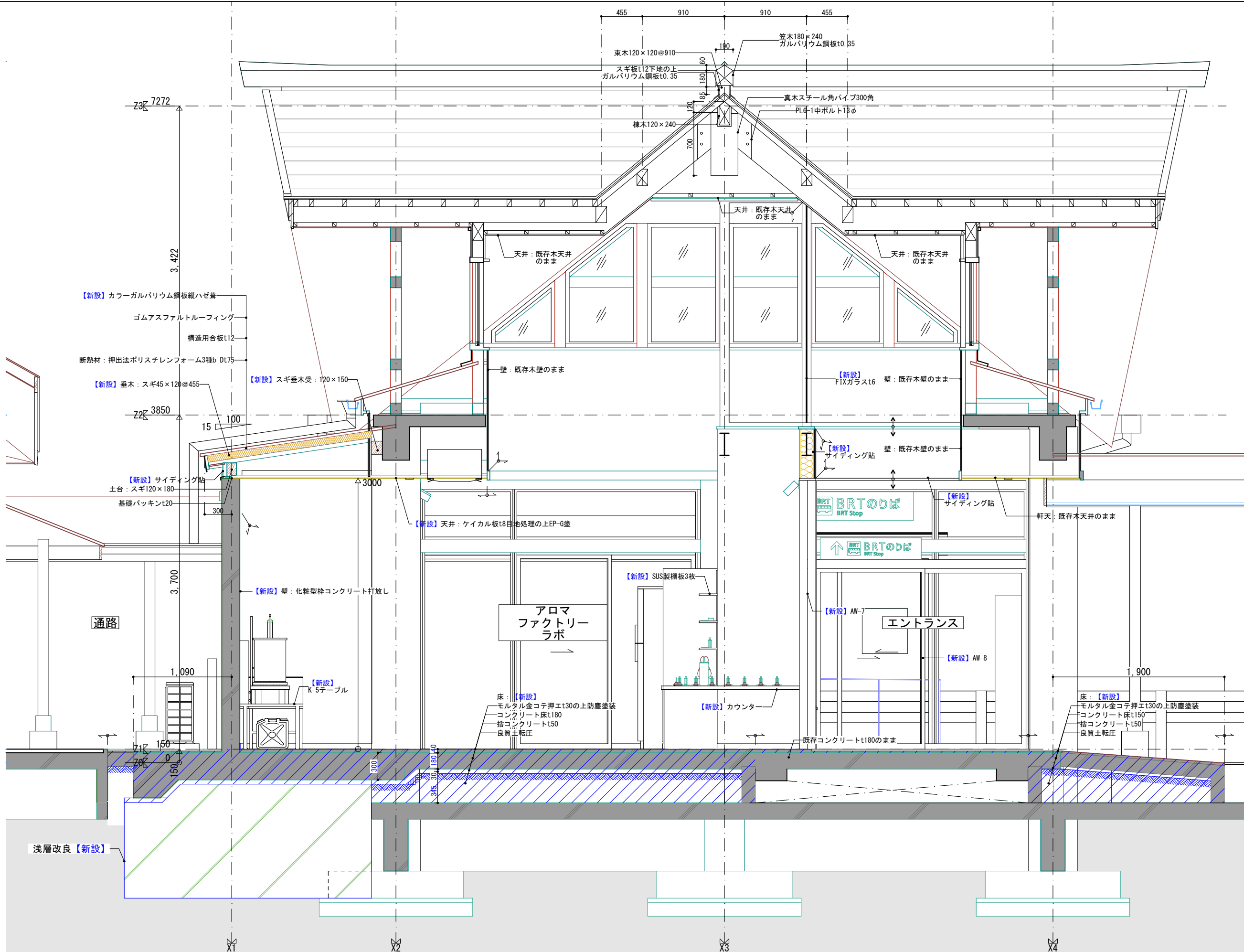
改修後

工事名		設計	
建物名		訂正	
【改修後】断面図-1		縮尺	A3=1:40
一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	承認	図章
			A-18
株式会社 環・設計工房			



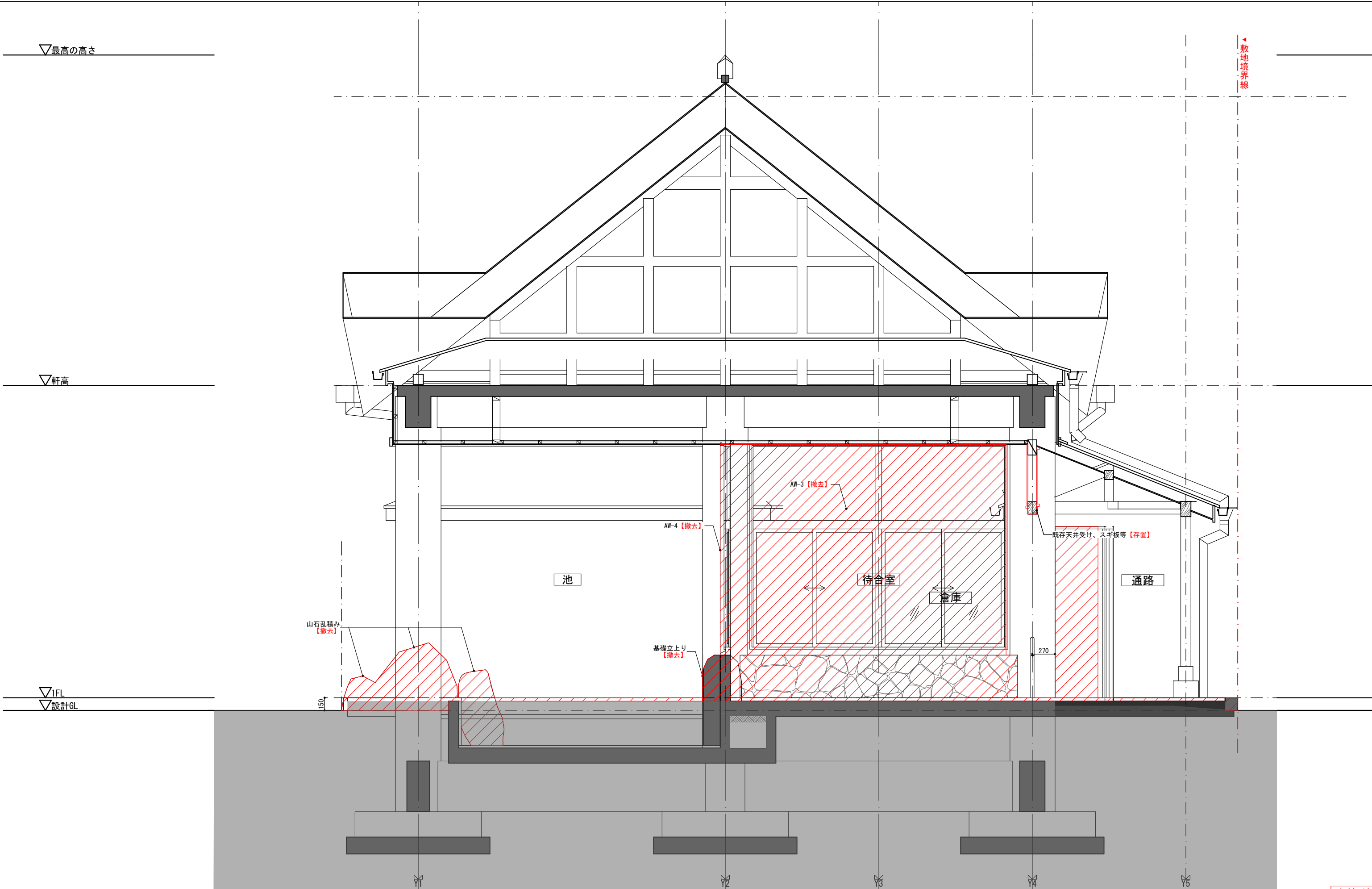
改修前

工事 名 【改修前】断面図-2	設計		
	訂正		
一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	製図	承認	図番
			A3=1:40 A-19
株式会社 環・設計工房			



改修後

工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】断面図-2	訂正	
図番	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	縮尺	A3=1:40
製図		承認	
図番			A-20
株式会社 環・設計工房			



改修前		設計		訂正	
【改修前】断面図-3		縮尺		A3=1:40	
一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男		製図	承認	図番	
株式会社 環・設計工房				A-21	

▽ 最高の高さ

▽ 軒高

▽ 1FL
▽ 設計GL

敷地境界線

外壁：既存木板張のまま

【新設】サッシ受け105×180

【新設】県産スギ小幅板t12の上WP塗

【新設】天井：ケイカル板t8目地処理の上EP-G塗

既存木天井のまま

既存梁EP-G塗

【新設】AW-6

【新設】KF-05 テーブル×3

アロマ
ファクトリー
ラボ

コンデンサー

冷却器

蒸留釜

集台

【新設】ライニング W100×H1200

【新設】モルタル金コテ押エt30の上防塵塗装

床：既存床スラブ

【新設】化粧型枠コンクリート打放しの上撥水剤塗布

【新設】外部床：コンクリートの上モルタル金コテ押エt30

床：【新設】
モルタル金コテ押エt30の上防塵塗装
コンクリート床t180
捨コンクリートt50
良質土転圧

三方枠【新設】

1,380

2,150

倉庫

【新設】AW-11

通路

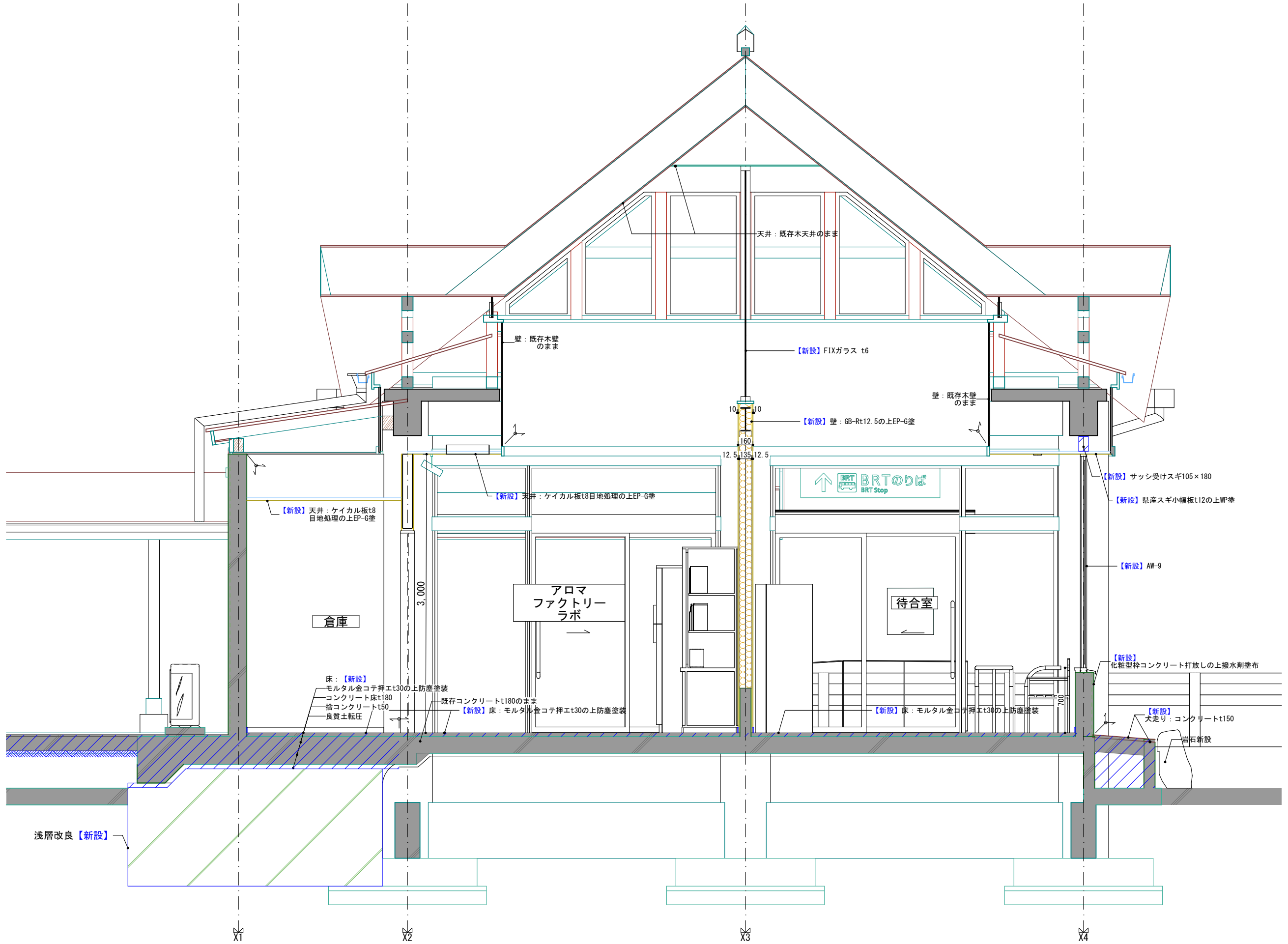
270

床：【新設】磁器質タイル100角
既存タイル合わせ

床：既存タイル：磁器質タイル100角

改修後

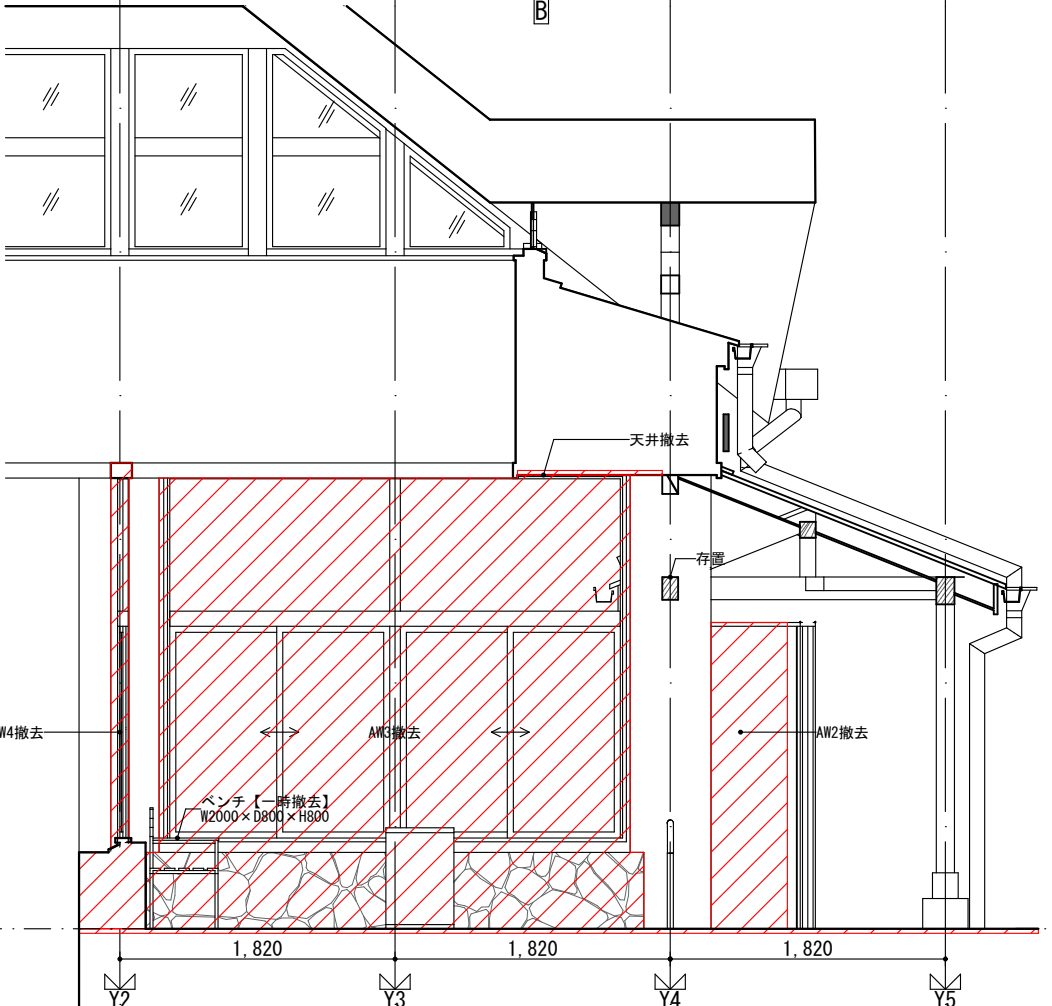
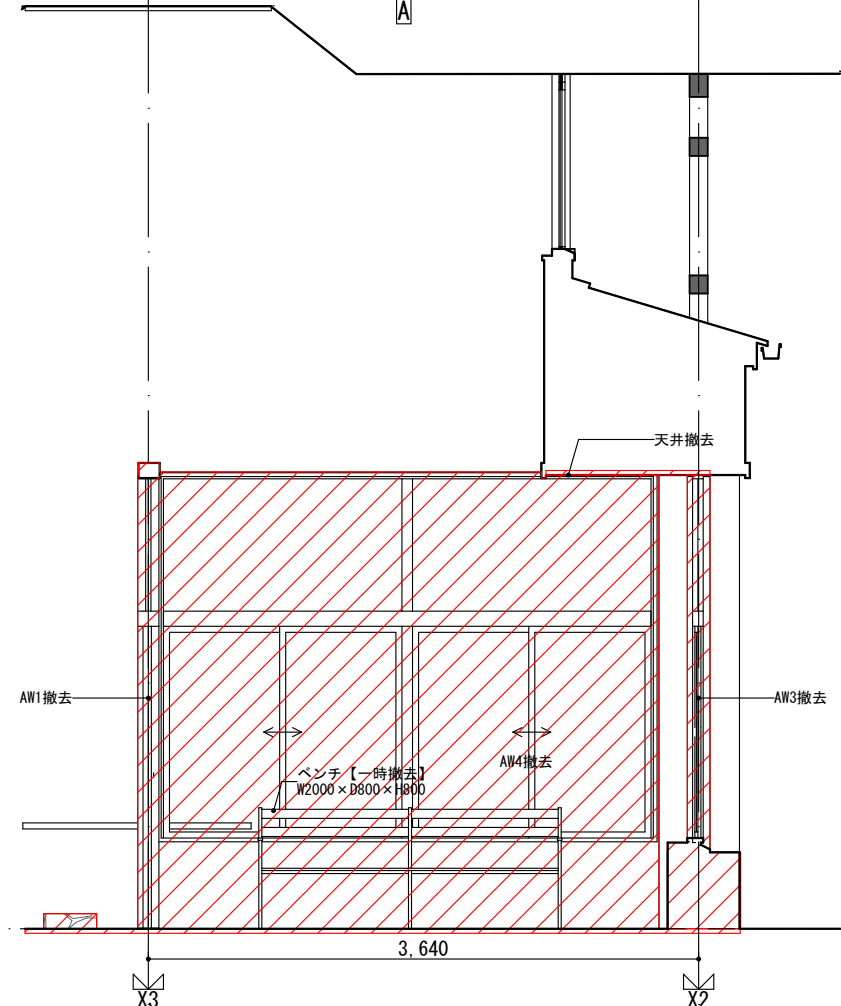
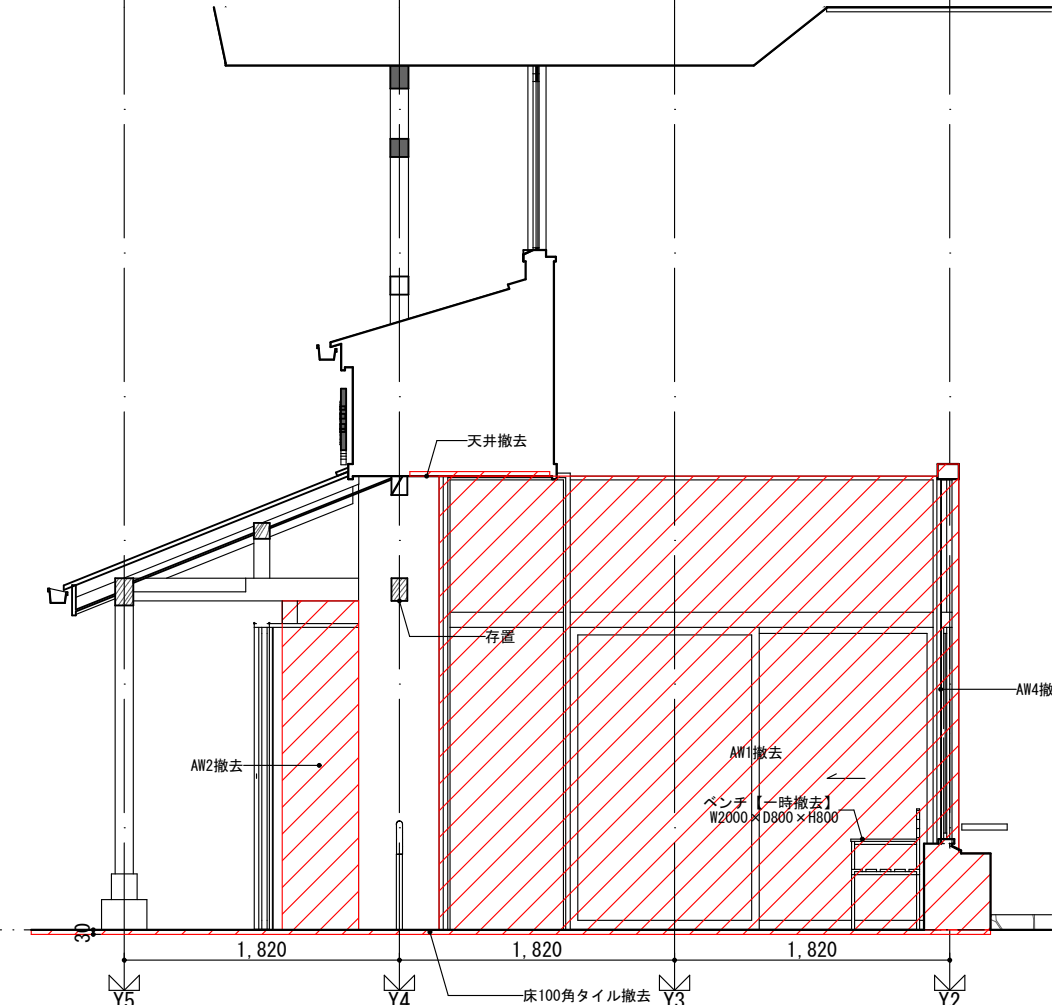
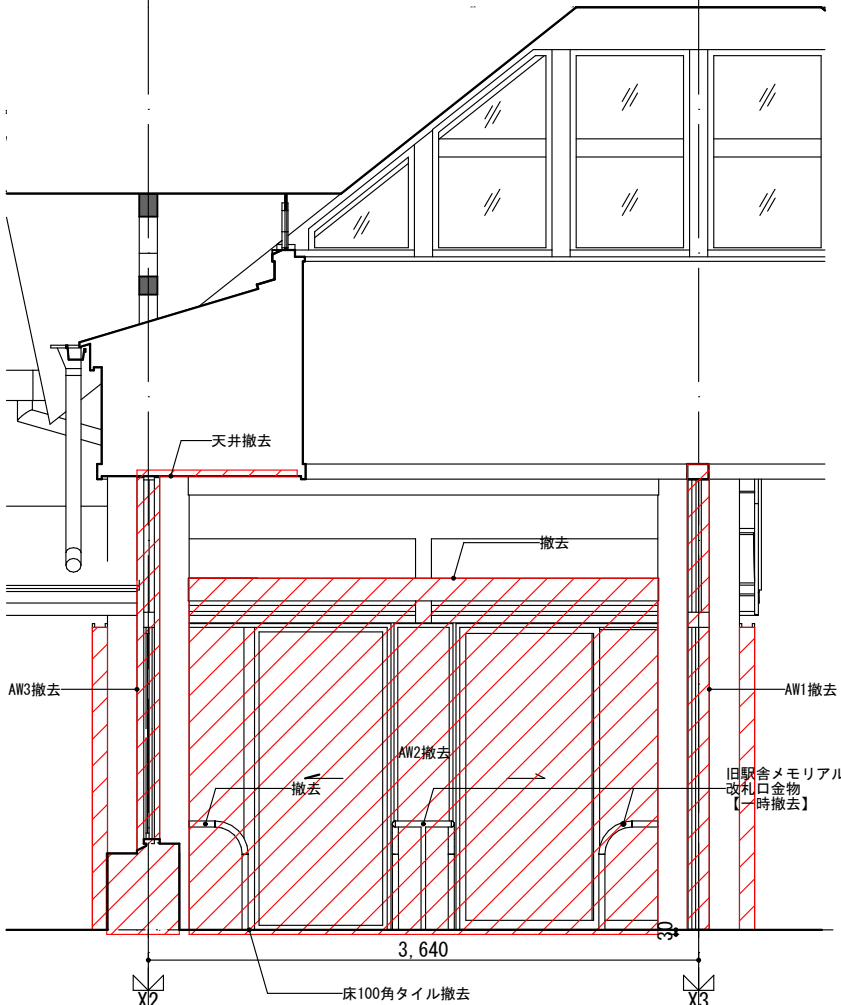
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】断面図-3	訂正	
図番	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	縮尺 A3=1:40 承認 図番 A-22
株式会社 環・設計工房			



改修後

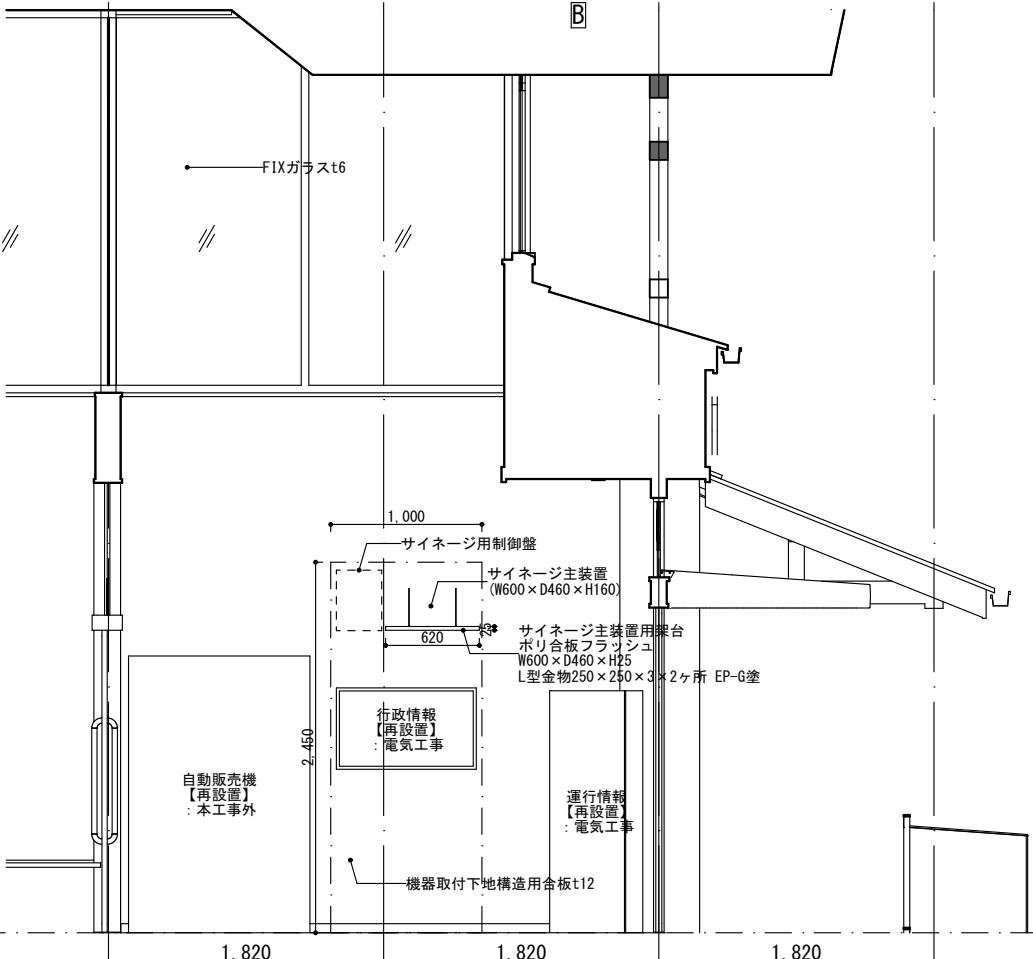
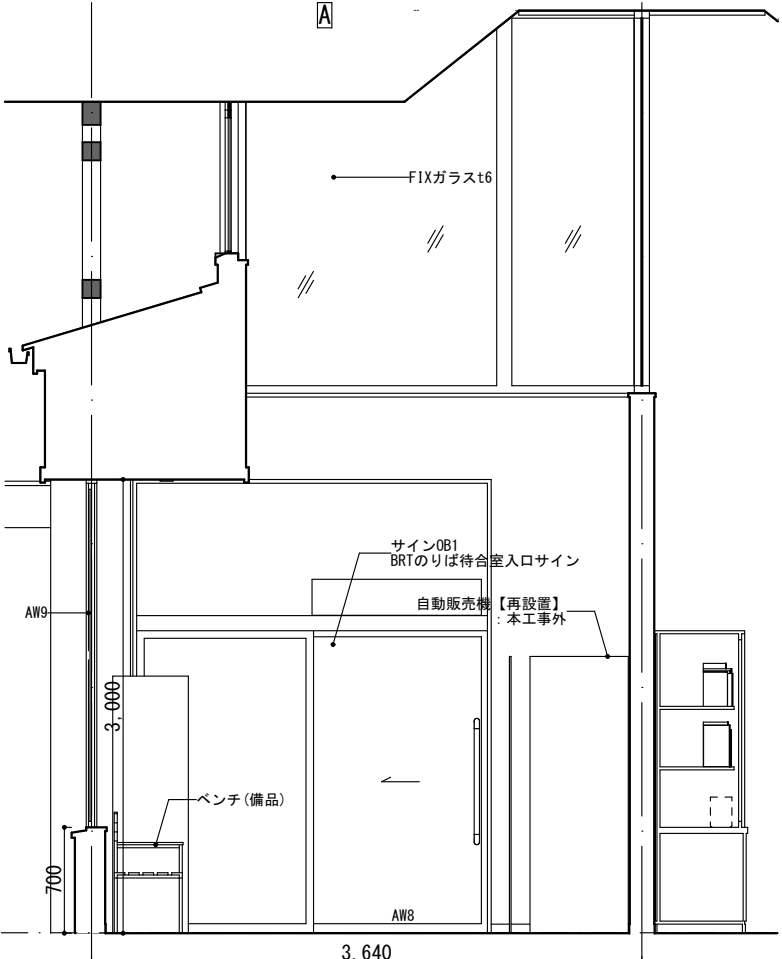
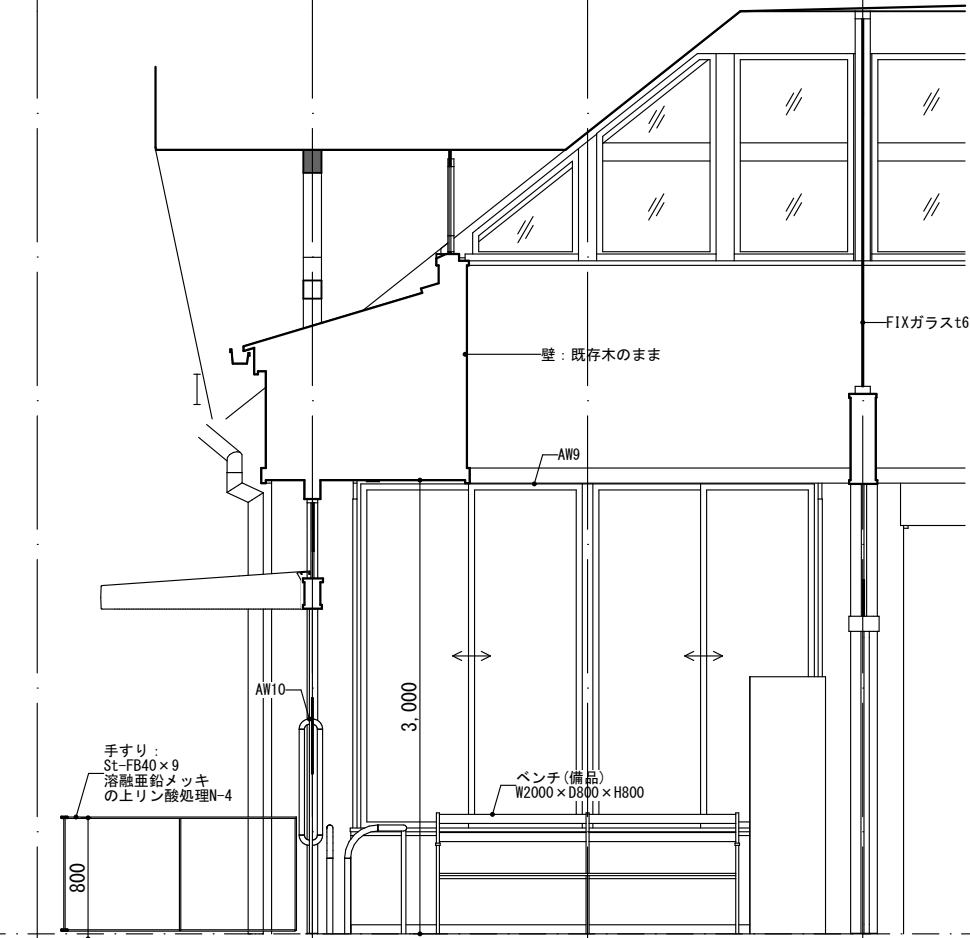
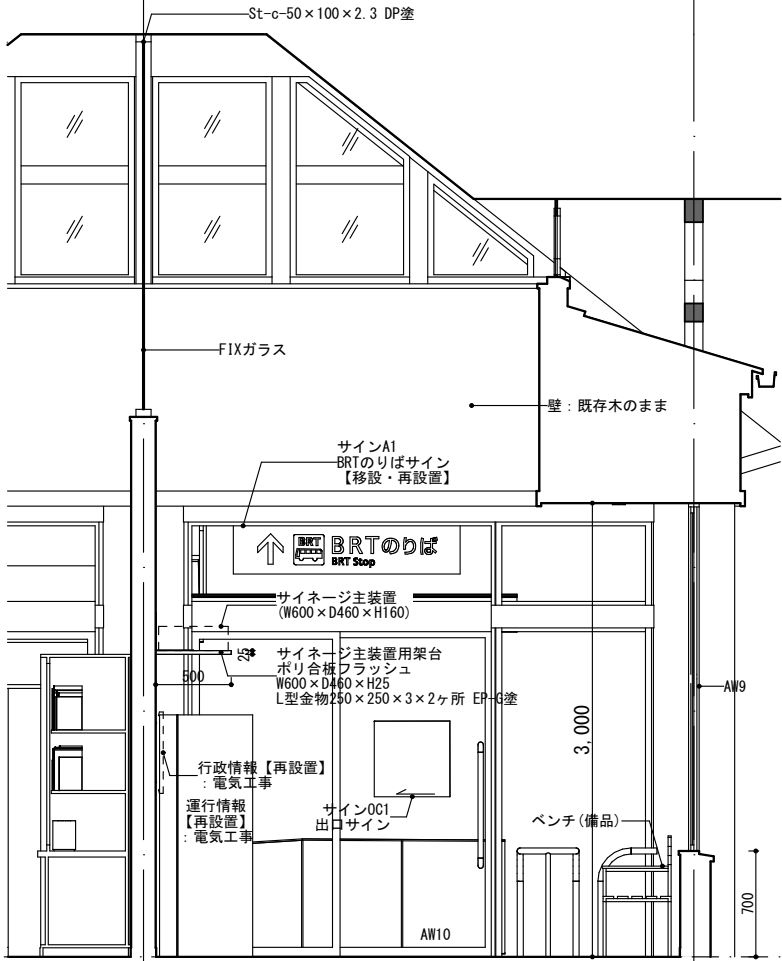
工事名		設計	
筑前岩屋駅舎改修工事		訂正	
図名		縮尺	
【改修後】断面図-4		A3=1:40	
図番	一級建築士登録番号313540号	製図	承認
	石橋 光 男		
A-23			
株式会社 環・設計工房			

No.	01	
室名	既存待合室	
床	下地	コンクリート
	仕上	100角タイル【撤去】ハツリ深さ30mm
巾木	材質	-
	高さ	-
壁	下地	コンクリート
	腰壁	岩石貼【撤去】
	腰壁高	450
天井	壁仕上	アルミサッシ【撤去】
	下地	木
	仕上	杉板貼 一部 【存置】
廻縁	木製 一部【存置】	
備考	<は設備工事を示す。【は別途工事を示す。】>	
	<行政情報モニター(壁取付)> <運行情報板>【自動販売機】 【公衆電話】：一時撤去の上再設置、誘導ブロック：撤去	



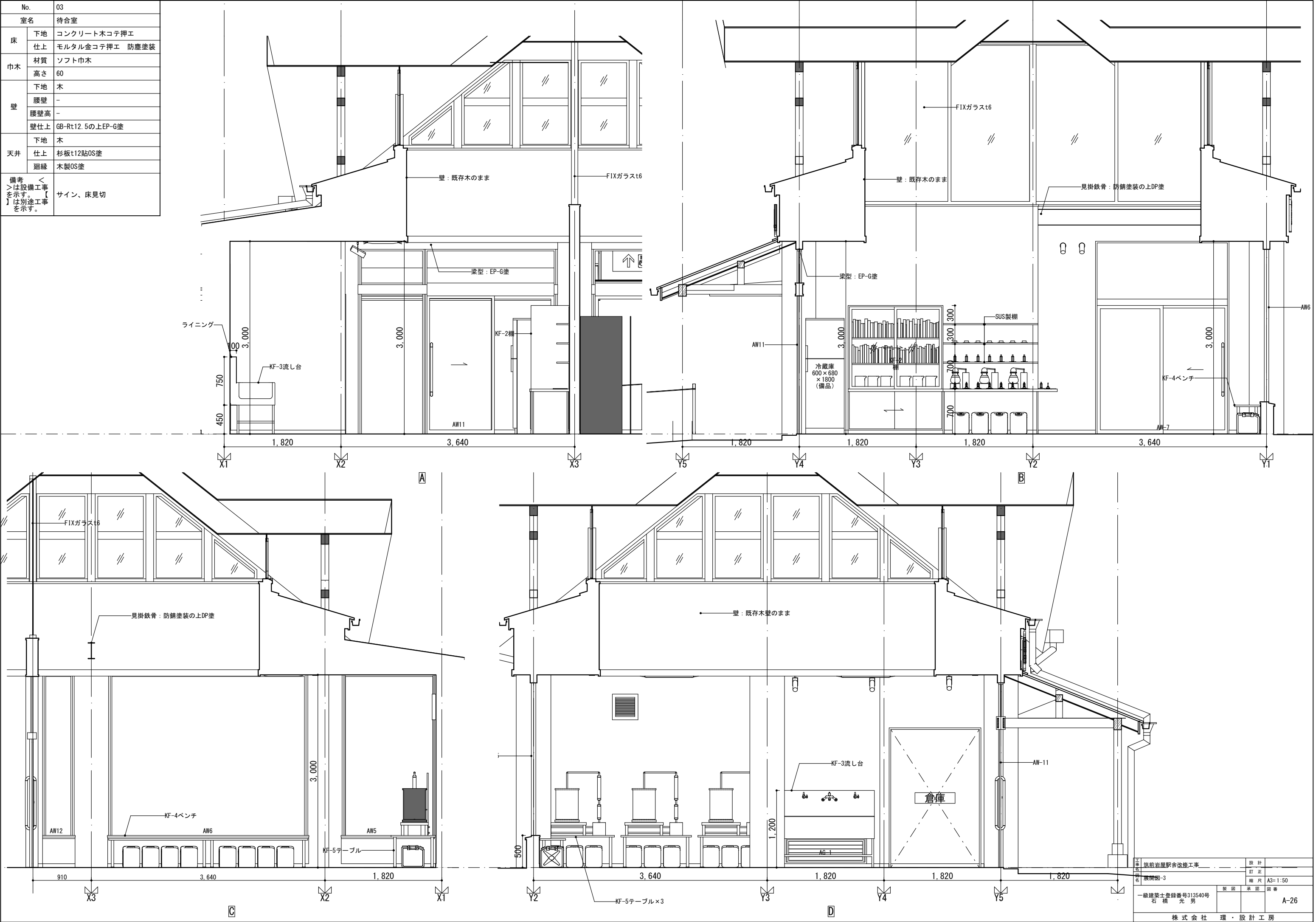
工事名	駅前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	展開図-1	訂正	
図番	展開図-1	縮尺	A3=1:50
設計者	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	
承認者		承認	
図番		図番	A-24
株式会社 環・設計工房			

No.		03
室名		待合室
床	下地	コンクリート木コテ押エ
	仕上	モルタル金コテ押エ 防塵塗装
巾木	材質	ソフト巾木
	高さ	60
壁	下地	木
	腰壁	-
	腰壁高	-
	壁仕上	GB-Rt12.5の上EP-G塗
天井	下地	木
	仕上	杉板t12貼OS塗
	廻縁	木製OS塗
備考 >は設備工事を示す。 【】は別途工事を示す。		サイン、床見切

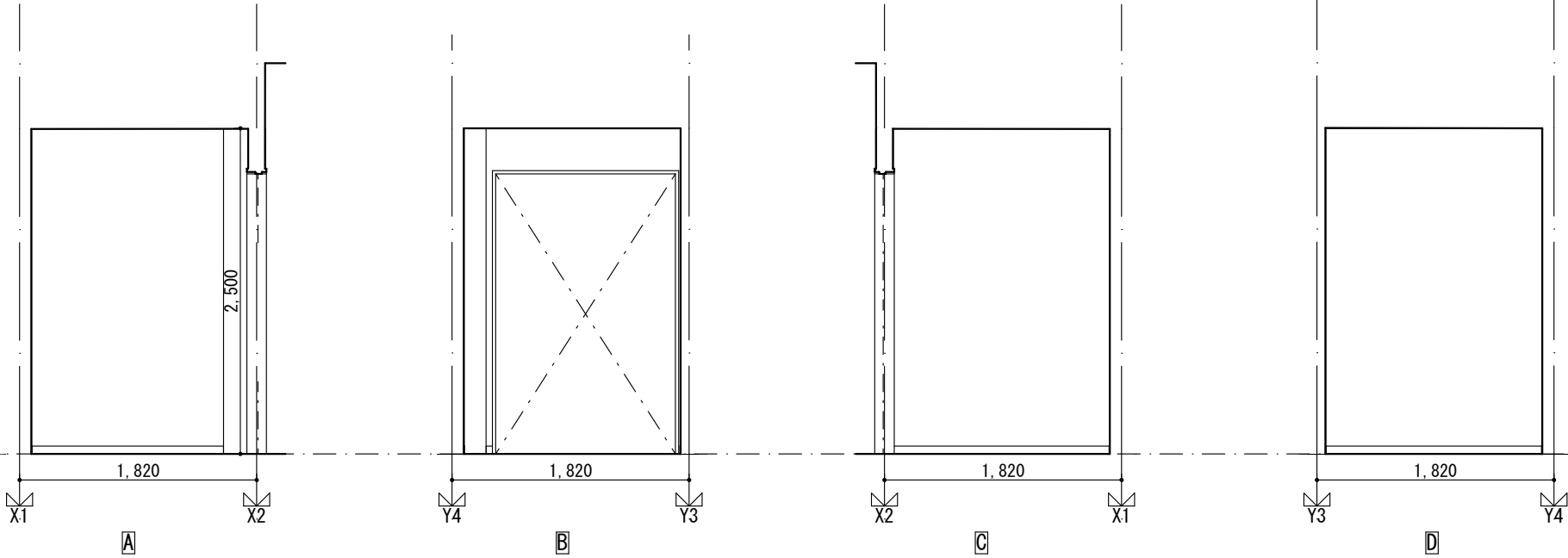


工事名	第1期岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	展開図-2	訂正	
図名	展開図-2	縮尺	A3=1:50
一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	承認	図番 A-25
株式会社 環・設計工房			

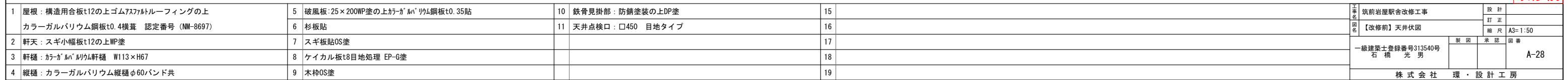
No.	03	
室名	待合室	
床	下地	コンクリート木コテ押エ
	仕上	モルタル金コテ押エ 防塵塗装
巾木	材質	ソフト巾木
	高さ	60
壁	下地	木
	腰壁	-
	腰壁高	-
	壁仕上	GB-Rt12.5の上EP-G塗
天井	下地	木
	仕上	杉板t12貼OS塗
	廻縁	木製OS塗
備考	<は設備工事を示す。【】は別途工事を示す。サイン、床見切	

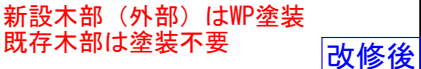


No.		05
室名		倉庫
床	下地	コンクリート木コテ押エ
	仕上	モルタル金コテ押エ 防塵塗装
巾木	材質	ソフト巾木
	高さ	60
壁	下地	コンクリート
	腰壁	－
	腰壁高	－
	壁仕上	打放し仕上撥水剤塗布
天井	下地	木
	仕上	ケイカル板t8目地処理の上EP-G
	廻縁	塩ビ製
備考 <は設備工事を示す。【は別途工事を示す。		



工事 名 図名	筑前岩屋駅舎改修工事		設 計	
	展開図-4		訂 正	
一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男		製 図	縮 尺	A3= 1:50
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房		承 認	図 番	A-27

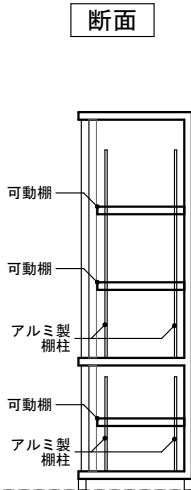
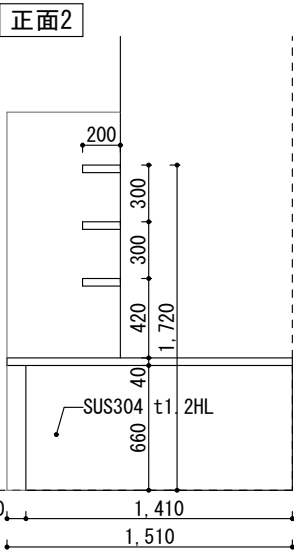
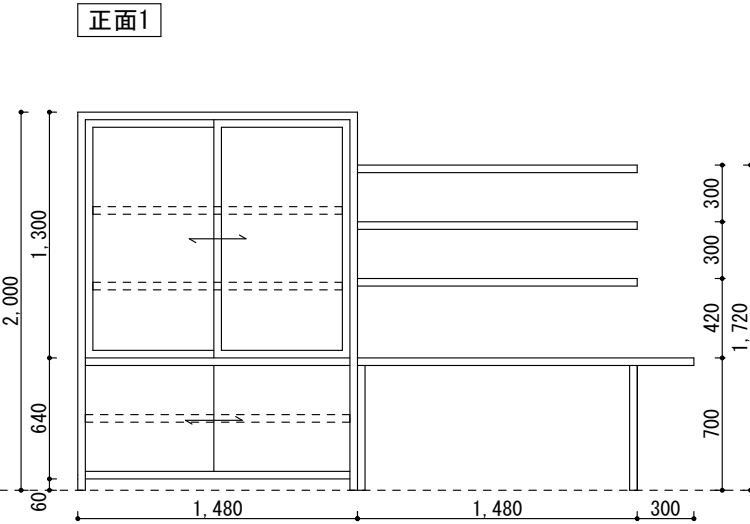
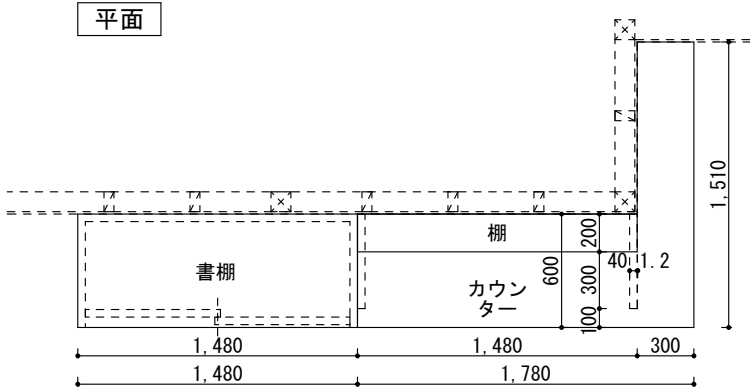
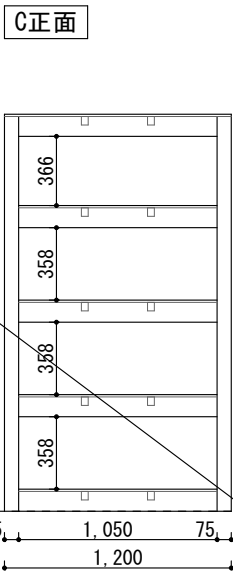
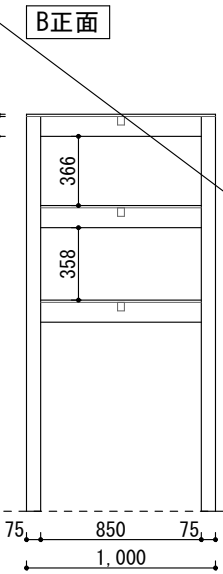
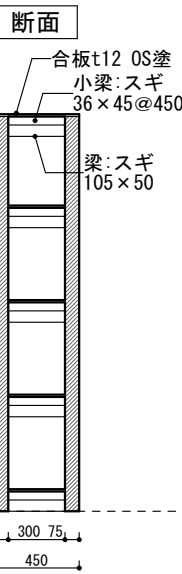
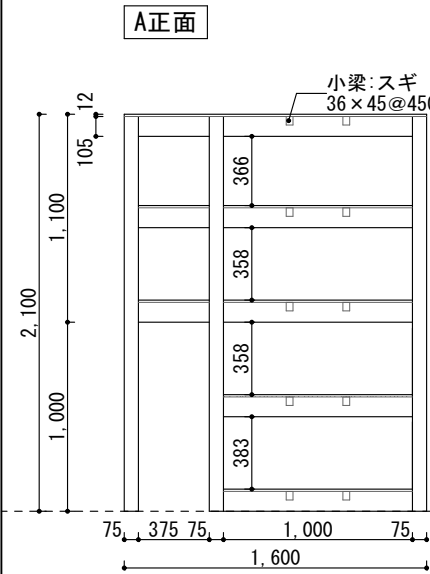
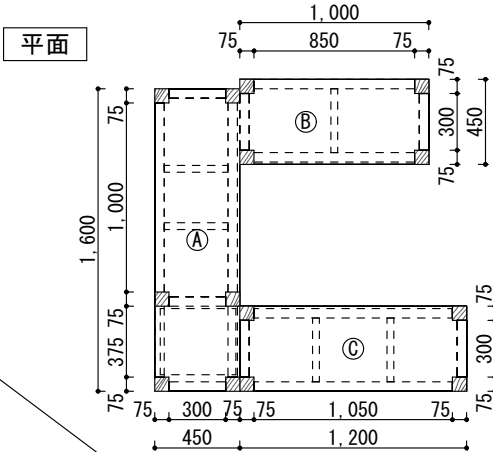




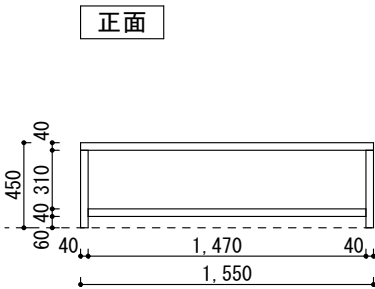
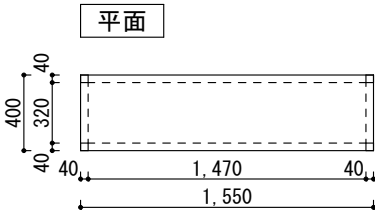
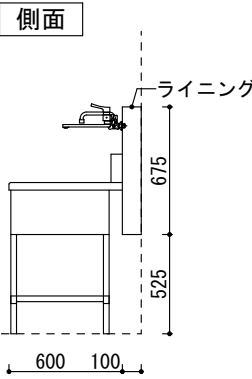
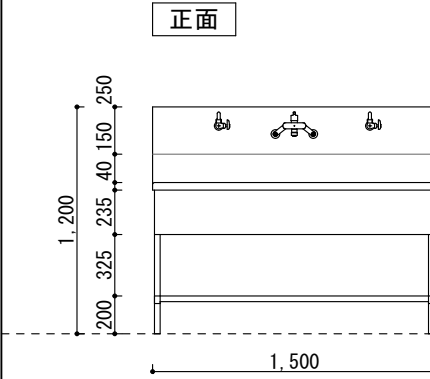
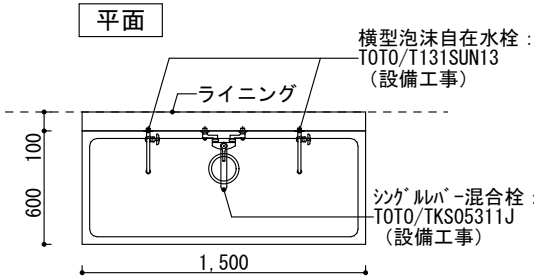
筑前岩屋駅舎改修工事		設計	
【改修後】天井伏図		訂正	
		縮尺	A3=1:50, 1:40
一級建築士登録番号313540号 石橋 光男		製図	承認
		図番 A-29	
株 式 会 社		環 ・ 設 計 工 房	

ID	AW1【撤去】	AW2【撤去】	AW3【撤去】	AW4【撤去】		
数量	1	1	1	1		
室名	既存待合室		既存待合室	既存待合室		
姿図						
形式	片引き: FIX	片引き: FIX	引違い: FIX	引違い: FIX		
材質・仕上	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色		
見込	70	70	70	70		
ガラス 種類	FL5	PL5	FL5	FL5		
付属金物	付属金物一式: 彫込引手: アングル三方: シリンダー引戸錠	付属金物一式: 彫込引手: アングル三方: シリンダー引戸錠	付属金物一式: アングル四周: クレセント	付属金物一式: アングル四周: クレセント		
備考						
ID	AG1	AW5	AW6	AW7	AW8	AW9
数量	1	1	1	1	1	1
室名	アロマファクトリーラボ	アロマファクトリーラボ	アロマファクトリーラボ	アロマファクトリーラボ	待合室	待合室
姿図						
形式	アルミガラリ	FIX	FIX	片引き: FIX	片引き: FIX	引違い
材質・仕上	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色
見込	70	70	70	100	100	70
ガラス 種類	—	T6	T10	T5	T5	T5
付属金物	アルミアングル四周: SUS製防虫網	付属金物一式: アングル四周	付属金物一式: アングル四周	付属金物一式: バーハンドル: アングル三方: サムターンシリンダー引戸錠	付属金物一式: バーハンドル: アングル三方: サムターンシリンダー引戸錠	付属金物一式: アングル四周: クレセント: 網戸
備考						
ID	AW10	AW11	AW12	WD1		
数量	1	1	1	1		
室名	待合室	アロマファクトリーラボ	アロマファクトリーラボ	倉庫		
姿図						
形式	片引き: FIX	片引き: FIX: 突き出し	FIX	両開き		
材質・仕上	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	アルミ電解二次着色	堅木EP-G塗		
見込	70	70	70	36		
ガラス 種類	T5	T5	T5	T5		
付属金物	付属金物一式: バーハンドル: カムラッチハンドル: アングル三方: 網戸	付属金物一式: バーハンドル: カムラッチハンドル: アングル三方: サムターンシリンダー引戸錠: 網戸	付属金物一式: アングル四周	バーハンドル: スライド丁番: シリンダー空錠: フランス落し		
備考	バーハンドル: UNION/G2110-L70	バーハンドル: UNION/G2110-L70				
					工事 名称	筑前岩屋駅舎改修工事
					図名	建具表
					製図	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男
					縮尺	A3=1:1
					承認	図章
					A-30	
					株式会社 環・設計工房	

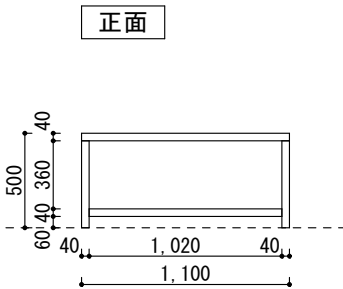
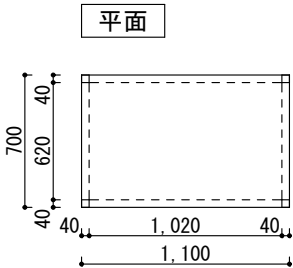
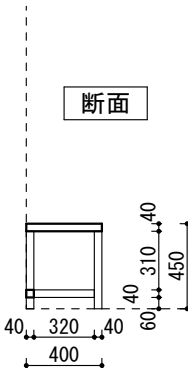
名称	KF-01 木製棚
数量	1
室名	倉庫
天板・座板	合板t12 OS塗
側板(見掛)	柱：スギ75×75
箱(見掛)	－
箱(見隠)	梁：スギ105×50、小梁：スギ36×45@450
扉	－
台輪	－
ガラス	－
備考	



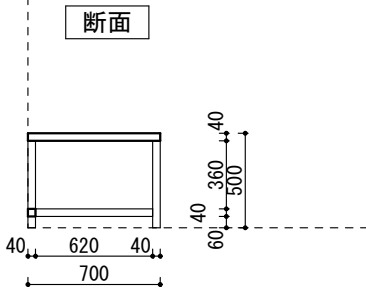
名称	KF-03 流し台
数量	1
室名	アロマファクトリーラボ
天板・座板	SUS430 t12 No. 4
ライニング天板	SUS304 t3 No. 4
側板(見掛)	SUS430 t0.6 No. 4
箱(見掛)	－
箱(見隠)	－
立ち上がり壁	耐水合板t12の上メッキ化粧板貼
ガラス	－
備考	マルゼンBSI-156同等品以上



名称	KF-04 ベンチ
数量	2
室名	アロマファクトリーラボ
天板・座板	SUS430 t1.2 No. 4
側板(見掛)	SUS304 t1.0 φ38
箱(見掛)	－
箱(見隠)	－
扉	－
台輪	－
ガラス	－
備考	



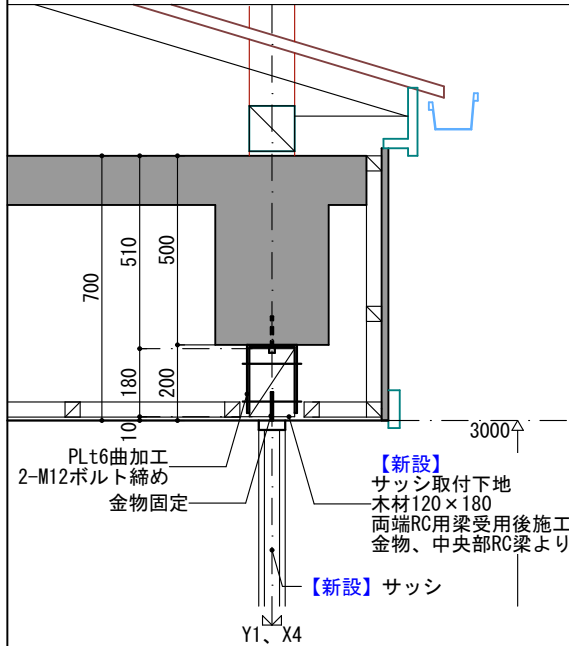
名称	KF-05 テーブル
数量	3
室名	アロマファクトリーラボ
天板・座板	SUS430 t1.2 No. 4
側板(見掛)	SUS304 t1.0 φ38
箱(見掛)	－
箱(見隠)	－
扉	－
台輪	－
ガラス	－
備考	



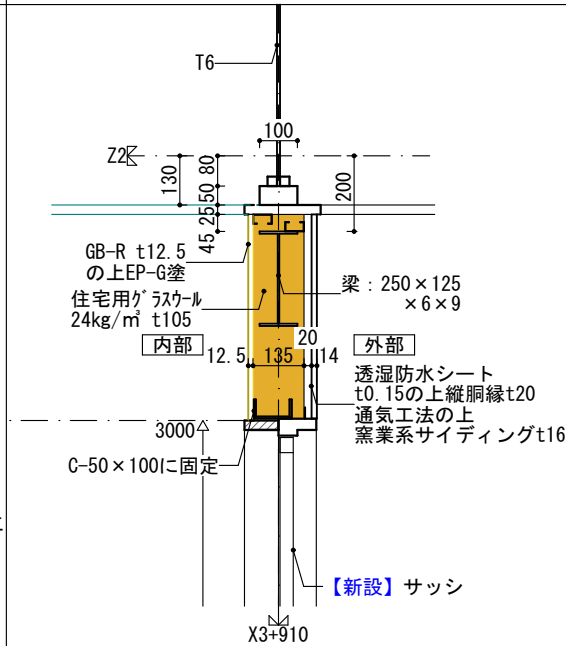
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	家具図	訂正	
		縮尺	A3=1:40
	一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	承認
			A-31
			株式会社 環・設計工房

Y1通り他サッシ取付下地木材取付詳細図 S=1/20

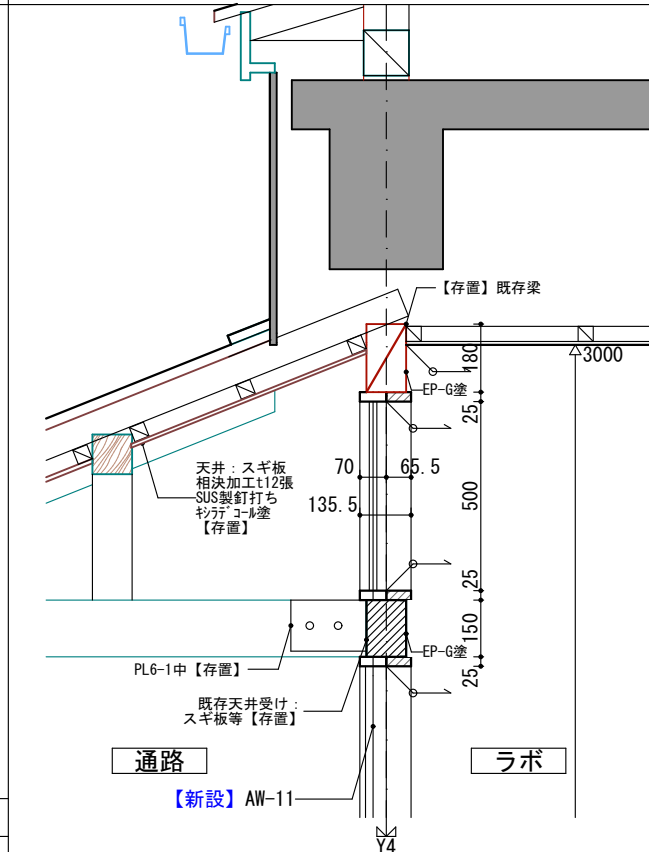
Y1、X4通り



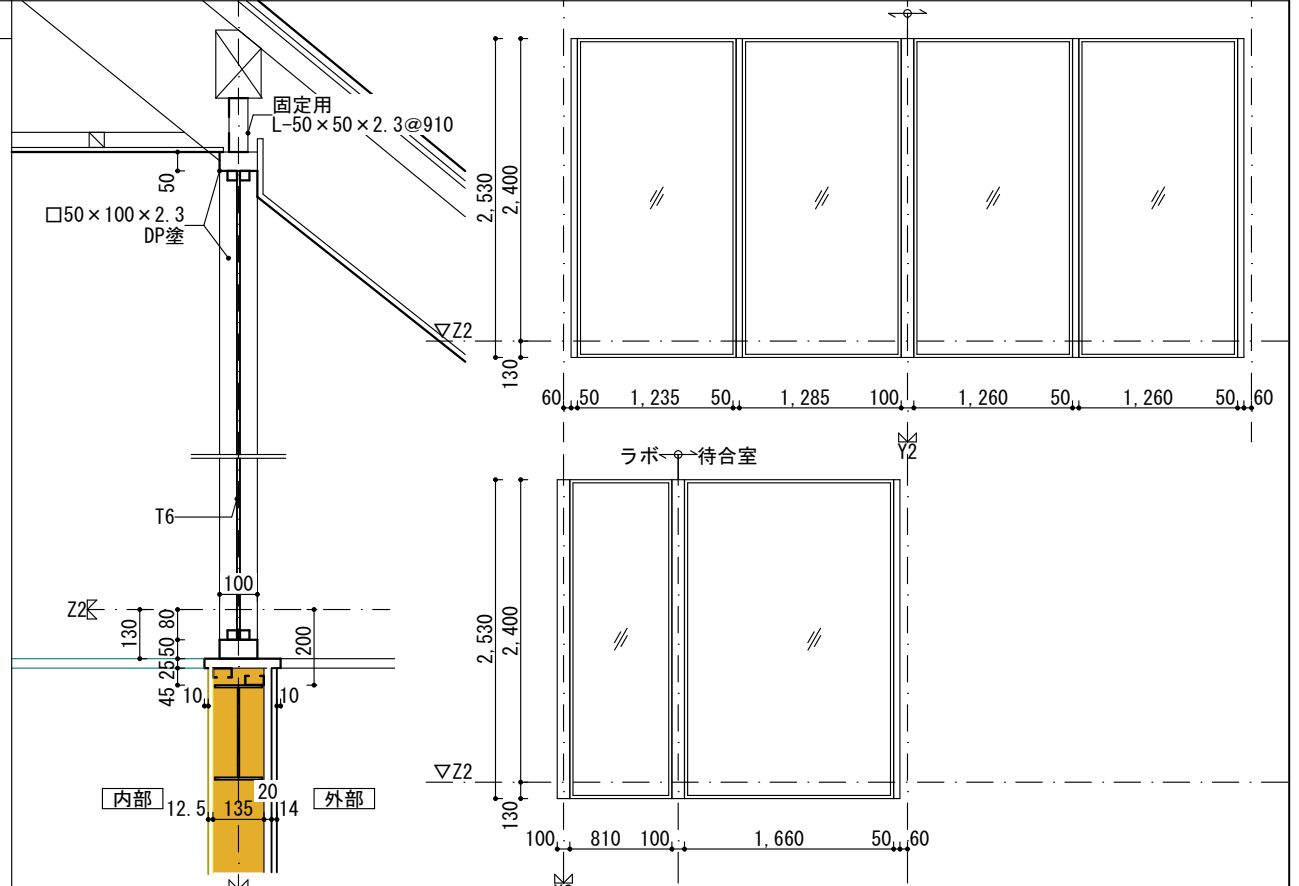
X3+910、Y2通り



X3+910、Y2通り

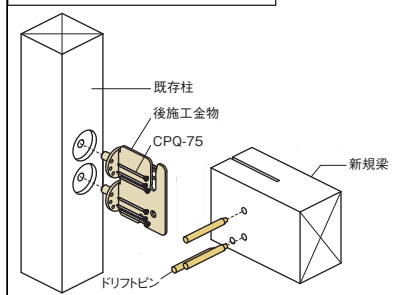


X3通り他上部FIXガラス取付詳細図 S=1/20、1/60

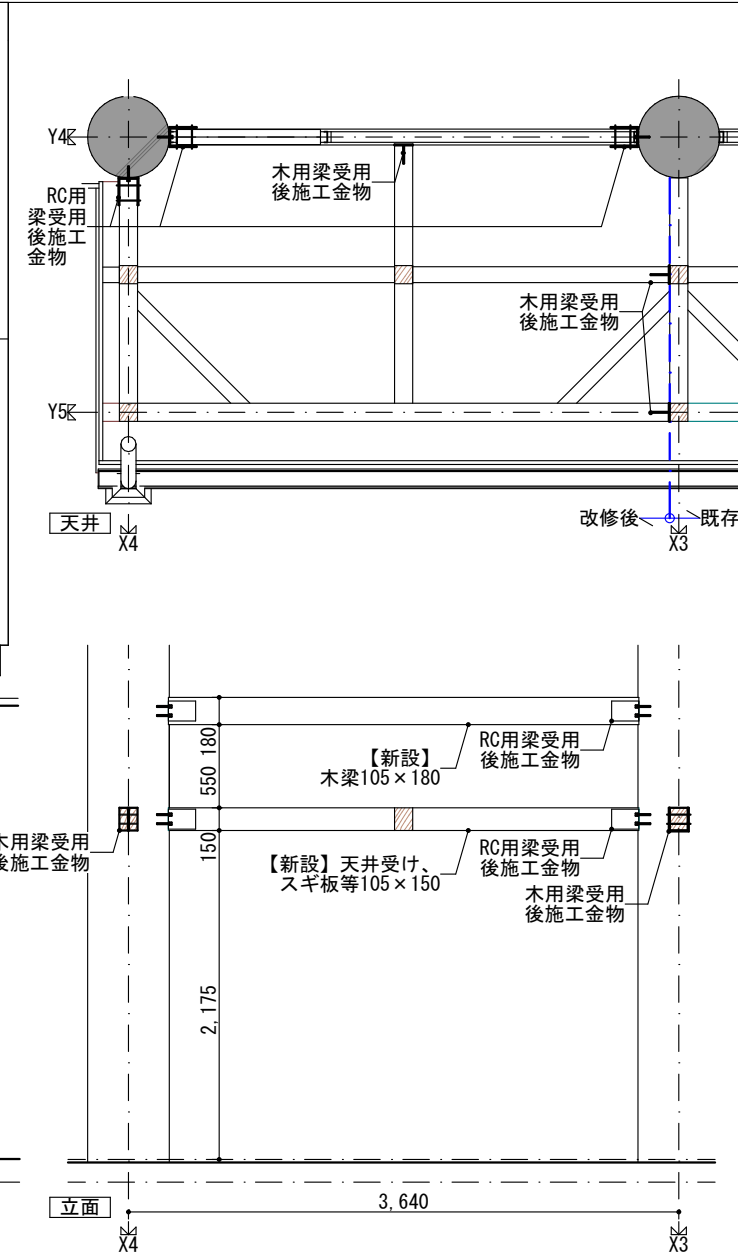
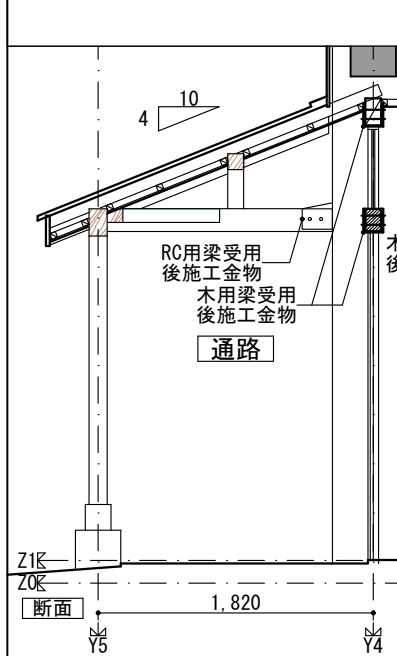
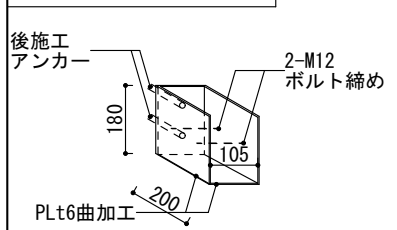


X4-Y4廻り下屋詳細図 S=1/20、1/50

木用梁受用後施工金物

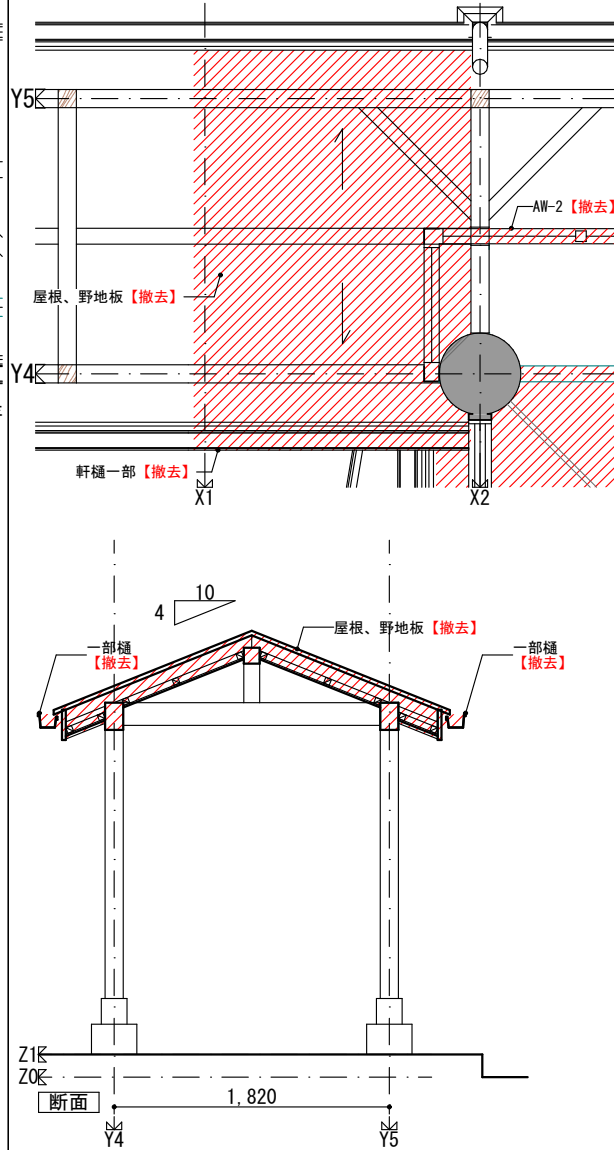


RC用梁受用後施工金物

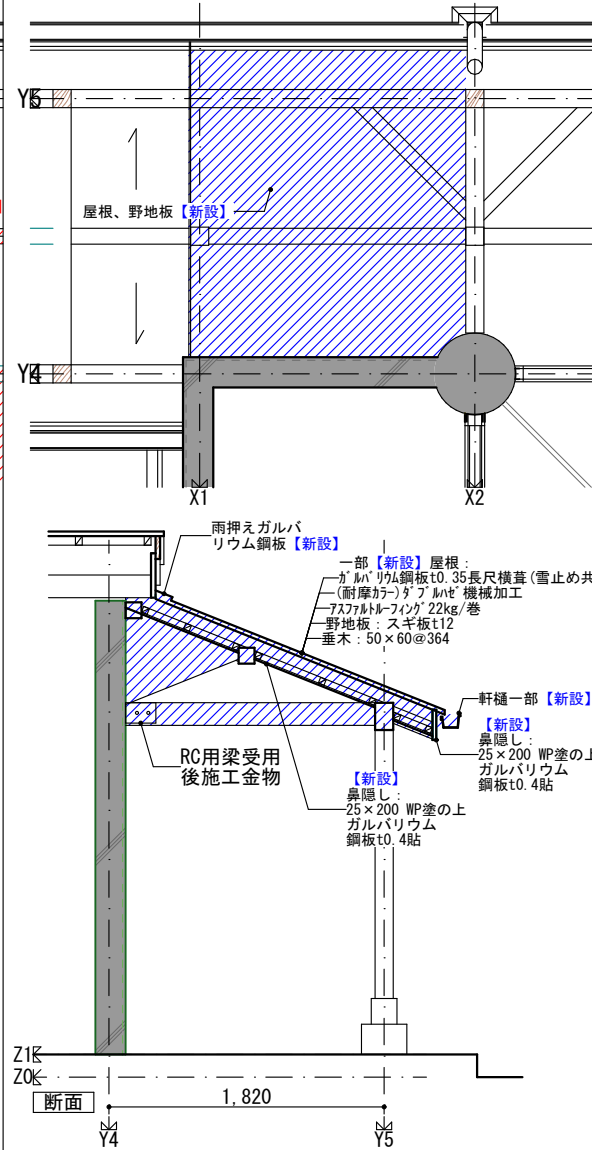


X1-2 Y4廻り屋根形状変更詳細図 S=1/50

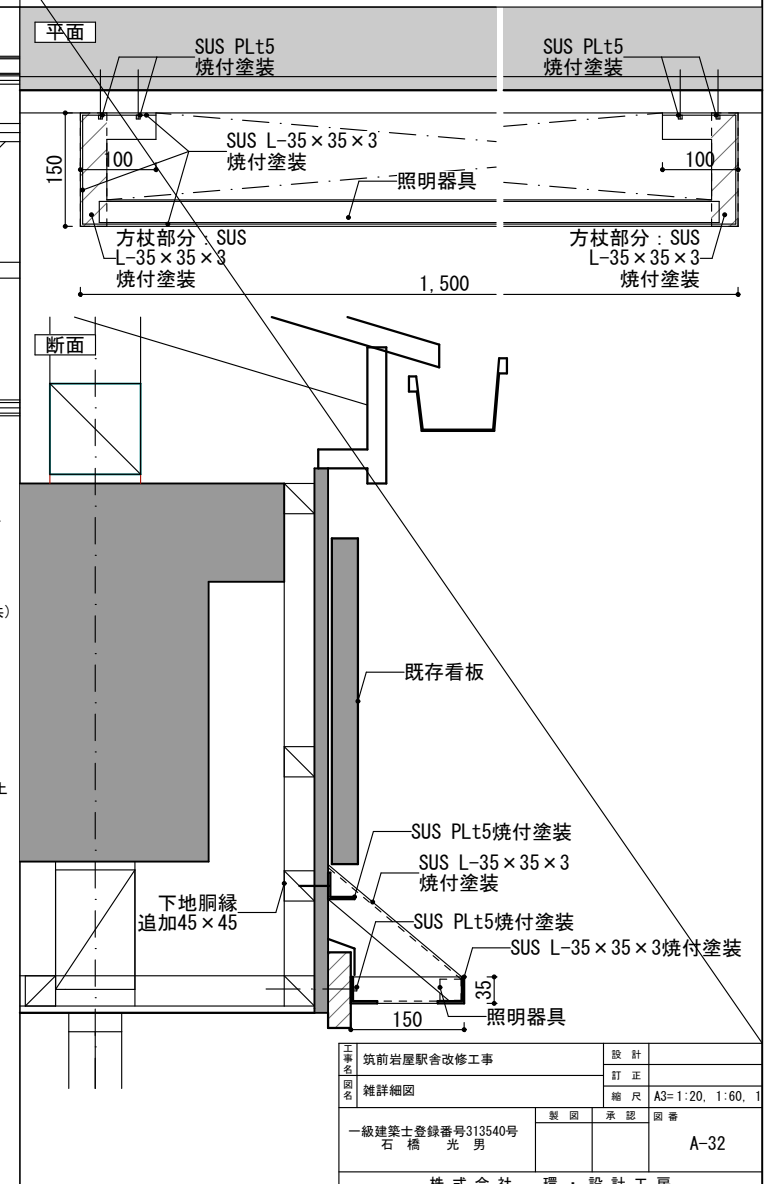
【改修前】

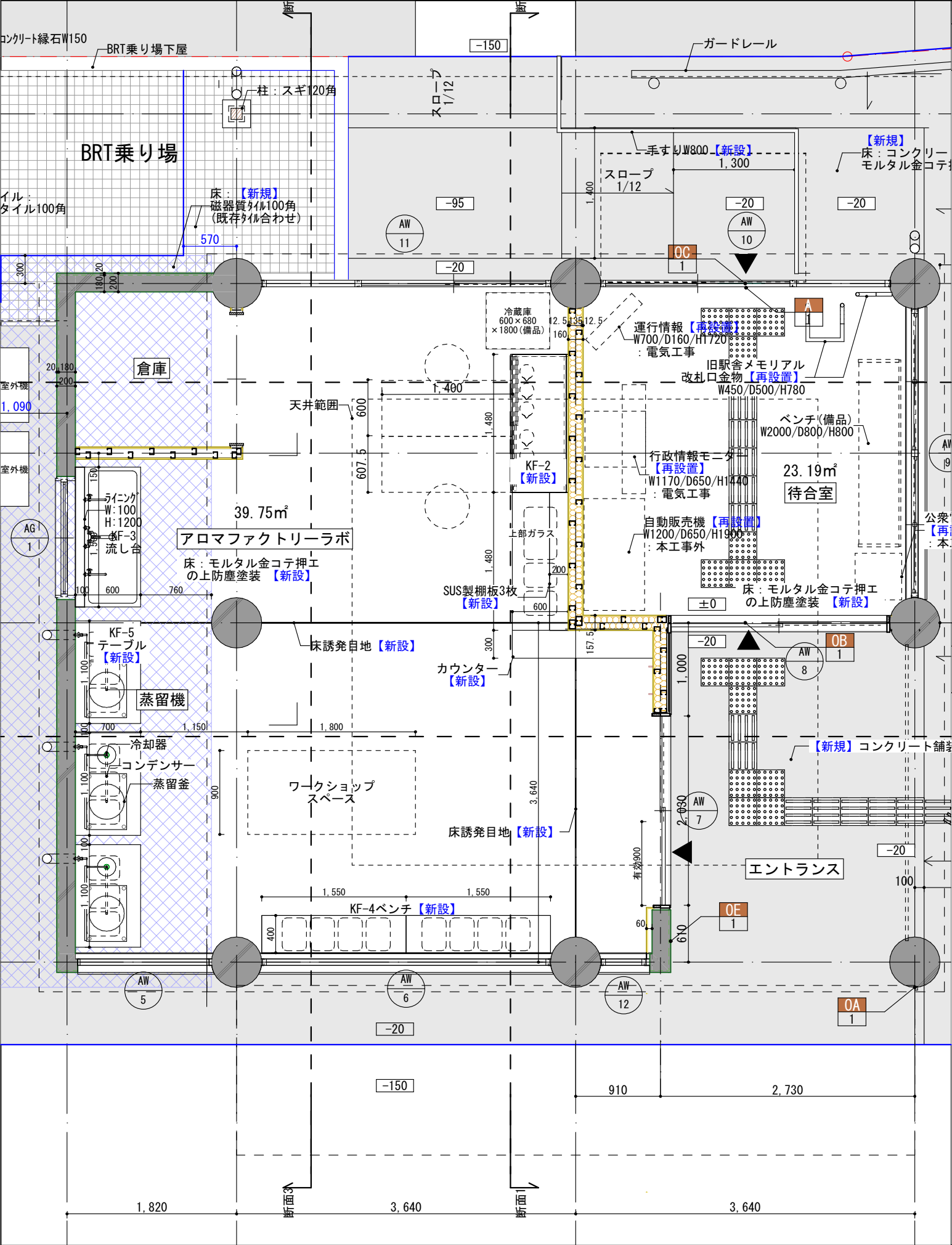


【改修後】

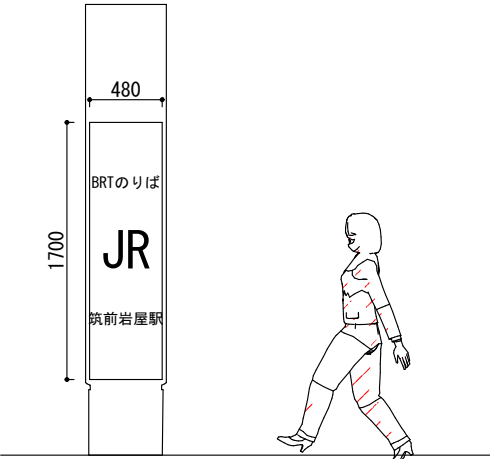
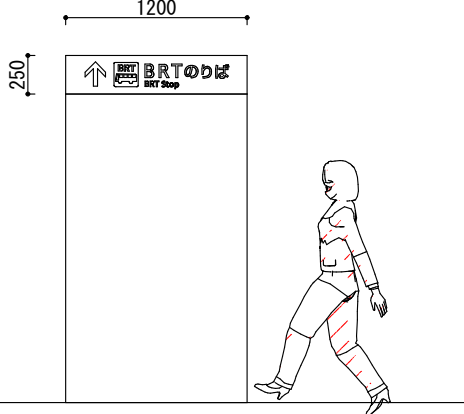
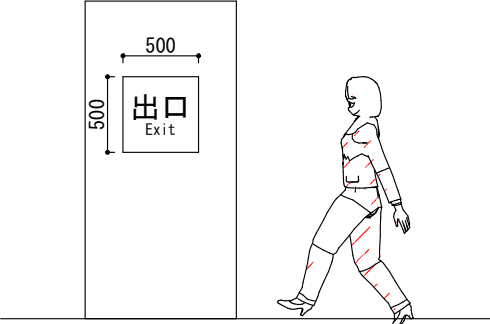
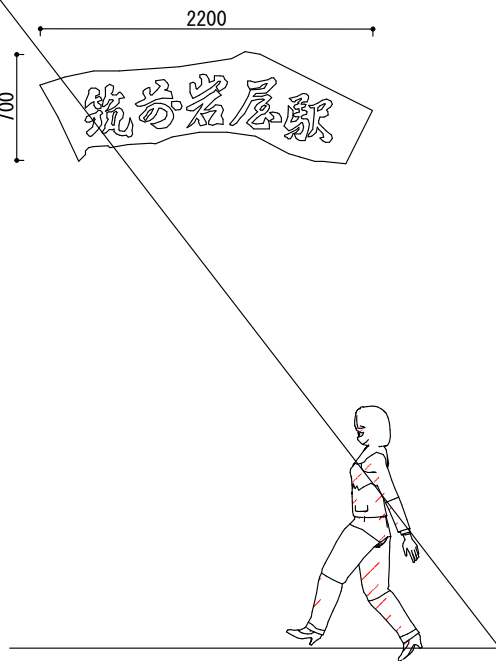


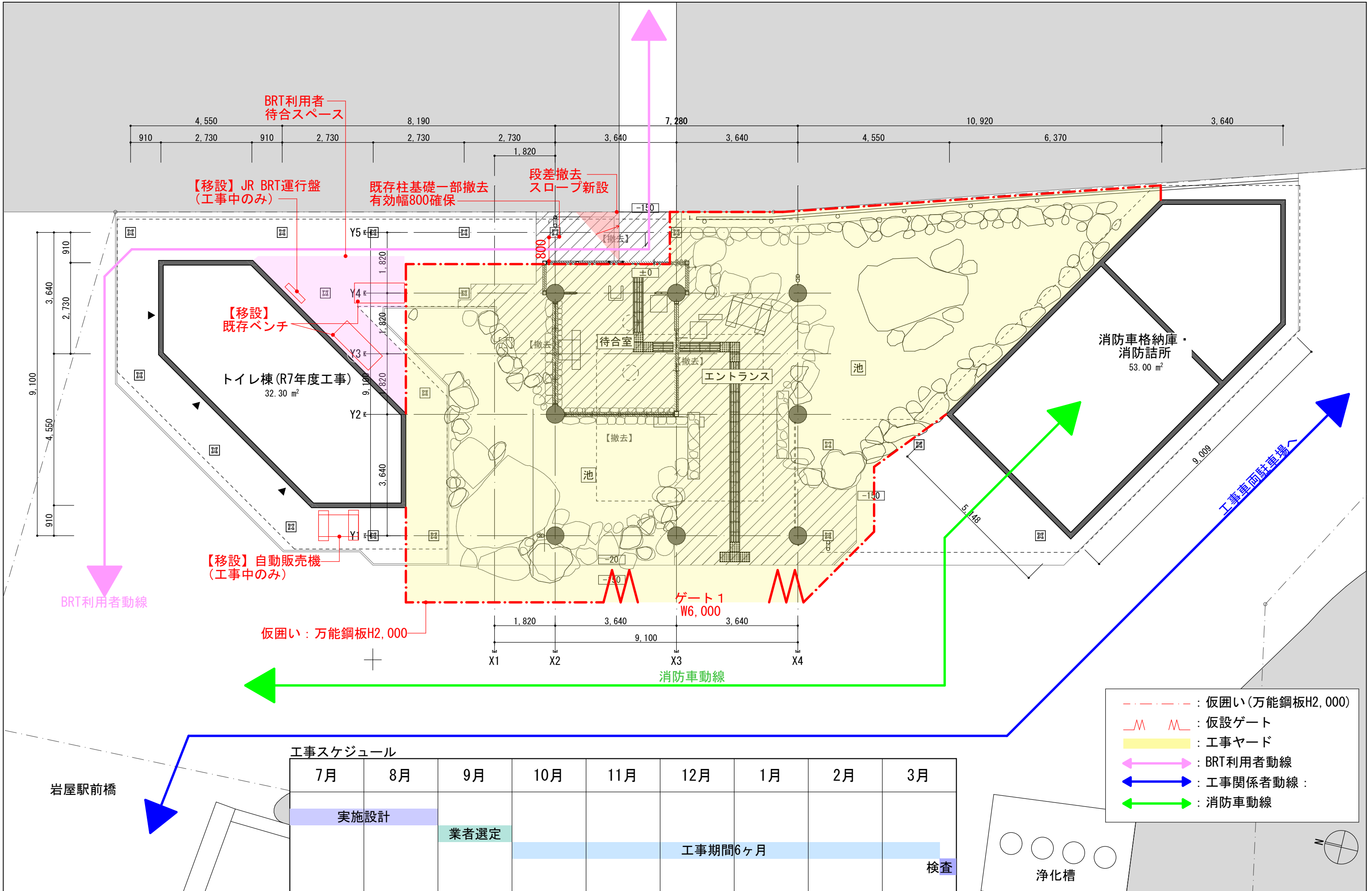
東、西側看板用照明ボックス詳細図(計2カ所) S=1/10





※工事中のBRT利用者誘導サインは本工事に含む

サインNo.	サイン名称	サインNo.	サイン名称
OA 1	駅西側JR駅名サイン	OB 1	BRTのりば待合室入口サイン
外部用出力シートW480×H1700 コンクリート柱面に接着  A3:S=1/50 サインの図案については、JR案内サインマニュアルに 則り、現状と同様のものとする		アルミ複合板t3 W1200×H250の上 外部用出力シート貼  A3:S=1/50	
OC 1	出口サイン	OD 1	筑前岩屋駅木製サイン
外部用出力シートW500×H500 ガラス面両面貼 裏面：筑前岩屋駅案内図（現状同等とする）  A3:S=1/50		既存木製サインW2200×H700 （南側に約1.8m移設）  A3:S=1/50	



工事スケジュール

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施設計		業者選定	工事期間6ヶ月					検査

※工事中のBRT利用者誘導サインは本工事に含む

構造設計標準仕様

適用は■印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 筑前岩屋駅舎改修工事

建築場所 福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山6425番地

(2) 工事種別 ☐ 新築 ☐ 増築 ☐ 増改築 ☐ 改築 ☒ その他

(3) 構造種別

☒ 鉄筋コンクリート造(RC)

☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)

☐ 鉄骨造(S)

☐ 壁式鉄筋コンクリート造(WRC)

☐ 壁式ラーメン鉄筋コンクリート造(HFW)

☐ 補強コンクリートブロック造(CB)

☐ 木造(W)

(4) 階 数 地下 0 階 地上 1 階 塔屋 0 階

(5) 主要用途

(6) 増築計画 ☐ 有() ☒ 無

(7) 構造計算ルート X方向ルート ー() Y方向ルート ー()

2. 一般共通事項

- (1) 図面及び特記仕様に記されていない事項は、すべて設計図、配筋標準図、鉄骨標準図及び下記に示す標準仕様書を適用する。
- (2) 構造図面に記載された事項は本標準図に優先して適用する。
- (3) 適用は■印の付いたものを使用する。

■国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(令和7年版)

■国土交通省住宅局住宅建設課監修 公共住宅建設工事共通仕様書(令和7年版)

■日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS5(2022年版)

JASS6(2018年版)

3. 地業工事

(1) 直接基礎

基礎形式 ☐ 独立基礎 ☐ 布基礎 ☒ ベタ基礎 試験掘削 ☐ 有 ☒ 無

・地盤改良 ☒ 有 ☐ 無 改良底 Z0-0.180～-1.500m

改良工法 ☐ テノコラム((株)テノックス) ☒ 浅層混合処理工法

☐ 上記又は同等以上の技術審査証明を受けた工法

設計地耐力(長期) fa = 50.0 (kN/m²) 基礎底深さ 設計Z0-0.180 (m)

支持層 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無

(2) 杭基礎 支持層ー

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ RC ☐ PRC	PRC(☐ I 種 ☐ II 種 ☐ III 種)	☐ 打ち込み	
☐ PHC ☐ H鋼	PHC(☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種)	☐ 埋込法(セメントミルク工法)	
☐ 鋼管 ☐ 摩擦杭	鋼材 ☐ SS400 ☐ SKK400	☐ ☐	
☐ SC杭	☐ SKK490	☐	
☐ 場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc= N/mm ² せん断容量 kN/m ² 鉄 筋 主 筋 SD 補助筋 NOOP SD	☐ オールケーシング ☐ 掘底杭 ☐ リバースサーキュレーション ☐ アースドリル ☐ BH ☐ 深礎 ☐ ミニアース ☐ 手掘り ☐ 機械掘	掘底杭 日本建築センター 認定 第 年 月 日

杭仕様 ■ 施工計画書承認 ■ 杭施工結果報告書

杭試験 (■有・□無) (□打ち込み □載荷 □試験) 1 本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

- 2-1.杭の継ぎ手 ☐ アーク溶接 ☐ 大臣認定特殊継ぎ手
- 2-2.杭先端部形状 ☐ 閉そく平坦形 ☐ 開放形 ☐ 特殊シュウ付き
- 2-3.場所打ち杭のコンクリートの種別 ☐ A種 ☐ B種
- 2-4.その他の試験 ☐ 掘底杭については、孔壁測定試験を行う。試験率は100%とする。☐ コンクリートの強度試験はコンクリートの強度は異なる毎に1回以上、かつ150m 毎に1回とする。スランプ試験の試験回数は、杭1本毎に最初の運搬車について行う。
- 2-5. 提出書類及び立会い検査、試験

提出書類 ☐ 杭工事施工計画書 ☐ コンクリート調合計画書

立会試験 ☐ 試験杭(試験堀) ☐ その他監督員が指示した計画書

☐ 試験杭(試験堀) ☐ その他監督員が指示した検査、試験
- 2-6.その他 杭工事特記仕様書による。

4. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

1-1. レディミクストコンクリートの種別 (JIS A5308) ☒ I類 ☐ II類

1-2. セメントの種類 JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

1-3. 砕砂及び砕石の種類 JIS A5004(砕砂)、JIS A5005(砕石)とする。

1-4. 細骨材の塩分含有量 ☒ 0.04以下(° /wt) ☐ 0.02以下(° /wt)

1-5. 普通コンクリート

・躯体コンクリート 耐久設計基準強度 Fd=24 (N/mm²) ☐ 短期、☒ 標準、☐ 長期

セメントの種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	種 類	スランプ cm	適用箇所
普通セメント	☒ 24	☒ 普通 ☐ 軽量	18以下	基礎・壁・スラブ
	☐ 24	☐ 普通 ☐ 軽量		
高炉セメントB種	☐ 24	☐ 普通 ☐ 軽量		
	☐	☐ 普通 ☐ 軽量		

- 躯体コンクリート 品質基準強度 Fg=max(Fd,Fc)+ S (N/mm²) Sは構造体強度補正值
- 躯体コンクリート指定事項(特記無きコンクリート仕様はJASS5による)
- ・最小単位セメント量(kg/m³) ☐ 270 ☐ 290

・コンクリートの温度(°C) ☐

・呼び強度を保証する材令(日) ☒ 28 ☐

・水セメント比の上限(%) ☐ 55 ☒ 60

・空気量(%) ☐ 4.5 ☐

・単位水量の上限値(kg/m³) ☒ 185 ☐

・コンクリートの塩化物含有量(kg/m³ 以下) ☒ 0.3 ☐
- 混和材料 ☒ 混和剤 JIS A6204Iによる ☒ AE減水剤標準型の I 種 ☐ 高性能AE減水剤 (Fc≥27) 1階床スラブより下部及び、地下外壁、地下部分で直接水がかかる部分の躯体コンクリートで監督員の指示した部分に使用する。☐ 防水剤 ☐ ベストン(小田急建材ベストン(株))又は同等以上 ☐ 防錆剤 有筋コンクリートについてはすべて適用する。 JIS A6205Iに適合した製品による。

- その他
- ・コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5による。

- ・コンクリート打設時における気温が、25℃を超える場合は暑中コンクリートとし、仕様書はJASS5による。 また、寒中その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事管理者の承認を受けること。
- ・コンクリート打設工区で、同じ打ち込み位置に複数工場の生コンを使用してはならない。
- ・躯体コンクリートで、軽量コンクリート、流動化コンクリート、高強度コンクリートその他の特殊コンクリートを用いる場合の仕様は特記による。

1-6.その他のコンクリート

設計基準強度 Fc=N/mm ²	種 類	スランプ cm	適用箇所
☐ 16 ☒ 18 ☐ 21	☒ 普通 ☐ 軽量	15	捨てコンクリート
☐ 16 ☐ 18 ☐ 21	☐ 普通 ☐ 軽量		土間コンクリート
☐ 16 ☐ 18 ☐ 21	☐ 普通 ☐ 軽量		

その他コンクリートは、原則として、JASS5(無筋コンクリート及び簡易コンクリートの項を適用する。

1-7.コンクリート強度試験

- 普通コンクリート
- 構造体コンクリートの圧縮強度試験供試体(JASS 5T-603)の採取は、コンクリートの種類が異なる毎、及び1日1回以上、打込み工区毎とし、打ち込み量が150m を超える場合は、150m³ 毎、又はその端数毎に1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。 なお、供試体の数量は1回当たり最低6本以上とし、必要に応じその本数を監督員と協議の上決定する。
- 特殊コンクリート 特記による。

- 1-8. 提出書類及び立会い検査、試験
- コンクリートの材料試験は、第三者機関で行うことを原則とする。
- 提出書類 ☒ コンクリート工事施工計画書 ☒ コンクリート調合計画書

☒ その他監督員が指示した計画書

立会検査 ☐ コンクリート試し練り ☐

☒ その他監督員が指示した検査、試験

(2) 鉄 筋 工 事

2ー1. 鉄筋の種類

鉄 筋	種 類	径	継手工法
異 形 鉄 筋	☒ SD295A	D10 ～ D16	☒ 重ね継手 (D10～D16)
	☐ SD295B		☐ ガス圧接継手 (D19～)
	☐ SD345	D19 ～D25	☐ 特殊継手 ()
	☐ SD390	D29 ～	
高強度せん断補強筋	☐ KSS785		
丸 鋼	☐ SR235		
高強度異形鋼材	☐ SBPD 1275/1420		
溶接金網	☐ 6φ-100x100		

- ・異形鉄筋及び溶接金網は、JIS G3112及びJIS G3551の規格品を使用する。
- ・高強度せん断補強筋は、JIS G3117に規定されるD種1号適合品とする。
- ・SD390 は高炉製品とする。

2-2. 鉄筋の継手

- ・D19未満は、すべて重ね継ぎ手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は(社)日本鉄筋継手協会『鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事(最新版)』による。
- ・ガス圧接に従事する圧接工は、JIS Z3881による2種有資格者する。
- ・ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は30箇所以上とする。
- ・外観検査 ☒ 有 ☐ 無、引張試験 ☐ 有 ☒ 無、超音波探傷試験 ☒ 有 ☐ 無
- ・圧接業者は、優良圧接会社認定のとれた圧接会社とする。
- ・上記圧接業者以外の場合、抜き取り検査率は30箇所以上を45箇所以上とする。

2-3. 提出書類及び立会い検査、試験

鉄筋の材料試験は、第三者機関で行うことを原則とする。

提出書類 ☒ 鉄筋工事施工計画書 ☒ 配筋検査チェックシート

☒ その他監督員が指示した計画書

立会検査 ☒ 配筋検査 ☐ 異形鉄筋材料試験

☐ ガス圧接工技量検定付加試験

☒ その他監督員が指示した検査、試験

(3) 型 枠 工 事

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ■ 施工はJASS5による。
- ・ 特記なき型枠を使用する場合は、監督員の承認を得ること。

■ 型枠の在置期間

セメントの種別	せ き 板		
	基礎、はり側、柱、壁		
コンクリート材料令(日)	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種	混合セメントB種
	15℃以上	2	3
	5℃以上	3	5
	0℃以上	5	8
コンクリートの圧縮強度		圧縮強度が5.0 N/mm ² 以上となるまで。	

セメントの種別	スラブ下			梁下
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種	混合セメントB種	
コンクリート材料令(日)	15℃以上	8	17	28
	5℃以上	12	25	28
	0℃以上	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		圧縮強度が設計基準強度の85%以上であり、かつ施工中の荷重及び外力について構造計算により安全であることが確認されるまで。		
		圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ施工中の強度及び外力について、構造設計により安全であることが確認されるまで。		

- ・型枠の取り外しは、型枠の最小存置期間以後に行う。
- ・片持梁、庇、バルコニーなどの片持ち部分、及び長大スパンの梁、大型スラブなどの型枠を支持する支柱、あるいは施工荷重が著しく大きい場合など支柱は、最小存置期間を28日とし、コンクリートの圧縮強度が設計基準強度の100%以上であることを確認して監督員の承認を得て取り外すこと。
- ・支柱の盛り替えは行わない。 なお、床版下、梁下のせき板は、支柱を取り外した後に取り外すこと。

- 地下部分の打ち継ぎ位置には、止水板及び、地下外壁で直接水がかかる部分については、止水セバを使用し、木コンは防水モルタルで処理すること。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
- ☒ 日本建築学会『JASS6』鉄骨精度検査基準』『鉄骨工事技術指針』
- ☒ 鋼材倶楽部『建築鉄骨工事施工指針』
- ☐

(2) 使用鋼材(使用する鋼材はすべてJIS規格品及び大臣認定品とする)

使用箇所	材質	現場溶接	備考
■ 形鋼、鋼板	☒ SS400 ☐ SN400A ☐ SN400B	☐ 有 ☒ 無	
	☐ SM400 ☐ SN490C ☐ SN490B	☐ 有 ☐ 無	
	☐ SM490A(t≤29) ☐ SM490B(t>32)	☐ 有 ☐ 無	
	☐ SM520B(t>40) (F値=325のTMCP鋼)	☐ 有 ☐ 無	
☐ 角形鋼管	☐ STKR400 ☐ STKR490	☐ 有 ☐ 無	(大臣認定品)
☐ 鋼管	☐ BCR295 ☐ BCP235 ☐ BCP325	☐ 有 ☐ 無	(大臣認定品)
☐ 鋼管	☐ STKN400 ☐ STK490 ☐	☐ 有 ☐ 無	
■ その他	☐ 高張力鋼タイロッド		(大臣認定品)
	☒ SSC400		

注記) 使用箇所の詳細は別途図示する。

- (3) 高力ボルト ☐ JISの高力ボルト (セットの種類 *2種(F10T)、)
- 特殊高力ボルト (セットの種類 *2種(S10T)、)

☐ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (セットの種類 *1種(F8T)Aに準ずる)

(4) ターンバックル

- ☐ JIS A5540による建築用ターンバックルの規格品とする。
- ターンバックル鋼 ☒ 割枠式 ☐ バイブ式
- ターンバックルボルト ☒ 羽子板ボルト ☐ アイスボルト

(5) 溶接部

5-1. 溶接接合部

- 溶接作業を行う溶接工は、JIS Z3801及びZ3841の有資格者で、監督員の承認を得たものとする。付加試験はAW検定試験要項による。但し、AW検定有資格者は付加試験を省略できる。

- 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。また、開先を痛めない様に、養生を行う。

- 接合部の溶接は下記による。

- 日本建築学会 「溶接作業規程・同解説 I～Ⅹ」
- 日本建築学会 「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

■ 溶接部の検査

- 完全溶け込み溶接部(工場溶接部)
- 外観(目視)検査 (社内: ☒ 100%、第三者: ☒ 100%、工事管理者: ☐ 100%)
- 超音波探傷試験 (社内: ☒ 100%、第三者: ☒ 30%、 ☐ 下記による検査)
- ・第三者によるUT検査 JIS 9015による。
- ☐ ロットは、各節ごとで大きさをとる。但し、溶接箇所数は300個以下で1ロットとする。
- ☐ 2回抜き取り検査「通常検査水準」で「なみ水準」とし、AQLは 4%とする。
- ☐ ロットが不合格と判定された場合は、残り全数の検査を行う。
- ☐ いずれの検査でも検出された不合格の溶接部は、すべて補強を行い、再検査する。

☐ 現場溶接部においては、原則として、全数、第三者機関により検査を行う。

5-2. ボルト接合部

- ☐ 高力ボルト摩擦面の処理は、黒皮など座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛けを用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。 但し、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面粗さが、50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルト摩擦面全面のグラインダー処理を行い、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とし、錆止め塗装は2回塗りを原則とし、種類は以下による。
- 鉛・クロムフリー錆止めペイント(1種) (JIS K5674)
- ☐ ジンクリッチプライマー (JIS K5552) ☐ シアナド鉛錆止めペイント (JIS K5625)
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7) 溶融亜鉛メッキ

- ☐ HDZ 55(JIS H8641) ☐ HDZ 35(JIS H8641)
- ☐ 素地ごしらえ JIS H8641 溶融亜鉛メッキ 作業標準による。

(8) 鉄骨制作工場

- 国土交通大臣認定工場 (R) グレード以上 ■ その他、監督員の承認する工場 推薦製作工場名()

(9) 鉄骨の精度

- 製品の精度は製品の搬入に当たり、社内検査報告書を監督員に提出した後、監督員の立ち会い検査を行い、監督員の承認を得て工事現場に搬入する。
- 製品の特記無き許容値は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」による。
- 工事現場における精度は、日本建築学会「鉄骨精度測定指針」に従い確認する。

(10) 提出書類及び立ち会い検査、試験(下記書類提出無き工事着手は一切認めない)

提出書類 ☒ 鉄骨工事施工計画書 ☒ 鉄骨製作要領書

☒ 鉄骨工事現場施工要領書 ☐ 材料規格証明書または試験成績表

☒ その他、監督員が指示した計画書

立会検査 ☒ 原寸検査 ☒ 組立・開先検査 ☒ 製品検査 ☒ 建方検査

及び試験 ☐ 溶接工技量付加試験 ☐ 鋼材材料試験

☒ その他、監督員が指示した検査、試験

工事名 図名	筑前岩屋駅舎改修工事		設計	
	構造設計標準仕様書		訂正	
一級建築士登録番号313540号 石橋 光 男	製図	承認	A3= 1:1 図番	
	株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			

配筋基準図

1. 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）5章鉄筋工事部分において特記することとしている各部配筋については、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。
このため、設計の質の確保、能率の向上及び寸法の統一を図り、あわせて積算、施工における業務の簡素化を図ることから、各部配筋を図面特記する際に必要な事項を参考図としてこの基準を示すものである。
2. 図面、特記仕様書及び配筋基準図に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」による。
3. 形状寸法の単位は特記なき限りミリメートルとする。

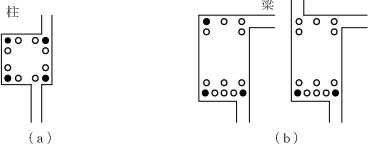
§1 鉄筋工事

1節 加工及び組立て

1.1.1 加工

鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。

- (1) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（下図(a)の●印で示す鉄筋）。
- (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（下図(b)の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。



- (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
- (4) 杭基礎のベース筋。
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

1.1.2 継手及び定着

- (a) 重ね継手は下記による。

なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

- (1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表5.3.2の重ね継手長さのうち大きい値とする。
- (2) (1)以外の鉄筋の重ね継手長さは表5.3.2による。

表 5.3.2 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L ₂ (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L₁、L₂：重ね継手長さ及びフックあり重ね継手長さ
2. フックありの場合 L₂は、図 5.3.1に示すようにフック部分θを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

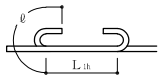


図 5.3.1

- (3) 隣合う継手の位置は、表 5.3.3による。ただし、スラブ及び壁の場合でD16以下は除く。
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には設ける場合は、特記による。

表 5.3.3 隣合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
圧接継手	圧接継手の場合	

- (b) 鉄筋の定着は下記による。
- (1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表5.3.4の定着長さのうち大きい値とする。
- (2) (1)以外の鉄筋の定着長さは、表 5.3.4による。

表 5.3.4 鉄筋の定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	フックなし			フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃	L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	L _{3h'}
SD295A SD295B	18	45d	40d		35d	30d		
	21	40d	35d		30d	25d		
	24, 27	35d	30d		25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		
SD345	18	50d	40d	10d	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d	20d	30d	25d		
	24, 27	40d	35d	150mm	30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d	以上	25d	20d		
	21	50d	40d	片持ちスラブの場合	35d	30d		
	24, 27	45d	40d	25d	35d	30d		
SD390	30, 33, 36	40d	35d		30d	25d		

- (注) 1. L₁、L₂：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの定着長さ
2. L₂、L₃：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ及びフックあり定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ
ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着長さ
5. フックあり定着の場合は、図 5.3.2に示すようにフック部分θを含まない。
また、中間部での折り曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

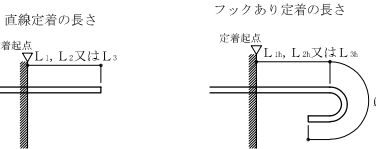


図 5.3.2 直線定着

- (3) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さsが、表 5.3.4のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を表 5.3.4に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表 5.3.5に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいりの3/4倍以上）をのみ込ませる。
小梁でL_{2h}が確保できない場合は、取り付く部材巾の 3/4以上をのみ込ませる。

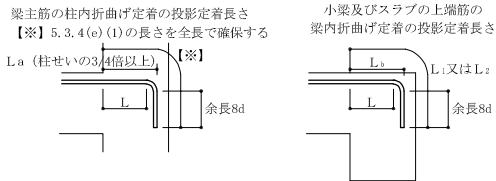


図 5.3.3 折曲げ定着

表 5.3.5 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L ₁	L ₂
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L₁：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L₂：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (c) 溶接金網の継手及び定着は、図 5.3.4による。

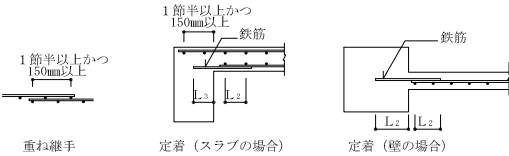


図 5.3.4

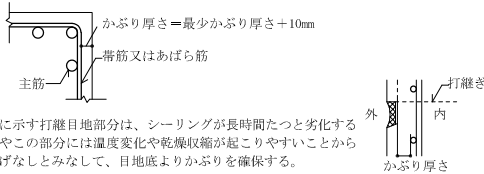
1.1.3 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表 5.3.6による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

表 5.3.6 鉄筋の最小かぶり厚さ

構 造 部 分 の 種 別			最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱	屋 内	仕上げあり 30
		屋 内	仕上げなし 30
	耐 力 壁	屋 内	仕上げあり 30
		屋 外	仕上げなし 40
	擁壁、耐圧スラブ		40
	土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	
基礎、擁壁、耐圧スラブ		*60	
煙突等高熱を受ける部分			60

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
6. 柱、梁筋のかぶりは、下図のように主筋の外周りを包んでいる帯筋、あばら筋の一番外側から測定する。



- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- (d) 鉄筋相互のあきは図 5.3.6により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。
- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値d）の1.5倍

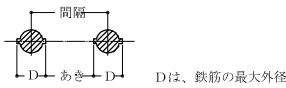


図 5.3.6

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と並行する鉄骨とのあきは（d）による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは（c）による。
- (g) スペーサーの個数は、下表を標準とする。また、スラブ下端筋の梁頭は、かぶり厚さが足りなくなることが多いので注意する。

部位	床版	壁	梁	柱
個数	上端：1.2個/m ² 程度 下端：1.2個/m ² 程度	通常の階高では 高さ方向2段、 横1.2m以内ごと	側面、底面とも 2mに1ヶ所	通常の階高では 高さ方向2段、 1辺当り2箇所

- (h) スラブのスペーサーは原則として鋼製とする。
- (i) 鉄筋継手部分及び交差部の要所を0.8mm以上の鉄線で結束する。
交差する鉄筋相互の結束は帯筋、あばら筋では四隅の交点で全数、その他の交点で半数以上、スラブ、壁では交点の半数以上を標準とする。
半数とする箇所、鉄筋の間隔が狭い場合には400mmを超えない範囲で結束すればよい。
- (j) 鉄筋径別、継手、定着長さは下表による。

定着早見表

径	5d	15d	25d	30d	35d	40d	45d
D10	50	150	250	300	350	400	450
D13	65	195	325	390	455	520	585
D16	80	240	400	480	560	640	720
D19	95	285	475	570	665	760	855
D22	110	330	550	660	770	880	990
D25	125	375	625	750	875	1,000	1,125
D29	145	435	725	870	1,015	1,160	1,305
D32	160	480	800	960	1,120	1,280	1,440

§2 各部配筋

1節 基礎及び基礎梁の配筋

2.1.1 直接基礎

【直接基礎の配筋 ・各部配筋参考図 1.1による ・図示】

- (a) 独立基礎

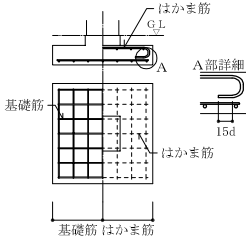


図 1.1

- (b) 連続基礎

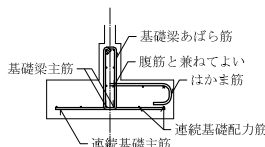
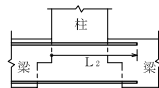


図 1.2

2.1.2 基礎梁

【基礎梁主筋の継手、定着及び余長 ◎各部配筋参考図1.4～1.6による ・図示】

- (a) 一般事項
- (1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図 1.4による。
- (2) 梁筋が柱内に定着する場合は、2.3.1(a) (2)による。



2 節 柱の配筋

2.2.1 柱

【柱主筋の継手、定着及び余長 ◎ 下記による ・ 図示 】

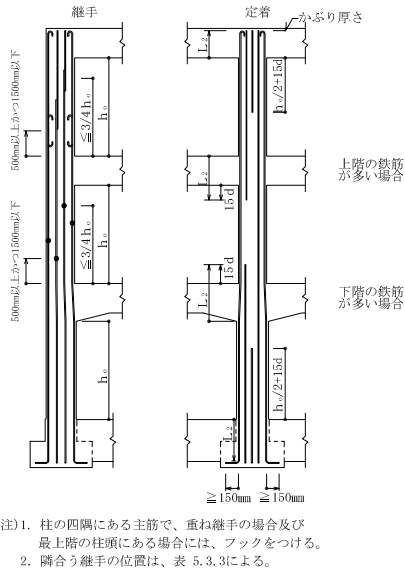


図 2.1

2.2.2 帯筋

【帯筋の割付け ・ 下記による ◎ 図示 】

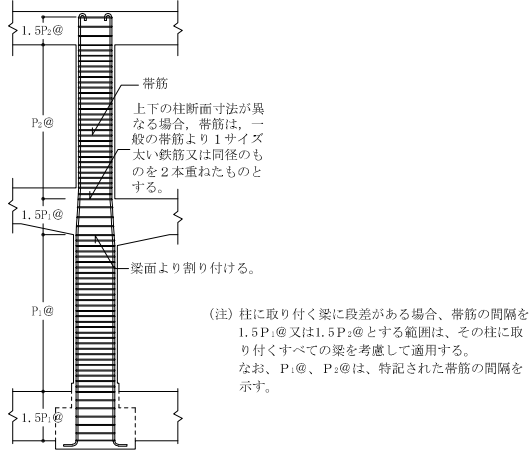


図 2.3

3 節 梁の配筋

2.3.1 大梁主筋の継手、定着及び余長

【大梁主筋の継手、定着及び余長 ◎ 下記による ・ 図示 】

- (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
- 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。
 - ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は図 3.1による。

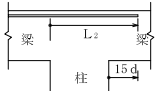


図 3.1

(注) 上階に柱がある場合の定着長さは L_e とし、 $15d$ は省略できる。

- 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、1.1.2[継手及び定着](b) (3)による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。
- 段違い梁は、図 3.2による。

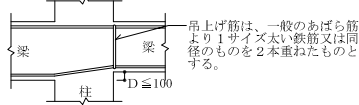


図 3.2

- (b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長図 3.3による。

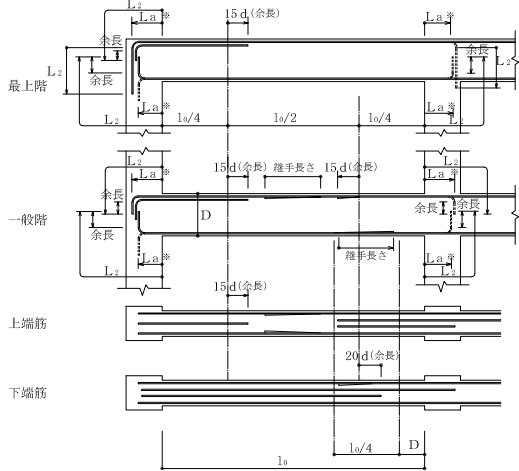


図 3.3

- (注) 1. 継手中心位置は次による。
上端筋：中央 $l_o/2$ 以内
下端筋：柱面から梁せい (D) 以上離し、 $l_o/4$ を加えた範囲
2. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁は除く) はフックをつける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着を示す。
※ L_{a*} の数値は、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

- (c) ハンチのある場合の定着は、図3.4による。

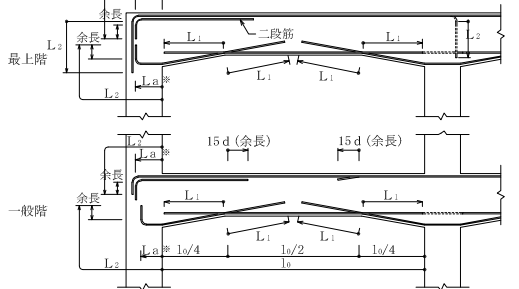


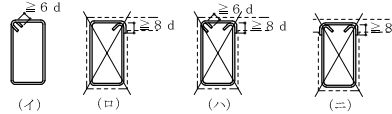
図 3.4

- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁は除く) はフックをつける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
※ L_{a*} の数値は、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

2.3.2 あばら筋等

【あばら筋の組立の形及び割付け等 ◎ 下記による ・ 図示 】

- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置



- (イ)の形を標準とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく側 T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床版のつく側を 90° 折曲げとする。

- (b) あばら筋の割付け
- 間隔が一様で、ハンチのない場合は、図 3.6による。

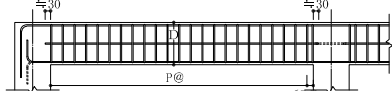


図 3.6

- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中の P_e は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

- 間隔が一様で、ハンチのある場合は、図 3.7による。



図 3.7

- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中の P_e は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

- 梁の端部で間隔の異なる場合は、図 3.8による。

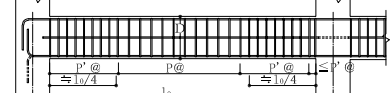


図 3.8

- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中の P_e 、 P'_e は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

- (d) 腹筋及び幅止め筋

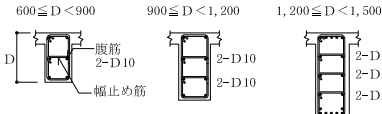


図 3.9

- 腹筋に継手を設ける場合の継手の長さは、 $150mm$ 程度とする。
- 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、 $D10-1,000$ 程度とする。

2.3.3 小梁

【小梁主筋の継手、定着及び余長 ◎ 下記による ・ 図示 】

- (a) 連続小梁の場合

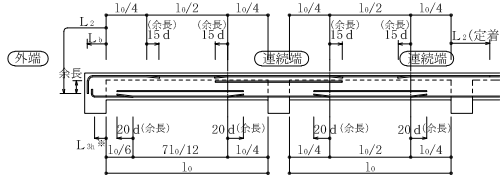


図 3.11

- (b) 単独小梁の場合

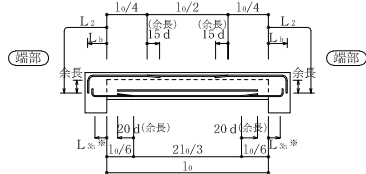


図 3.12

- (注) 1. 印は、継手及び余長位置を示す。
2. 梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示にない事項は、2.1.2及び 2.3.1による。
※ L_{a*} を確保できない場合は、標仕 5.3.4(e) (3)による。

2.3.4 片持ち梁

【片持ち梁主筋の定着及び余長 ◎ 下記による ・ 図示 】

- (a) 先端に小梁のない場合

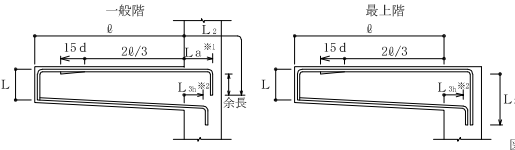
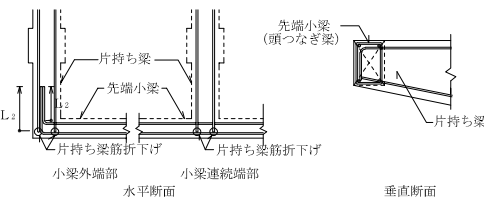


図 3.13

- (注) 1. 図示のない事項は、2.3.1による。
2. 印は余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さ L は、梁せいからかり厚さを除いた長さとする。
※1 L_{a*} の数値は柱せいの $3/4$ 倍以上とする。
※2 L_{a*} を確保できない場合は、標仕 5.3.4(e) (3)による。

- (b) 先端に小梁がある場合



- (注) 1. 図示のない場合は、(a)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図 3.14

4 節 壁、その他の配筋

2.4.1 壁の継手及び定着

【壁の継手及び定着 ◎ 下記による ・ 図示 】

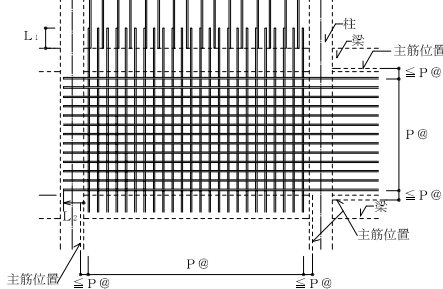


図 4.1

- (注) 1. 図中の P_e は、図示された壁筋の間隔を示す。
2. 壁配筋の重ね継手は L_e 、定着長さは L_e とする。
3. 幅止め筋は、縦横とも $D10-1,000$ 程度とする。

2.4.2 壁の交差部及び端部の配筋

【壁の交差部及び端部の配筋 ・ 下記による ◎ 図示 】

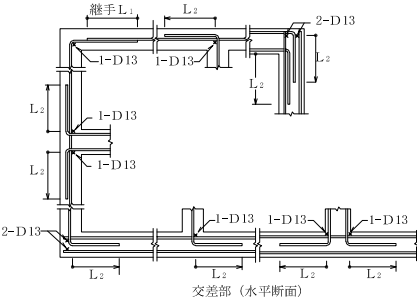


図 4.2

2.4.3 壁の補強

【壁の開口部補強 ・ 下記による ◎ 図示 】

- (a) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表 4.3、B形は表 4.4とする。

壁の種類	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

壁の種類	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

- (b) 壁開口部補強筋の定着長さは、図 4.3による。

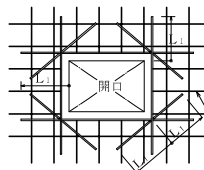


図 4.3

- (c) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることににより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

2.4.4 パラペット

【パラペットの配筋 ・ 下記による ◎ 図示 】

表 4.5		先端補強筋
コンクリート厚さ	方向 配筋	
特記による	縦	$D10-150$ ダブル
	横	$D10-150$ ダブル

鉄骨構造標準図 (1)

S2 溶接接合

2-1) 溶接接合

(a) 溶接工

溶接工は溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術試験に合格し、引継ぎ半年以上溶接に従事しているものとする。

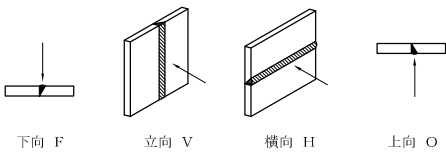
(b) 溶接機器

- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A
(ロ) ガスシールドアーク半自動溶接機 500A
(ハ) セルフシールドアーク半自動溶接機 500A
(ニ) サブマージアーク溶接機一式 1,000A
(ホ) アークエアーガウジング機(直流) 600A～800A
(ヘ) 溶接棒乾燥器
(ト) 溶接電流を測定する電流計

(c) 溶接方法

- アーク手溶接 (MC)
ガスシールドアーク溶接 (GC)
セルフシールドアーク溶接 (SGC)
サブマージアーク溶接 (SAC)
アークエアーガウジング (AAG)

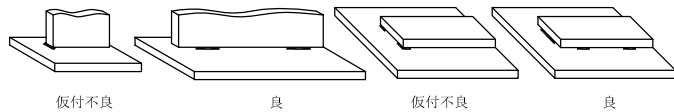
(d) 溶接姿勢



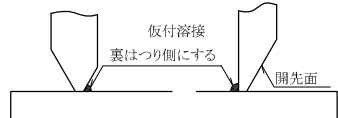
(e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事するものが行う

(イ) 仮付位置

仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



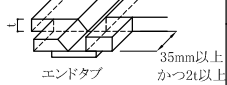
(ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(f) 溶接施工

(イ) エンドタブ

- I) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
III) エンドタブの長さは、MC:35mm以上
NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする



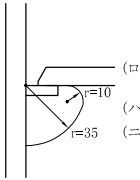
(ロ) 裏当て金

材質は、母材と同質とする

(ハ) スカーラップ 左図

(ニ) 裏はつり

基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を履行し、部材に確認マークをつける



スカーラップ要領 (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう

5) 塗装

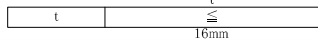
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2-2) 溶接基準図 (注) f:余盛り G:ルート間隔 R:フェース S:サイズ S1・S2:補強すみ肉のサイズ

(1) スミ肉溶接



$S=0.8t$
但し片面溶接の場合は
 $S=t$ とする
tはt1,t2の小なる方とする
 $0 \leq f \leq 0.4S$ かつ4mm



2) 突合せ溶接 (i) 平継手



$0.5 \leq f \leq 3$
 $G=t/2, (t/3)$

姿勢	F, H, V, O
方法	MC, GC, SGC, AAG, ()内はGC, SGC



ビード巾B	余盛り f
$B < 15$	$0.5 \leq f \leq 3$
$15 \leq B < 25$	$0.5 \leq f \leq 4$
$B \geq 25$	$0.5 \leq f \leq 4B$

MC, GC, SGC, AAG				SAC, AAG			
tmm	θ	G	R	θ	G	R	θ
$6 \leq t < 16$	45°	0	2	60°			
$12 \leq t < 19$					0	8	60°
溶接姿勢	F, H, V, O			F			



f:③に準ず*

	MC,GC,SGC				SAC			
tmm	θ	G	t ₁	L	θ	G	t ₁	L
$6 < t < 12$	45°	6	6	5				
$9 \leq t \leq 19$					30°	10	6	5
$12 \leq t$	35°	9	6	5				
$t > 19$	35°	9	9	8	30°	10	9	8
溶接姿勢	F,H,V,O				F			



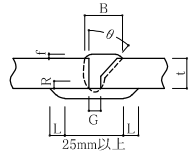
f:③に準ず*

MC, GC, SGC, AAG				SAC, AAG			
tmm	G	R	θ	G	R	θ	
$16 > t \geq 6$	0	2	45°				
$19 > t \geq 12$				0	6	50°	
姿勢	F, H, V, O			F			



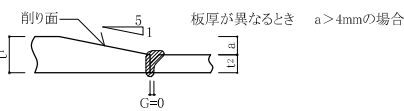
f1・f2:③に準ず*

	MC,GC,SGC,AAG						SAC,AAG					
tmm	G	R	D ₁	D ₂	θ ₁	θ ₂	G	R	D ₁	D ₂	θ ₁	θ ₂
t≥16	0	2	$\frac{1}{2}(t-R)$	$\frac{1}{2}(t-R)$	45°	60°						
t≥19							0	6	$\frac{1}{2}(t-R)$	$\frac{1}{2}(t-R)$	50°	60°
姿 勢	F,H,V,O						F					



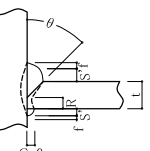
f:③に準ず*

	MC,G,C,SGC				SAC			
tmm	θ	G	t ₁	L	θ	G	t ₁	L
6<t<12	45°	6	6	5				
12≤t≤19	35°	9	6	5				
9≤t≤19					30°	10	6	5
t>19	35°	9	9	8	30°	10	9	8
溶接姿勢	F,H,V,O				F			
備 考								



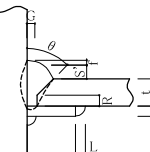
板厚が異なるとき a>4mmの場合

(ii) T形継手



$0 \leq f \leq 7$

	MC,GC,SGC,AAG			SAC,AAG		
tmm	R	θ	S'	R	θ	S'
$6 \leq t < 16$	2	45°	t/4			
$9 \leq t < 19$				6	60°	t/4
溶接姿勢	F,H,V,O			F		
備 考	S':補強すみ肉溶接 t/4($t \leq 40$)					



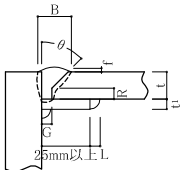
$0 \leq f \leq 7$

	MC,GC,SGC				SAC			
tmm	θ	G	t ₁	L	θ	G	t ₁	L
6≦t<12	45°	6	6	5				
9≦t<16					30°	10	6	5
12≦t<16	35°	9	6	5				
16≦t	35°	9	9	8	30°	10	9	8
溶接姿勢	F,H,V,O				F			
備考	S':補強すみ肉溶接 t≦40の場合t/4							

$0 \leq f \leq 7$

S':補強すみ肉溶接
 $t \leq 40$ の場合 $S'=t/4$
 $t > 40$ の場合 $S'=10\text{mm}$

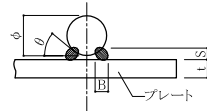
	MC,GC,SGC,AAG						SAC,AAG					
tmm	G	R	D ₁	D ₂	θ ₁	θ ₂	G	R	D ₁	D ₂	θ ₁	θ ₂
t≥16	0	2	$\frac{1}{2}(t-R)$	$\frac{1}{2}(t-R)$	45°	60°						
t≥19							0	6	$\frac{1}{2}(t-R)$	$\frac{1}{2}(t-R)$	50°	60°
溶接姿勢	F.H.V.O						F					



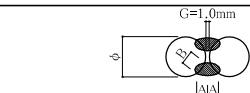
ビード巾B	余盛り f
$B < 15$	$0.5 \leq f \leq 3$
$15 \leq B < 25$	$0.5 \leq f \leq 4$
$25 \leq B$	$0.5 \leq f \leq 4B$

	MC,GC,SGC				
tmm	G	R	θ	t ₁	L
12≤t<16	9	2	35°	6	5
t≤16	9	2	35°	9	8
溶接姿勢	F,H,V,O				

(iii) フレアー溶接



寸法(mm)			備考
φ	B	S	・フレアー溶接長は、銅板に接する全長とする ・9mm～16mmは1/8以上 19mm以上は2/8以上とする 溶接棒角度 θは30°～40°とする
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	



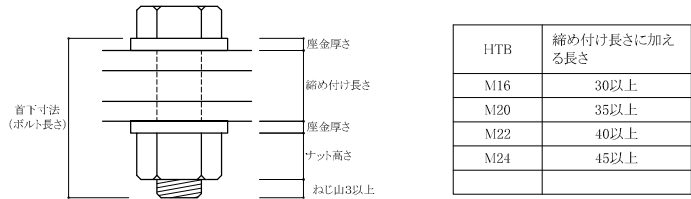
寸法(mm)			備考
φ	L	B	・片面フレアー溶接(V形)の場合もこれに準ずる ・余盛りは1.5mm未満とする ・径の異なる寸法差は≤4mmとする
9	6	4	
13	7	5	
16	8	6	
19	9	7	
22	10	8	

鉄骨構造標準図 (2)

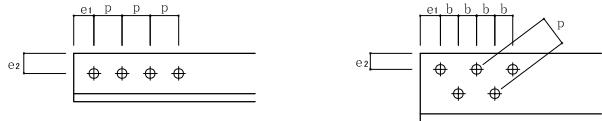
§3 継手

ボルト接合

・トルクコントロールボルトの場合は、メーカーの規格による。

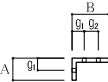
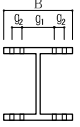


・HTBはすべてS10Tを使用し、スベリ係数は0.45とする。
・ボルト接合面の処理
締め付け摩擦面は母材に於いては平グラインダー掛け、スプライスプレートに於いてはショット掛けを行ない、黒皮を除去し一様に赤さびを生じさせる。



呼び径		M16	M20	M22	M24	
孔径		17.0	21.5	23.5	25.5	
ピッチ	標準	60	70	80	90	
	最小	60	60	60	60	
はしあき		e ₁ 35(40)	40(50)	45(55)	50(60)	
へりあき		e ₂ 25	30	35	40	

・()内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

											
A or B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₃	最大軸径	
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16	
60	35		16	125	75		16	65	35	20	
65	35		20	150	90		22	70	40	20	
70	40		20	175	105		22	75	40	22	
75	40		22	200	120		24	80	45	22	
80	45		22	250	150		24	90	50	24	
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24	
100	55		24	350	140	70	24				
125	50	35	24	400	140	90	24				
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

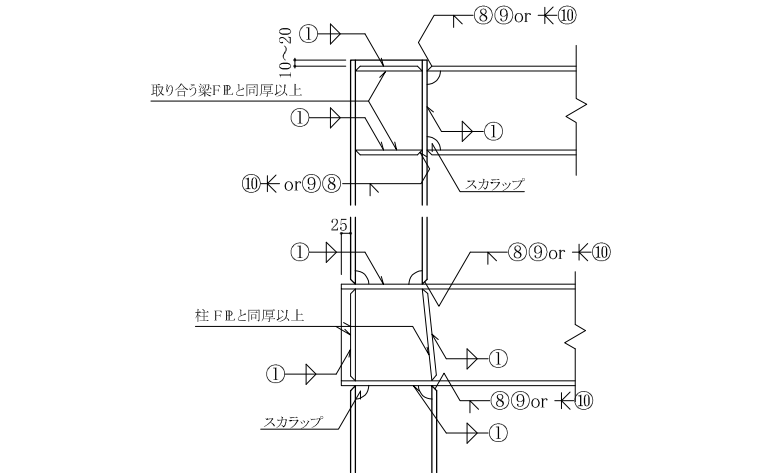
*B=300は千鳥打ちとする。

**印の欄の g および最大軸径の値は強度上支障がないとき
最小縁距距離の規定にかかわらず用いることができる。

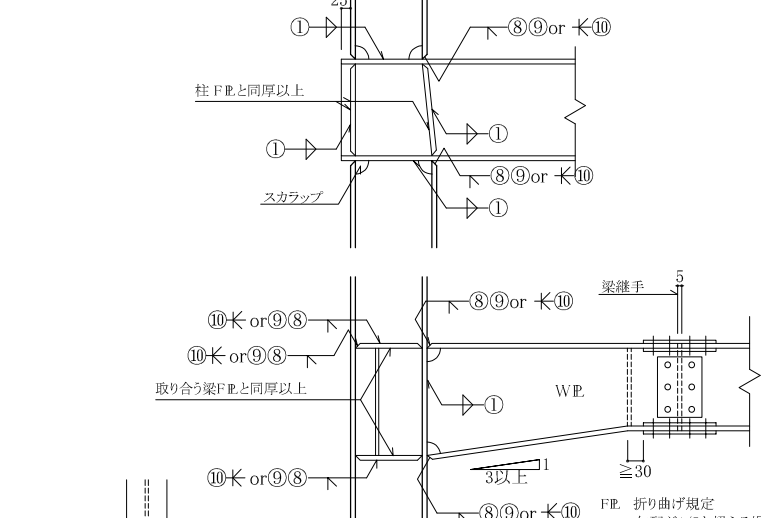
鉄骨構造標準図 (3)

§ 4 H型鋼柱梁接合部

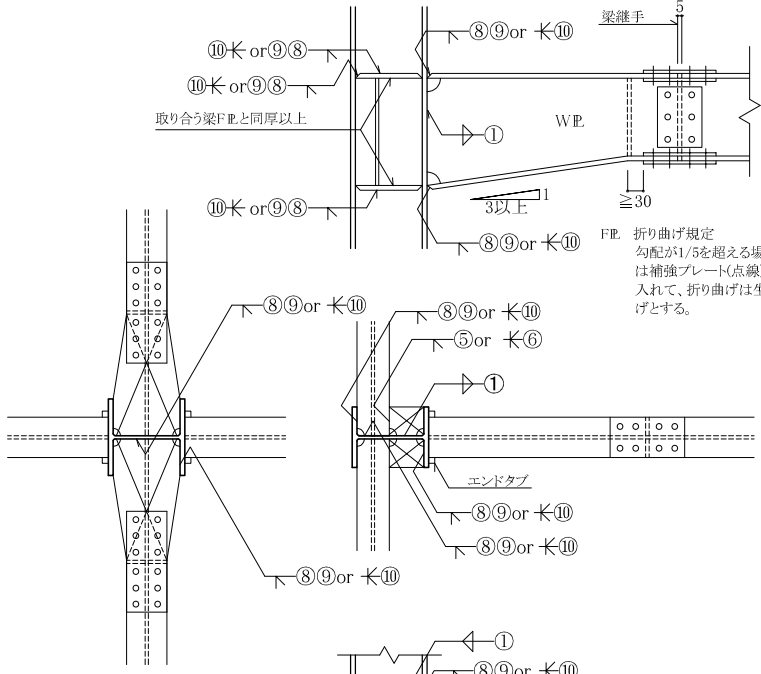
4-1
柱 通 し



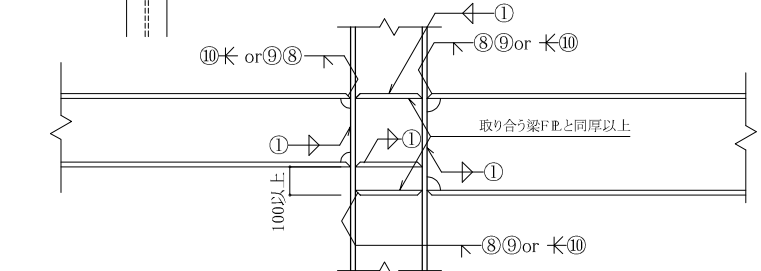
4-2
梁 通 し



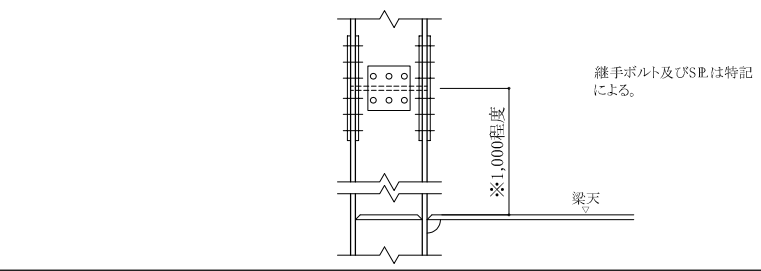
4-3
雑 仕 様



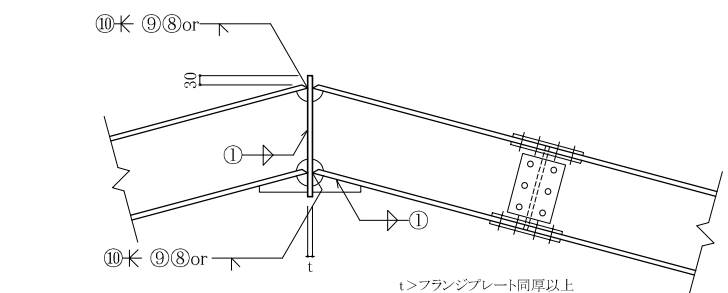
4-4
梁 段 差



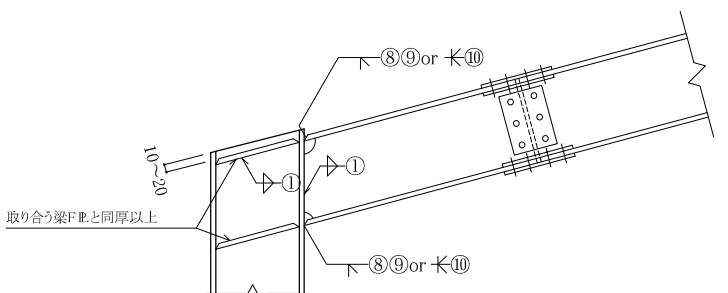
4-5
柱継手位置



4-6
勾配屋根
棟部

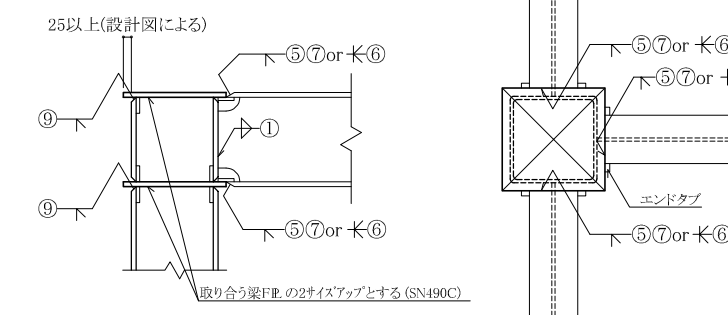


4-7
軒 部

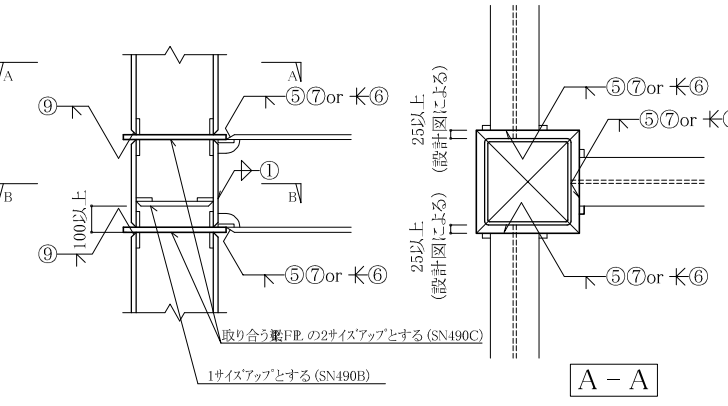


§ 5 角型鋼管柱梁接合部

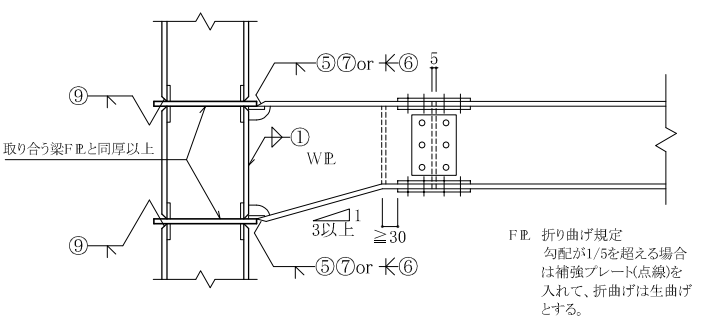
5-1
柱 頭



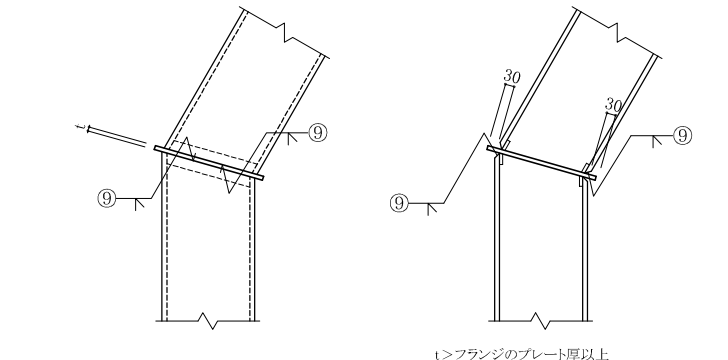
5-2
一般階接合部
(直交方向の
梁成が異なる
場合)



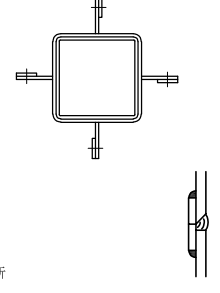
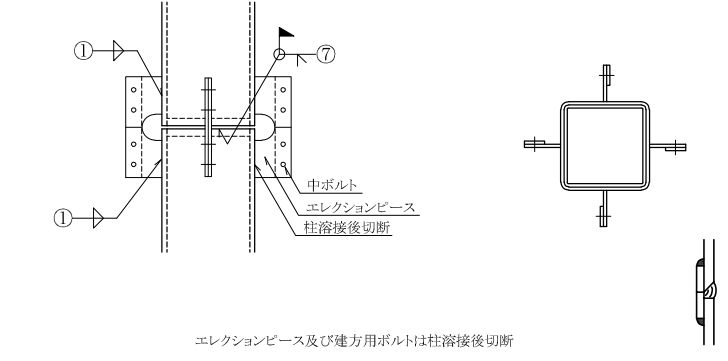
5-3
一般階接合部
(梁端にテーパ
を設ける場合)



5-4
柱が途中で折
れ曲る場合



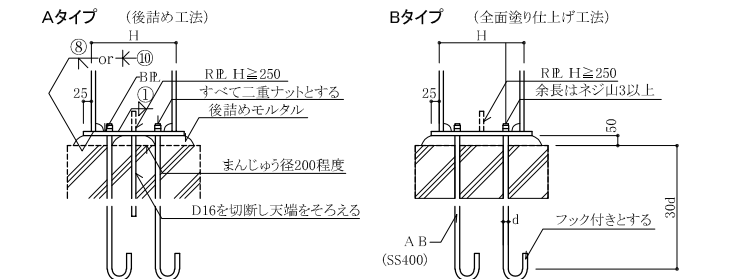
5-5
現場溶接継手



鉄骨構造標準図 (4)

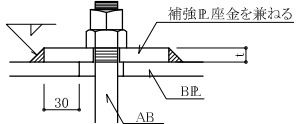
6-1
柱脚ピン

§6 柱 脚

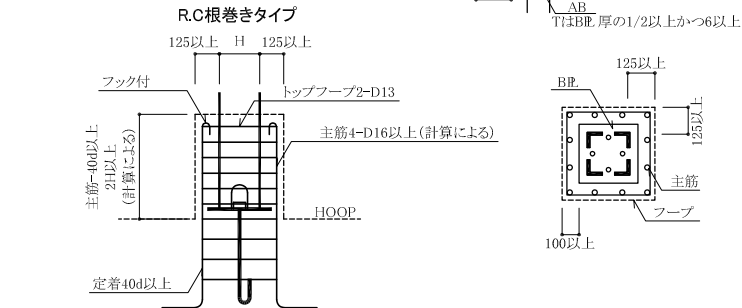


- ・コンクリート表面のレイタンス等を取り除いた後、調合(容積比)セメント1:砂1の堅練りモルタルを平に塗り仕上げる。
- ・モルタルを後詰めする場合は空隙の出来ないように充填する。
- ・アンカーフレームを使用する場合は設計図書による。

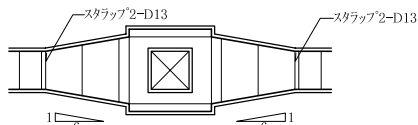
アンカーボルトの施工に誤差がある場合



6-2
柱脚固定

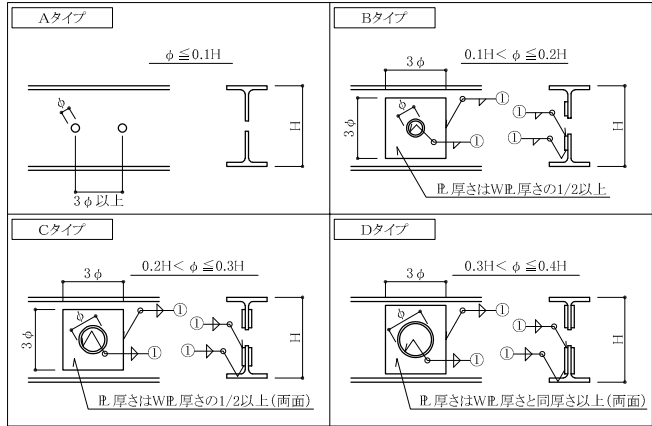


柱脚埋込み形式の時の水平ハンチ

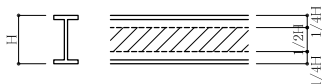


§7 雑 廻 り

7-1
貫通補強



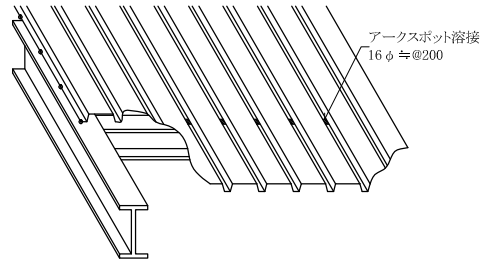
特記なき限り補強方法は上図によるが、穴径φは、0.4H以下とし、そのピッチは3φ以上とする。



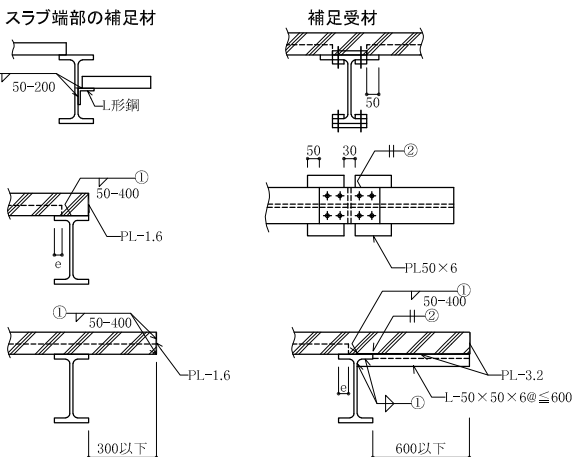
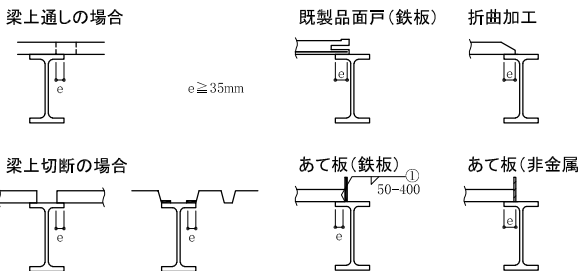
スリーブは梁成の中央の1/2の範囲とする。

7-2
デッキプレート

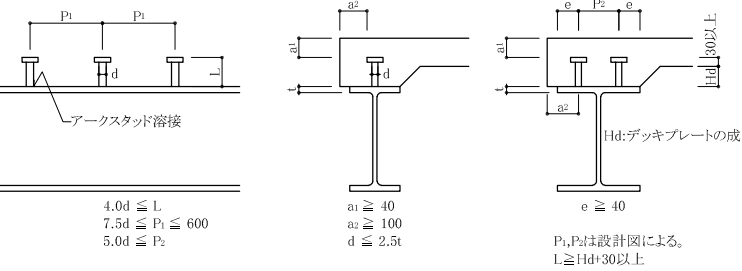
梁との溶接及びコネクター



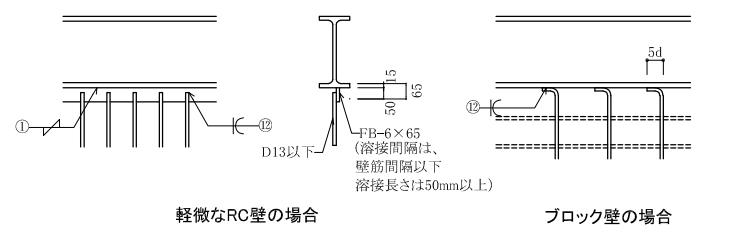
受け梁へのかかり寸法及び端部処理



7-3
頭付きスタッド

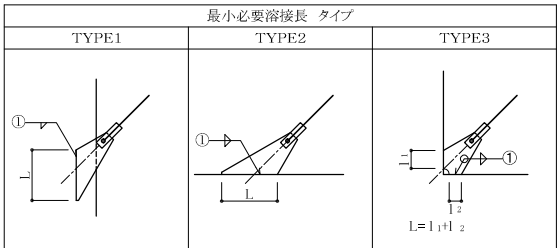


7-4
壁筋の溶接

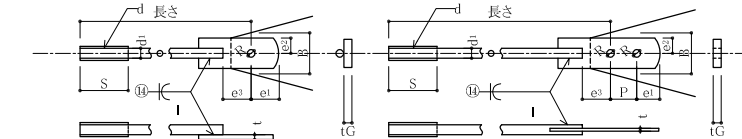


8-1
丸鋼筋違

§8 筋 違 材



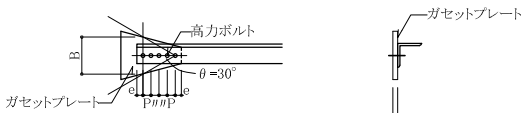
GEを突合わせ溶接とする場合は、設計図による。



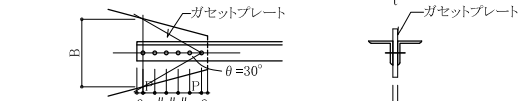
ねじの呼び(d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
G.P.	厚 さ tG	6	6	9	9	9	9	12
	必 要 幅 B	60	70	75	85	85	85	100
	最小必要溶接長 (L)	60	60	60	80	80	80	100
羽子板	はしあき(最小) (2) e1	40	40	45	50	50	55	50
	へりあき(最小)(1) e2	25	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	6	6	6	9	9	9	9
	ボルト端から取付ボルト穴芯のあき(最小) e3	52	52	59	66	66	73	70
	溶 接 長 さ (最小) l	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト(S10T)又は JIS B 1180 中 8 g 10.9						
	ねじの呼び	M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

注(1)e1,e2が確保されれば形状は自由でよい。
(2)羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。

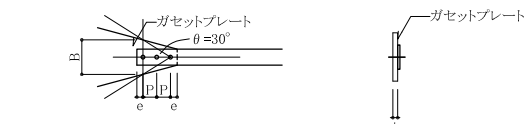
8-2
山 形 鋼
(シングル)



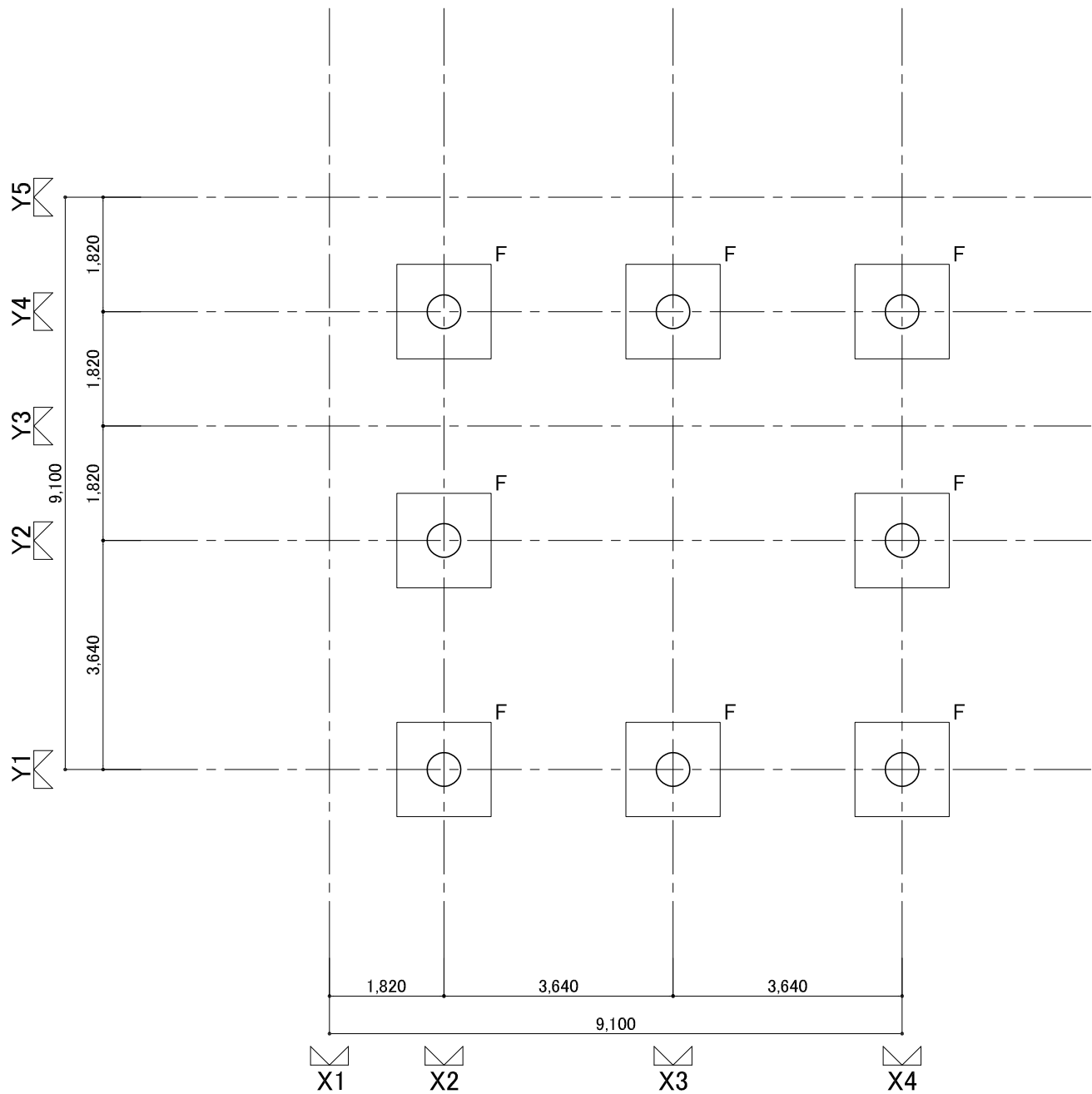
8-3
山 形 鋼
(ダブル)



8-4
平 鋼

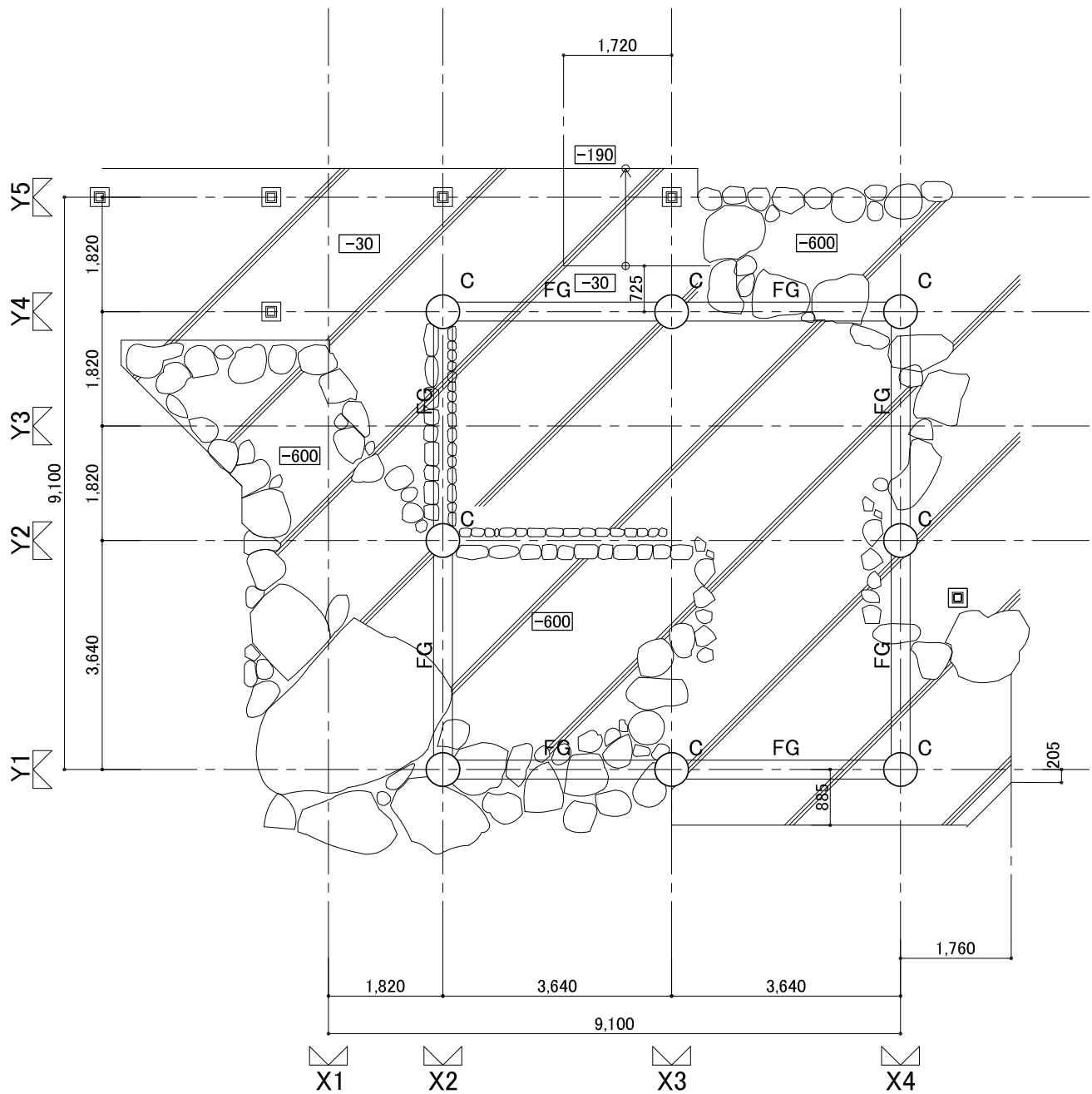


サ イ ズ	ガセットプレート t × B	e	P	高力ボルト	必要溶接長(L)
	×			—	
	×			—	
	×			—	
	×			—	
	×			—	
	×			—	



基礎伏図 S=1:100

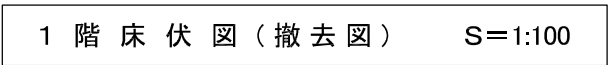
(註)特記ナキ限り	
基礎底レベル	Z0(設計GL)-1,500



1階床伏図 (現況) S=1:100

(註)特記ナキ限り	
地中梁天端レベル	Z1-750(=GL-600)
▨ は既存床版(ベタ基礎)を示す	
ベタ基礎天端レベル	Z1-30(=GL+110)
±○ はZ1からのベタ基礎天端レベルを示す	

改修前	
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事
図名	【改修前】基礎伏図・1階床伏図(現況)
一級建築士登録番号	313540号
石橋光男	
設計	訂正
製図	承認
図番	S-09
株式会社 環・設計工房	



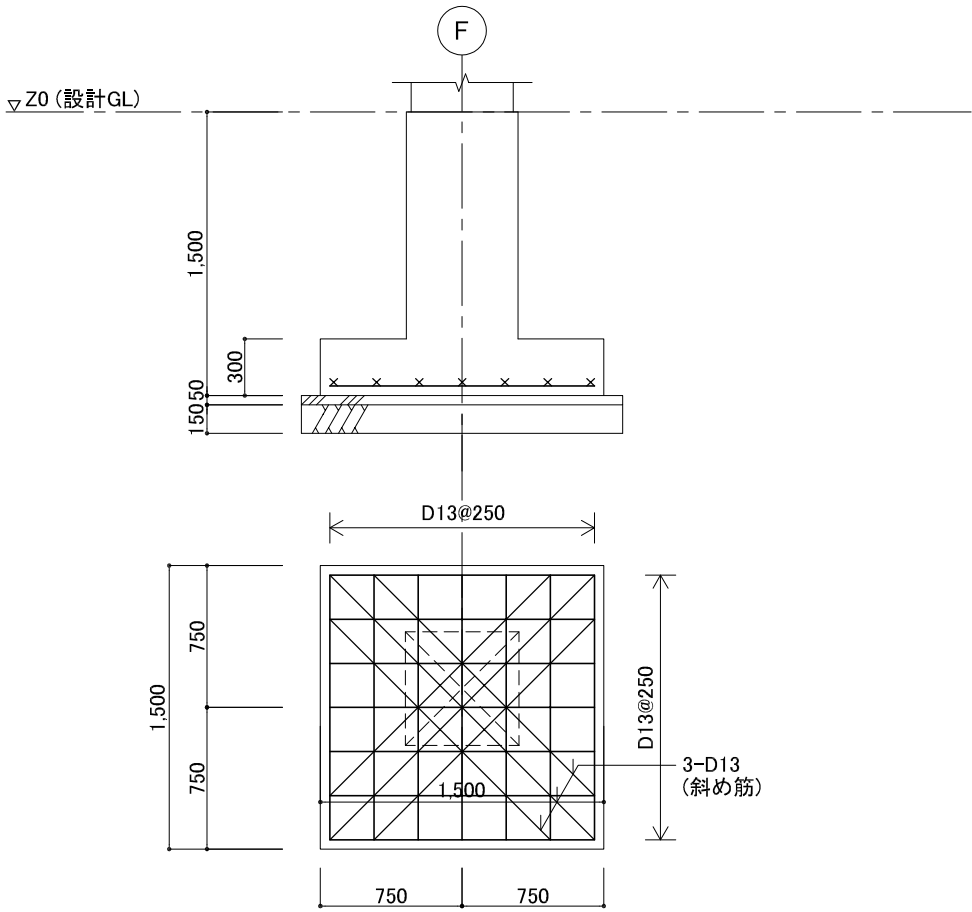
(註) 特記ナキ限り	
地中梁天端レベル	Z1-750(=GL-600)
 は既存床版(ベタ基礎)を示す	
ベタ基礎天端レベル	Z1-30(=GL+110)
 はZ1からのベタ基礎天端レベルを示す	
 は撤去範囲(床版, 山石)	



(註)特記ナキ限り	
スラブ天端レベル	Z2±0
梁天端レベル	Z2±0

工事名	筑前岩屋駅改修工事		設計	
図名	【改修前】 1 階床伏図(撤去図)・2 階床伏図		訂正	
			縮尺	A3=1:100
一級建築士登録番号313540号 石橋光男			製図	監製
株 式 会 社			環・設 計 工 房	S-10

基礎リスト



床版リスト

符 号	版 厚	位 置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備 考
ベタ 基礎	180	上端筋	D10 @250 シングル	D10 @250 シングル	意匠図 駅舎矩計図に記載
		下端筋			

地中梁、梁リスト

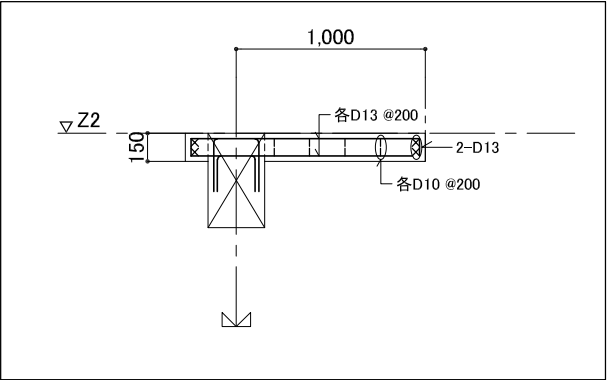
(註)特記ナキ限り 巾止メ筋 D10 @1,000以下

符 号	FG	G
位 置	全断面	全断面
巾 X 成	300 X 600	300 X 500
断 面		
上端筋	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19
スタラップ	D10@200	D10@200
腹 筋	2-D10	—

柱 リ ス ト S=1/40

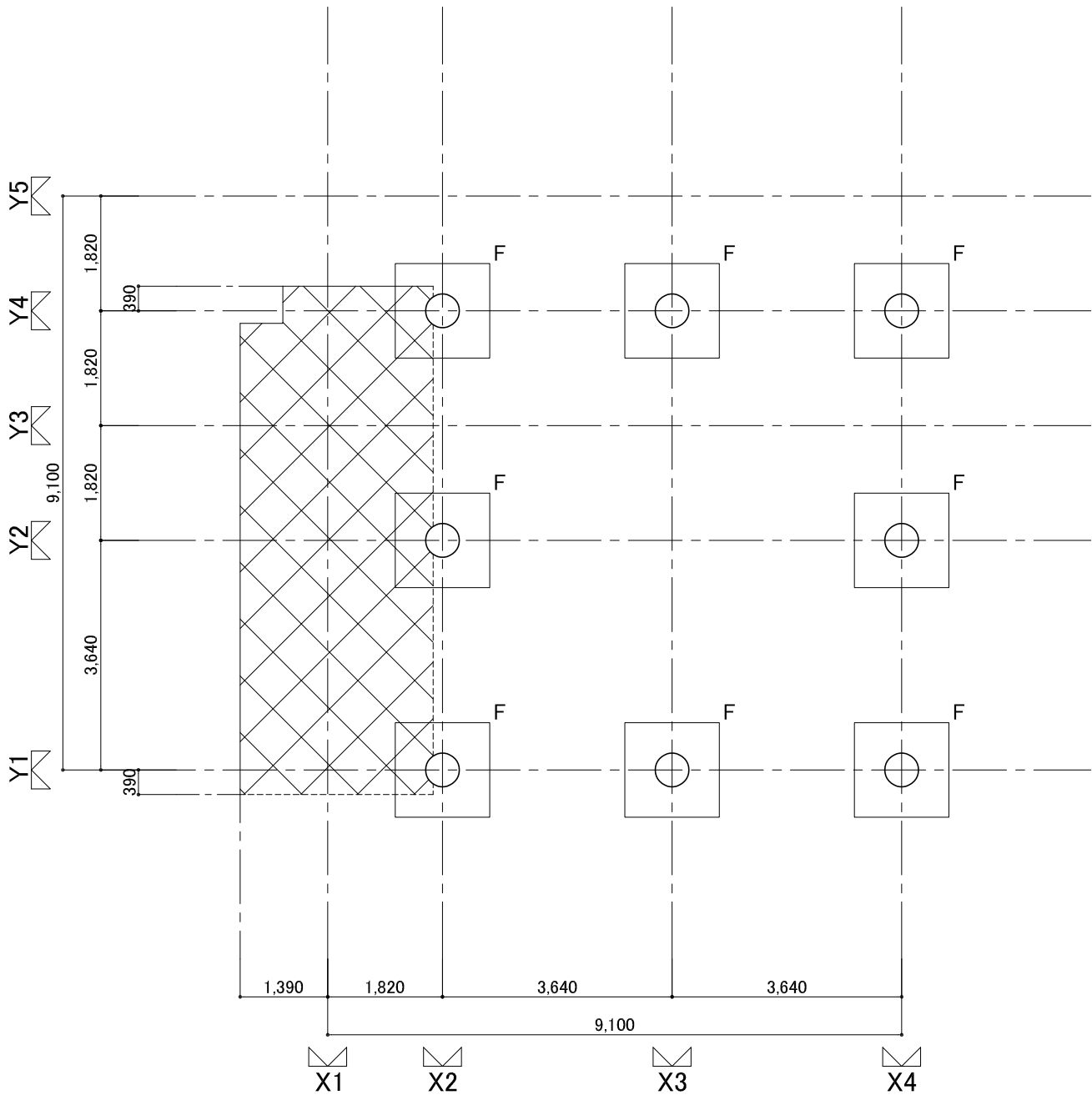
1 階	符 号	C1
	断 面	
	柱 径	540φ
	主 筋	6-D19
	フープ	D10 @100

ス ラ ブ 配 筋 図 S=1/40



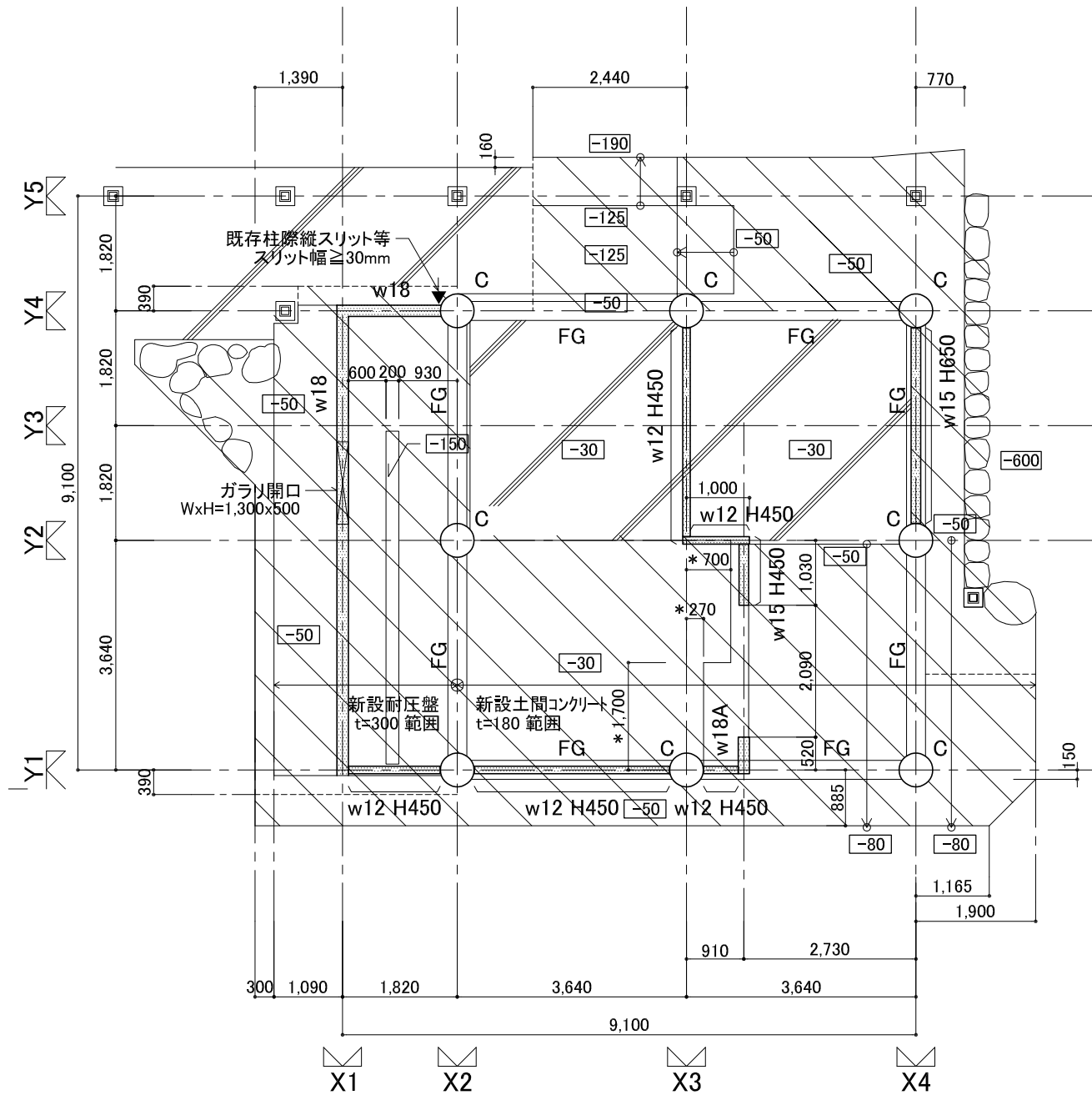
改修前

工 事 名	筑前岩屋駅舎改修工事		設 計	
	【改修前】既存RC部材リスト		訂 正	
図 名			縮 尺	A3=1:40
一級建築士登録番号 石 橋 光 男	313540号		製 図	承認
				図番
株 式 会 社		環 ・ 設 計 工 房		
		S-12		



基礎伏図 S=1:100

(註)特記ナキ限り
基礎底レベル Z0(設計GL)-1,500
は浅層改良範囲を示す

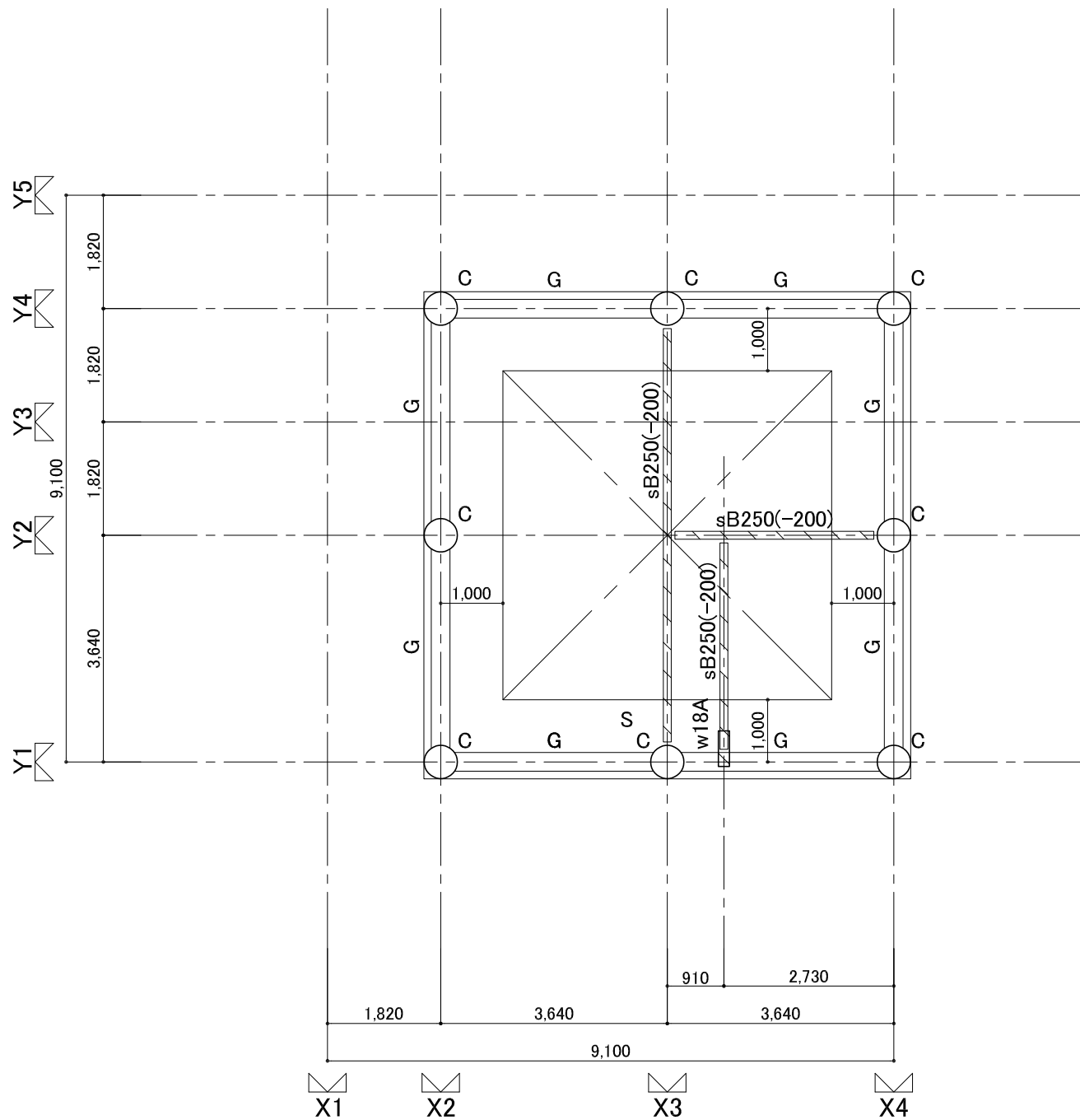


1階床伏図 S=1:100

(註)特記ナキ限り
地中梁天端レベル Z1-750(=GL-600)
は既存床版(ベタ基礎)を示す
床コンクリート天端レベル Z1-30(=GL+110)
はZ1からの床コンクリート天端レベルを示す
は新設範囲(耐圧盤、土間コンクリート、
w18、w12、w18A、山石)示す

改修後

工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】基礎伏図・1階床伏図	訂正	
一級建築士登録番号	313540号	縮尺	A3=1:100
石橋 光 男		製図	
		承認	
		監査	
			S-13
株式会社 環・設計工房			

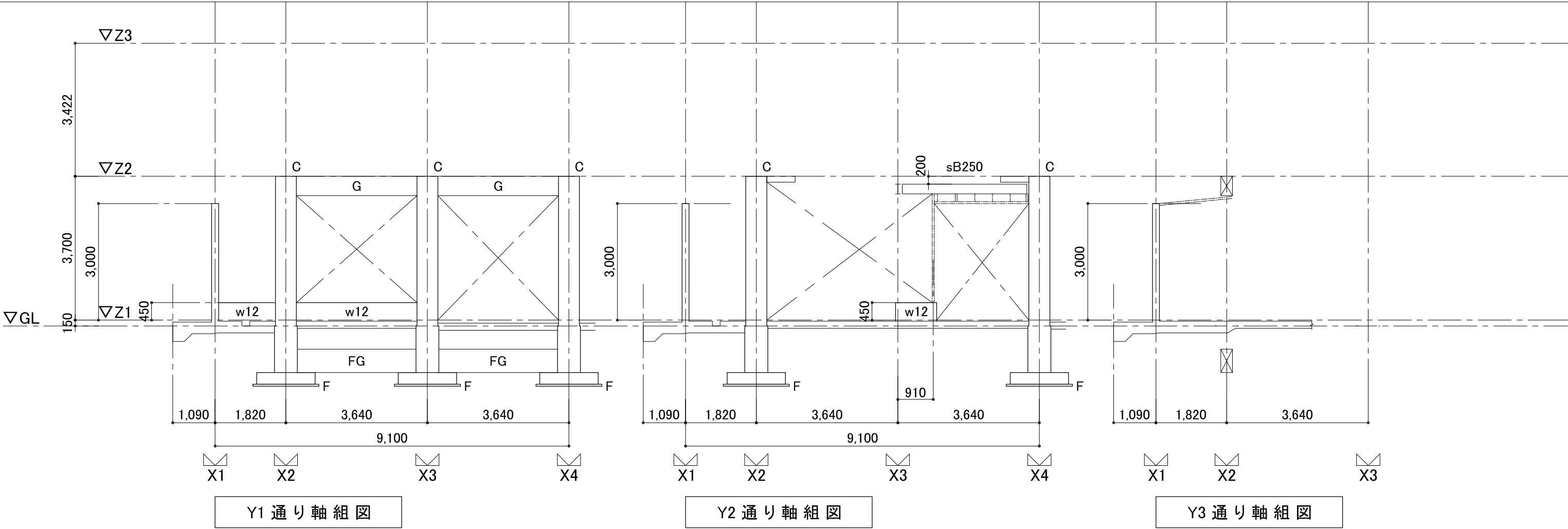


2 階 床 伏 図 S=1:100

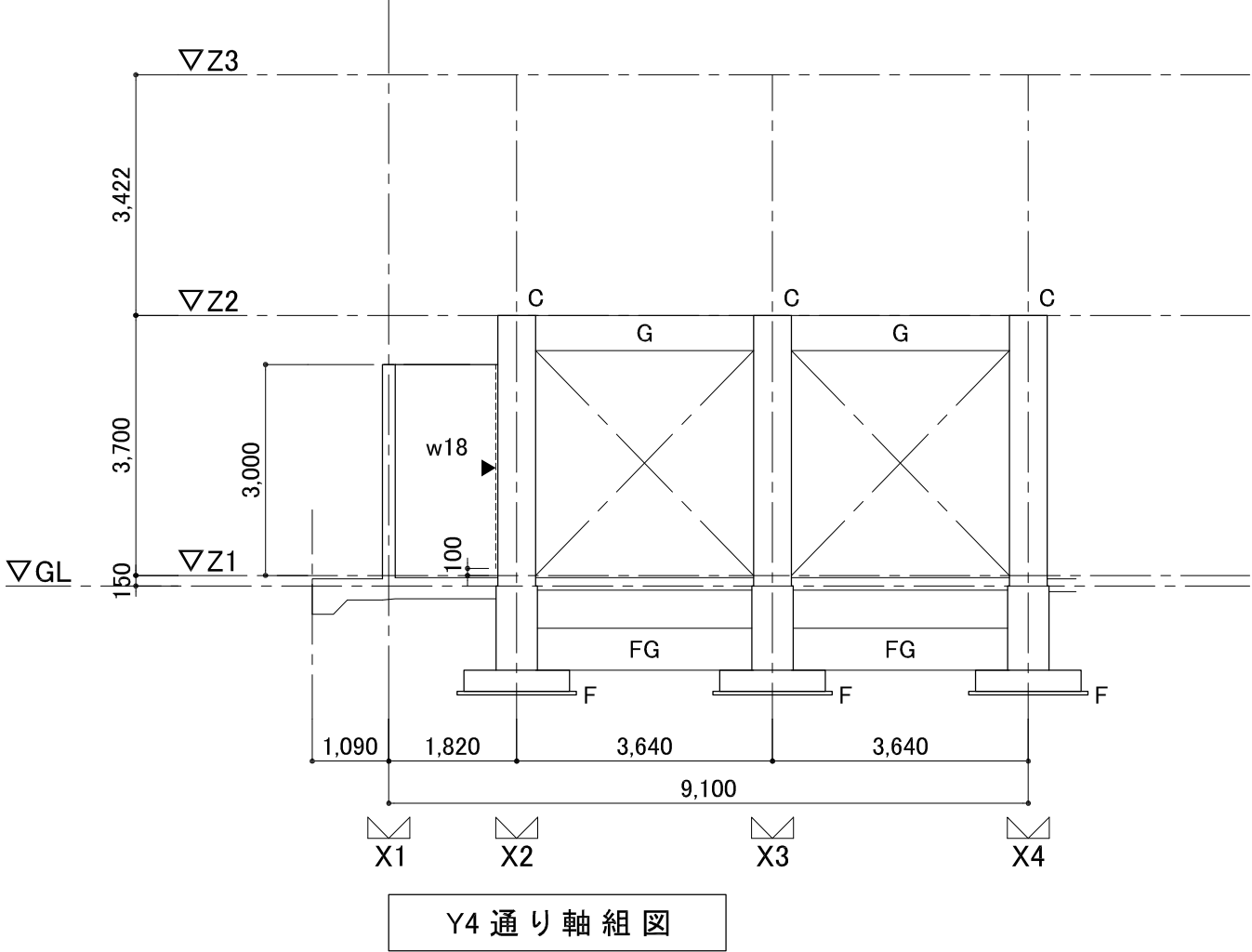
(註)特記ナキ限り	
スラブ天端レベル	Z2±0
梁天端レベル	Z2±0
は新設部材 (sB250、w18A)を示す	
(±○)はZ2からの鉄骨梁天端レベルを示す	

改修後

工事 名	筑前岩屋駅舎改修工事		設 計	
	【改修後】2階床伏図		訂 正	
一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男	製 図	審 査	縮 尺	A3=1:100
			図 番	S-14
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房				

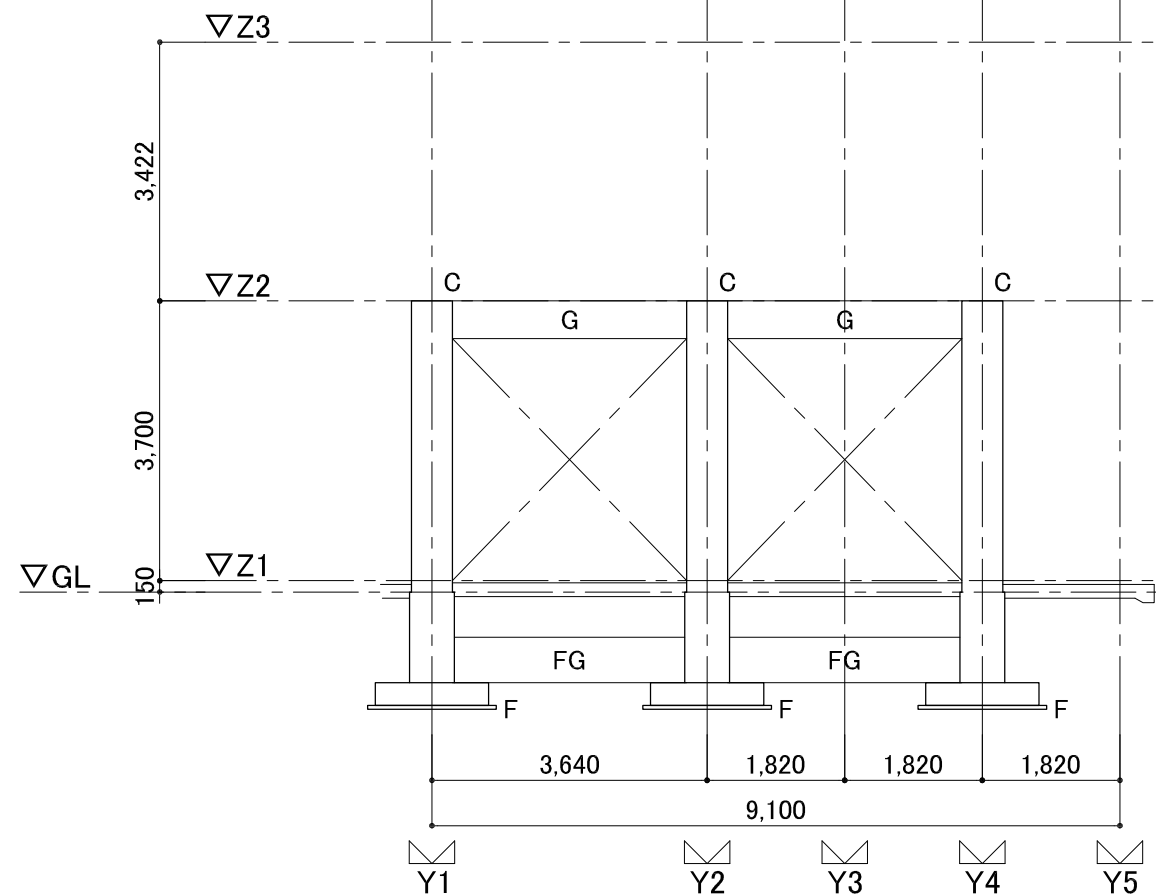


(註)特記ナキ限り	
地中梁天端レベル	Z1-750 (Z0-600)
基礎底	Z0-1,500
◀は構造スリット(完全スリット)を示す	
----- は新設胴縁C-100X50X20X2.3 @455を示す	
==== は新設胴縁2C-100X50X20X2.3@1,820を示す	

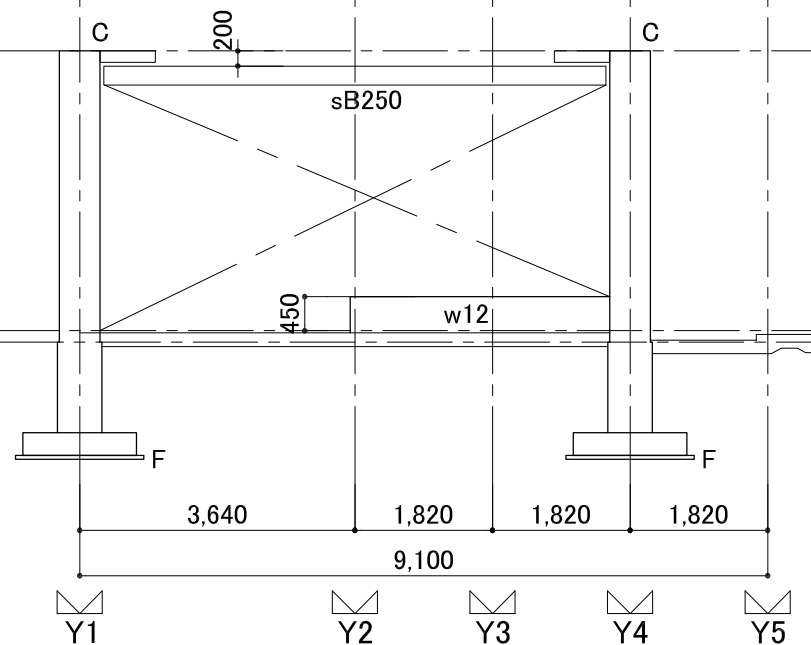


改修後

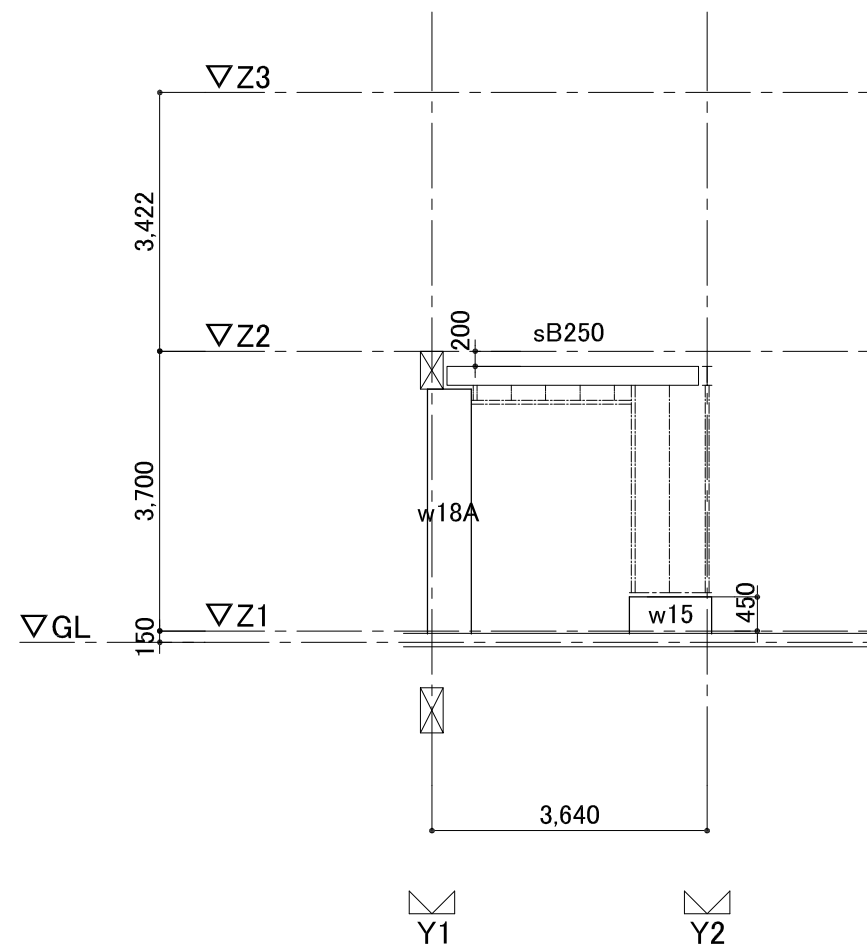
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【改修後】軸組図(1)	訂正	
		縮尺	A3=1:100
一級建築士登録番号	313540号	製図	
石橋	光男	承認	
		図番	S-15
株式会社 環・設計工房			



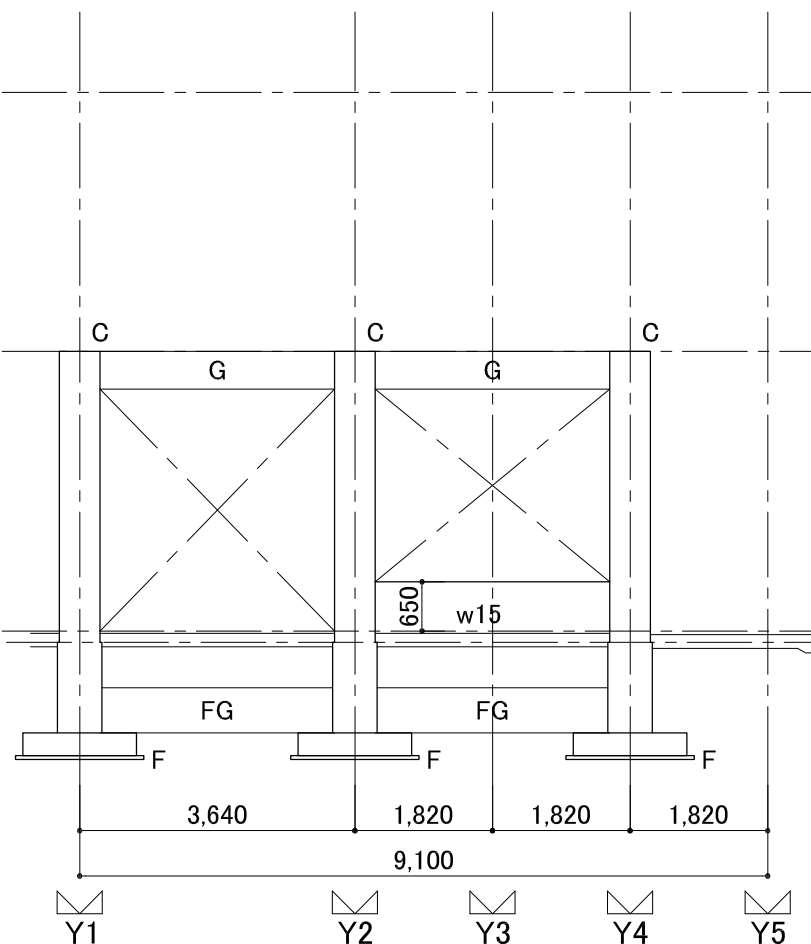
X2 通り軸組図



X3 通り軸組図



X3+910 通り軸組図

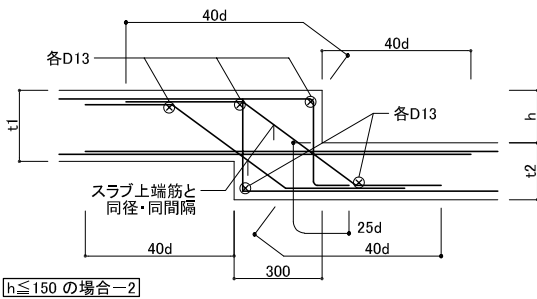
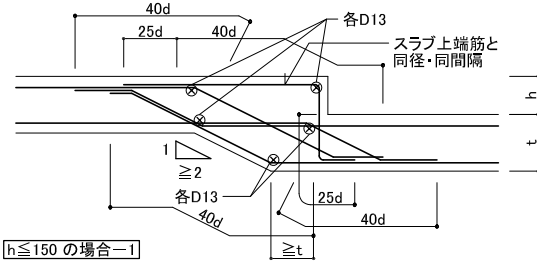
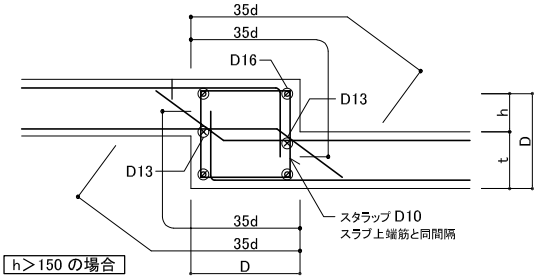


X4 通り軸組図

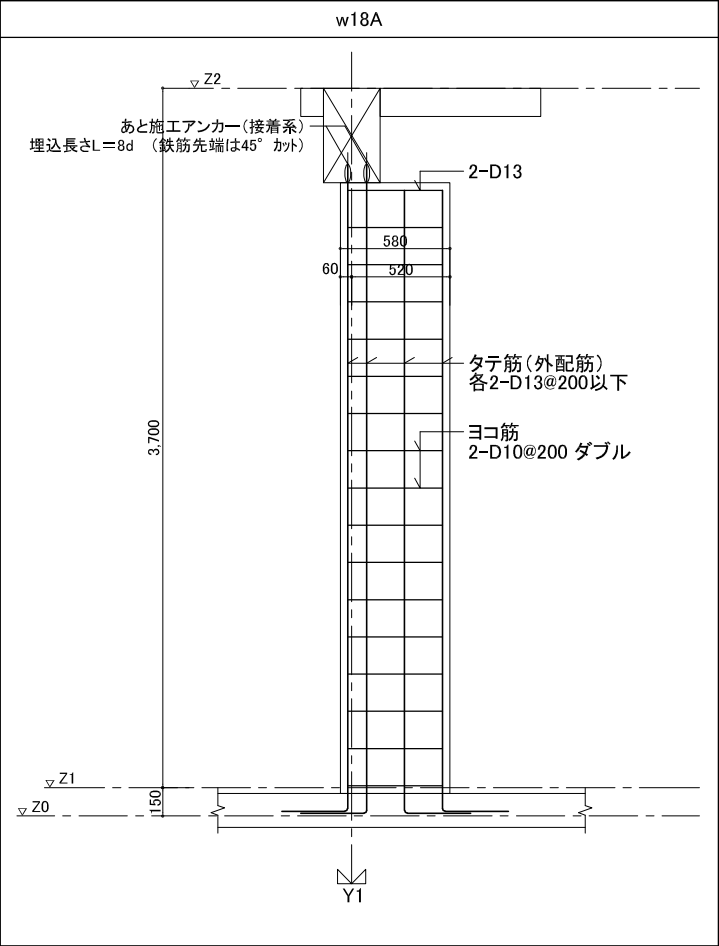
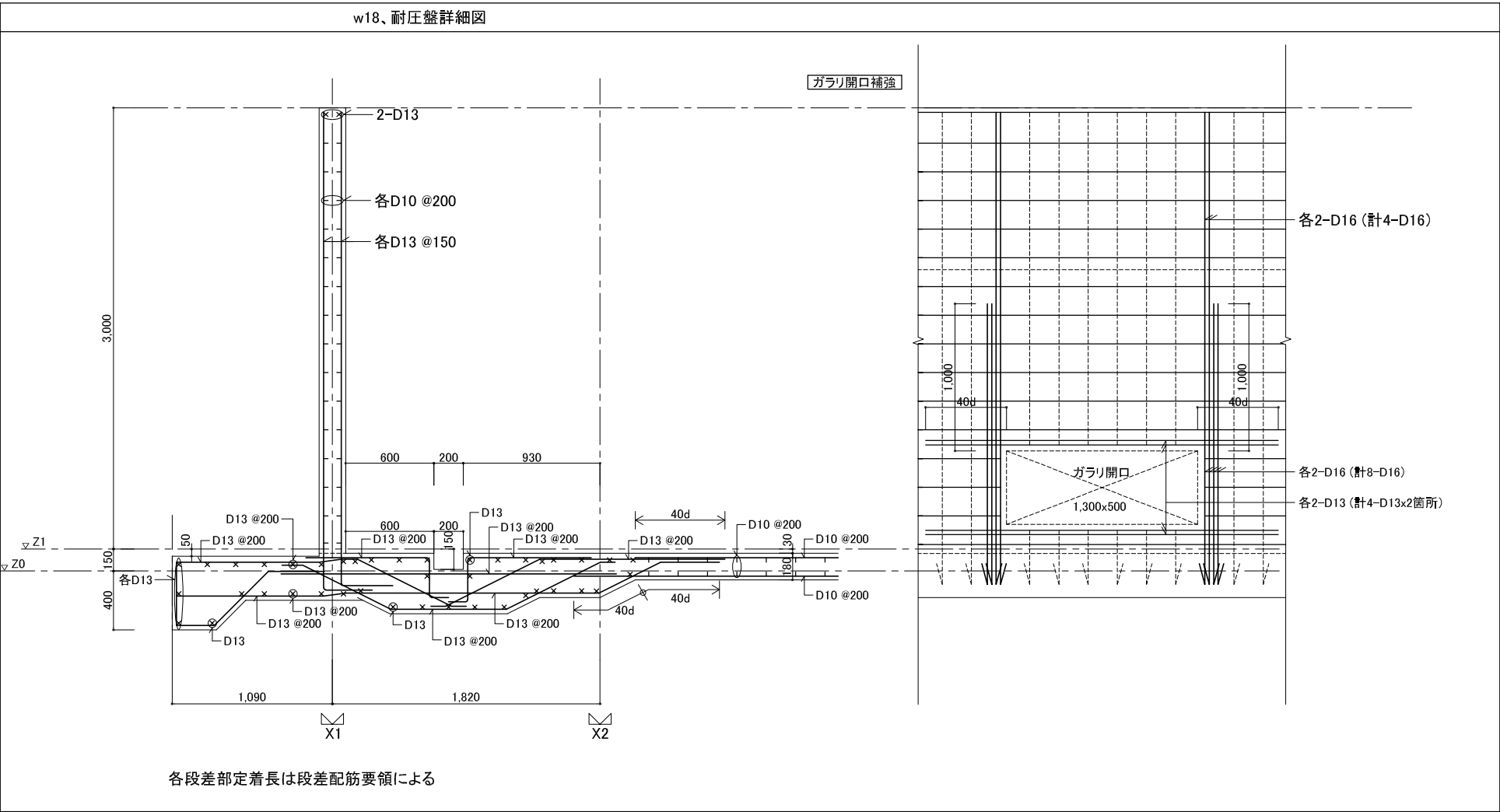
(註)特記ナキ限り	
地中梁天端レベル	Z1-750 (Z0-600)
基礎底	Z0-1,500
----- は新設胴縁C-100X50X20X2.3 @455を示す	
==== は胴縁新設2C-100X50X20X2.3@1,820を示す	

改修後	
工事名	筑前岩屋駅舎改修工事
図名	【改修後】軸組図(2)
設計	石橋 光男
監理	環・設計工房
図番	S-16

床 版 リ ス ト		地業は意匠図による			
符 号	版 厚	位 置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備 考
土間 コンクリート	180	上端筋	D10 @200	D10 @200	地業あり
		下端筋	D10 @200	D10 @200	
耐力盤	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	地業あり
		下端筋	D13 @200	D13 @200	

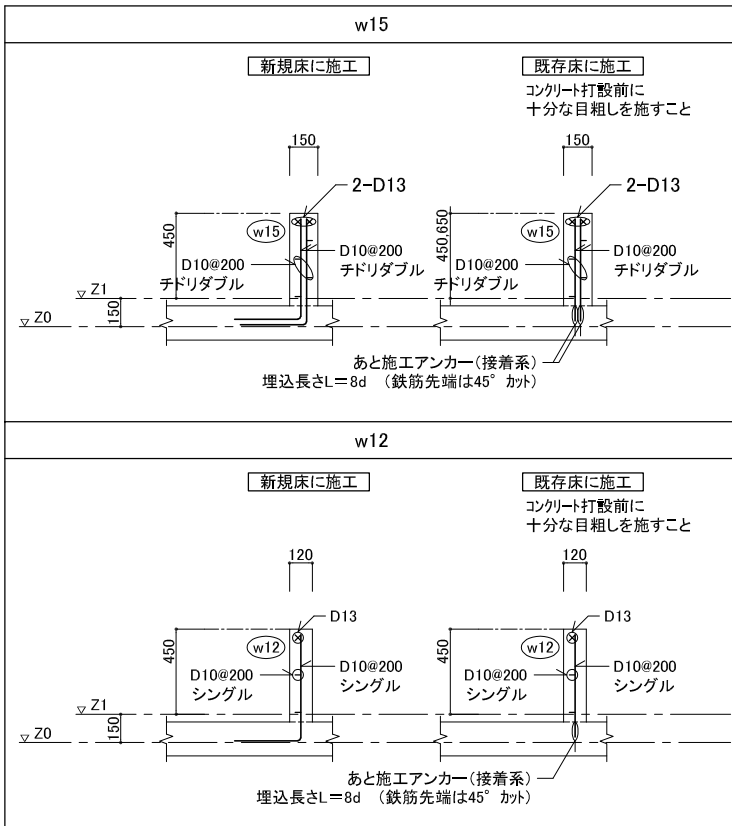


雑 配 筋 詳 細 図 (1)

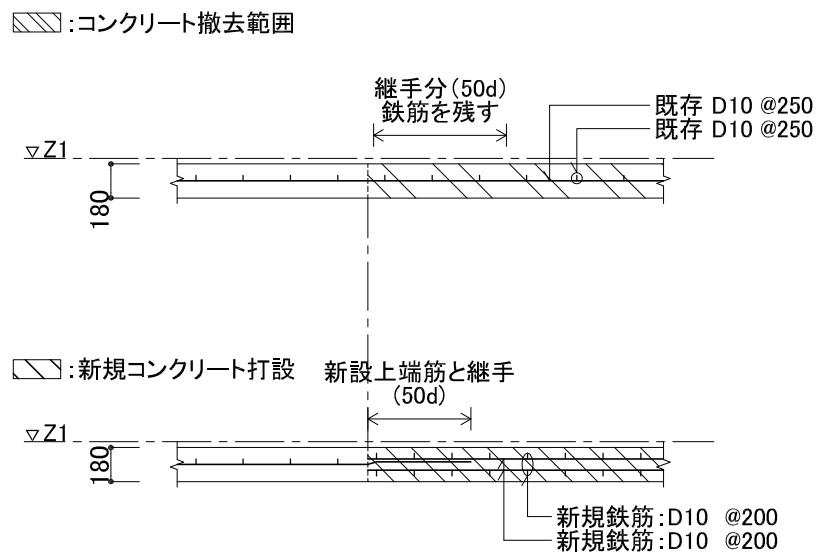


築前岩屋駅舎改修工事		新 計	改修後
【改修後】新設床版リスト・雑配筋詳細図（1）		訂 正	
一般建築士登録番号313540号 石 橋 光 男		製 図 承 理 図 章	A3=1:40 S-17
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			

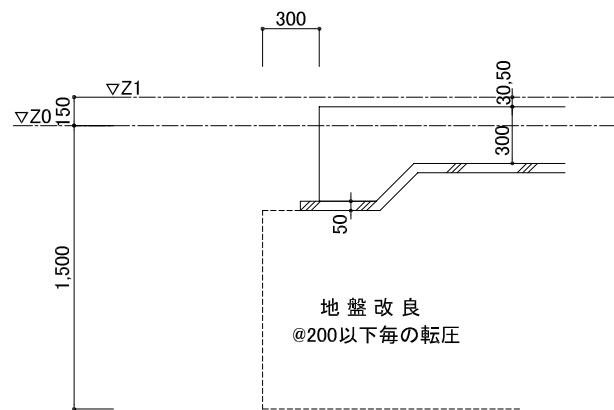
雜配筋詳細図(2)



1階床版撤去及び新設床版との補修要領



地盤改良仕様



- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 工 法 | 「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針－セメント系固化材を用いた深層・浅層混合処理工法－」に準拠する。
設計GLから1.5m（既存基礎底）掘削し、改良ヤードにてセメント系固化材を散布、バックホウで現状土と混合する。
改良土は掘削箇所にて埋め戻す。 |
| 2. 施工計画書 | 施工に先立ち事前に施工計画書を提出し、監督員の承認を得なければならない。 |
| 3. セメント系固化材 | 宇部三菱セメント(株) ユースタビラー
太平洋セメント(株) ジオセツト
麻生セメント(株) ソリッドエース
住友大阪セメント(株) タフロック または、同等品以上。 |
| 4. 材 料 | 六価クロム抑制型／特殊土用固化材を使用する。 |
| 5. セメント系固化材の添加量の決定 | 現場必要強度 $q_u = 50 \text{ kN/m}^2$ 材令 28日
室内目標強度 $q_u = 150 \text{ kN/m}^2$ 材令 28日
室内配合試験において、 $q_u = 150 \text{ kN/m}^2$ をクリア出来る添加量を求める。
固化材添加量 70 kg/m としているが、現状の埋め戻し土などの素性が不明、土質・含水比などで変わるため
現地土を採取し、室内配合試験（7・28日）を行い添加量を決定する。 |
| 6. 六価クロム溶出試験
（環境庁告示46号の溶出試験） | 室内配合試験で決定された固化材添加量／供試体を試験場に持ち込み土壌環境基準値（ 0.05 mg/L ）
を超えていないかを確認する。 |
| 7. 施工要領 | バックホウを使用し、散布したセメント系固化材と土を十分に攪拌混合する。
攪拌混合の度合いは、固化材の色が分からなくなるまで行う。
転圧については、一層の敷きならし厚さは20cmとし、小型の振動ローラー、ランマー等で3往復以上し強度を低下させない
ように留意しながら締め固め仕上げる。
〔施工機械〕 バックホウ バケツ容量 $0.4 \sim 0.6 \text{ m}^3$
小型締め固め機械 |
| 8. 品質管理・試験 | 現場必要強度（ 50 kN/m^2 ）の確認試験については3箇所にて供試体3本（28日）／箇所を
採取して確認を行う。（合計9本）
同時に、六価クロム溶出試験を実施する。（材令28日）
供試体の採取はコアカッター、もしくはモールドによる。 |

あと施工アンカーの取付工事要領

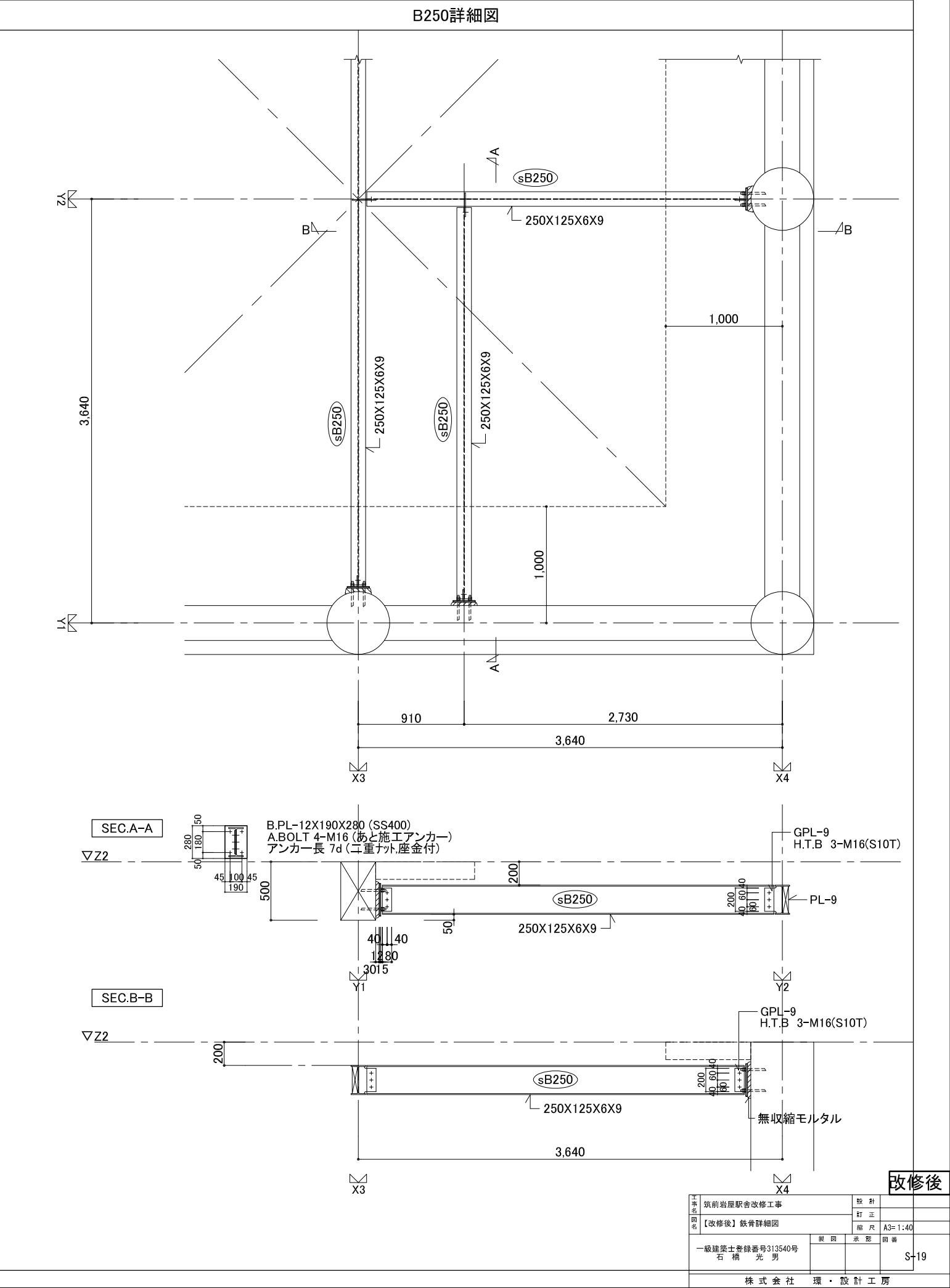
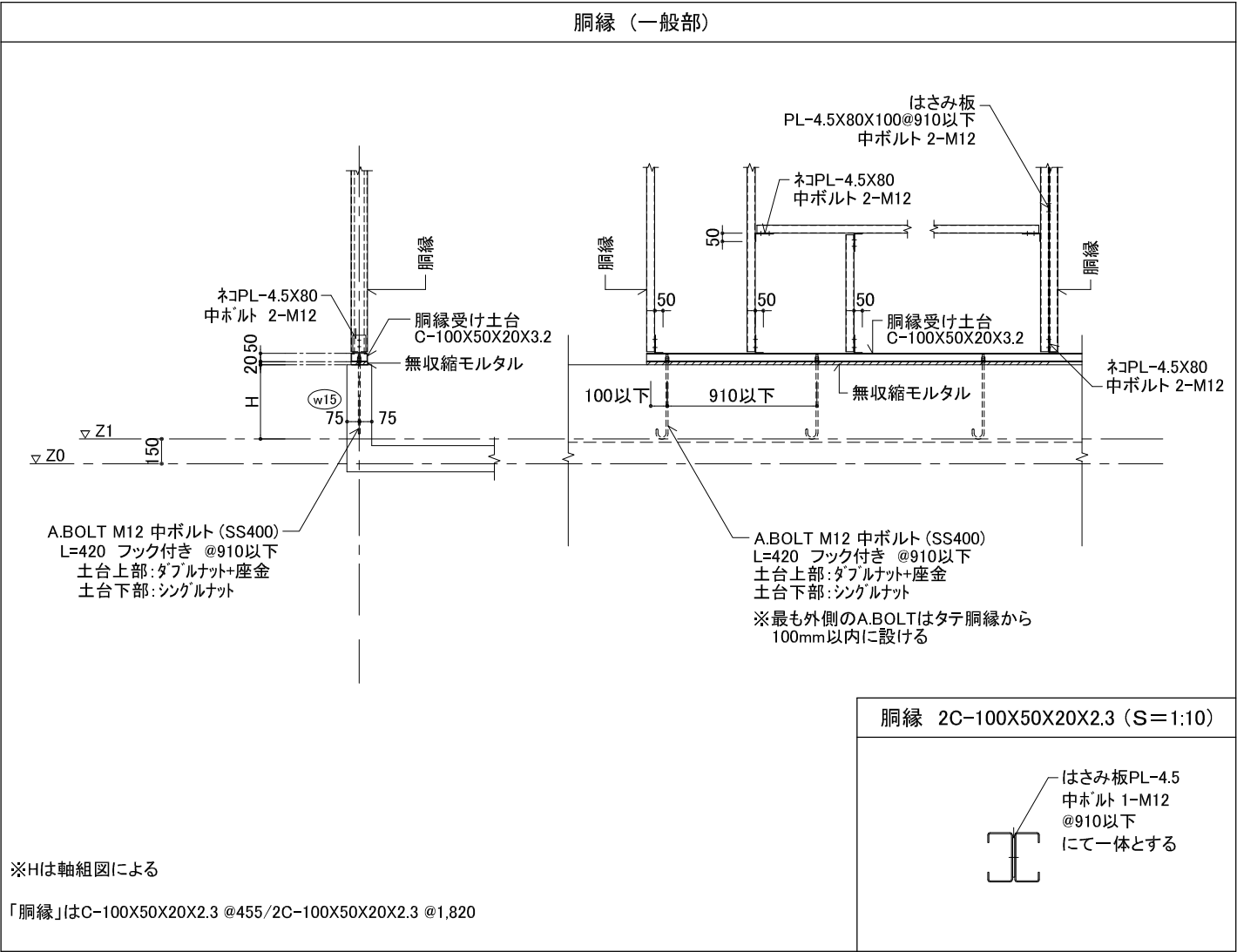
- | | |
|------------------------|--|
| 1. アンカー筋
及び
施工位置 | <p>a) 本工事に使用する接着系アンカーは無機系とする。</p> <p>b) 接着系アンカーに用いるアンカー筋は、埋込み先端部を45°にカットしたものを用いる。</p> <p>c) あと施工アンカーは、被りコンクリート部分、既存コンクリート中の鉄筋および埋め込み金物類を避けて施工する。既設鉄筋等の確認は鉄筋探査機によって行う。</p> |
| 2. 穴あけ作業 | <p>a) あと施工アンカーを設置するために設ける穴の直径は、それぞれの製品の仕様に定める値とし、深さは当該あと施工アンカーの構造規定を満足するものとする。</p> <p>b) 穴あけには、ハンマードリル、コンクリートコアドリル又は振動ドリルのいずれを用いても良いが、穴の周辺のコンクリートに損傷を与えないものとする。</p> <p>c) 穴あけ作業により躯体コンクリートの割裂などが生じないように十分に注意する。また、ピッチ等に関し、設計図通りの施工が難しい時には監督職員と協議する。</p> <p>d) 穴あけ作業に際しては、騒音、塵埃の発生を少なくするように注意する。</p> <p>e) 穴あけ作業が完了したものは、集塵装置の吸引及び専用ブラシを用いてコンクリートくずを除去するなどして穴の内部を十分に清掃する。</p> |
| 3. あと施工
アンカー
の施工 | <p>a) 穴にカプセル型接着剤を挿入してから、電動ハンマードリルを使用し、アンカー筋に回転と打撃を与えて埋め込んでいく。この場合、カプセル内の接着剤が均一に混合されるように、アンカー筋に回転と打撃を与える。</p> <p>b) 横向き穴及び上向き穴に接着系アンカーを打設する場合には、必要によって接着剤が漏出しないようにゴムリングを入れるなどの措置を講ずる。</p> <p>c) 充填部分以外に付着した接着剤は、直ちにふき取る。また、新設部材に接する部分のコンクリートに付着した接着剤は、溶剤を用いて、丁寧にふき取る。</p> |
| 4. 接着系
アンカー
の養生 | <p>接着系アンカーは作業が終了したのち、荷重および振動を与えず、8時間以上、常温（5℃以上）で養生する。</p> |
| 5. 不良穴の
処理 | <p>既設鉄筋、埋込み金物などにより、予定のアンカー用穴があけられず、途中で作業を中止した穴については、グラウト用モルタルまたは樹脂接着剤を用いて充填補修を行う。</p> |
| 6. あと施工
アンカー
作業者 | <p>あと施工アンカー工事に従事できる作業者は
（社）日本建築あと施工アンカー協会が認定した有資格者
（あと施工アンカー作業者及びあと施工アンカー作業主任者）
とし、監督職員の確認を受ける。</p> |
| 7. あと施工
アンカー
の品質 | <p>(1) あと施工アンカーは、（社）日本建築あと施工アンカー協会が規定する品質規準に適合しているものを用いる。</p> <p>(2) 接着系アンカーは、メーカーがその製品に対して品質を保証している期間内にあるものを用いる。</p> |

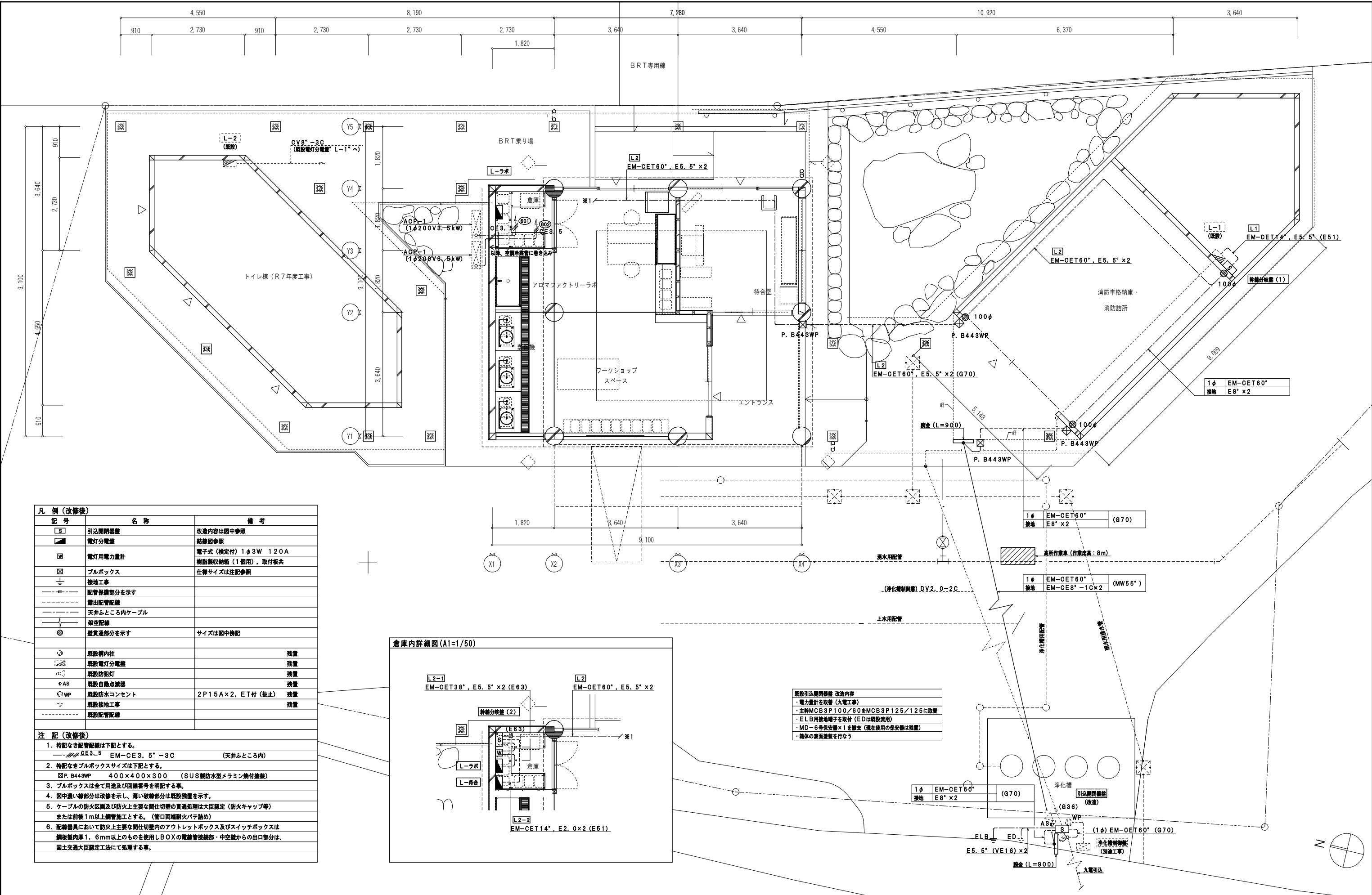
改修後

工事 名 称 及 圖 名	筑前岩屋駅舎改修工事	概 計	
	【改修後】雑肥酢細圖（2）・地盤改良仕様	訂 正	
		幅 尺	A3=1:40
一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男	製 図	承 取	図 番
			S-18
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			

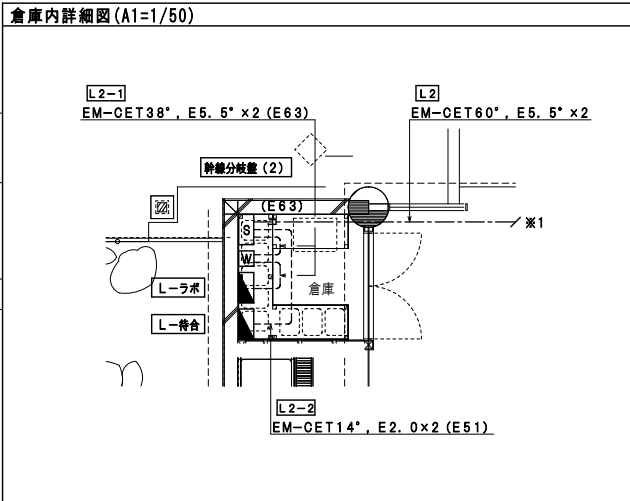
鉄 骨 部 材 リ ス ト		鉄骨ファブは Rグレード以上とする。特記ナキ限り鋼材種別は SS400とする。 突合せ溶接部の超音波探傷検査は 社内 100% 第三者 30% , 外観検査は 第三者 100%とする。					
---------------	--	---	--	--	--	--	--

符 号	鉄 骨 部 材	FLG JOINT		WEB JOINT		鋼材種別	備 考
		H.T.B(ボルト本数)	外 側 添 板 内 側 添 板	H.T.B(ボルト本数)	添 板		
B250	H - 250 X 125 X 6 X 9			3-M16 @60	GPL - 9		
桁胴縁	C-100X50X20X2.3 @600以下(軸組図による)			中ボルト 2-M12	ネコPL-4.5	SSC400	
桁胴縁	2C-100X50X20X2.3 @1,800以下(軸組図による)			中ボルト 2-M12	ネコPL-4.5	SSC400	
土台	C-100X50X20X3.2			アンカーボルト M12@1200以下		SSC400	



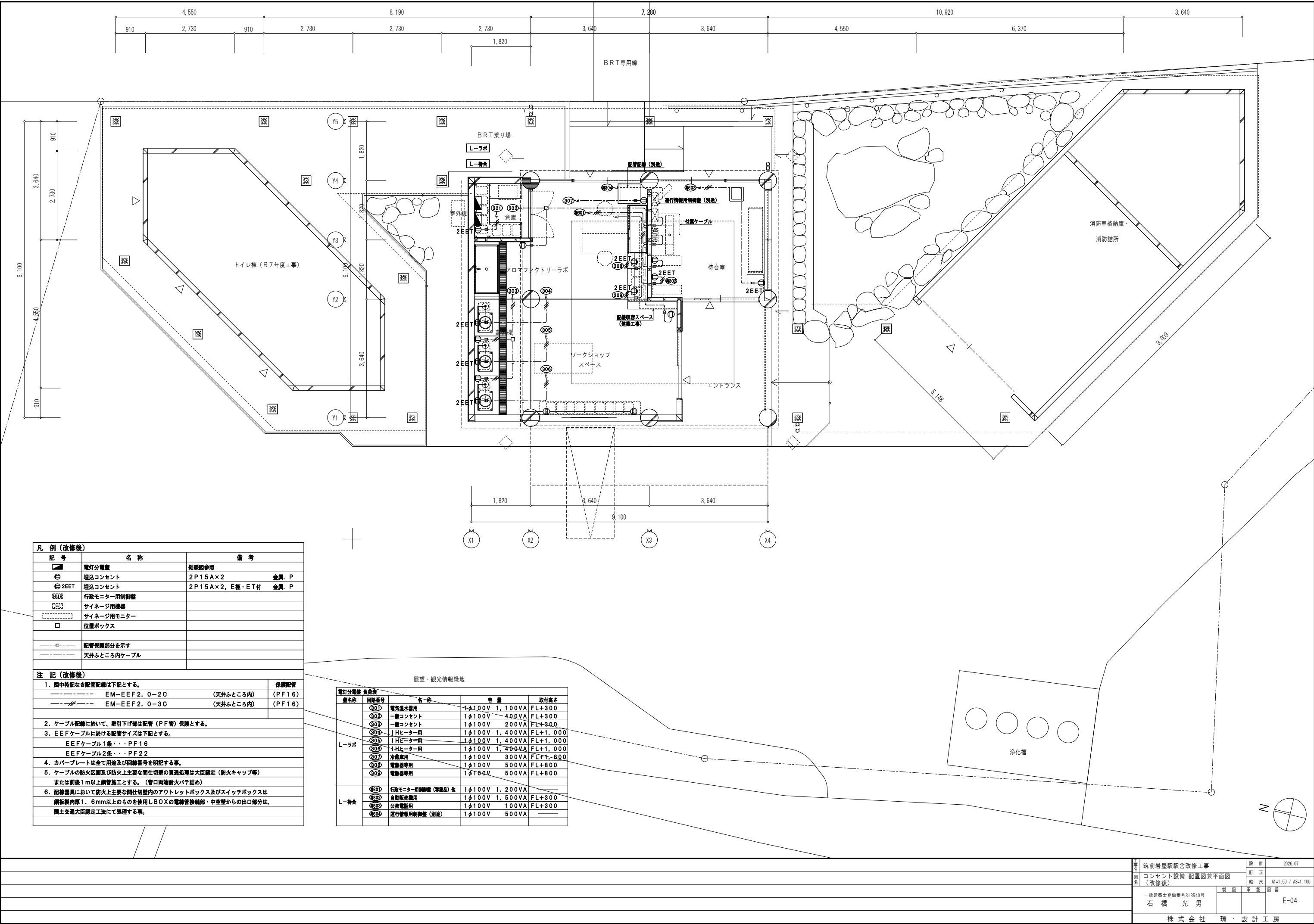


凡 例 (改修後)		
記 号	名 称	備 考
□ S	引込開閉器盤	改造内容は図中参照
■	電灯分電盤	結線図参照
Ⓜ	電灯用電力計	電子式 (検定付) 1φ3W 120A 樹脂製収納箱 (1個用), 取付板共
□	プルボックス	仕様サイズは注記参照
⊕	接地工事	
---	配管保護部分を示す	
---	露出配管配線	
---	天井ふところ内ケーブル	
---	架空配線	
○	壁貫通部分を示す	サイズは図中傍記
○	既設構内柱	残量
○	既設電灯分電盤	残量
○	既設防犯灯	残量
○ AS	既設自動点滅器	残量
○ WP	既設防水コンセント	2P15A×2, ET付 (抜止)
⊕	既設接地工事	残量
---	既設配管配線	
注 記 (改修後)		
1. 特記なき配管配線は下記とする。		
--- GE3_5 EM-CET3_5°-3C (天井ふところ内)		
2. 特記なきプルボックスサイズは下記とする。		
□ P. B443WP 400×400×300 (SUS製防水型メラミン焼付塗装)		
3. プルボックスは全て用途及び回線番号を明記する事。		
4. 図中濃い線部分は改修を示し、薄い破線部分は既設残量を示す。		
5. ケーブルの防火区画及び防火上主要な間仕切壁の貫通処理は大臣認定 (防火キャップ等) または前後1m以上鋼管施工とする。 (管口両端耐火パテ詰め)		
6. 配線器具において防火上主要な間仕切壁内のアウトレットボックス及びスイッチボックスは鋼板製内厚1.6mm以上のものを使用しBOXの電線管接続部・中空壁からの出口部分は、国土交通大臣認定工法にて処理する事。		



既設引込開閉器盤 改造内容	
・電力計を計器 (丸電工事)	
・主幹MCB3P100/60をMCB3P125/125に取替	
・ELB用接地端子を取付 (EDは既設流用)	
・MD-6号保安器×1を撤去 (現在使用の保安器は残量)	
・箱体の表面塗装を行なう	

基本 図面	筑前岩屋駅舎改修工事	設 計	2026.07
	幹線設備 配置図兼平面図 (改修後)	訂 正	
	一般建築士登録番号313540号	縮 尺	A1=1/50 / A3=1/100
	石 橋 光 男	製 図 承 認 図 章	E-03
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			

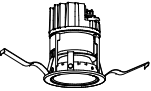
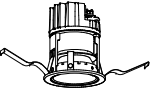
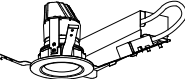
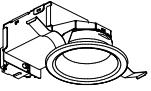
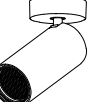
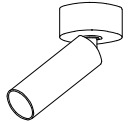
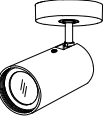


凡 例 (改修後)		
記 号	名 称	備 考
	電灯分電盤	結線図参照
	埋込コンセント	2P15A×2 金属、P
	埋込コンセント	2P15A×2、E極・ET付 金属、P
	行政モニター用制御盤	
	サイネージ用機器	
	サイネージ用モニター	
	位置ボックス	
	配管保護部分を示す	
	天井ふところ内ケーブル	

注 記 (改修後)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		保護配管
	EM-EEF 2、0-2C (天井ふところ内)	(PF16)
	EM-EEF 2、0-3C (天井ふところ内)	(PF16)
2. ケーブル配線に於いて、壁引下げ部は配管 (PF管) 保護とする。		
3. EEFケーブルに於ける配管サイズは下記とする。		
EEFケーブル1条・・・PF16		
EEFケーブル2条・・・PF22		
4. カバープレートは全て用途及び回線番号を明記する事。		
5. ケーブルの防火区画及び防火上主要な間仕切壁の貫通処理は大臣認定 (防火キャップ等) または前後1m以上鋼管施工とする。(管口両端耐火パテ詰め)		
6. 配線器具において防火上主要な間仕切壁内のアウトレットボックス及びスイッチボックスは鋼板製肉厚1.6mm以上のものを使用しBOXの電線管接続部・中空壁からの出口部分は、国土交通大臣認定工法にて処理する事。		

電灯分電盤 負荷表				
盤名称	回路番号	名 称	容 量	取付高さ
L-ラボ	③01	電気温水器用	1φ100V 1,100VA	FL+300
	③02	一般コンセント	1φ100V 400VA	FL+300
	③03	一般コンセント	1φ100V 200VA	FL+300
	③04	IHヒーター用	1φ100V 1,400VA	FL+1,000
	③05	IHヒーター用	1φ100V 1,400VA	FL+1,000
	③06	IHヒーター用	1φ100V 1,400VA	FL+1,000
	③07	冷蔵庫用	1φ100V 300VA	FL+1,800
	③08	電熱器専用	1φ100V 500VA	FL+800
	③09	電熱器専用	1φ100V 500VA	FL+800
	③10	行政モニター用制御盤 (移動品) 他	1φ100V 1,200VA	
L-待合	③20	自動販売機用	1φ100V 1,500VA	FL+300
	③30	公衆電話用	1φ100V 100VA	FL+300
	③40	運行情報用制御盤 (別途)	1φ100V 500VA	

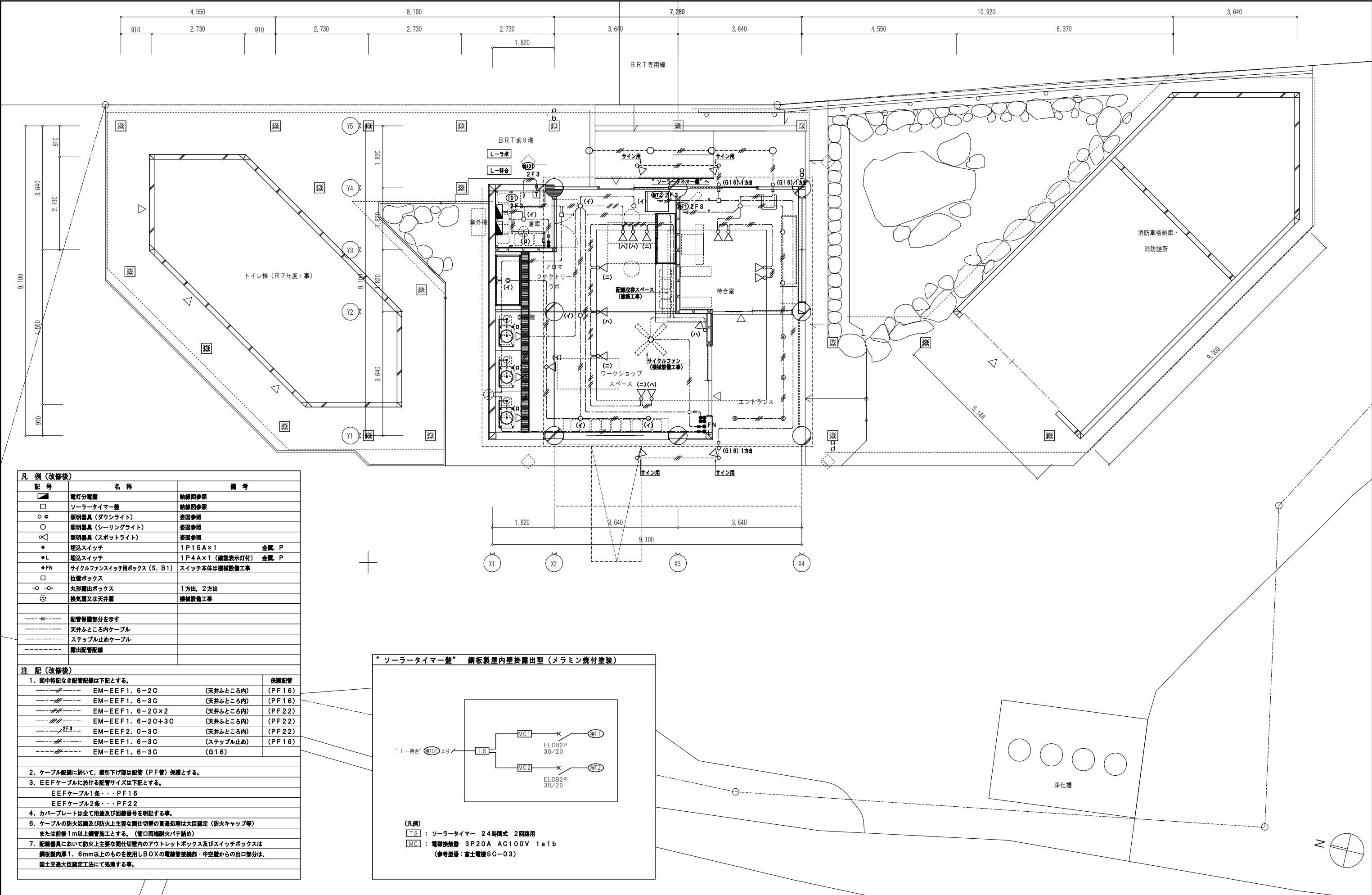
基本 図名	筑前岩屋駅舎改修工事	設 計	2026.07
	コンセント設備 配置図兼平面図 (改修後)	訂 正	
	一般建築士登録番号313540号	縮 尺	A1=1:50 / A3=1:100
	石 橋 光 男	製 図 承 認 図 番	E-04
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房			

非調光電源ユニット共 (AC100～242V) 枠：鋼板 黒塗装 コーン：アルミシルバーアルマイト消し（シルバーマットコーン） ガラスパネル付（消し） 光源寿命：40000時間 配光角：50° 色温度：3000K、Ra83 （埋込寸法：φ75×高120）  参考型番：LZD-93499YBB+LZA-91115E		AC100V 本体：アルミダイカスト 黒塗装 制御レンズ付 光源寿命：40000時間 配光角：25° 色温度：3500K、Ra93  参考型番：LZS-9119ABW5		AC100V 本体：アルミダイカスト シルバーサテン塗装 前面ガラス：強化ガラス 透明 制御レンズ付 防雨型 光源寿命：40000時間 配光角：30° 色温度：2700K、Ra83  参考型番：LZW-93868LSW					
D1	LEDダウンライト（1370lm）（FHT32W相当） 消費電力：13.8W	S2	LEDスポットライト（1510lm） （φ5012Vダイクロハロゲン85W形60W相当（LZ）） 消費電力：14W	S6	LEDスポットライト（550lm） （ダイクロハロゲン65W相当） 消費電力：6.8W				
非調光電源ユニット共 (AC100V) 枠：鋼板 黒塗装 コーン：アルミシルバーアルマイト消し（シルバーマットコーン） ガラスパネル付（消し） 光源寿命：40000時間 配光角：50° 色温度：2700K、Ra83 （埋込寸法：φ75×高99）  参考型番：LZD-93498LBB+LZA-92809		AC100V 本体：アルミダイカスト 黒塗装 制御レンズ付 光源寿命：40000時間 配光角：25° 色温度：2700K、Ra93  参考型番：LZS-9117LBW5		AC100～242V 枠：アルミダイカスト ステンカラー色塗装 コーン：ブラステッククロームメッキ 灯具：アルミダイカスト黒塗装 制御ミラー付 防雨・防湿形 防水・防塵性能：IP44 光源寿命：40000時間 配光角：50° 色温度：3000K、Ra83 （埋込寸法：φ75×高120）  参考型番：LLD-7058YUB3					
D2	LEDダウンライト（940lm）（白熱灯100W相当） 消費電力：10.4W	S3	LEDスポットライト（1030lm） （φ50ダイクロハロゲン75W形65W相当（LZ）） 消費電力：9.4W	WD1	LEDダウンライト（830lm）（白熱灯100W相当） 消費電力：13.7W				
AC100V 枠：鋼板 黒塗装 コーン：アルミダイカスト 黒塗装 アクリル 乳白（マット） 拡散パネル付 光源寿命：60000時間 配光角：60° 色温度：2700K、Ra93 （埋込寸法：φ75×高80）  参考型番：DDL-6224YB		AC100V 本体：アルミダイカスト 黒塗装 制御レンズ付 光源寿命：40000時間 配光角：55° 色温度：2700K、Ra93  参考型番：LZS-9121LBB5		AC100V 本体：アルミダイカスト 黒色塗装 カバー：強化ガラス透明 防雨・防湿形・重耐塩 防水・防塵性能：IP65 重耐塩仕様 光源寿命：40000時間  参考型番：LLC-7232XU（※黒色）+DP-41866Y					
D3	LEDダウンライト（570lm）（白熱灯100W相当） 消費電力：6.8W	S4	LEDスポットライト（1720lm）（CDM-T35W相当） 消費電力：22W	WC1	LED壁外シーリングライト（740lm） LEDユニットフラット形ランプ（径75mm）×1（白熱灯100W相当） 消費電力：6.5W				
AC100V 本体：アルミダイカスト 白 フード：アルミ型材 白塗装（内面黒塗装） 光源寿命：40000時間 配光角：25° 色温度：2700K、Ra93  参考型番：DSL-5731YWG+LDR4L-W-E11/S11V		AC100V 本体：アルミダイカスト 黒塗装 光源寿命：40000時間 配光角：30° 色温度：2700K、Ra83  参考型番：LZS-92359XB+LZA-93794LSW							
S1	LEDスポットライト（420lm） LED電球（E11）×1（12Vダイクロハロゲン35W相当） 消費電力：4W	S5	LEDスポットライト（430lm） LED電球（E11）×1（ダイクロハロゲン50W相当） 消費電力：4W						

（注 記）
1. 照明器具は参考とし、光色・色温度・仕様及び取付高さ等は打合せの上決定する。

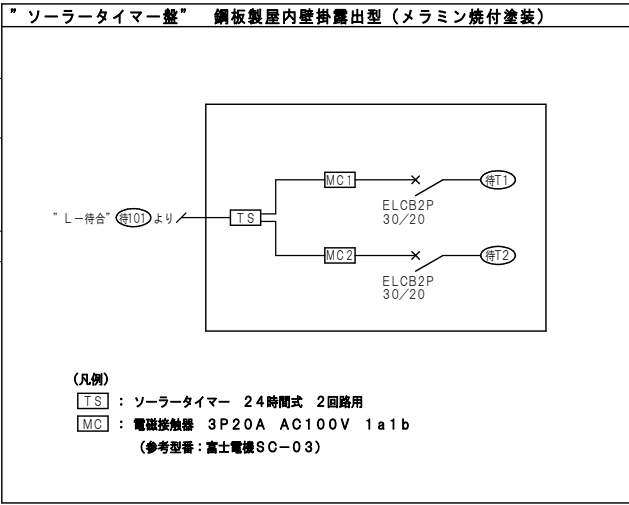
照明器具の消費電力は、JIS C 8105-3の測定方法による。

主 名 図 名	筑前岩屋駅駅舎改修工事		設 計		2026.07
	照明器具参考姿図		訂 正		
			縮 尺		A1= - / A3= -
	一般建築士登録番号313540号 石 橋 光 男		製 図 承 認 図 番		E-05
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房					

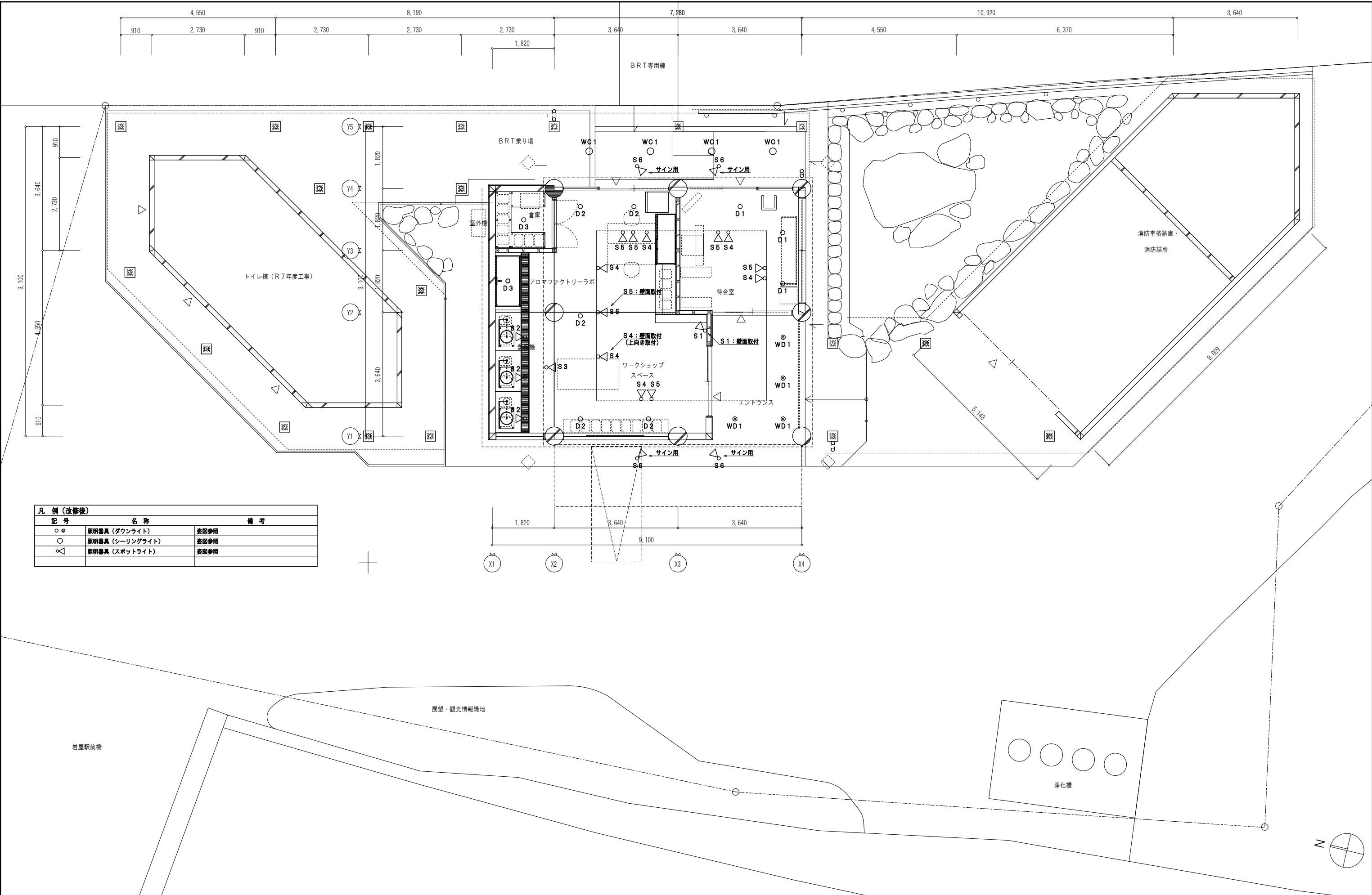


凡 例 (改修後)			
記 号	名 称	備 考	
■	電灯分電盤	結線図参照	
□	ソーラータイマー盤	結線図参照	
○ ●	照明器具 (ダウンライト)	姿図参照	
○ ○	照明器具 (シーリングライト)	姿図参照	
△	照明器具 (スポットライト)	姿図参照	
●	埋込スイッチ	1 P 1 5 A × 1	金属, P
● L	埋込スイッチ	1 P 4 A × 1 (確認表示灯付)	金属, P
● FN	サイクルファンスイッチ用ボックス (S, B1)	スイッチ本体は機械設備工事	
□	位置ボックス		
○ ○	丸形露出ボックス	1 方出, 2 方出	
⊗	換気扇又は天井扇	機械設備工事	
—●—●—●—	配管保護部分を示す		
—●—●—●—	天井ふところ内ケーブル		
—●—●—●—	ステップ止めケーブル		
—●—●—●—	露出配管配線		

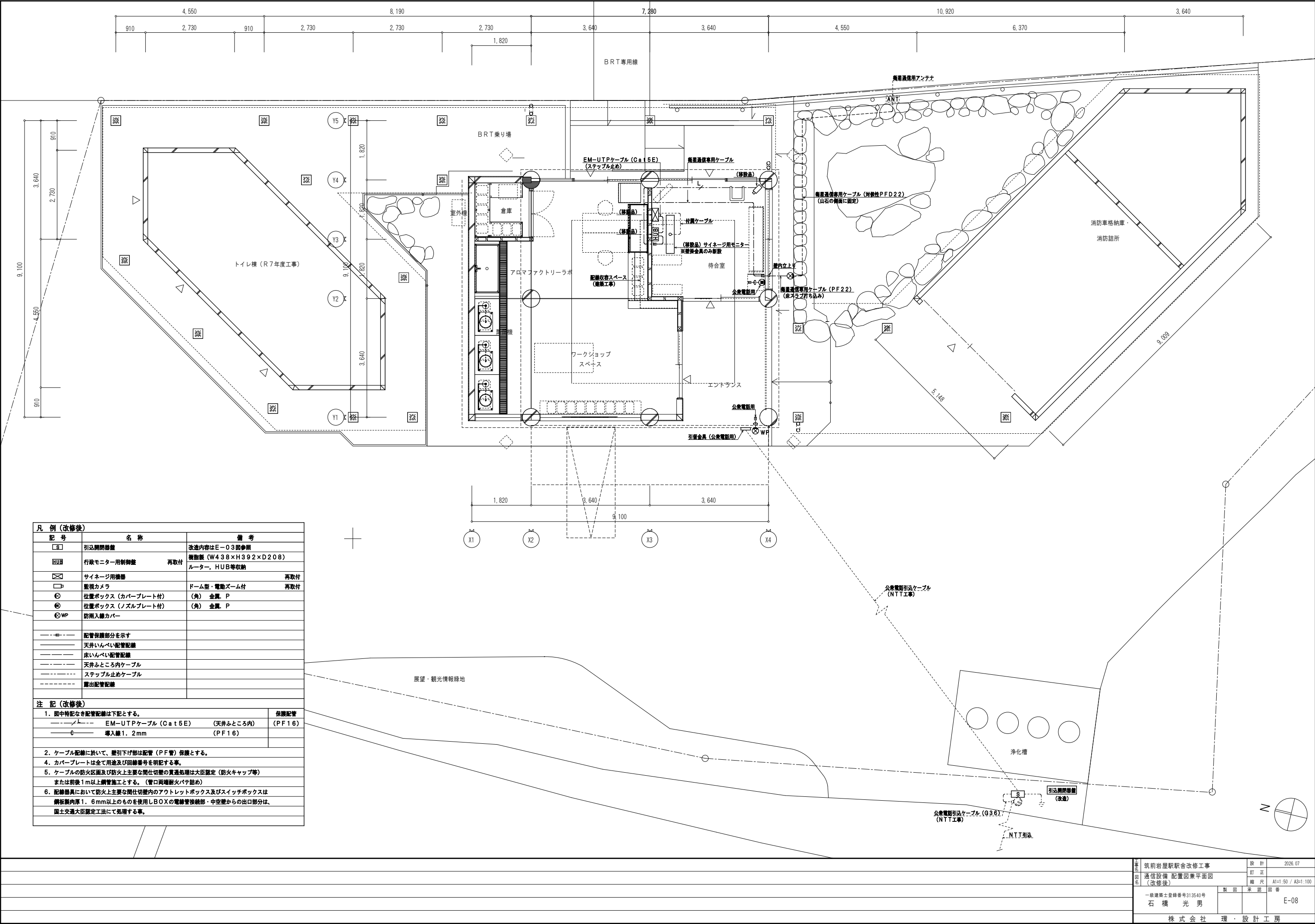
注 記 (改修後)			
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。			保護配管
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-2C	(天井ふところ内)	(PF16)
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-3C	(天井ふところ内)	(PF16)
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-2C×2	(天井ふところ内)	(PF22)
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-2C+3C	(天井ふところ内)	(PF22)
—●—●—●—	EM-EEF2. 0-3C	(天井ふところ内)	(PF22)
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-3C	(ステップ止め)	(PF16)
—●—●—●—	EM-EEF1. 6-3C	(G16)	
2. ケーブル配線に於いて、壁引下け部は配管 (PF管) 保護とする。			
3. EEFケーブルに於ける配管サイズは下記とする。			
EEFケーブル1条・・・PF16			
EEFケーブル2条・・・PF22			
4. カバープレートは全て用途及び回線番号を明記する事。			
6. ケーブルの防火区画及び防火上主要な間仕切壁の貫通処理は大臣認定 (防火キャップ等) または前後1m以上鋼管施工とする。(管口両端耐火パテ詰め)			
7. 配線器具において防火上主要な間仕切壁内のアウトレットボックス及びスイッチボックスは鋼板製肉厚1.6mm以上のものを使用しBOXの電線管接続部・中空壁からの出口部分は、国土交通大臣認定工法にて処理する事。			



株式会社 環・設計工房		設計	2026.07
建築士登録番号313540号		訂正	
石橋 光 男		縮尺	A1=1:50 / A3=1:100
		製図	
		承認	
		図番	E-06

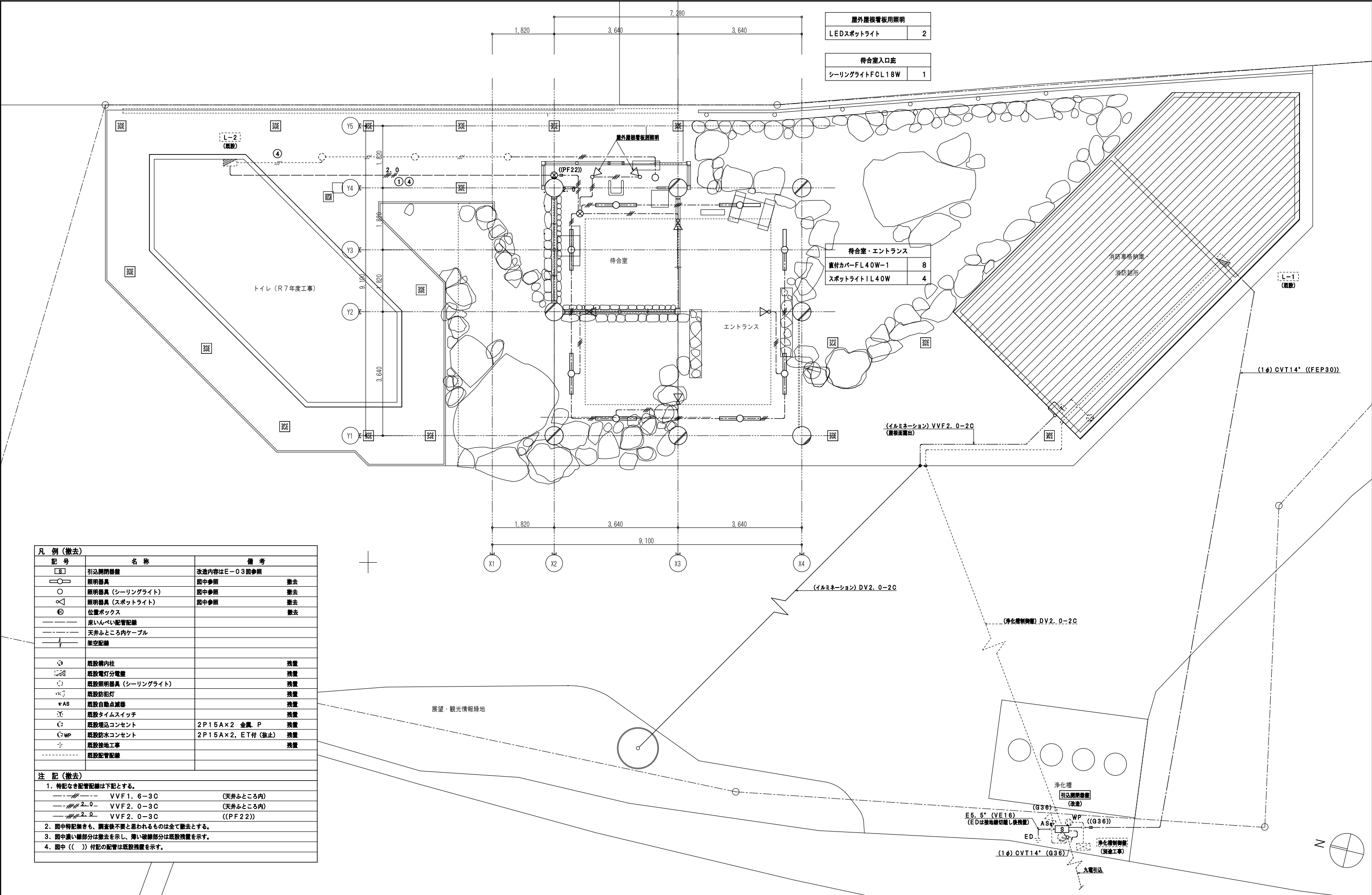


凡 例 (改修後)		
記 号	名 称	備 考
○●	照明器具 (ダウナイト)	※図参照
○	照明器具 (シーリングライト)	※図参照
△	照明器具 (スポットライト)	※図参照

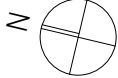


凡 例 (改修後)		
配 号	名 称	備 考
□S	引込開閉器盤	改造内容はE-03図参照
Hub	行政モニター用制御盤	樹脂製 (W438×H392×D208) ルーター, HUB等収納
☒	サイネージ用機器	再取付
📷	監視カメラ	ドーム型・電動ズーム付 再取付
⊗	位置ボックス (カバープレート付)	(角) 金属, P
⊙	位置ボックス (ノズルプレート付)	(角) 金属, P
⊗WP	防雨入線カバー	
---	配管保護部分を示す	
---	天井いんべい配管配線	
---	床いんべい配管配線	
---	天井ふところ内ケーブル	
---	ステップ止めケーブル	
---	露出配管配線	
注 記 (改修後)		
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。		保護配管
---	EM-UTPケーブル (Cat5E) (天井ふところ内)	(PF16)
---	導入線1.2mm (PF16)	
2. ケーブル配線に於いて、壁引下げ部は配管 (PF管) 保護とする。		
4. カバープレートは全て用途及び回線番号を明記する事。		
5. ケーブルの防火区画及び防火上主要な間仕切壁の貫通処理は大臣認定 (防火キャップ等) または前後1m以上鋼管施工とする。 (管口両端耐火パテ詰め)		
6. 配線器具において防火上主要な間仕切壁内のアウトレットボックス及びスイッチボックスは 鋼板製肉厚1.6mm以上のものを使用しBOXの電線管接続部・中空壁からの出口部分は、 国土交通大臣認定工法にて処理する事。		

表名 図名	筑前岩屋駅舎改修工事		設計	2026.07
	通信設備 配置図兼平面図 (改修後)		訂正	
			縮尺	A1=1:50 / A3=1:100
	一般建築士登録番号313540号 石 橋 光 男		製 図 承認 図番	E-08
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房				



凡 例 (撤去)		
記 号	名 称	備 考
	引込開閉器盤	改造内容はE-03図参照
	照明器具	図中参照 撤去
	照明器具 (シーリングライト)	図中参照 撤去
	照明器具 (スポットライト)	図中参照 撤去
	位置ボックス	撤去
	床いんべい配管配線	
	天井ふところ内ケーブル	
	架空配線	
	既設構内柱	残量
	既設電灯分電盤	残量
	既設照明器具 (シーリングライト)	残量
	既設防犯灯	残量
	既設自動点滅器	残量
	既設タイムスイッチ	残量
	既設埋込コンセント	2P15A×2 金属、P 残量
	既設防水コンセント	2P15A×2, ET付 (撤止) 残量
	既設接地工事	残量
	既設配管配線	
注 記 (撤去)		
1. 特記なき配管配線は下記とする。		
	VVF1.6-3C	(天井ふところ内)
	VVF2.0-3C	(天井ふところ内)
	VVF2.0-3C	((PF22))
2. 図中特記無きも、調査後不要と思われるものは全て撤去とする。		
3. 図中濃い線部分は撤去を示し、薄い破線部分は既設残量を示す。		
4. 図中 (()) 付記の配管は既設残量を示す。		



事 名 図 名	筑前岩屋駅駅舎改修工事		設 計	2026.07
	コンセント、通信設備 配置図兼平面図（撤去図）		訂 正	
			縮 尺	A1=1:50 / A3=1:100
	一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男	製 図	承認 図 章	E-10
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房				

機械設備工事特記仕様書

Ⅰ. 工事名称 筑前岩屋駅舎改修工事

Ⅱ. 工事概要

1. 工事場所 福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山6425番地

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延面積(m2)	防火対象物の種別	戸数・浄化槽入槽受水槽有効容量等
筑前岩屋駅	RC	1			

3. 工事種目 (○印を付けたものを適用する)

工事種目	建物別及び屋外		工 事 種 別			
	筑前岩屋駅					屋 外
○ 衛生器具設備	改修 一式	一式	一式	一式	一式	
○ 給水設備	改修 一式	一式	一式	一式	改修 一式	
○ 排水設備	改修 一式	一式	一式	一式	改修 一式	
○ 給湯設備	改修 一式	一式	一式	一式	一式	
○ 消火設備	改修 一式	一式	一式	一式	一式	
・ ガス設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 換気設備	改修 一式	一式	一式	一式	一式	
○ 空調設備	改修 一式	一式	一式	一式	一式	
・ 排煙設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 湧水設備	改修 一式	一式	一式	一式	改修 一式	
・ 仮設工事	一式				一式	
○ 撤去工事	一式				撤去 一式	
・ 電気設備工事※	一式				一式	
・ 建築工事※	一式				一式	
※ 各工事の特記仕様書を確認のこと						

4 本 工 事 設 備 概 要 (本工事該当箇所に○印を付ける)

給排水衛生設備	給水方式	上水水源○市水・井水 法的区分(小規模貯水・簡専・専用水道) 給水方式○水道直結方式○直圧・増圧) 高架水槽方式・ポンプ直送方式) 湧水水源(・雑用水処理水・雨水○湧水) 湧水給水方式○水道直結方式・高架水槽方式・ポンプ直送方式)
	排水方式	○建物内汚水と雑排水(○分流・合流) ○重力式・ポンプアップ式・敷地外放流方式 ・直放流(・合流式・分流式) ○非直放流(○浄化槽・中水処理槽)
	浄化槽の形式	○ユニット型・現場施工型 ○放流水質BOD 20mg/L ○合併処理
	給湯設備	○局所式・中央式
	消火設備の種別	・屋内消火栓(・1号・2号・易操作性1号)・スプリンクラー・連結散水・連結送水 ・屋外消火・水噴霧消火・泡消火・不活性ガス・ハロゲン化物消火○消火器
空調設備	ガスの種別	・都市ガス・液化石油ガス・簡易ガス
	空調方式	・ダクト方式・ファンコイルユニット・ダクト併用方式 ○パッケージ方式(・中央式・各階式 ○個別式) ・直接暖房(・蒸気・温水) ・温風暖房・暖房専用・将来冷房可能 ・温風暖房機・空気調和機
	主要熱源機器	・温水・蒸気 ・鋼製ボイラ・銅製ボイラ(・立てボイラ・炉筒煙管式ボイラ) ・温風暖房機・ヒートポンプチャラー(・水冷・空冷) ・往復動冷凍機・遠心冷凍機・吸収冷凍機・直置き吸収冷温水機
	全熱交換器	・回転形・静止形・全熱交換ユニット
	換気設備	○機械換気(○有・無)
給排水衛生設備	排煙設備	・機械排煙(・有・無)・法規(・建基法・消防法)

5. 法令による区画(本工事該当箇所に○印を付ける ※有の場合は、図示等による)

建築基準法	防火区画	112条区画(・有・無) 114条区画(・有・無)
	延焼のおそれがある部分(・有・無)	
	排煙区画(・有・無)	
消防法	令8区画(・有・無)	
	共住区画(・有・無)	
その他の区画		

6. その他 (本工事該当箇所に○印を付ける)

- 週休2日促進工事 ○入札時積算数量書活用方式対象工事 ・快適トイレ設置対象
○情報共有システム活用 ・余裕期間制度対象
※工事内容・留意事項等を必ず記載のこと。
筑前岩屋駅舎改修に伴う給排水衛生設備、及び空調・換気設備工事を行う。

Ⅲ. 工事仕様

1. 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様による。

- (1)「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(2)「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(3)「公共建築工事標準仕様書(建築工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(4)「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(5)「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(6)「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(7)「公共住宅建設工事共通仕様書(令和元年度版)」国土交通省住宅局住宅総合整備課監修
年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。
ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者協議すること。

2. 補足基準等
適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。
(1)「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
(2)「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
(3)「建築工事標準詳細図(建築工事編 令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部設備整備課監修
(4)「機械設備工事監理指針(令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(5)「電気設備工事監理指針(令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(6)「建築工事監理指針(令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(7)「建築改修工事監理指針(令和4年版)」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
(8)「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」独立行政法人 建築研究所監修
(9)「建築工事安全施工技術指針・同解説」国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
(10)「建設廃棄物処理指針」厚生労働省生活衛生局
(11)「建築物等の解体等に係る石綿はく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」(厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課・環境省 水・大気環境局大気環境課)
(12)「石綿含有廃棄物等処理マニュアル(第3版)」(環境省環境再生・資源循環局)
(13)「建築工事の手引き」福岡県建築都市部編集
年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。
ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、県担当者協議すること。

3. 現場に常備する図書等
1.適用仕様等及び2.補足基準のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所常備し、監督職員の承認を得ること。

4. 特記仕様

- (1)章および項目は番号に○印のついたものを適用する。
(2)特記事項のうち選択する事項は、原則として※印を選択するが、それ以外を適用する場合は○印をつけて選択する。
(3)図面に明記なくも関係法規上・機能上・意匠上当然と認められるものは、本工事にて施工すること。

章	項目	特記事項
① 一般事項	① 発生材の処理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロンの処理についての項を適用のこと。 ※構外搬出・構内敷き均し この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこなう。その検査に合格すること。 工事の内容に応じて、機能試験を行うこと。 ※施工区分表による・図面詳細による 住宅においては20戸以上、住宅以外の建物については1,500m2以上の工事に適用する。 ○配管(建築配管作業) ○建築板金(ダクト板金作業) ○熱絶縁施工(保温保冷工事作業) ○冷凍空調調和機器施工(冷凍空調調和機器施工作業) あと施工アンカー 施工図の作成
	② 残土処分	
	③ 官公署その他への手続き	
	④ 機能試験	
	⑤ 他工事との取合い	
	⑥ 技能士の適用	
② 仮設工事	① 監督員事務所	○設けない・設ける(10㎡程度) 備品については監督員の指示による。
	② 工事用電力・水	この工事に必要な工事用電力(仮設及び試運転調整用電力を含む)、水(機能検査、消火用水及びブールの水張りを含む)及び諸手続などの費用は、すべて請負者の負担とする。 ・要する ○要しない
	③ 総合仮設計画書	○他工事・本工事(詳細図による。)
	④ 足場・構台	○他工事・本工事(詳細図による。)
	⑤ 仮囲い等危険防止措置	監督員の指示による。
	⑥ 工事表示板等	工事用車両の出入口では、一般行人及び一般車両の安全確保に努めること。 交通安全員 ○配置する(1名以上) ○配置しない
	⑦ 工事車両の出入口	
③ 共通事項	① 機材	この工事に使用する機材は、監督職員(係員)の承諾を受けること。 なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。 イ)機器類の能力・容量等(電動機出力は除く)は、原則として、表示された数値以上とする。 ロ)電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。 ハ)電動機の周波数は、60Hzとする。 設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 (1)設計用標準震度(Ks) 機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により以下表より求める
	② 容量等の表示	
	③ 耐震施工	

設置場所	特定の施設						一般的な施設	
	重要機器	重要水櫃	一般機器	一般水櫃	重要機器	重要水櫃	一般機器	一般水櫃
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0 (2.0)	1.5 (1.5)	1.5 (1.5)	1.5 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (0.6)	1.0 (1.0)
中間階	1.5 (1.5)	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.0)	0.6 (0.4)	0.6 (0.6)
地階及び1階	1.0 (1.0)	1.5 (1.0)	0.6 (1.0)	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	1.0 (0.6)	0.6 (0.6)	0.6 (0.6)

()書きの数値は防振機器
※耐震安全性の分類・特定の施設 ○一般的な施設
※次に示す機器を、重要機器、重要水櫃とし、それ以外の機器を一般機器、一般水櫃とする。

※上層階の定義は、次のとおりとする。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階
(2)地域係数(Z)
地域係数(Z)は、1.0とする。

給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の準耐火構造の防火区画等を貫通する場合の措置は、図1による。

飲料用の給水・給湯管・継手・弁類・水栓等については、鉛に関する浸出性能基準を満足すること。
呼び径100以下はねじ接合、125以上はフランジ接合とする。
図2による。
※鋼材・ボルトナットを屋外又は多湿箇所を使用する場合は、溶融亜鉛メッキ(2種35)又は、ステンレス鋼製(SUS304)とする。
埋設深さは150mm、テープ幅は150mm以上(図3)とし、色については次による。
土(青) ガス(緑) 消火管(赤) 中水(黄色) 油(茶)
その他については、監督職員(係員)の指示による。
※標準仕様書による。・図示による。

コンクリート内の防食は、防食用ビルテープ巻(1/2重ね1回巻)とする。
地中埋設は、ペトラタム系ペーストを塗布のうえ、ペトラタム系防食テープ1/2重ね1回巻を行う。さらにプラスチックテープ1/2重ね1回巻を行う。継手は出部分にペトラタム系マスキングを詰め、表面を平滑にしたうえで防食シートで包み、プラスチックテープを1/2重ね1回巻とする。
イ)無筋コンクリートの配合は、1:2:4とする。
ロ)鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm2とする。
既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の孔開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。事前にX線探査機等を使用し、コンクリート内の配筋・配線等避开すること。
※電気工事士法に定める「電気工事」「軽微な作業」を自ら行うものは、電気工事業者の登録または届出及び電気工事士資格を要し、「軽微な作業」を自ら行うものは電気工事業者の登録または届出を要する。
※特記なき電線管は、薄鋼電線管又は同一外径のねじなし電線管とする。
※可とう電線管は、2種金属可とう電線管とする。
※特記なき電線は、600Vビニル絶縁電線とする。
この工事で設置する鍵類の仕様については、監督職員(係員)の承諾を受けること。
掘削深さ(1,500 mm以上)の掘削には矢板を使用すること。
調整項目は下記の通りとし、測定表を提出する。なお測定箇所は監督職員(係員)の指示による。
・温度・湿度・風量・水量・騒音・飲料水水质・雑用水水质

- ④ 1. 大便器
・和風大便器(※節水型・一般型) ※耐火カバー(防火区画貫通部)
・洋風大便器(※節水型・一般型・高座面形)
・フラッシュタンク式・一般型
・床置型・壁掛型
※専用洗浄弁式 洗浄弁式
※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒド放散量が日本農林規格(JAS)で定めるF☆☆☆☆基準のものとする。
※節水コマ付・普通コマ付
普通・盗難防止形・耐食・盗難防止形耐食・身体障害者対応
70° □×1200(※合成樹脂製・人研製 ○SUS製)
トイレブース内の紙巻器、リモコン類等についてはJIS S0026に則った配置とすること。

2. 大便器洗浄方式
3. 小便器
4. 小便器洗浄方式
5. 洗面化粧台
6. 水栓
7. 鏡
8. 水栓柱
9. 器具配置

- ① 量水器
※計量法 検定合格品とする。
○親メーター(※貨品 ○買取り) (○直読式・遠隔式)
・子メーター(・貨品 ※買取り) (・直読式・遠隔式)
○水道事業者指定品(・貨品 ※買取り) ・国土交通省型 ・その他
○水道直結部分 JIS(※10K・)
○その他の部分 JIS(・5K ○10K)
○塩化ビニル鋼管及びポリ粉末鋼管の配管に取り付ける鋼鉄製の弁はライニング弁とし、青銅製弁は管端防食継手の規定に準じた管端コアを備えたものとする。
・鋼鉄製スレーナ―はライニングを施したものとす。
○国土交通省型 図4による。
一般配管 塩化ライニング鋼管(SGP-VA)
・塩化ライニング鋼管(SGP-VB)
○水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HVP) ・鋼鉄管(型 種)
・ステンレス鋼管(SUS) (・圧縮接合・溶接接合・拡管接合)
・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管(さや管工法) ・金属強化ポリエチレン管
ビツ内配管 塩化ライニング鋼管(SGP-VD) ・ポリ粉末鋼管(SGP-PD)
厨房、浴室等のシンダー内配管 塩化ライニング鋼管(SGP-VD)
屋内地中配管 塩化ライニング鋼管(SGP-VD) ・ポリ粉末鋼管(SGP-PD)
水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HVP)
屋外地中配管 塩化ライニング鋼管(SGP-VD) ・ポリ粉末鋼管(SGP-PD)
○水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HVP) ・水道用硬質塩化ビニル管(VP) ・ポリエチレン管 1種(PE) (・溶着接合・金属継手接合)

6. 引込納付金等
7. ポンプ基礎
8. 他設備項目の適用
9. 建物専入部配管
10. 管の埋設深さ
11. 器具接続用管端防食管継手
※別途
・標準基礎・防振基礎
下記のもの、空調設備の当該項目を適用する。
イ)防振継手 ロ)フレキシジョイント ハ)防振吊り金物及び支持金物(ただし湯水のみ)
※標準図(・a)・(b) ※(c)スリークッション)による。
○一般敷地○300mm・mm) ○構内車両通路 ○600mm・mm)
※用いる(図5)による。) 塩化ライニング鋼管と給排水・銅金全製配管附属品等との接続
※別途
・標準基礎・防振基礎
下記のもの、空調設備の当該項目を適用する。
イ)防振継手 ロ)フレキシジョイント ハ)防振吊り金物及び支持金物(ただし湯水のみ)
※標準図(・a)・(b) ※(c)スリークッション)による。
○一般敷地○300mm・mm) ○構内車両通路 ○600mm・mm)
※用いる(図5)による。) 塩化ライニング鋼管と給排水・銅金全製配管附属品等との接続

1. 汚水管・硬質塩化ビニル管(VP) ・耐火二層管・カラーVP
・排水用塩化ライニング鋼管・耐火性硬質ポリ塩化ビニル管(FS-VP)
・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ・ビツ内
○雑排水管・配管用炭素鋼管(白) ○硬質塩化ビニル管(VP) ・カラーVP ・耐火二層管
・排水用塩化ライニング鋼管 ○耐熱硬質塩化ビニル管・耐火硬質塩化ビニル管(FS-VP)
・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ・ビツ内
○屋外排水管 ○硬質塩化ビニル管 ○VP・VU ※呼び径125以上は原則としてVUとする
○小口径樹立上管・リサイクル硬質塩化ビニル管(※RS-VU)
・通気管・配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管(VP) ・カラーVP ・耐火二層管
・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ・ビツ内
・鋼管(・ねじ込み式・MD継手・)
・排水用塩化ライニング鋼管(・MD継手・)

2. 管接合
3. 可燃材の区画処理
4. 弁類
5. 床上掃除口直下の曲管
6. コンクリート樹ふた
7. 小口径樹ふた
8. 伸縮継手
9. グリーストラップ
10. 差込ソケット(VV)
11. 満水試験継手
図1による。
特記以外JIS 5Kとする。
排水鋼鉄管系統の床上掃除口直下に取り付ける管は45°2回曲りとする。
図面詳細による。
図面詳細による他、下記による。
ミカゲ(未塗装部) 鋼鉄(歩道部) 保護鋼鉄(車道部) ○T-8・T-14・T-25)
ビニル製伸縮継手
空気調和・衛生学会規格SHASE-S 217(グリース阻集器)によるものとする。
排水流し下のビニル製排水管には差込(VV)ソケットを使用すること。
図示による。

- ① 管類
イ) ・ステンレス鋼管(・圧縮接合・溶接接合) ・保温付ステンレス鋼管
・耐熱塩化ライニング鋼管・鋼管・鋼管・保温付被覆鋼管 ○被覆耐熱鋼管
・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管(さや管工法) ・金属強化ポリエチレン管
ロ)鋼管使用の場合はM管とし、電食防止継手を取付ける。
※用いる(図5)による。)
JIS 5Kとする。ただし、特記部分はJIS 10Kとする。
ガス湯沸器用排気筒は、JIS S 3025(又はSUS304(厚さ0.3mm以上)とする。
・排気筒の断熱(※要(應べいの箇所のみ) ・不要)
イ)膨張水槽の保温(・要・不要)
ロ)コンクリート埋設部(・防水麻布巻・保温施工)
・瞬間式 ○貯湯式・風呂給湯器(オートタイプ)
・ガス・灯油 ○電気

- ② 器具接続用管端防食管継手
③ 弁類
4. 排気筒及び煙突
5. 保温
6. 湯沸器
7. 燃料
1. 消火ポンプの基礎
2. フート・付・呼吸水櫃及びサクションカバー
3. 消火器
4. 保温
5. 管類
6. 消防設備士
※ABC10号(ボックス共)
・屋内消火管(・要 ※不要) ・屋外露出消火管(※要・不要)
・配管用炭素鋼管(白) (屋内) ・外面被覆鋼管(・SGP-VS・SGP-PS)
※要

- ③ 1. 種類
2. 管類
3. 都市ガス
4. 液化石油ガス
5. ガス湯沸器の付属品
6. ガス漏れ警報器
7. 施工資格
8. ガス栓
9. 給気継手
10. 建物専入部配管
・都市ガス(ガス種 ※13A・12A) ・液化石油ガス
一般配管 配管用炭素鋼管(白) ・ガス用ステンレス製フレキシブル管
・硬質塩化ビニル管(VP) ・ガス用ステンレス製被覆鋼管
・ポリエチレン被覆鋼管
ビツ内配管 硬質塩化ビニル管(VP) ・ポリエチレン被覆鋼管
屋外埋設配管 ポリエチレン管JIS K 6774
イ)ガスメーター 親メーターはガス供給事業者より借用。子メーターは買取りとする。
イ)ガスメーター 買取り・借用) 集合装置(・別途工事 ※本工事)
ハ)転倒防止用の鎖(・別途工事 ※本工事)
ニ)ボンベ置場のコンクリート基礎(※別途工事・本工事)
運動スイッチ(・要・不要)
・本工事・別途工事
※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。
液化石油ガス設備士による施工とする。
(財)日本エルビ―ガス機器検査協会・検査合格品とする。
※要・不要
・標準図(・a)・(b) ※(c)スリークッション)による。

- ④ ① ダクトの種別
② 厨房ダクトの板厚
③ ダクトの工法・種類
※低圧ダクト・高圧ダクト
厨房排気ダクト(矩形ダクトに限る)の板厚は、表1による
イ)給気用ダクト・アングル工法 ○コーナーボルト工法(○共板・スライドオン)
○スパイラルダクト・耐火二層管工法・VP管工法
ロ)排気用ダクト・アングル工法 ○コーナーボルト工法(○共板・スライドオン)
○スパイラルダクト・耐火二層管工法・VP管工法
※厨房排気は原則としてアングル工法とする
イ)給気用ダクト ※割込み方式・直付け方式
ロ)排気用ダクト ※割込み方式・直付け方式
※指定色仕上げ・指定なし
イ)排気フードの補強及び支持金物、接合材等は、亜鉛鉄板製風道の当該事項による。
ロ)材質 ※ステンレス製・亜鉛鉄板製
※厨房 ※浴室(シール有)
下記のもの、空調設備の当該項目を適用する。
イ)風量測定ロ ロ)チャンパー等 ハ)吹出口及び吸込口の材質
ニ)防煙ダンパー ホ)消音内貼り ヘ)防振吊り金物
・床置(・標準基礎・防振基礎) ○天吊(標準図による。)

11. 排煙設備
1. ダクトの材質
2. 排煙口
3. 排煙設備
4. 排煙風量測定
・亜鉛鉄板製・普通鋼板製
イ)形状 スリット形・パネル形・ダンパー形
ロ)開放装置・手動・手動及び遠隔操作可能なもの
排煙口～手動開放装置の配線は、標準仕様書第4編1.3.1表4.1.1.1による耐熱・耐火ケーブルとする。
建築設備定期検査業務基準書 2023年版(一財)日本建築設備・昇降機センターの検査方法に準ずる。

12. 自動制御設備
1. 中央監視制御
2. 中央監視制御装置の構成・機能
3. 電源装置
・要・不要
別記による。
・要(・本工事・別途電気工事) ・不要

- ③ ① 空気調和設備
1. 温湿度調整目標値(※冷・暖房期前若しくは指定日に総合運転調整を行い、試運転成績表を提出すること)
2. 外気
3. 室内
4. 配管材料(パッケージエアコンを除く)
5. 冷凍機
6. 弁類
7. 防振継手
8. フレキシジョイント
9. ダクト
10. 風量測定ロ
11. チャンパー等
② 吹出口・吸込口の材質(シャッター共)
13. 防振ダンパー
14. 煙道
⑤ 保温
⑥ 消音内貼り
⑦ 機器類の架台
18. 機械室(配管・風道)のつり金物
19. 温度計
20. 圧力計及び連成計
21. 瞬間流量計
22. ファンコイルユニット用調節弁
23. 油サービスタンク
24. 地下貯油槽
25. 予備品
26. アワーメーター
27. 度数計
28. 煤煙濃度計
29. ばいじん量測定孔
※施工区分表による。・図面詳細による。
イ)冷凍機 ※HFC系(R407C, R410A, R134a, R32等)
ロ)冷凍機(※断熱材被覆鋼管(断熱厚:液管10mm, ガス管20mm))
ハ)冷凍機及びバルブの区画処理(・有(※国土交通大臣認定工法・その他) ○無)
ニ)ドレン管の材質 ・配管用炭素鋼管(白) ○カラーVP
・結露防止層付塩化ビニル管 ○硬質塩化ビニル管(RF-VP)
ホ)室外機の基礎 ○標準架台・防振架台
ヘ)※2015年省エネ基準値対応品とする(各メーカ最高APF機種)
ロ)機器表記記載の能力を、定格ではなくインバータ最大能力で満たすこと。
イ)給水管・塩化ライニング鋼管(・SGP-VB・SGP-VA)
ロ)冷温水管・配管用炭素鋼管(白) ・耐熱塩化ライニング鋼管
・一般配管用ステンレス鋼管
ハ)排水管・配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管(VP) ・カラーVP
・結露防止層付塩化ビニル管・硬質塩化ビニル管(RF-VP)
ニ)冷却水管 ※塩化ライニング鋼管(※SGP-VB・)
ホ)蒸気及び油配管は配管用炭素鋼管(黒)とする。
ハ)冷凍機(・鋼管・断熱材被覆鋼管(製造者標準品))
ロ)冷凍機の区画処理(・有(※国土交通大臣認定工法・その他) ・無)
チ)膨張管、安全管及び膨張水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。
※HFC系(R407C, R410A, R134a, R32等) ・自然冷凍(CO2, NH3)
JIS 5Kとする。ただし特記部分はJIS 10Kとする。
・ベローズ形・合成ゴム製(・合成ゴム製・3山ベローズ形)
※長さは標準仕様書による。
・ベローズ形ステンレス製・合成ゴム製
イ)種別(※低圧ダクト・高圧ダクト)
ロ)工法・種類(・アングル工法・コーナーボルト工法(・共板・スライドオン)
・スパイラルダクト・ステンレスダクト)
ハ)分岐方法(※割込み方式・直付け方式)
標準仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。
イ)シーリングディフューザーには、下記の接続チャンパーを設ける。
a)ネック径が200φ以下 400×400×250H
b)ネック径が200φをこえるもの 500×500×300H
ロ)ブリーザインフラウト口には、下記の接続チャンパーを設ける。
a)シリング形 200×(L+100)×300H
b)ダブル形 250×(L+100)×300H
ハ)外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンパー、ホッパーには排水弁を設ける。
イ)ユニバーサル形状吹出口 ・鋼板製 ※アルミ製
ロ)シーリングディフューザー ・鋼板製 ※アルミ製
ハ)吸込口 ・鋼板製 ※アルミ製(外気吸込口には防虫網付とする。)
下記のもの本仕様による。
イ)操作方式 ・電気式・空気式
ロ)復帰方式 ※遠隔式(※電気式・空気式) ・手動式
ハ)温度ヒューズ(・取り付ける・取り付けない)
ニ)表示用端子(・設ける・設けけない)
鋼板厚(・4.5mm ※3.2mm)

- 下記のものは本仕様による。
イ)建物内の空気抜き管の保温は、空気抜き弁までとし、仕様は温水管の項による。
ロ)空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。
ハ)通り風道の保温(・要・不要) ニ)膨張水槽の保温(・要・不要)
ホ)内貼りチャンパー等の保温(・要・不要)
ヘ)隔べい風道の保温でフランジ部は保温材2枚重ねとする。
イ)内貼りの材料及び施工法は、標準仕様書の当該事項による。
ロ)施工箇所は、図示した風道並びにチャンパー類とする。
ハ)内貼りチャンパー類の寸法表示は、外形寸法とする。
イ)パッケージ形空気調和機 ○防振パット ※木台 ※転倒防止処理
ロ)ユニット形空気調和機(・標準架台・防振架台)
ハ)送風機(・標準架台・防振架台) ニ)ポンプ(・標準架台・防振架台)
ホ)冷凍機(・標準架台・防振架台)
ヘ)チラーユニット(・標準架台・防振架台)
ハ)防振つり金物(・シングル・ダブル)(・中央機械室・各階機械室)
※標準仕様書による。
※標準仕様書による。
※要(※標準仕様書による。・図示による。)
・不要
・流量調節弁・定流量弁(流量設定が可能なもの)
イ)防油堤(コンクリート製) ※別途工事・本工事
ロ)フロートスイッチの機能は、下記による。
・給油ポンプの起動、停止・満油警報・減油警報
ハ)油面計(・フロート式・ゲージ式)
イ)タンク室・設けない・設ける(・別途工事・本工事)
ロ)計量器(・計量尺・直読式(防水蓋スプリング付、プロテクター共)・遠隔式)
ハ)土工事・オプション・矢板(・有・無) ・特殊基礎(・有・無)
※ファンコイルユニット付属品 イ)運転表示ランプ 台数の1/2以上
ロ)フィルター 各型番台数の1/2以上
※自動巻取形空気濾過用フィルター(各台1巻)
※ユニット形空気濾過器 個

名称	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	特記仕様書(1)	訂正	
一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	製図	縮尺	A3=N.S
	承認	図章	M-01
株式会社 環・設計工房			

14	受水槽設備		※加圧給水ポンプ(住宅物件)の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書(国土交通省仕様)による。						
15	浄化槽設備		※浄化槽仕様書による。						
16	営繕保溫仕様	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区別				
			屋外露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー 保温層	給水管	排水管	温水管	給湯管	給排水管
			機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミグラスクロス 化粧断熱	●	●	●	●	●
			天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミグラスクロス化粧断熱 2.アルミグラスクロス 粘着テープ	●	●	●	●	●
			床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	○
			床下・暗渠内・コンクリート内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	○
			屋外露出・多温箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温層 5.ガルバリウム鋼板	○	○	○	○	○
			屋外露出・多温箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温層 5.ガルバリウム鋼板	●	●	○	○	○
			風管塗装	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	○
			白管塗装	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	○
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	空調設備工事(冷水・暖水・管)	施工箇所	保溫種別	区別					
			屋外露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.合成樹脂製カバー 保温層	温水管	暖気管	冷気管	排水管	給水管
			屋外露出	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.合成樹脂製カバー 保温層	○	○	○	○	○
			屋外露出	1.被覆鋼管の断熱材 2.保温化粧テープ	○	○	○	○	○
			機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.アルミグラスクロス 化粧断熱	○	○	○	○	○
			機械室・倉庫	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.アルミグラスクロス 化粧断熱	○	○	○	○	○
			天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミグラスクロス化粧断熱 2.アルミグラスクロス 粘着テープ	○	○	○	○	○
			天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.アルミグラスクロス 化粧断熱	○	○	○	○	○
			床下・暗渠内・コンクリート内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	○
			床下・暗渠内・コンクリート内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	○
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	一般風道	区分	保溫種別	区別					
			矩形風道	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.グラスウール 保温板 3.着色亜鉛板 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	2.グラスウール 保温板 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	4.鉄線 5.ステンレス鋼板
			円形風道 (スパイラルダクト)	1.アルミガラス クロス化粧断熱 2.鉄線 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.グラスウール 保温層 2.鉄線 3.着色亜鉛板 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	1.アルミガラス クロス化粧断熱 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	1.アルミガラス クロス化粧断熱 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	1.アルミガラス クロス化粧断熱 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板	1.アルミガラス クロス化粧断熱 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板
			区分	保溫種別					
			矩形	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ
			円形	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ	1.新 2.アルミガラス クロス化粧断熱 3.アルミガラス クロス粘着テープ
			煙道	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板	1.ロウワール・フランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛板
			※ホリスチレンフォーム保温筒及びロックウール保温筒又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロックウールフェルトを使用してもよい。						
			※スレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。						
			※防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。						
※蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。									
※スパイラルダクト(フランジ部を除く。)の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。									
※OAダクトが室内空間空調を経由する場合は保温すること。									
※全熱交換器の一次側OA、EAダクトは保温工事を施すこと。									
・ドレン管の保温は、排水管の項による。									
17	住宅保溫仕様	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	給水	排水	給湯	ガス	
			屋外露出(住宅内)白管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			屋外露出(住宅外)	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			機械室内	1.防止めべい(2回) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内風管	1.エッチング フライマー 2.鋼合べい(1回) 3.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			メーターボックス内白管	1.グラスウール 2.鉄線 3.断熱 4.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			メーターボックス内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ フォーム保温層 3.ポリスチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.防止めべい(鋼管部) 2.鋼合べい(2回)	○	○	○	○	
			床下・暗渠内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	○	○	○	○	
管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する	(管類については、○の印を塗りつぶしたものを適用する)	給排水衛生設備(管類)	施工箇所	保溫種別	区 分				
			屋外露出(住宅内)風管	1.防止めべい(2回)					

18建設副産物の処理について	資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し、集積すること。 また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。工事に際しては、工事着手前に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」(共に添付書類を含む)を提出すること。 有価物(スクラップ)については受注者責任の元、適切に処分を行うこと。処分を行った場合は、マニフェスト別に、有価物としての処分量が確認できる伝票等を添付すること。																			
	指定副産物 (原則として再資源化施設へ持込むもの)	その他の副産物																		
	○がれき類 (コンクリート塊) (アスファルト塊) ・ 木くず ・ 汚泥	○廃プラスチック ・ ガラス、陶磁器くず ・ 廃石こうボード ○金属くず ・ 繊維くず																		
	特別管理産業廃棄物																			
19建設副産物の処理内容	・ 焼石綿等 1. 事前調査及び調査結果報告 本工事は石綿有無の事前調査が必要な工事で、調査は法令で定められた有資格者が実施すること。 また調査結果を石綿事前調査報告システムにより報告し、作業開始前に監督職員へ書面で説明すること。 事前調査で石綿の有無が明らかにならない場合は、監督員と協議の上、必要に応じ分析調査を行うこと。 2. 除去処理 アスベスト含有保温材等(煙突用断熱材は除く)の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に濃湿化した後、手ばらして行う事。手ばらし以外の除去(グループバック方式による除去は除く)の場合は、「改修仕様」9.1.3および改修指針」9.1.3iによる。 3. 汚染物処分 (1)除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9.1.3(b)(2)及び「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。 (2)施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9.1.3(c)及び改修指針」9.1.3(c)による。																			
	・ 廃PCB等 「電気事業法:電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書を作成し届出を行うこと。また廃PCBについては、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。																			
	※参考受入場所は現場説明書による																			
	建設副産物の処理内容																			
20中水道配管設備	<table><tr><th>処 理 内 容</th><th>備 考</th></tr><tr><td>現場内における分別</td><td></td></tr><tr><td>現場内分別保管場所の設置</td><td></td></tr><tr><td>現場内分別保管場所までの運搬</td><td></td></tr><tr><td>分別保管場所からの積み込み・運搬・処分</td><td></td></tr><tr><td>「建設副産物の処理計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「建設副産物の処理結果報告書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用実施書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr></table>		処 理 内 容	備 考	現場内における分別		現場内分別保管場所の設置		現場内分別保管場所までの運搬		分別保管場所からの積み込み・運搬・処分		「建設副産物の処理計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要
	処 理 内 容	備 考																		
	現場内における分別																			
	現場内分別保管場所の設置																			
現場内分別保管場所までの運搬																				
分別保管場所からの積み込み・運搬・処分																				
「建設副産物の処理計画書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。																				
<table><tr><td>業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力 委託確認書</td><td>発注者(施設管理者)</td><td>業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書 引取証明書、業者登録書のコピー</td></tr><tr><td>フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書</td><td>工事請負業者</td><td>引取証明書、業者登録書のコピー</td></tr><tr><td></td><td>第1種フロン類充てん回収業者</td><td>…フロン類回収・運搬</td></tr><tr><td></td><td>フロン類破壊・再生業者</td><td>…フロン類破壊処理、一部再生利用</td></tr></table>		業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力 委託確認書	発注者(施設管理者)	業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書 引取証明書、業者登録書のコピー	フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書	工事請負業者	引取証明書、業者登録書のコピー		第1種フロン類充てん回収業者	…フロン類回収・運搬		フロン類破壊・再生業者	…フロン類破壊処理、一部再生利用							
業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力 委託確認書	発注者(施設管理者)	業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書 引取証明書、業者登録書のコピー																		
フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書	工事請負業者	引取証明書、業者登録書のコピー																		
	第1種フロン類充てん回収業者	…フロン類回収・運搬																		
	フロン類破壊・再生業者	…フロン類破壊処理、一部再生利用																		
※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図面に添付のこと。																				
※ 家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)に該当する機器(ルームエアコン等)については、適切に処理し、管理票(家電リサイクル券)を竣工図面に添付すること。																				
21中水道配管設備	1. 水源	・ 雨水 ・ 雑用水処理水 ・ 井水																		
	2. 配管材料	一般配管 ・ 塩ビライニング鋼管(SGP-VA) ・ ポリ粉体鋼管(SGP-PA) ・ 塩ビライニング鋼管(SGP-VB) ・ ポリ粉体鋼管(SGP-PB) ・ 水道用耐衝撃性硬質強化ビニル管(HVP)(屋内) ・ 鋼鉄管(型 種) ・ ステンレス鋼管(SUS)(・ 圧縮接合 ・ 溶接接合 ・ 拡管接合) ピット内配管 ・ 塩ビライニング鋼管(SGP-VD) ・ ポリ粉体鋼管(SGP-PD) 屋内地中配管 ・ 塩ビライニング鋼管(SGP-VD) ・ ポリ粉体鋼管(SGP-PD) ※ブルブル系クーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 屋外地中配管 ・ 塩ビライニング鋼管(SGP-VD) ・ ポリ粉体鋼管(SGP-PD) 水道用耐衝撃性硬質強化ビニル管(HVP) ・ 水道用硬質強化ビニル管(VP) ※ブルブル系クーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管 1種(PE)(・ 溶着接合 ・ 金属線手接合)																		
	3. 接続部の防止対策	<table><tr><th>配 管 等</th><th>※塗装できない管種にはテープ巻きを施すこと</th></tr><tr><td>屋内隠ぺい配管</td><td>1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。</td></tr><tr><td>屋内・屋外露出配管</td><td>1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。</td></tr><tr><td>地中埋設部</td><td>1. 埋設前の積管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。</td></tr><tr><td>コンクリート内埋設部の配管</td><td>2. 「処理水」の文字入り埋設構構テープ(黄色)を布設する。(地中埋設部)</td></tr><tr><td>メーター</td><td>1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。</td></tr><tr><td>バルブ等</td><td>1. バルブハンドルには若草色の着色塗装をすること。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。</td></tr></table>	配 管 等	※塗装できない管種にはテープ巻きを施すこと	屋内隠ぺい配管	1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	屋内・屋外露出配管	1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。	地中埋設部	1. 埋設前の積管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	コンクリート内埋設部の配管	2. 「処理水」の文字入り埋設構構テープ(黄色)を布設する。(地中埋設部)	メーター	1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。	バルブ等	1. バルブハンドルには若草色の着色塗装をすること。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。				
	配 管 等	※塗装できない管種にはテープ巻きを施すこと																		
屋内隠ぺい配管	1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																			
屋内・屋外露出配管	1. 保温前の積管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。																			
地中埋設部	1. 埋設前の積管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																			
コンクリート内埋設部の配管	2. 「処理水」の文字入り埋設構構テープ(黄色)を布設する。(地中埋設部)																			
メーター	1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。																			
バルブ等	1. バルブハンドルには若草色の着色塗装をすること。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。																			
注)若草色とは黄緑色をいう。 処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設構構テープは福岡市工事組合に常備。 非戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。																				
22中水道配管設備	4. 試験	誤接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。																		

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

1. 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材料で造ること。(右参考図参照)
※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。

2. 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。(下表)
(難燃材料又は硬質強化ビニル管(VP)を用いる場合)

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径		
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造
給水管		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		4.1mm以上	61mm(50)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
排水管及び排水管に付属する通気管	無し	4.1mm以上	61mm(50)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		7.0mm以上	141mm(125)		

※表中の()内は適合可能な硬質強化ビニル管(JS K 674)のVU管を除く)の呼び径寸法を示す。
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質強化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

3. 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1)硬質塩ビライク管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合(右参考図参照)

例2)耐火二層管を認定条件に従って施工する場合
(立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質強化ビニル管とした場合など)

表1 横走り管の吊り及び振れ止め支持間隔

横走り管の吊り、形鋼振れ止め支持間隔は下記の通りとする。

分類	呼び径	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300
吊り金物による吊り	鋼管・ステンレス鋼管	2.0m以下										3.0m以下			
	ビニル管	1.0m以下										2.0m以下			
	銅 管	1.0m以下										2.0m以下			
形鋼振れ止め支持	鋼管・ステンレス鋼管	—										8.0m以下			
	ビニル管	—										6.0m以下			
	銅 管	—										6.0m以下			

※冷媒用銅管の横走り吊り金物間隔は、銅管の基準外径が9.52mm以下の場合は1.5m以下、12.7mm以上の場合は2.0m以下とし、形鋼振れ止め支持間隔は銅管に準ずる。ただし、液管・ガス管共吊りの場合は液管の外径とするが、液管25mm未満の形鋼振れ止め支持間隔はガス管の外径による。

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが250mm以上、重量10kg以上の設備機器(天井吊型のアリコンユニット、天井吊型またはセクト型のバグリー空気調和機屋内機、天井隠ぺい形全熱交換ユニット)については、四隅を鉛直吊り具で支持し、吊り合2本毎にX状斜材を締め具で堅固に取り付け、天井との相関変位を抑制すること。

※ X状斜材の規定取付角度(45±15度)が確保できない場合や吊り長さが1500mmを超える場合は斜材を複数段設置するか、鋼製架台を用いることにより、規定取付角度を確保すること。
ただし、吊り長さが500mm以下の場合に限り、ワナサイズアップ(W1/2またはM12以上)の吊りボルトを使用すれば斜材同等として取り扱う。

図3 配管埋設参考

埋設深さH

1 300以上

2 600以上

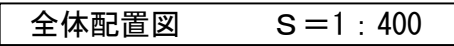
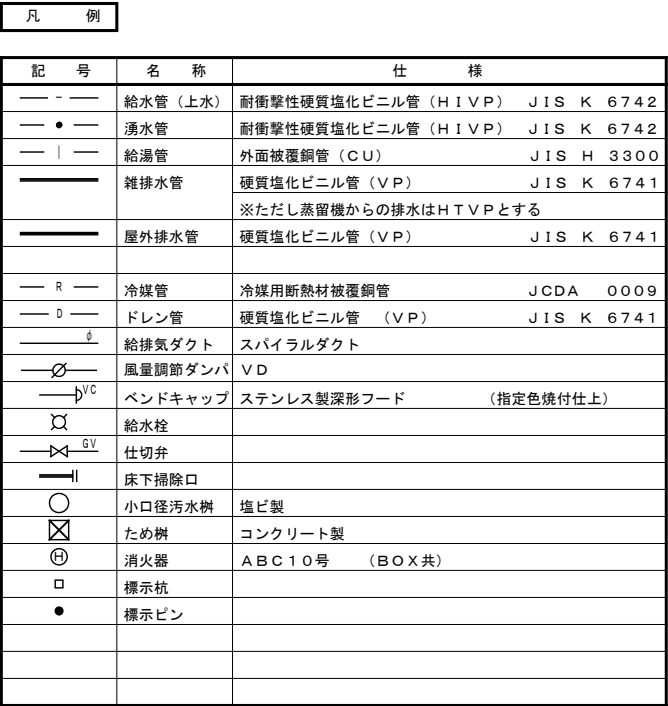
3 以上

図4 弁掛

VC-1～VC-5

記号	弁の呼び径	B	B	T	t'	t"	ふた
VC-P	25 以下	200φ	—	—	—	—	B1
VC-1	40 以下	180x180	550	75	75	75	B1
VC-2	—	—	850	100	100	100	—
VC-3	50～80	300x300	700	100	100	120	MHA-P300
VC-4	—	—	900	—	—	—	—
VC-5	100～200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注(イ)本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
(ロ)コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。
なおコンクリート部は工場製品でもよい。
(ハ)溝底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。



工事 名 目 名 称	筑前岩屋駅舎改修工事		設 計	
	【衛生】 全体配置図、凡例		訂 正	
			縮 尺	A3=1:400
			製 図	承認 図書
一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男			M-03	
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房				

衛生設備 機器表(改修後)				—	※ 電気容量は、参考値とする			
記 号	名 称	設置場所	台数	機器形式	機 器 仕 様	容 量	相一電圧	備 考
WHE-1	小型電気温水器	アロマファクトリーホ	1	流し台内設置形	先止め式 貯湯量:20L 週間タイマー機能付	2.0kw	1-200V	コンクリート基礎建築工事
					付属品:専用フレキ管、排水ホッパー、オーバーフロー管、			
					コンセントプラグ 他一式			
					※ 給湯器共通事項			
					1.給湯器の構造基準(転倒及び移動防止対策)については、			
					「告示第1447号第5号」の基準に適合させることとし、安全上支障のない構造とする			

空調設備 機器表(改修後)				—		※ 電気容量は、参考値とする					
記 号	名 称	階	設置場所	数量	機器形式	機 器 仕 様	リモコン スイッチ	消費電力		相一電圧	備 考
								電気特性	容 量		
ACP-1	空冷ヒートポンプ式 パッケージ形空調和機	1	アロマファクトリーホ	2	天井カセット形 (1方向吹出)	インバータータイプ/セパレート形 冷房能力:8.0kw 暖房能力:10.6kw 付属品:ワイヤレスリモコン、防振ゴム、室内機振止め金具 転倒防止金具、室外機用RC架台共	2	冷房 暖房 (低温暖房)	2.05kw 2.38kw (3.5kw)	1-200V	
《共通仕様》特記なき限り下記仕様による											
形式	空冷ヒートポンプパッケージ・ルームエアコン										
能力表示	能力表示は、JIS空気条件換算値を示す。(冷房能力・暖房能力ともインバーター最大値で満たすものとする)										
冷媒	冷媒ガスは新冷媒(R32)とする。										
電源	室外機電源供給、室内機電源(2次側)及び制御回路(リモコン含む)配管は電気工事とする。 室内機は、ロングライフフィルター。(メーカー標準品、洗浄再生品) 室内機は、ドレンアップメカ付属とすること。										
特記事項	1) 消費電力は参考値とする。 2) 室外機には転倒防止金具を取り付けること。 3) 空冷ヒートポンプパッケージエアコンの定格能力、消費電力はJIS B 8616(2015)で規定された値による。 4) 機器は2019年グリーン購入法(特定調達物品等)適合品及び2015年省エネ基準適合品且つ、各メーカー最高APF機種とする。										

換気設備 機器表（改修後）				—	※ 電気容量は、参考値とする						
記 号	名 称	階	設置場所	数量	機器形式	機 器 仕 様	スイッチ	消費電力	相一電圧	24h 換気	備 考
								容 量			
FE-1	有圧換気扇	1	アロマファクトリーラボ	1	風圧式シャッター	耐湿型(格子タイプ) 羽根径250φ × 1,000m3/h × 16Pa 付属品：取付枠、SUS製ウェザーカバー(防虫アミ付) ※ウェザーカバーは指定色焼付仕上げとする	1	0.04kw	1-100V	○	
FE-2	天井埋込形換気扇	1	倉 庫	1	低騒音形	60m3/h x 25Pa 付属品：防振吊金具		0.0093kw	1-100V		
F-1	天井扇	1	アロマファクトリーラボ	1	天井吊下げ形	羽根径90cm(強中弱速度調節機能付) 付属品：速度調節器、吊下げパイプ 他付属品一式	1	0.052kw	1-100V		

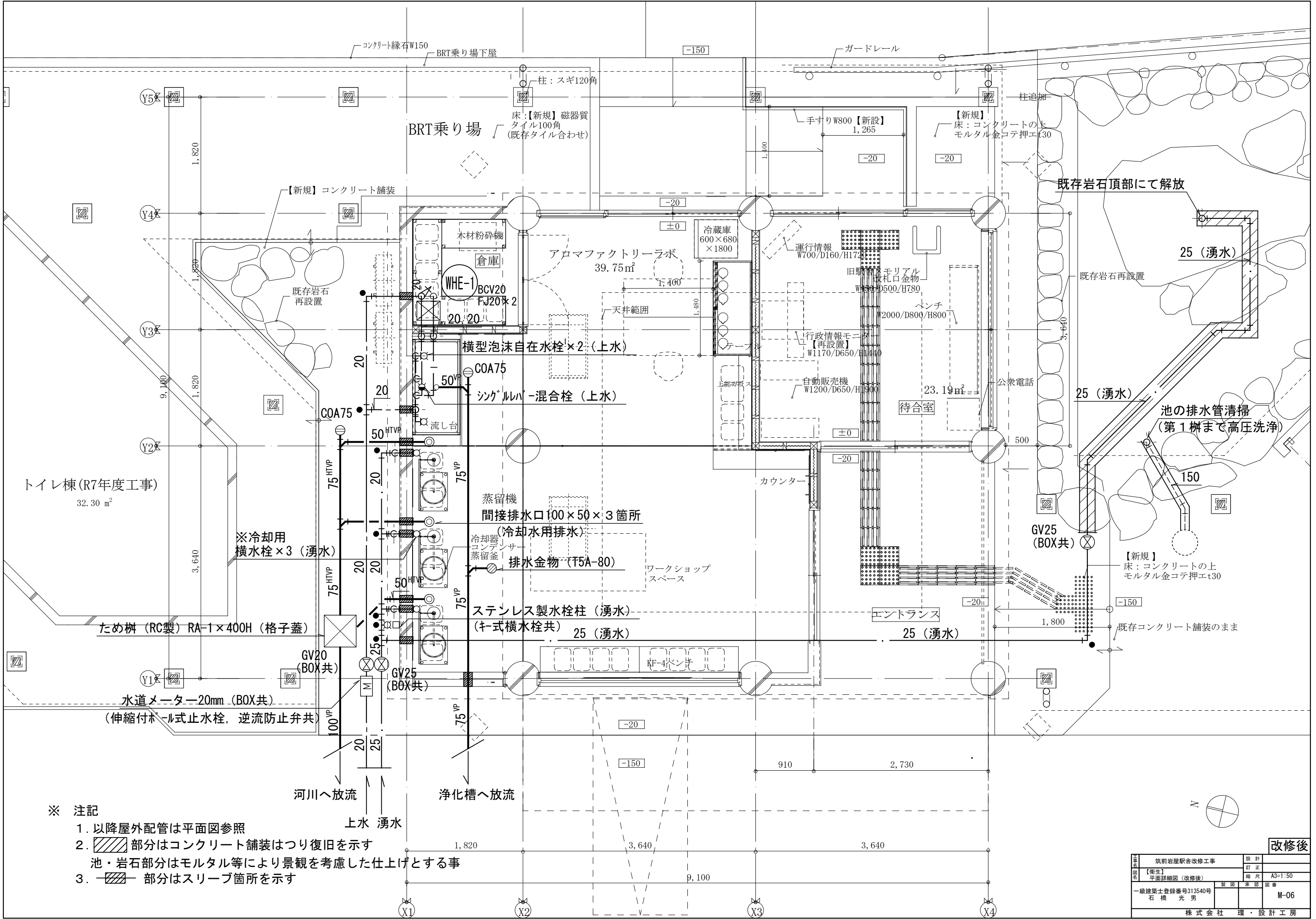
衛生設備 器具表(改修後)

—

※ 1.付属品の品番は便宜上、TOTOの品番を使用する

名 称	品 番	付 属 品	1 階		屋外		合 計
			ア ロ マ フ ア ク ト リ ー ホ		屋 外		
シングルレバー混合栓	TKS05311J		1				1
横型泡沫自在水栓	T131SUN13C		2				2
横水栓	T200SNR13C		3				3
キー式横水栓	T200CSNR13				1		1
ステンレス製水栓柱		1200H			1		1
消火器	ABC10号	床置きボックス共	1				1

				改修後	
工事名 図名	筑前岩屋駅舎改修工事 機器表・器具表			設 計	
				訂 正	
一級建築士登録番号313540号 石 橋 光 男			製 図	承認	A3=N. S
					M-04
株 式 会 社 環 ・ 設 計 工 房					



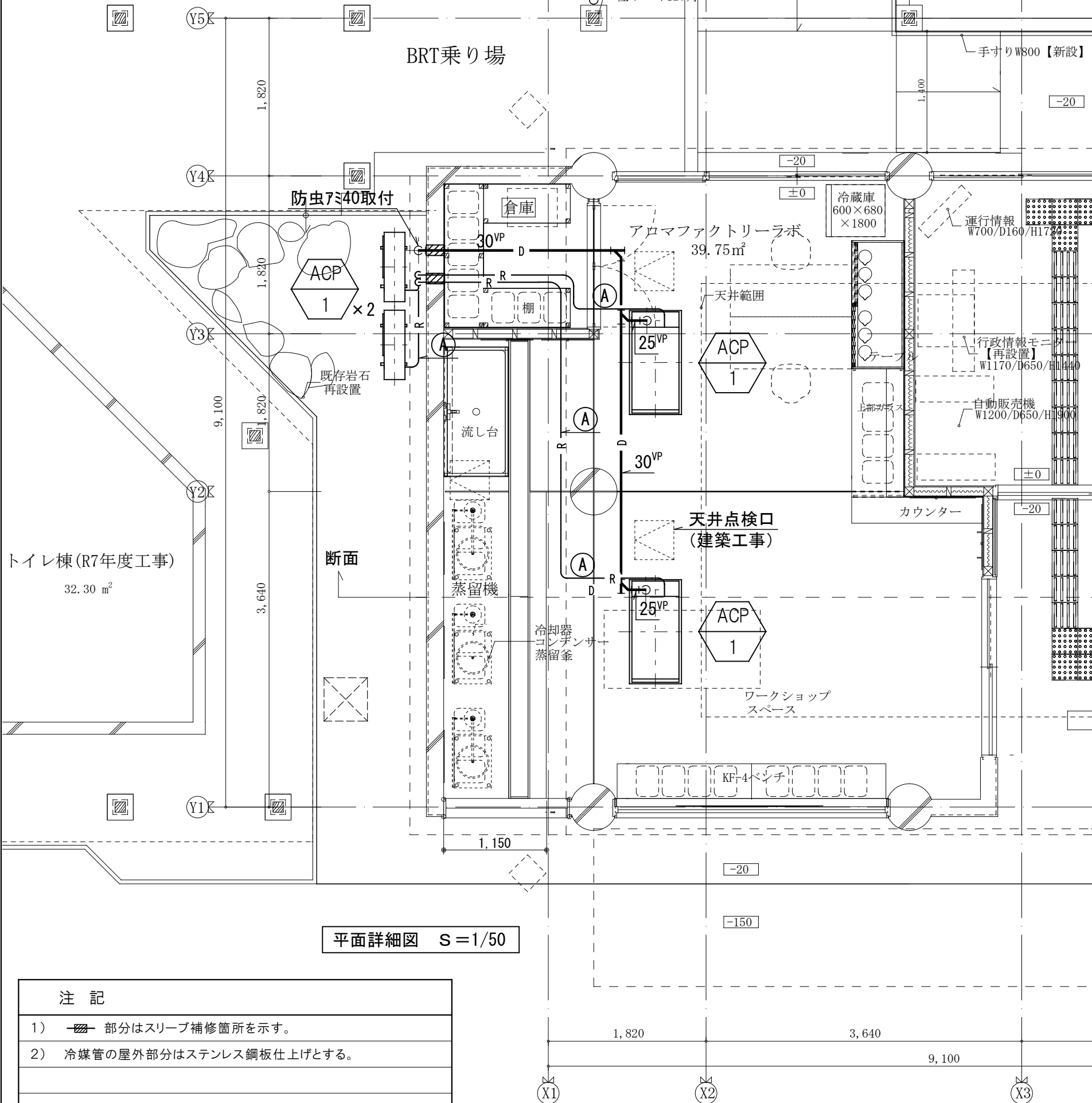
※ 注記

- 以降屋外配管は平面図参照
- 斜線部分はコンクリート舗装はつり復旧を示す
池・岩石部分はモルタル等により景観を考慮した仕上げとする事
- 点線部分はスリーブ箇所を示す

改修後	
計画 【衛生】 平面詳細図（改修後）	設計 訂正 縮尺 A3=1:50
一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	製図 承認 図書 M-06
株式会社 環・設計工房	

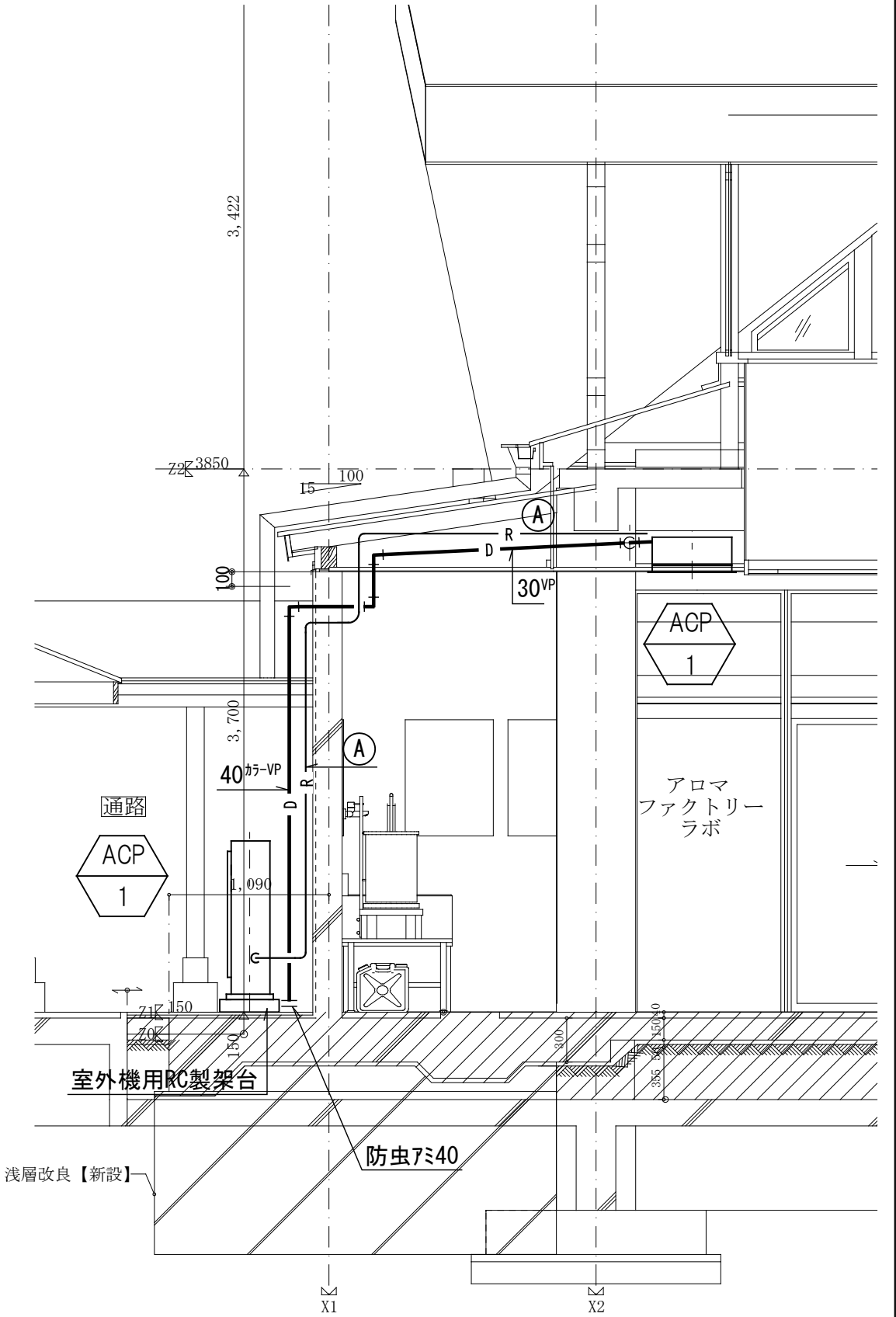
冷媒管サイズ表		
記 号	液 管	ガス管
A	9.5φ	15.9φ

※冷媒管サイズ表は参考とする



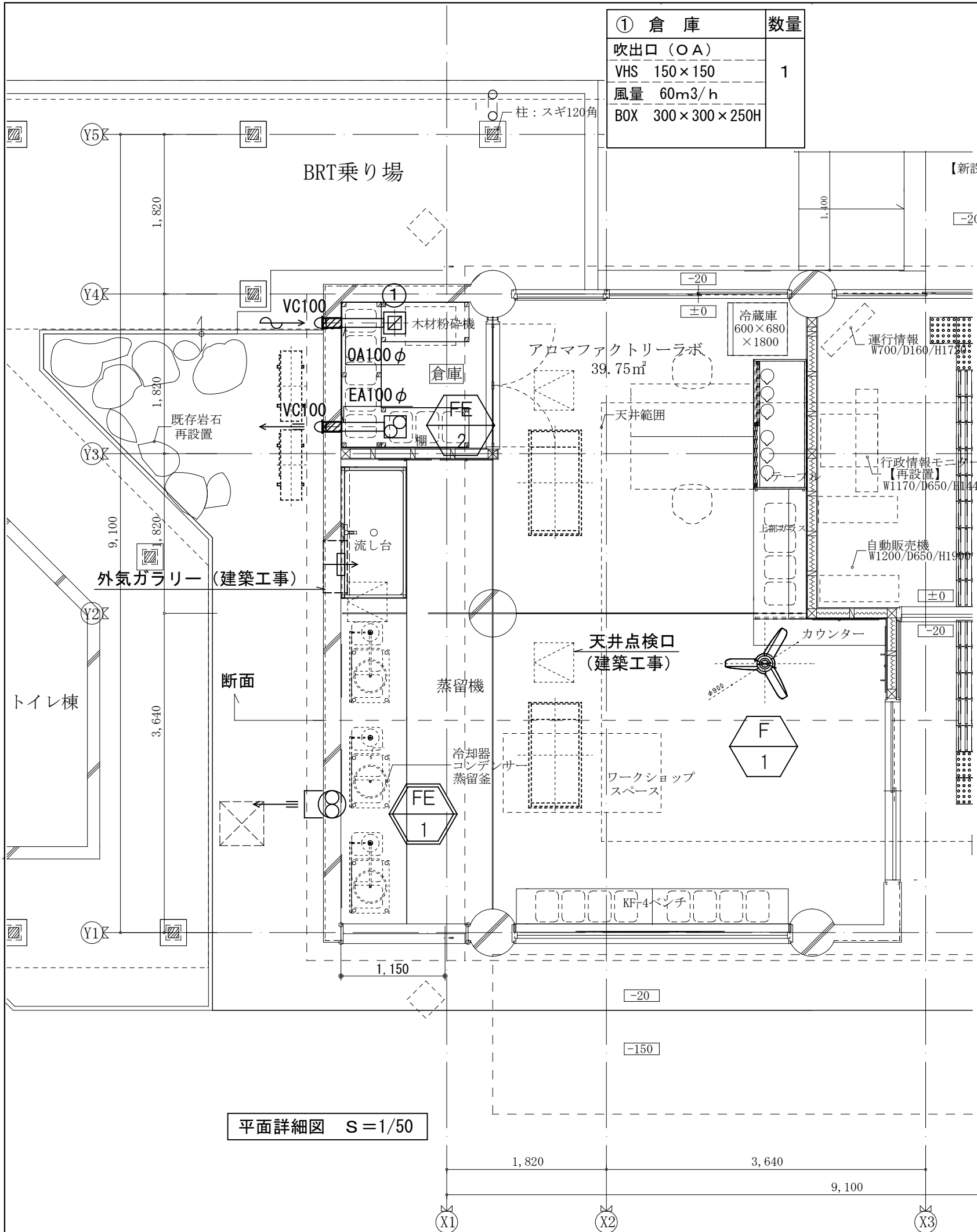
平面詳細図 S=1/50

注 記
1) 部分はスリーブ補修箇所を示す。
2) 冷媒管の屋外部分はステンレス鋼板仕上げとする。

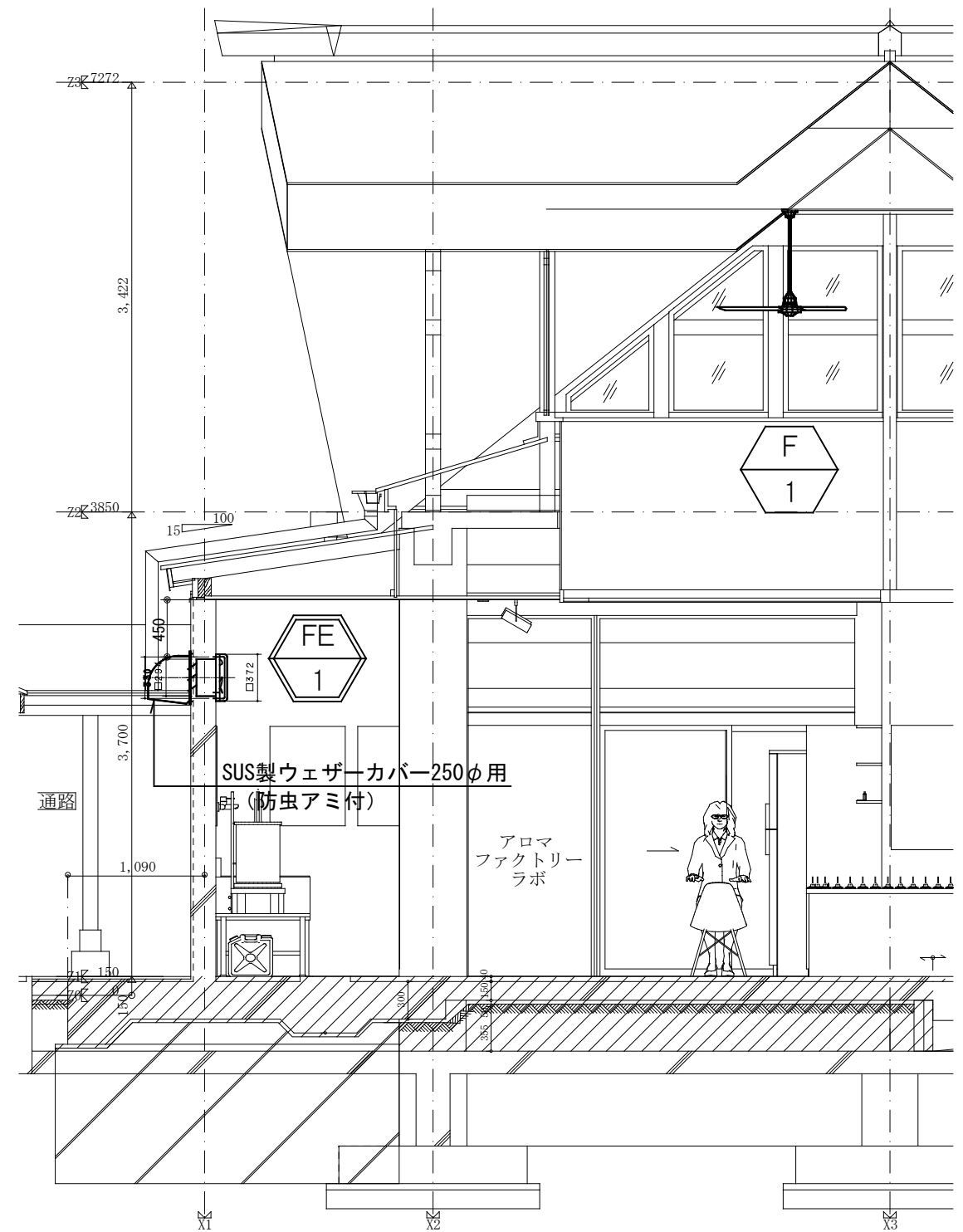


断面図 S=1/40

改修後			
事業名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【空調】 平面詳細図・断面図 (改修後)	訂正	
製図	一級建築士登録番号313540号 石橋 光男	承認	図番 A3=1:50, 1:40 M-07
株式会社 環・設計工房			



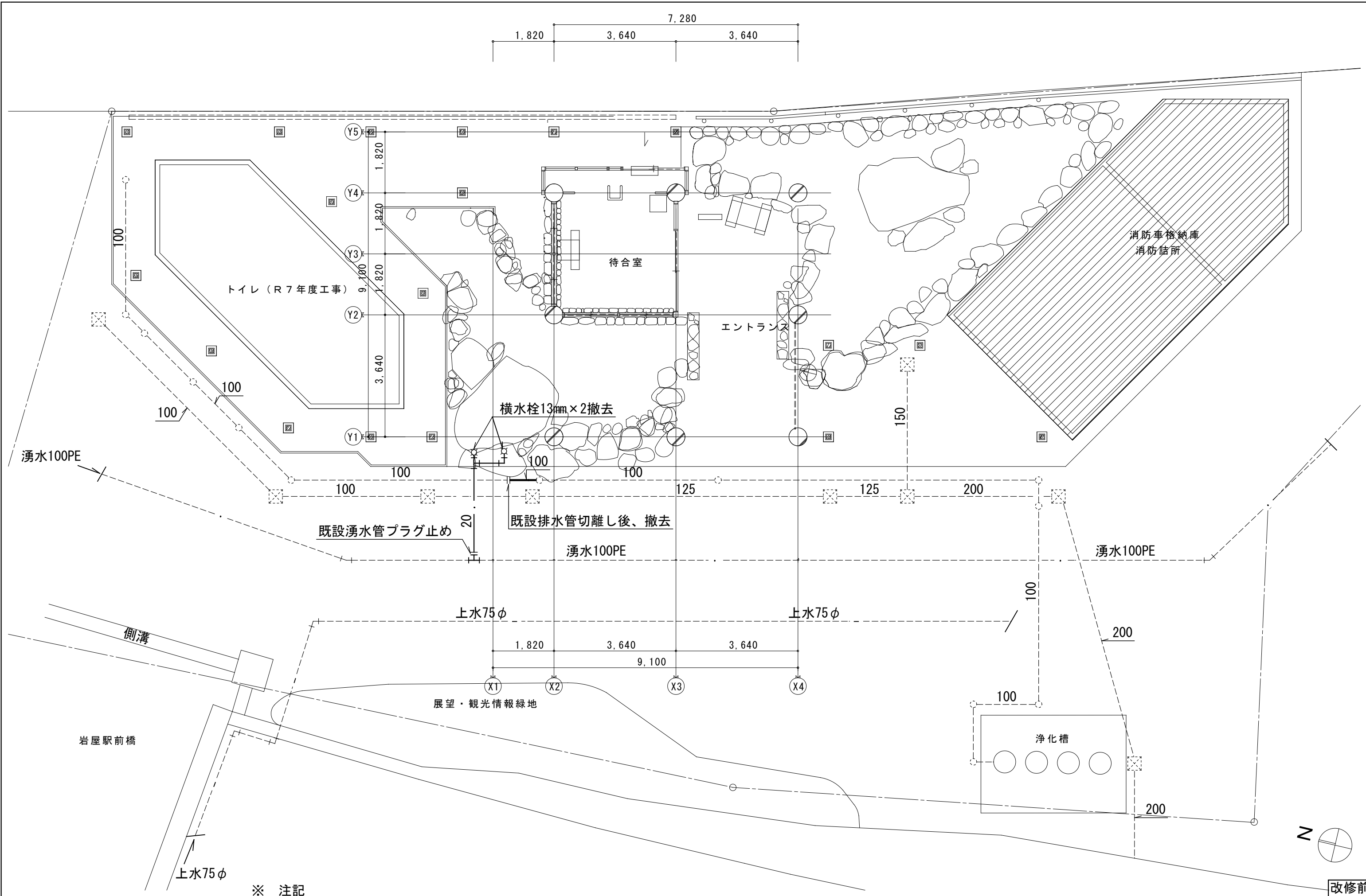
平面詳細図 S = 1/50



断面図 S = 1/50

注 記	
1)	部分はスリーブ補修箇所を示す。
2)	部分は24時間換気機器を示す。
3)	部分はステンレス製丸形フード(指定色焼付仕上)を示す。
サイズはダクト径と同サイズとする。	

改修後	
建築前岩屋駅舎改修工事	設計
【換気】	訂正
平面詳細図・断面図 (改修後)	縮尺 A3=1:50
一級建築士登録番号313540号	製図承認図書
石橋 光男	M-08
株式会社 環・設計工房	



※ 注記
1. 実線部分は撤去を示す
2. 点線部分は既設利用を示す

改修前			
事業名	筑前岩屋駅舎改修工事	設計	
図名	【衛生】 平面図（撤去）	訂正	
一級建築士登録番号	313540号 石橋 光男	縮尺	A3=1:100
製図		承認	
図番			M-09
株式会社 環・設計工房			